

横手千代之助君

正四位勳三等 醫學博士
東京帝國大學教授
東京衛生試験所長

當家は元甲州の豪族武田家の家臣なり
主家滅亡するや同國北巨摩郡駒城村字横
手組に至り豪士となる。先々代碩君に至
り醫學を修め大和郡山藩主柳澤氏に事へ
江戸藩邸附の典醫となれり其の子玄碩君
祖業を繼げり。

君は玄碩君の長男にして明治四年一月
十五日を以つて生る。明治二十八年東京
帝國大學醫科大學衛生科を卒業するや直
ちに同大學助教となり同三十三年衛生
學研究の爲め獨逸へ留學し、明治三十七
年醫學博士の學位を受け次いで帝國大學
教授に任ぜられ現在に及ぶ。其の他東京
衛生試験所長、衛生會々長の要職にあり
園藝に趣味を有すといふ。

夫人トシ子は東京府士族丸山重俊君の
長女にして女子學習院を卒業し君との間

に長男英一君、二男二郎君、三男三郎君
長女千恵子、二女秋子、四女静子、五女
春枝子、六女秀子等あり。現に東京市四
谷區内藤町一ノ五九番地に住し電話四谷
四四九五番なり。

吉川龜次郎君

正五位 工學博士

君は奈良縣の人吉川善重郎君の令兄に
して明治二年十二月を以つて生る。明治
二十八年帝國大學工科大学を卒業し更に
獨逸に留學して電氣化學を研究して歸朝
するや帝國大學助教、京都帝國大學理
工科大学助教、同教授等に歴任し、目
下湯淺蓄電池製造、日本化學工業株式
會社取締役たり。

夫人をヒロ子と云ひ奈良縣の人三濱善
逸君の四女にして其の間に巖君、昂君、
静君の三子あり。現に京都市上京區中筋
通石藥師下ルに住し電話上三八二五番な
り。

吉谷專吉君

京城電氣株式會社理事
京城電氣株式會社東京支店長

君は渡邊爲成君の三男にして明治二十
一年一月十五日を以つて生れ後ち先代藤
三郎君の養子となる。大正三年東京帝國
大學法科大学獨法科を卒業し同四年一年
志願兵として入營し、除隊後淺野總一郎
君の經營に係る東京灣埋立株式會社に入
りて同社庶務課長となり、大正十二年同
社を辭して京城電氣株式會社に轉じ現に
同會社理事、東京支店長の職にあり。讀
書に趣味を有すといふ。

夫人アイ子は北海道の人鎌田貞六君の
長女にして東京女子高等師範學校附屬高
等女學校專攻科の出身なり。君との間に
長男泉君、長女光子等あり。東京市本郷
區眞砂町三六番地に現住し電話小石川二
九八五番なり。

横田秀雄君

正三位勳一等 法學博士 帝國學士院會員
臨時法制審議會委員 明治大學長

曾つては大審院長の顯位に陞りし偉材
錚々の令名を博し、野に在りては其該博
なる學殖と寛宏なる徳化を以て幾多後進
子弟の薫育に渾身の赤誠を致す。天資畏
敬すべき吾が横田秀雄君は長野縣の輩出
せる超凡の大家、文久二年八月を以て同
縣埴科郡松代町に孤々の聲を擧ぐ、舊信
州松代藩士故横田數馬氏は君の嚴父にし
て其長男に出生、明治十三年家督を相續
す。

幼時既に穎悟、衆人其逸才に駭目して
神童の名風に近郷に鳴れり、郷校を卒へ
後ち勃々たる覇志を抱いて東上、帝國大
學法科大学に入り明治二十一年之れを卒
業するや司法官を志して判事となり、次
いで熊谷區浦和地方京橋區東京地方各裁
判所判事、千葉地方裁判所部長、東京控
訴院判事、函館控訴院判事同部長、大審
院判事、會計検査官、懲戒裁判所、豫備

裁判官、大審院部長等の各官位に歴補し
大正十二年大審院長に親補せらる、此間
明治四十一年法學博士の學位を受け、亦
其の翌四十二年歐米各國に左遣せられ具
さに司法事務の視察を成せしことあり、
而して早稻田、中央、日本の各大學に講
師となり大正十四年學士院會員を仰付け
らる。

現時明治大學長として敦厚、謹直なる
其人格と深厚なる學殖と相俟つて噴々た
る令聞あり。
君は鶴山と号し、園藝、洋樂、演藝等
の高雅なる趣味を有す。現に東京市外中
野町小瀧一五六五番地に住す。電話四谷
一一一三番

吉田羊治郎君

實業家
滋賀縣多額納稅者

君は滋賀縣の人吉田與三平氏の二男に
して明治四年二月を以つて生る、夙に滋
賀縣立商業學校を卒業し、曾つて高宮町

横山勝太郎君

辯護士 特許辯護士
衆議院議員

君は廣島縣の人横山市松氏の長男にし
て明治十年十一月を以つて生る。同三十
三年日本大學を卒業し後判檢事登用試験

辯護士試験に首席を以つて合格し山口區裁判所同地方裁判所各判事に歴任せしが後官を辭して辯護士を開業し今日に至る現に東京市芝區選出の衆議院議員にして憲政會政務調査會長に擧げられ、後同會幹事長となり今や君が令名は我が政界に噴々たるものあり、又曩に芝區會議員、東京市會議員たりし事あり。

夫人ハルエ子は東京府の人蜷川親治君の長女にして君との間に鈔太郎君、勝也君、トシ子、富美子、勝枝子等あり。現に東京市芝區神谷町三二番地に住し電話高輪四七八四番なり。

祖父江重兵衛君

君は愛知縣の人祖父江重兵衛君の令孫にして明治十七年八月を以つて生れ、前名萬治郎を改めて襲名す。夙に吳服太物商を營み、商號を絲重と稱す、現に前記會社の社長たる外朝日本管、服部商店、岐阜絹織物各株式會社の取締役たり。

夫人ゆう子は同縣の人加藤彦兵衛君の三女にして内助の聞へ高く、養妹いと子は同縣の人伊藤竹次郎君に、同じづ子は滋賀縣の人北川文男君に嫁す。現に名古屋市東區七間町四ノ五〇番地に住し電話本二一〇〇番なり。

相馬半治君

君は愛知縣氏族田中庸次郎君の令弟にして明治二年七月を以つて生れ、同三十年相馬家の養嗣子となる。夙に苦學力行小學教育檢定試験に合格して本科正教員の資格を得たりしも、後陸軍教導團に入り同團を卒へて軍隊生活をなすこと五ヶ年に及び、更に明治二十九年東京高等工業學校を卒業して米獨に遊び糖業及砂糖學を研究して歸朝す。曩に東京高等工業學校教授、臨時臺灣糖務局技師等に歴任し、又明治三十七年大藏省及臺灣總督府より本邦糖業調査を囑託せられしことあり。

横山信毅君

君は茨城縣氏族横山信内君の長男にして明治八年十二月を以つて生れ大正十二年家督を相續す。夙に水戸中學校、攻玉社中學校等を卒業するや直ちに實業界に身を投じ現時は前掲諸會社の重役として令名高し。

夫人をさだ子と呼び君との間に信也君、信吾君、信手君等あり、現に東京府荏原郡上大崎長者九二五三番地に住し電話高輪四三五四番なり。

添田敬一郎君

君は福井縣氏族添田良平君の長男にして明治四年八月を以つて生る。明治三十一年東京帝國大學法科大學を卒業し同年文官高等試験に應じて首尾よく合格するや直ちに身を官界に投じ、兵庫縣參事官を振出しに爾來大分、熊本、山梨、滋賀等各縣事務官を経て埼玉、山梨、山形等の各縣知事を歴任して内務省地方局長に進む。曩に山形縣より選ばれて衆議院議員たりしことありしが現時は勞資協調會理事長の榮職にあり。

夫人をてい子と呼び東京府の人小島忠熙君の令妹にして淑徳の譽れ高し。現に東京市芝區白金三光町三〇一番地に住し電話高輪五二五一番なり。

吉野作造君

君は宮城縣の人吉野年藏君の長男にして明治四年十一月を以つて生る、明治二

現時は前記各會社の社長たる外東京高等工業學校商議員たり。夫人清子は養父精三君の長女にして養子法學士敏夫君は長女春子の入夫にして長野縣氏族上平猶一三君の令息たり。現に邸宅を東京市芝區伊皿子町五三番地に有し電話高輪四八七番なり。

君は山口縣の人吉富徹輔君の長男にして明治四年十一月を以つて生る、明治二

吉富璣一君

君は山口縣の人吉富徹輔君の長男にして明治四年十一月を以つて生る、明治二

十八年東京高等商業學校を卒業するや直ちに三井物産會社に入りて東京、名古屋、大阪、英國ロンドン等各支店に勤務せり目下東京ベニヤ板製造、北海道工業各株式會社々長、東京鑛業、北滿製粉、園池製作所、日本什器製造、北海道曹達、松江製紙、北海道工業各株式會社取締役長谷鐵道株式會社監査役、島田商會相談役等として知らる。

夫人キヌ子は同縣の人山内唯五郎君の令妹にして其の間に藤一君、ナミ子、花子等の諸子を擧ぐ。現に東京府下入新井町新井宿二二一八番地に住し電話長森一五一番なり。

今や天下の奈良丸として名聲噴々たる君は本名を廣橋廣吉と云ひ大和國吉野郡下市町に生る、視先は後醍醐天皇に扈從して此地に移り南朝歴代に仕へて由緒正しき家系を有す。幼少の頃竹適家養徳齋

君は山口縣の人吉富徹輔君の長男にして明治四年十一月を以つて生る、明治二

君は山口縣の人吉富徹輔君の長男にして明治四年十一月を以つて生る、明治二

君は山口縣の人吉富徹輔君の長男にして明治四年十一月を以つて生る、明治二

即ち初代吉田奈丸にして郡山の藩士にて和漢の學に通じ又稗史軍談を好み廢藩の後其の天性の美聲により軍談より説教節、浪華節に進み終に吉田奈丸として當時の斯界に覇を稱へたるその人に師事して其の蘊蓄を積み衣鉢を享けたり。

米津 政賢君

貴族院議員

明治四十一年一月故村雲尼公の御前講演の榮に浴して京阪の人氣を集め後上京して新富座に於て十一月の紀元節より十日間の出演に滿都の人氣を集め當時斯界の明星桃中軒雲右衛門君の外に又此の人氣あるを周知せしめたりといふ、嘗つては米國に遊び世界的偉人ウイムソン大統領を訪ねて日本藝術と士風の關係を陳べて萬丈の氣焰を吐き、又大正十年の國勢調査の際には浪華節の藝術味を有する宣傳隊を組織して一般民衆に國勢調査の必要を徹底せしめたり。

時の小川總裁をして感嘆せしめ斯くの如く君が邦家の爲め又社會公共の爲めに盡瘁せしこと枚舉に遑あらず、更に其の三寸の舌端より發する美聲、妙句は何時

の間にか財寶を蓄積し今や我が藝術界の巨頭として令名高し。現に東京市神田區表神保町に住す。

元町二ノ五一番地に住し電話小石川三二九六番なり。

横田 成年君

從四位勳三等 工學博士
東京帝國大學教授

當家は鎮守府將軍源賴光の裔三河揮領使光時卿の後裔なり、源時濟卿に至り三河郡司米津太郎と稱す、二十七代正種卿徳川氏に從ひ三十七代出羽守田盛卿に至り一万五千石を領し諸侯となる、四十代政敏君に至り明治十七年華族に列せられ子爵を授けらる。君は政敏君の長男にして明治十六年三月を以つて生れ、同二十八年襲爵仰せ付けらる、明治十一年東京帝國大學農科大學を卒業するや官界に入り農商務省畜産事業調査囑託に任せらる爾後寒種畜牧場に於ける畜産事務取扱囑託、畜産博覽會審査官等に擧げられ貴族院議員に當選すること二回に及べり。

夫人益子は子爵戸澤正巳卿の叔母君にして其の間に四男あり。現に東京市本郷區

君は京都府士族横田成憲君の長男にして明治八年五月を以つて生る。明治三十一年東京帝國大學工科大学造船科を卒業し、更に造船學研究の爲め英米獨に留學し研鑽を積むこと數年にして歸朝するや直ちに東京帝國大學工科大学助教授に任ぜられ次いで同教授に進み會つて同學附屬航空研究所長たりしことあり、曾つて歐洲に出張を命ぜられしことあり。

夫人を詔子と呼び庶子公年君の外に令弟成治君、同成眞君あり、因に令姉春尾子は兵庫縣士族佐保田正明君の長男豊治君に、同幸尾子は岐阜縣の人鷲見紹隆君に、同璋子は滋賀縣の人岡見宗信君に夫々嫁す、現に東京市本郷區駒込千駄木町五〇番地に住す。

吉田 賢龍君

從五位勳四等

廣島高等師範學校長

君は石川縣の人吉田與助君の二男にして明治三年二月を以つて生れ前名三次郎を改む。明治三十年東京帝國大學文科大學哲學科を卒業し、更に大學院に入りて研究を終へるや出でて千葉中學校長、第三高等學校教授、第七高等學校長等を歴任し現に廣島高等師範學校長たり。

しかば、遂に斯界に名聲を博するに至る然して現時は我が國通運界の權威内國通運株式會社專務取締役として内外の社務を執掌する外國通運株式會社監査役にして、且つ大北火災海上運送保險株式會社の取締役として令名あり。

吉村 儀兵衛君

大阪府多額納稅者

夫人セン子は東京府の人林九兵衛君の二女にして、君との間に泉太郎君及び榮子、薫子、久子、春子等あり、現に東京市麴町區富士見町四ノ八番地に住し電話九段二八〇二番なり。

君は大阪府の人吉村儀兵衛君の長男にして、明治十九年五月を以つて生る。夙に大阪財界に入りて活躍大いに努め、着々として斯界に頭角を現はし、現時は大阪府多額納稅者として名聲天下に高し。夫人アサ子は大阪府の人森下榮助君の長女にして、君との間に二男三女あり。現に大阪府南區瓦屋町一番地に住し電話

坪谷 善四郎君

勳五等 財團法人大橋圖書館長

君は新潟縣の人坪谷甚三君の三男にして文久二年二月二十六日を以つて生る。明治二十一年東京專門學校を卒業するや直ちに博文館に入りて、専ら編輯に従事して其の俊腕を鳴らす。

明治三十四年東京市會議員に當選す、曩に日本圖書館協會長たりしことあり。號を水哉といひ内外各國を巡遊して著書頗る多く通俗明治歴史、明治歴史、世界漫遊案内、山水行脚、東西南北等は最も世に知られたる著書なり現に博文館、秀英舎、東京特殊小學校後援會、東京市教育會、日本圖書館協會各理事たり。

夫人ミネ子は新潟縣の人山崎赫三郎君の長女たり、現に東京市牛込區北山伏町二九番地に住し電話牛込一五五九番なり

吉村 佐平君

内國通運株式會社專務取締役

國際通運株式會社監査役

君は東京府の人吉村甚兵衛君の二男にして、明治三年十月を以つて生る。夙に學業を卒ふるや直ちに東都實業界に投じ君が敏腕を縦横に振展し活躍大いに努め

現に大阪府南區瓦屋町一番地に住し電話

塚本 靖君

工學博士 從三位勳二等
東京帝國大學工學部教授

君は京都府の人塚本儀助君の二男にして、明治二年二月を以つて生る。明治二十六年東京帝國大學工學部大學造家科を卒業するや、更に大學院に入りて斯學を専攻せり。

明治三十二年東京帝國大學助教授に任じ、同年建築學研究の爲め英佛獨へ留學を命ぜられ、明治三十五年造詣を深くして歸朝するや、同學教授に任じ現に工學部長として知らる。

然して明治三十六年工學博士の學位を授與せられ、同四十三年農商務特許局技師を兼ね現に商工省特許局事務官を兼任す。夫人をなみ子と稱し京都府の人印房武兵衛君の二女たり、現に東京市小石川區久堅町八〇番地に住し電話小石川五七三五番たり。

吉田 潤平君

仙臺軌道株式會社取締役
吉岡酒造株式會社取締役

君は宮城縣の人吉田勝次君の長男にして、明治九年三月を以つて生る。夙に地方財界に投じて活躍大いに努め、現に前記各株式會社の重役たり。

夫人をよせ子と稱し君との間に六男四女あり、宮城縣黒川郡吉岡に住す。

吉田 豊彦君

從四位勳二等功四級
陸軍造兵廠長官

君は兵庫縣の人先代信之君の長男にして、明治六年十二月を以つて生る。明治二十七年陸軍士官學校を卒業して砲兵少尉に任官し、而して大正十三年陸軍中將に陞進す。

其の間參謀本部出仕、要塞砲兵射擊學校教官、陸軍省副官兼陸軍大臣秘書官、陸軍省兵器局軍務局各課員、陸軍技術審査部議員、陸軍省兵器局銃砲課長、同工

政課長、陸軍重砲兵射擊學校長兼陸軍技術會議議員等を歴任し以つて現在に及ぶ曩に獨逸に出張を命ぜらる。

夫人きん子は熊本縣の人甲斐敬直君の養女にして、君との間に靖彦君、又彦君清彦君、友彦君、政彦君等あり、現に東京市外下落合一二四八番地に住し電話牛込一四五二番たり。

副島 千八君

從四位勳三等
商工省商務局長

君は佐賀縣人族副島定助君の二男にして、明治十四年八月を以つて生る。明治四十年東京帝國大學法政科大學政治科を卒業するや、直ちに文官高等試験に登第す斯くて職を官途に奉じ、爾來、農商務

屬、農商務事務官、農商務書記官兼農商務參事官兼臨時產業調查局事務官、農商務省食糧局長兼農商務書記官、製鐵所次長、同經理部長、農商務省鑛山局長等を歴任し、後ち農林商工兩省成るや君は商

工省商務局長に任じ以つて現在に及ぶ。

尙ほ傍ら救恤審査會審査員、米穀委員會委員、不當廉賣審査委員會委員たり、夫人をつや子と稱し佐賀縣の人檜崎清一君の長女にして君との間に萬里夫君及び不二子、稔子、幾久子、方子等あり、現に東京府北豊島郡長崎一八九五番地に住し電話小石川三四八〇番たり。

津野 一輔君

正四位勳一等功四級
陸軍中將 近衛師團長

君は山口縣人族津野成章君の長男にして、明治七年一月を以つて生る。明治二十七年陸軍士官學校を卒業し、更に同三十四年陸軍大學校を卒業す、而して同三十七年陸軍歩兵少尉に任官し大正十三年陸軍中將に陞進す。

其の間近衛歩兵第二聯隊長、陸軍技術審査部議員、陸軍省軍務局軍事課長、近衛歩兵第二旅團長、北部沿海洲派遣軍司令官、薩哈噠洲派遣軍々政部長、第十六

吉植庄 一郎君

正五位勳三等
衆議院議員 商工政務次官

君は千葉縣の人吉植床之助君の長男にして、慶應元年九月を以つて生る。夙に操觚界に活躍して其の才腕を振ひ、曾つて北海道時事新報、北海タイムス、大阪新報、中央新聞等に各社長として令名を馳せしことあり。

然して明治三十七年以來千葉縣第一區より推されて、衆議院議員に當選すること前後七回、現に政友會内に重きをなし昭和二年四月田中政友會内閣成るや、商工政務次官に任じ、傍ら中央新聞社取締役たり。

吉田直太郎君

確水商事株式會社常務取締役
群馬縣多額納稅者

君は群馬縣の人吉田善太郎君の長男にして、明治十一年十月を以つて生る。夙に地方實業界に活躍して名聲を博し、現に前記の外松井田絹糸紡績、確水精練各株式會社の重役たり。

夫人をみか子と稱す、現に群馬縣確水郡松井田に住す。

鶴森 龜藏君

越中區(養)代表社員
金子工場(養)業務執行社員

君は東京府の人鶴森新太郎氏の長男にして、明治二十二年八月を以て同府北多摩郡府中町に生誕す。

夙に大倉高等商業學校を卒業するや直ちに本邦實業界に投じ、明治四十一年金子工場に入りて格勤精勵すること久しく而して大正六年同工場の組織變更せられて合資會社となるや同社業務執行社員に推され、現に同社内外の社務を執掌するのみならず、大正七年六月設立せられし合資會社越中屋代表社員にして今や新進實業家として知らる。

趣味多様なる中にも讀書に耽るを以つて唯一の慰安となす、以て其の人と爲りを知るに足るべし。

夫人シヅ子は東京府の人福井平七氏の息女にして其間に錦鳳君、輝邦君及び玉惠子、鞠繪子、菊江子、公枝子あり。

現に東京市本郷區春木町二ノ三九番地

に住す。電話小石川二九六八番

吉田 脇十郎君

埼玉縣多額納稅者
名栗水電(株)取締役

君は埼玉縣の人吉田磯次郎氏の長男にして、明治二十二年三月を以つて生る。現に前記の外埼玉縣會議員たり。

現に埼玉縣入間縣名栗村に住す。

園部 潜君

安田銀行常務取締役
安田保善社理財銀行各部長

君は東京府の人園部卯吉氏の三男にして、明治十五年十二月十日を以つて生る

夙に學に厚く穎才群を抜き、明治卅七年東京商科大学の前身たる東京高等商業學校を卒業するや、直に東都實業界に投ず。

斯くて、日本銀行に入りて同校調査役松井支店長等を歴勤し、君が同行に貢献すること甚大なりしが、大正十二年六月大安田家の聘に應じて保善社に入り、愈

々君の敏腕を縦横に振ひ、現に同理財部長兼銀行部長たる外安田銀行常務取締役にして、傍ら第百三十六銀行監査役として我が財界に令名あり。

夫人鋪子は東京府土族工藤光太郎氏の長女にして東京府立第一高等女學校の卒業たり。現に東京市赤坂區青山高樹町十番地に住す。

吉川 安平君

從四位勳二等功四級
海軍中將

君は山口縣土族吉川彌之助氏の長男にして、明治六年十一月を以つて生る。明治三十年海軍小尉に任官し、累進して海軍中將に陞進す。

其の間海軍兵學校副官、豊橋副長、第一潜水艦隊司令、海軍大學校教官、伊吹副長、第三艦隊參謀長、利根艦長、造船監督官兼造兵監督官、海軍省人事局第一課長、比叡艦長、第二艦隊參謀長、吳海軍工廠長、海軍艦政本部長等を歴任す。現に東京市外杉並馬橋三〇八番地に住す

授けらる。

夫人秀野子は岡山縣士族霜山精一君の令姉にして君との間に正俊君、之俊君、保俊君、雄俊君、明敏君及び千鶴子等あり、現に東京府豊多摩郡中野小瀧一五六五番地に住し電話四谷一一一三番たり。

次田 大三郎君

正四位勳三等
内務省土木局長

君は次田大三郎君の四男にして、明治十六年三月十八日を以つて生れ、後ち前名七五三五郎を改めて襲名す。

明治四十二年東京帝國大學法科大學政治科を卒業するや茨城縣屬に任ぜられ、更に石川縣事務官に轉じ、爾來、兵庫縣理事官、内務書記官、内務監査官、社會局健康保險部長、茨城縣知事等を歴任し以つて現在に及ぶ。

夫人静子は東京府の人江口定條君の長女にして東京府立第二高等女學校を卒業し君との間に輝一君及び不二子等あり、

現に東京市牛込區赤城下町五三番地に住し電話牛込六二八〇番なり。

吉川 豊助君

大阪府多額納稅者

君は京都府の人吉川伊助君の令弟にして、明治十四年九月五日を以つて生れ、後ち先代豊助君の養嗣子となる。夙に大阪財界に活躍して斯界に謳はれ、現に大阪府多額納稅者として直税四萬三千百四十余圓を納む。

夫人を俊榮子と稱し、君との間に五男あり、現に大阪市西區京町堀通一ノ三九番地に住し電話土佐堀一四四番たり。

横河 民輔君

工學博士 正五位
横河橋梁製作所長

君は兵庫縣の人横河震八郎君の令弟にして、元治元年九月を以つて生る。明治二十三年帝國大學工科大学造家學科を卒業するや、直ちに三井組に入り三井銀行

等の建築を設計し後ち獨立して横河工務所を開設す。

尙ほ横河電氣製作所相談役、第一機關汽鍋株式會社監査役、營繕管財局顧問にして、曩に帝國劇場、銀行集會所、東京及び大阪に於ける三越吳服店等の大建築を竣成し、又米國に遊ぶ事二回、東京帝國大學工科大学、東京高等工業學校等の講師となり、後ち工學博士の學位を授けられ、大正七年横河橋梁製作所を設立し現時斯界の重鎮として令名高し。

書畫、骨董に趣味深しといふ。夫人しづ江子は東京府の人棚橋一郎君の令妹にして其の間に三男三女あり、現に東京市芝區高輪南町三〇番地に住し電話高輪一二五八番なり。

月田 藤三郎君

農學博士 正四位勳三等
東京市區劃整理局長

君は群馬縣の人月田太郎君の長男にして、明治三年一月二十六日を以つて生る

明治二十九年東京帝國大學農科大學を卒業するや直ちに官界に投ず。

斯くて農商務屬兼蠶糸講習所技手に任せられ、爾來、農事試験場技師兼農商務技師、農務局技師、耕地整理課長等を歴任し以つて現在に及ぶ、曩に農學博士の學位を授與せられ、又明治四十三年歐米各國へ差遣せられしことあり。

夫人たか子は東京府の人吉岡弘太郎君の令妹にして君との間に一男一女あり、現に東京市赤坂區青山南町六ノ一三五番地に住し電話青山六一八番なり。

辻 太郎君

男爵 從四位勳三等 貴族院議員

當家は先代新次君より家名を擧ぐ、先代は外國語學校長、大學校長、文部大臣秘書官、文部次官等を歴任し、後ち貴族院議員に勅選せられ又錦鷄間祇侯仰せ付けられ、尙ほ帝國教育會々長に推され明治四十一年多年の勳功に依り特旨を以つ

津村 重 舍君

實業家 貴族院議員

君は奈良縣の人山田安次郎君の二男にして、明治四年七月五日を以つて生れ、後ち奈良縣の人津村磯治郎君の養嗣子となる。

夙に上京して順天堂を開設し、賣藥化粧品商を營みしが、偶々同店發賣に係る婦人藥中將湯の賣行旺盛となりしかば、業運日に月に隆盛に赴き、遂に今日の大をなすに至れり。

現に其の傍ら東京計量器製作所、江東製藥、第一製藥、東亞公司、日本賣藥、上海油脂工業、東京府農工銀行各株式會社の重役を勤め、曩に東京市會議員たること二十有餘年改選毎に殆んど無競争にて當選し、且つ大正十四年九月貴族院議員に互選せらる。

尙ほ東京府多額納稅者にして現時直接國稅實に二萬二千八百余圓を納む、趣味に園藝、謠曲、書畫等あり、日本橋俱樂部

部、交詢社、日本工業俱樂部、貿易協會等の各會員たり。

夫人しやう子は養父磯治郎君の長女にして同志社女學校を卒業し、君との間に三男四女あり、東京府下目黒四九〇番地に現住し電話青山一七七番なり。

辻川 瀧之助君

豐國火災保險株式會社東京支店長

君は東京府の人辻川源次郎君の三男にして、明治十三年七月十四日を以つて生る。明治四十二年東京帝國大學法科大學佛法科を卒業するや、直ちに明治火災保險株式會社に入社す。

爾來、勤續すること實に十余年、其の間一日の如く専心同社の發展に盡瘁したりしも、大正七年豐國火災保險株式會社に轉じて同社東京支店長の要職に就任し以つて現在に及ぶ。

夫人サク子は神奈川縣の人金子源造君の三女にして神奈川縣立高等女學校を卒業し君との間に秀夫君及び静子あり、現

て男爵を授けらる。

君は新次君の長男にして、明治二年六月廿五日を以つて生れ、大正四年十二月家督を相續すると共に襲爵仰せ付けらる。明治十七年工部大學に入り同十九年米國ロオズ工科大学に學びSM及びCS並にBSの三學位を授けられ、明治廿五年目出度く歸朝す。

斯くて職を官途に奉じ、爾來、内務省逓信省、鐵道院等を轉勤し大正四年辭して實業界に入り、日本化學製油株式會社々長、伊那電氣鐵道株式會社取締役、日本製油株式會社代表取締役等を経て現に貴族院議員たり。

夫人柳子は東京府士族室田秀松君の令姉にして東京女子高等師範學校附屬高等女學校を卒業す、現に東京府豊多摩郡千駄ヶ谷町五四三番地に住し電話青山四六〇番なり。

に東京市赤坂區青山南町五ノ三七番地に住し電話青山一六二七番なり。

土屋 啓 造君

日英釀造株式會社取締役支配人

君は土屋文治郎君の長男にして、明治二十年三月六日を以つて生る。明治四十二年早稻田大學商科を卒業するや北海道瓦斯株式會社に入りて在勤四ヶ年、後ち倉敷紡績株式會社に轉じ、傍ら早稻田大學副幹事を勤めたり。

然して現時は日英釀造株式會社取締役兼支配人として知らる。

夫人うた子は神奈川縣の人金子才一郎君の長女にして横濱高等女學校を卒業し君との間に文彦君、信彦君、義彦君及び光子等あり、現に東京府豊多摩郡中野町上ノ原九〇八番地に住し電話四谷一〇一五番なり。

吉島 重太郎君

從四位勳二等功三級 後備海軍少將

君は佐賀縣士族吉島辰尊君の長男にして、明治元年二月を以つて生る。明治二十年海軍兵學校を卒業し同二十二年海軍少尉に任官し、大正四年十二月海軍少將に陞進す。

其の間、愛宕對馬水雷敷設隊各分隊長横須賀水雷團第一水雷艇隊長、富士水雷長、海軍々令部副官、雷艦長、皇族附武官、海軍々令部出仕、第二、第八各驅逐隊司令、壹岐、生駒、津輕、周防各艦長第三水雷戰隊司令官等を歴任し、後ち退役するや實業界に關係し、曾つて株式會社大崎機械製作所社長たりしことあり。

夫人みわ子は佐賀縣士族六角耕雲君の二女にして君との間に三男一女あり、現に東京市芝區白金臺町一ノ八〇番地に住し電話高輪一五七八番なり。

曾我廼家五一郎君

喜劇俳優

君は香川縣綾歌郡造田村の出身、明治十二年一月を以て生る。

夙に漢學醫學等を修めしも、本邦劇壇に志を抱き、明治三十一年新派劇團に入りて名優竹和元良氏の門下生となり藝名を高槻晋之助と稱す。

斯くて三重縣津市なる曉座に於て劇「獨逸土産」に檢事の役を勤めしを初舞臺として、當時已に觀衆の大好評を博し、將來を嚮望せられ、爾來、専心藝能を研き梨園の人氣を負ふて各都市を巡演す。

偶々明治四十二年、時代の趨勢に鑑み喜劇の鼻祖曾我廼家一派に轉じ改名して「太と名乗り、酒脱好謔輕妙の演技と相俟つて本邦劇壇に雷名を馳せ、大正二年曾我廼家宗家たる五郎丈より免許を得て五一郎に改稱、現時斯界の明星として名聲東西に喧傳せらる。

夫人静子も又本邦名女優として各方面に定評あり。

現に東京市淺草區田島町二十番地に住す。電話淺草六一二八番

惣田太郎吉君

正七位 協同會教務課長

君は静岡縣の人先考仁市氏の長男にして、明治十三年一月十二日を以て生る。

明治三十三年静岡縣師範學校を卒業するや縣下教育界に投じ、全三十七年静岡縣廳に入り官房主事、理事官、會計課長等を歴任、大正十年五月勞資協調會に轉じ、社會課長たりしが内部の組織變更して教務課長となり以て現在に及ぶ。

夫人ウメ子は静岡縣の人故佐藤新八氏の長女たり、現に東京市外世田ヶ谷町北澤三三五番地に住す。

角田邦松君

勲八等 護謨防水布製造販賣業

日本工業株式會社專務取締役

當家は代々農を以て家業となせし土地の舊家にして、君は先考忠吉氏の四男として明治十六年十一月二十三日を以て生

誕す。

夙に學業を卒へ、後ち帝國陸軍々人として近衛歩兵第一聯隊に軍務を完うし、明治三十七八年日露の役には征途に就いて遠く滿洲の野に轉戦、功により勲八等を賜はる。

斯くて本邦實業界に投じ、大正六年五月護謨防水布製造業を創始して大成し、同八年組織を合資會社に變更して斯業の大擴張をなし、更に大正十一年十一月には日本工業株式會社を創立して同社專務取締役に任じ、今や東都財界に令名あり讀書に趣味を有すといふ。

夫人こど子は東京府の人故林榮三郎氏の三女にして其の間に忠一君、茂君、明君及び八重子、マサ子、光子等あり、現に東京府下荏原町戸越七六一番地に住す。電話高輪二七一〇番 荏原二二二番

添田 滋君

三菱(資)地所部庶務係長

兼同社本館係長

君は福井縣士族故添田良平氏の五男にして、明治二十六年五月十四日を以て生れ後ち令兄從四位勳三等衆議院議員協調會理事長添田敬一郎氏の養子となる。

大正六年東京帝國大學法科大學を卒業し、全七年三菱財閥に入り、三菱合資會社地所部に勤務し、現に同庶務課庶務係長兼本館係長として知らる。

禪宗を奉じ、趣味に園藝あり、學士會丸ノ内俱樂部各會員たり。

夫人のき子は山形縣の人西野忠次郎氏の令妹にして山形縣立高等女學校の出身其の間に利一君あり、現に東京府下碑衾町碑文谷一八一二番地に住す。

津谷 一治郎君

深川區會議長

東京酒類商同業組合組長

上掲諸職に推されて日夜電勉奔馳して

相馬 喜作君

辯護士 特許辨理士

君は栃木縣の舊家相馬家の三男として明治二十三年一月一日を以て生る。

夙に栃木縣師範學校を卒業するや縣下教育界に投じて盡瘁すること甚大、後ち鴻圖を抱いて上京、東京市京橋區寶田小學校に教鞭を執る傍ら日本大學法科に學び之を卒業す。

斯くて大正九年辯護士登用試験に應じしかば君の英才は見事登第、翌年東都法曹界に投じ、活躍大いに努め、今や斯界の新進として前途を嚮望せらる。

讀書に耽り、角力に趣味を有すといふ親交會々員たり。

夫人せい子は栃木縣の人菊地豊二氏の令妹にして内助の聞え高し、現に東京市外巢鴨町宮下一八五四番地に住す。電話大塚一七八七番

横山 義三君

鳥高監査者

東京市下谷區中根岸町會幹事

君は東京府の人故赤佐庄平氏の三男にして、明治三十二年二月五日を以て東京市赤坂區青山に生誕す。

殿父佐平氏は憲兵曹長として雷名を馳せし人物にして日露の役に征途に就き遠く滿洲の野に轉戦、名譽の戦死を遂げし人なり、時に君未だ年少僅かに四才の頃なりき。

然るに不幸は又不幸を生み、間もなく母堂長逝せしかば、叔母に當る横山氏に養はれ後ち其の養嗣子となる。

大正八年近衛野戰砲隊に入營、在營中同僚の模範として仰がれ、上長官に信望を厚くし善行證書を賜はりたる程にして、除隊後は専ら家業に従事するのみならず出で、は各種公共事業に盡瘁。現に前記の外在郷軍人下谷分會第十三部委員安全先行會幹事を勤むる等同業界に人材稀なる中に異彩を放つて録々の名あり。

現に東京市下谷區中根岸町七十一番地に住す。電話下谷四五〇五番

相馬 和雄君

橋本組工業合資會社總理部長

君は新潟縣の人相馬久衛氏の三男にして、明治十六年二月廿日を以て同縣中蒲原郡庄瀬村に生る。

明治三十八年早稻田大學政治經濟科を卒業するや直ちに東都財界に投じ、古河鑛業株式會社に入社、累進して同社主事經理課長等を歴任、大正十三年三月辭して橋本組に入り以て現在に及ぶ。

趣味に園藝、詠曲、撞球あり、尙ほ文才に富み、同業雜誌に寄稿し、或はパンフレットを發刊しては同業界開發に盡瘁するが如し。

夫人千代子は東京女學館並に双葉高女の出身、其の間に久彌君、祥男君あり、現に東京市外松澤町上北澤向山三五九番地に住す。

吉野 信次君

從五位勳五等

商工省工務局長

君は宮城縣の人吉野年藏氏の三男にして、明治二十一年九月を以て生る。

大正二年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業、在學時代已に文官高等試験に登第する程の逸物たり。

然して卒業するや身を官界に投じ、農商務省に職を奉じ、直ちに官命を帯びて米國に出張、歸朝後兵庫縣理事官、臨時産業調査局事務官、農商務大臣秘書官、全書記官、商工書記官、同大臣官房文書課長兼統計課長等を歴任以て現在に及ぶ

夫人きみよ子は宮城縣の人阿部彌吉氏の二女にして其の間に幸雄君あり、現に東京市小石川區駕籠町一五八番地に住す。電話大塚二二〇七番

鶴見 左吉雄君

正四位勳二等

東京モスリン紡績株式會社社長

君は石川縣士族鶴見有成氏の長男にして、明治六年九月を以て生れ現籍東京府士族たり。

明治三十二年東京帝國大學法科大學を卒業するや文官高等試験に合格、直ちに官途に投じ、爾來、岩手、兵庫各縣參事官、兵庫、三重各縣內務部長、農商務書記官兼外務書記官、製鐵所理事、農商務省水産局長、同山林局長、同商務局長、農商務次官等を歴任して令名を馳せ大正十三年官途を辭す。

斯くて實業界に投じ、現に前記の外太平生命保險株式會社取締役にして、尙ほ啓明會常務理事、帝國工藝會副會頭たり。昭和四年二月洋毛工業會、紡績聯合會各團より推されて東京商業會議所議員に當選す。

曩に伊太利萬國博覽會開催せらるゝや農商務次官として差遣、更に佛國巴里聯

盟經濟會議には坂田男代表と共に出席、其の他歐米各國を視察し、後ち英國ナイコンマーシャル勳章並に佛國、ベルギー、伊太利各國より名譽勳章を賜はる。夫人清子は東京府の人山本景行氏の長女にして學習院女學部出身たり、現に東京市赤坂區青山高樹町一ノ四番地に住す。電話青山二九九番

横山 靜衛君

東神倉庫株式會社横濱支店長

君は廣島縣の人平田正直氏の七男にして、明治十七年四月を以て生れ、同三十五年横山家に入りて其の家督を相續す。

明治三十六年明治大學を卒業するや東神倉庫株式會社に入社、爾來、各種の要職を経て現に東神倉庫株式會社横濱支店長として知らる。

社交に長じ、來客をして對談自らにして舊知の感を抱かしむ、以て其の人と爲りを知るべし。

夫人ヨシ子は廣島縣の人伊藤貞次郎氏

の四女にして其の間に明君、正君、久君及び喜代子、たか子等あり、現に横濱市神奈川區青木町一九九番地に住す。電話本局八三八番

横溝 治郎君

合資會社 横溝組社長

抑々自力自成凡ゆる艱難と闘つて彼岸に達し、立志傳中の一人たる事績を擧ぐるは事甚だ容易なる業に非ず、況んや身を街頭の勞苦に晒らして誘惑されず、挫折せず、はた又失望せず、自棄せずして毅然として一家の道を拓くは實に尋常一様の人材に非ざらん哉。

吾が横溝翁は實にこの驚くべき苦闘の過去を有する業界の異彩たり。

君は神奈川縣出身にして明治二年十一月一日を以て生誕す。夙に郷校を卒ふるや地方財界に身を投じ、將來土木建築界の有望なるに着眼せる君は令齒僅かに廿六年にして土木建築請負業を創設、斯界に入りて實地に就き研鑽を積むこと數年

活躍大いに努め君の至誠と不撓の奮闘とを以て幾多の請負事業に何れも完璧を期せしかば其の信望や頼に擧り業勢を追ふて激増し、本社を山梨に支店を東京に置き遂に今日の大を成し、尙ほ敏にして見識ある君は大正九年六月山梨縣廳より桂川下流十五萬坪の砂利の採取權を獲得し、一躍斯業に重きをなす其の採石は帝都に普ねく使用されつゝあり。

近時コンクリート化學の進歩するに鑑みコンクリートブロックの製造工場を増設斯界の爲め今正に振展しつゝあり、又彼の震災當時中央線與瀬トネル復舊工事に際し幾多の部下を督勵して短期間に於て遂に斯くの如き難工事を完成せしことは世人の知悉せる處なり。

君や資性潤達極めて義侠に富み、其の快刀斷麻的あざやかなる事務執掌振りと而も君の優秀なる技術とは斯界に等しく知れしところ、尙ほ至誠以て事業を遂行し温情以つて部下を統帥する蓋し君の今日大を成す又故なきにあらざるべし。

現に本店を中央線上野原驛前 電話上野原六八番 一一〇番に有し、東京市四谷區新宿一丁目同支店を有す。電話四谷六〇六八番

土屋 大吉君

鈴木屋經營主

東京牛肉商組合副組長

君は静岡縣加茂郡の出身にして、明治十一年三月廿六日を以て生る。年齒僅かに十九才にして大志を抱いて上京、始め芝區白金猿町在の東都府有數の牛肉問屋に入りて格勤、後ち本郷在斯業界の重鎮三枝商店に轉じて敏腕を振ひ、更に神田石橋商店に入りて同店番頭として忠勤すること數年に及ぶ。

斯くて斯界に關する一切の業務を修得し、且つ東都業界の前途有望なるを知るや、明治四十一年麻布區三河臺即ち現在の地をトして獨立斯業を創立し、爾來、熱誠以て斯業に従事せしかば、社會の信用月に年に進み、今や東都斯業界に重きをなす。

君や又意を社會公共の事業に注ぎ、現に麻布區三河臺西部會々長の要職にある外三河臺小學校保護者會々計主任を勤むる等至らざるはなし。

夫人うた子は内助の聞え高く、其の間に三男五女ありて虎雄君、義男君、春雄君及び福子、秋子、雪子、美恵子、徳子等とす、現に東京市麻布區三河臺町一四番地に住す。電話青山五一二九番

吉岡 壽男君

辯護士 辨理士

東都法曹界に活躍して新進の聞え高く前途愈々多望なるを我が吉岡壽男君とす。

君は岡山縣の人吉岡太一氏の長男にして、明治三十年四月七日を以て生る、大正六年岡山縣立天城中學校を卒業するや青雲の志を抱いて東上、始め日本大學法科に學びしも、大正七年九月たまく明

治大學法科三學年の編入試験舉行せらるや君即ち之に應じて首尾よく登第、斯くて翌年七月同科を卒業するや更に同校高等研究科に入りて法學の研鑽に没頭すること一ケ年に及べり。

然して大正十年積年の研究を實地に試すべく第一次辯護士登用試験に應ずるや全國より集まる幾多猛者を見事日比谷登龍門に打ち伏せて遂に辯護士たるの榮冠を贏ち得たり、時に君未だ二十五才の青年なりき。

斯くて直ちに同郷の先輩河合廉一氏の法律事務所に入りて實務を見習ふこと約一ケ年後も獨力にて本郷區根津八重垣町に法律事務所を開設し、次いで同區駒込吉祥寺町に移轉、更に現在の場所に移し今や君の優れたる才幹と決裁明快に加ふるに懇切丁寧なる執務振りととは東都斯界は勿論、一般市民に絶大なる信用を博し前途曠々たるものあり。

尙ほ前掲の外東京辯護士會々員にして且つ曩に同會常議員たりしことあり、趣

味を叩けば觀劇、旅行、又讀書に耽るを常となすといふ。

夫人文字は岡山縣土族前李王職事務官仁木義家氏の二女、京城第一高女の卒業にして其の間に範子、睦子等あり、現に東京市麴町區下二番町三十七番地に住す電話九段三〇九八番

筒井 正彦君

從七位勳八等

株式會社昌榮堂印刷所社長

君は東京府土族筒井公佐氏の長男にして、明治六年一月廿八日を以て生る。夙に本邦印刷業界に活躍し、明治三十二年内閣印刷局に入りて精勤すること久しく、而して大正十三年辭して前記昌榮堂印刷所に入社し、同社會計主任たりしが現時は同社代表取締役として知らる。夫人をみつ子と呼び其の間に融君及び榮子、好子、公子、龍子等あり、東京市小石川區第六天町十六番地に現住す。

横濱 俊君

東京瓦斯電氣工業株式會社取締役

君は三重縣土族横濱齊氏の長男にして明治九年七月十日を以て三重縣津市に生誕す。

明治三十五年京都帝國大學工學部機械科を優秀の成績を以て卒業するや直ちに實業界に投じ、日本製糖株式會社に入社し、明治四十一年東京瓦斯株式會社に轉じ、而して大正五年東京瓦斯電氣工業株式會社に入社、爾來、君の優秀なる技術と卓越せる才幹とを以て同社に精勤せしかば漸次内外に重きをなし、斯くて大正十年推されて同社取締役任に擧げられ以て現在に及ぶ。

禪宗を奉じ、社交機關に學士會、工業俱樂部等ありて何れも其の會員たり。夫人をなを子と呼び三重縣の人岡本安利氏の四女にして三重縣立津高等女學校の出身、君との間に正之君、正英君、正男君、正彦君及び千代子、薫子、孝子等あり、現に東京府荏原郡大井町森前五六

○四番地に住す。電話大森二七九二番

子あり、現に東京市芝區琴平町一番地に住し電話芝一四三七番たり。

二二三番

吉見百藏君

辯護士 特許辨理士

東京市芝區會議員

我が法曹界の耆宿として斯界に重きをなす辯護士吉見百藏君は明治七年四月二十日を以て奈良縣に生る。

夙に郷校を卒ふるや大志を抱いて東都に上り、明治三十五年明治大學法科を優秀の成績を以て卒業す。

斯くて後ち鐵道省に入りて官途に仕ふること十余年、大正二年多年の研鑽を實地に試めすべく、辯護士登用試験に應ずるや首席を以て見事登第す。

然して直ちに辯護士事務所を開設し一般法律事務に従事して社會の信望を博し今や斯界に令名高し。

趣味多様にして、就中、圍碁の如きは素人の域を脱し、宗教は天理教を奉じて信心厚く尙ほ東京辯護士協會々員たり。夫人をアイ子と呼び君との間に長女文

吉澤幹三郎君

仁壽生命保險株式會社事務取締役

君は大和國郡山藩士柳澤侯の重臣池田寅之助氏の三男にして、慶應元年十月を以て江戸柳澤邸内に生る。

當家は累代江戸上屋敷定詰の要職を帯び藩中屈指の名族として勢力當るものなく、後ち仙臺藩士吉澤家の養嗣子となり其の家督を相続す。

君は夙に實業界に大志を抱き普通教育を卒ふるや直ちに斯界に投じて敏腕を振ひ、明治廿八年仁壽生命保險株式會社に入社し、爾來、着々として君の勢力を波及し漸次累進して現に同社事務取締役として令名あり。

夫人きよ子は静岡縣の人時田弘太郎氏の令妹にして其の間に弘君、仁君、秀松君及び静子等あり、現に東京府下入新井町新井宿一六六九番地に住す。電話大森

鶴森亀藏君

越中屋(實)代表社員

金子工場(實)業務執行社員

君は東京府の人鶴森信太郎氏の長男にして、明治二十二年八月を以て同府北多摩郡府中町に生誕す。

夙に大倉高等商業學校を卒業するや直ちに本邦實業界に投じ、明治四十一年金子工場に入りて恪勤精勵すること久しく而して大正六年同工場の組織變更せられて合資會社となるや同社業務執行社員に推され、現に同社内外の社務を執掌するのみならず、大正七年六月設立の合資會社越中屋代表社員にして今や新進實業家として知らる。

趣味多様なる中にも讀書に耽るを以て唯一の慰安となす、以て其の人と爲りを知るに足るべし。

夫人シヅ子は東京府の人福井平七氏の息女にして其の間に錦風君、輝邦君及び

玉恵子、鞠繪子、菊江子、公枝子等あり現に東京市本郷區春木町二ノ三九番地に住す。電話小石川二九六八番

横河大祐君

東亞鐵工所(株)取締役

東亞エニーター(株)代表取締役

君は千葉縣下に鳴る素封家藤平和三郎氏の次子に當り明治二十八年六月十一日を以て同縣夷隅郡中川村に生誕、後年實業家横河民輔氏の家籍に入りて其の姓を冒せり。

夙に大多喜中學校、第八高等學校を経て京都帝國大學法科大學に入學し、英法科を専攻して大正十年之を出づるや直ちに實業界に志し當初横濱正金銀行に入り横濱、東京、大阪、大連等の本支店に勤務せるが、昭和三年一月之を辭し株式會社横河電機製作所に轉じ同社監査役となり、尋いで東亞鐵工所有限責任社員たりしが昭和四年二月之が株式組織に革まるや君は同社代表取締役に擧げらる、然し

て同年六月東亞エニーター株式會社の創設と共に其の代表取締役に推され社務を統宰して現時に至れり。

君は平素努力節儉主義を提唱して躬ら之を實踐し又上掲會社の首腦として勞資協調の實果を擧ぐるは一に一統の精神的結束にありとなす、蓋し君が事業に對する信念の一面を窺知し得べき乎。

趣味として一般スポーツを愛好し、就中、ゴルフ及び庭球を得意とせり、大阪清交社、鐵工俱樂部、大阪工業會の各會員たり。

夫人律子は横河民輔氏の女にして東京女學館の出身たり、其の間に初子あり、現に大阪府豊能郡箕面村櫻ヶ丘に住す。

吉田茂猪君

三井物産(株)本店受渡掛長

君は高知縣土族先考安次郎氏の三男にして、明治二十一年四月二十三日を以て生る。

明治三十九年高知商業學校を卒業する

椿宣次君

浦賀船渠(株)取締役兼工務監督

君は熊本縣の人故椿惠三氏の嫡男にして、明治十二年一月を以て生れしが、幼時既に群童に傑れ異彩を放てるが、夙に郷校に學び小中學校を卒へるや高等學校を経て東京帝國大學工科大学に入學し造船科を専攻して致々學窓に専勉するところありて明治四十年之を卒業せり。

然して直ちに實業界に志し、當初大阪鐵工所に入社して技師たりしが後ち旭造船所に轉じ同社常務取締役に擧げらる。斯くて大正八年に至り浦賀船渠株式會社に入社し、現に同社取締役兼工務監督の重任にあるの傍ら浦賀瓦斯製造株式會社監査役を兼ね。

夫人イト子は東京府の人福井源次郎氏の令妹にして神奈川縣立高等女學校の出身にして其の間に忠雄君、孝雄君、幸雄君、茂雄君及び照子、文子等あり、現に東京市外上大崎中丸四四四番地に住す。電話高輪五七一一番

津下紋太郎君

日本石油(株)事務取締役

日本工業(株)社長

君は岡山縣の人津下豊次郎氏の長男にして、明治三年四月を以て生る。

明治二十三年同志社を卒業するや實業界に投じ、現に前掲の外カルピス製造株式會社社長にして且つ鶴見臨港鐵道、日

本モスリン、北樺太石油株式會社重役として知らる。

現に東京市本郷區駒込上富士前町一〇四番地に住す。電話小石川二二九七番

鶴見 勇君

富士タクシー經營者

江東モータース商會(資)代表社員

東都自動車業界に活躍して新進の聞えあるを我が鶴見勇君となす、君は東京府に現籍を有し愛知縣の人鶴見慶次郎氏の四男にして、明治二十七年七月三日を以て生る。

展に學業を卒ふるや實業界に大志を抱き、大正四年田村自動車修繕工場に入りて實地の研鑽を積み、大正八年甲種運轉手の免許狀を受領し、大正十年千葉縣に於て獨立自動車業を開設す。

然して大正十二年關東大震災に遭遇するや奮然起つて再び上京、目黒に伊勢脇ツウリングを興し、更に澁谷町に長谷戸ツウリングを經營し、昭和二年現地をト

して富士タクシーを開設し、今や東都同業界に伍して新進の聞えあり。

斯くて君は更に自動車附屬品の製造販賣を志し、昭和四年四月合資會社江東モータース商會を創立して同社代表社員に任じて敏腕を振ひ、前途益々多望なるものあり。

趣味に旅行あり、尙ほガンリンの研究に専念たるが如し。

夫人たけ子は千葉縣の人高山長七氏の三女にして其の間に絹子、かづ子、三樹子等あり、現に東京市深川區佐賀町一ノ十一番地に住す。電話本所六七九一番二五三番

曾我部直之進君

東京瓦斯(株)營業部長

君は徳島縣の人曾我部清三郎氏の五男にして、明治二十年四月十五日を以て同縣脇町に生誕す。

明治四十二年東京商科大学の前身たる東京高等商業學校を優秀の成績を以て卒

業するや直ちに東京瓦斯株式會社に入社し、爾來、同本社、淺草營業所長等を歴勤し現に同社營業部長として知らる。

趣味多様にして、就中圍碁、將棋に長ずといふ、如水會々員たり。

夫人をはな子と稱し東京府の人廣瀬爲政氏の二女にして實踐高等女學校の出身其の間に進君及びやす子、よし子あり、現に東京市赤坂區青山南町六ノ一四四番地に住す。電話青山三〇九九番

染谷關太郎君

勳八等 染谷鐵工所主

君は現籍を東京府に有し、神奈川縣の出身にして、明治十六年十一月十一日を以て同縣横濱市に生る。

明治三十六年帝國軍人として旭川聯隊に入營、たま／＼彼の日露の戦役勃發するや征途に就き遠く滿洲の野に轉戦し後ち歩兵伍長に進み、而して戦終熄するや軍功により勳八等に叙せらる。

斯くて北海道MYROAN製銅所に

入り、後ち上京芝浦鐵工所、池貝鐵工所等を歴勤し、大正四年獨力染谷鐵工所を開設して活躍せしかば業勢頓に擧り今や斯業界に重きをなすのみならず、東京鐵工組合幹事にして且つ麻布新廣尾町會副會長たり。

現に東京市麻布區新廣尾町一ノ一二番地に住し(電話高輪七七三〇番)工場を東京市外大崎町居木橋八八五番地に有す。電話高輪三八五五番

設と共に其の支配人に擧げられ、昭和四年二月再び獨立して吉田商店を開設し、安福又四郎商店醸造の銘酒大黒正宗の東京問屋として敏腕を振ひ今や同業界に令名あり。

趣味に廣告考案あり、夫人ゆき子は東京府の人堤清七氏の五女にして其の間に三男一女あり、現に店舗並に住所を京橋區四日市町十二番地に有す。電話京橋二三一五番

吉田 善 吉君

パチエラー・オブ・アーツ

フアীগソン(株)東京支店長

君は群馬縣の人綿貫李彌氏の三男にして、明治十七年八月十五日を以て同縣群馬郡倉賀町に生誕す。

夙に高崎中學校を卒業するや米國に航し、ユタ州ルトレイ市ハイスクール商科に學び、次いで州立大學に入りて之を卒業、桑港に於て貿易業に従事す。

斯くて大正十一年歸朝後日本郵船株式

會社建築に際し米國人技師の助手として之に従事して完璧を期し、大正八年フアーグソン株式會社の創立に盡瘁し、同十一年同社に關係し、昭和二年同社東京支店設立と共に其の主任に擧げられ以て現在に及ぶ。

夫人綾子は府立第一高女の出身、其の間に澄江子あり、東京府下大森町山王二五六〇番地に現住す。電話大森九六五番

吉見 靜一君

東京電燈(株)理事
兼同社配電課長

君は舊水戸藩士吉見輝氏の長男にして明治十六年三月八日を以て鶴岡市に生誕す。

夙に第五高等學校を経て明治四十一年七月東京帝國大學工科大学電氣工學科を卒業するや京阪電氣鐵道株式會社技師に任じ、後ち名古屋電燈、猪苗代水力電氣中村組、京濱電力各株式會社を歴任し、大正十年二月東京電燈株式會社に轉じ、

累進して同社理事に擧げられ兼ねて同電氣課長に任じ、昭和三年三月配電課長に轉じ以て現在に及ぶ。

大正八年歐米各國を歴遊して電氣業視察をなし、翌九年歸朝す。

趣味に圍碁、撞球、狩獵あり、夫人キンは大阪府の人安永義章氏の二女にして東洋英和高等女學校の出身、其の間に光一君、泰二君及び敏子等あり、現に東京市本郷區西片町一〇番地に住す。電話小石川三九三一番

横島 直彌君

廣島電氣(株)取締役

君は青森縣士族横島彦八氏の長男にして、明治三年四月を以て生る。

夙に金融界に活躍し、現に前記の外瀬戸内海横斷鐵道、大和索道、有馬溫泉土地各株式會社重役として知らる。現に大阪市天王寺區筆ヶ崎町に住す。電話南四一九一番

横關 幸三郎君

横關肥料製造所(株)社長

君は埼玉縣の人山崎幸太郎氏の二男にして、明治六年五月を以て生れ、明治二十九年先代平吉氏の養子となる。

夙に實業界に投じ、現に前記會社取締役社長たる外川越倉庫株式會社取締役として知らる。現に川越市川越三〇八番地に住す。

直木 倫太郎君

正五位 工學博士

曾つては復興局長官として令名ありし直木倫太郎君は兵庫縣の人直島顯藏君の長男にして、明治九年十二月一日を以つて生れ後直木政之介君の養子となる。明治二十三年東京帝國大學工科大学土木科を優秀の成績を以つて卒業し、直ちに東京市技師に任ぜられ東京灣築港計畫を擔任し、同卅四年築港調査の爲め市より海外に派遣せられ期間満了後更に自費を以て獨佛に見學すること二年、歸朝後大藏省に入り臨時建築部技師として横濱築港の土木工事を擔任し、同四十四年再び東京市技師となり第三部河港課長兼下水改良事務所工務課長たりしが後東大講師、内務技師等を経て大阪市に入り港灣部長兼都市計畫部長の要職に就き大正十二年復興局長官たりしが後之を辭して野に下り現に閑地にありて悠々自適たり。

先是大正三年工學博士の學位を授けら

る、宗教は淨土宗を奉じ、謠曲、俳句、書畫等に趣味を有し、學士會、鐵道協會等各會員たり、夫人りう子は養父政之助君の長女にして其の間に長男茂君、二男博君、三男映君、五男惇君、六男正君、七男力君、八男泰君、長女美代子、四女素枝子等あり、現時は東京市小石川區原町一〇二番地に住し、電話小石川五九三二番なり。

鳴海 周次郎君

鳴海銀行頭取
貴族院議員

君は青森縣の人平山雄太郎君の三男にして明治二十年三月を以て生れ、後古川和三郎君の養嗣子となり大正九年先代廉之助君の家督を相續す。現時前記の諸職にある外立誠銀行、松木屋呉服店、陸奥製糸、西北信託、津輕酒造等各株式會社の取締役にして尙ほ五十九銀行、青森貯蓄銀行各監査役の要職にあり、君は又青森縣多額納稅者にして現時直接國稅四千

八百九十餘圓を納め、地方財界の重鎮として名聲噴々たり。

大正十四年九月貴族院議員に當選し現に其の任にあり、君や資性温厚にして讀書に趣味を有す。夫人ひさ子は養父和三郎君の長女にして其の間に長男健太郎君、二男健二郎君、三男健三郎君、四男健司君、五男廉司君、長女節子、二女さとし三女サエ子、四女ふさ子、五女はるゑ子等ありて家庭圓滿なり、現時青森縣西津輕車力村に住す。

南條 金雄君

三井物産株式會社常務取締役
大正海上火災保險株式會社會長

君は群馬縣士族先代新太郎君の長男にして明治六年七月を以つて生れ、大正九年十月家督を相續す。明治廿五年東京商科大学の前身たる東京高等商業學校を優秀の成績を以つて卒業するや直ちに三井物産株式會社に入り、爾來累進して倫敦支店長となり現時は同社取締役たる外大

正海上火災保險株式會社社長として知らる。

夫人敬子は高知縣の人齊藤利西君の長女にして君との間に二女あり、勝代子、道代子と呼ぶ。現に東京市赤坂區新坂町一四番地に住し、電話青山四〇〇〇番なり。

直木政之介君

實業家

我が實業界の重鎮として令名噴々たる直木政之介君は兵庫縣の人神田勝次郎君の長男にして嘉永四年一月を以つて生れ明治十一年五月直木家を襲ふ。明治二十年初めて燐寸製造の業を開始し、後兵庫大阪燐寸同業組合長となり。現時は日本燐寸製造、淡川土地建物各株式會社の社長として知らる。

明治十五年以降町會議員、町村長其他種々の名譽職に擧げられ、同二十一年縣會議員、同常置委員に選ばれ尙ほ明治二十四年以降神戸商業會議所議員及び副會

長、淡東區會議長、市參事會員、市學務委員、市勸業常置委員、神戸市淡東教育會長、神戸商業學校商議員、神戸製産物品評會審査委員長、第五回内國勸業博覽會審査委員、内國海運會社々長等に推さる。

明治三十六年第五回内國勸業博覽會其他の内外各國博覽會、共進會等に自家の製造に係る燐寸を出品し名譽金銀大賞牌を受けたる事數次、同三十七年日本赤十字社より有功章を受く。尙ほ明治四十二年實業上功績顯著の廉を以て勳六等に叙し瑞寶章を同四十五年六月楠幼稚園建設費として金壹萬圓を寄附し三つ組金杯其他を賜ひ、大正十二年十月濟生會へ金壹萬圓を寄附せるを以て紺綬褒章を賜ふ。夫人をかう子と呼び兵庫縣の人直木傳兵衛君の長女たり。現時住宅を神戸市中山手通七ノ三一番地に有す。

中小路與平治君

大津商業會議所會頭
滋賀縣農工銀行頭取

君は滋賀縣の人中小路章貞君の長男にして明治元年八月を以つて生れ、前名貞治郎を改めて家督を相續す。夙に京都府立龜岡中學校及滋賀縣立商業學校等に學ぶ、曩に郡會議員、同議長、衆議院議員に擧げられ、又會つては八幡鑄物合資會社々長、蒲生銀行取締役たりしことあり現に勳四等にして大津商業會議所會頭、滋賀縣農工銀行頭取として知らる。

夫人をてつ子と呼び養子徳治郎君の夫人をはる子云ふ。因に令妹きく子は大阪府の人山本藤治郎君に嫁す。現に滋賀縣大市津坂本町に住す。

長田幹彦君

文士 著作家

我が文壇に錦繡の才葉を筆端に馳せて不朽の香を放つ一輪の明花として、今や其の身藝術の最高境地にある君は明治廿

年三月一日を以つて東京市九段に生る。

夙に早稻田大學文科に學べるも故なきにあらず、因より其の生涯を文壇に生きんと志し、大學在學當時より早くも君が天稟に恵まれたる文才の發揮するまゝに委し、其の熱と力とに富める文章の表現は早くも同僚をして等しく驚異の眼を以つて激賞せしむるに至る。

大學を卒ふるや期するありて諸所を轉宅行脚すること數年、その燃ゆるが如き純情と天稟の文才とによりて成れる「旅役者」の處女作が一度文壇に發表せらるゝや一躍して新興文壇の星座に位し、續いて「祇園夜話」「霧」「舞妓姿」等を世に送るや愈々人口に膾炙せられ、尙ほ「九番館」「春の波」「永遠の謎」等月を追ふて續々發表せらるゝや君が文壇の展開は愈々以つて斯界の寵兒と謳はるゝに至る。

君や末だ春秋に富めり益々自重して可なりである、尙ほ著作の傍ら東京放送局顧問、ラヂオドラマ研究會長たりしが大

正十五年九月これを辭任して著作に専念たり。社交廣く諸名士實業家とよく交通し、趣味又多様なりといふ。夫人政江子との間に美代子あり。現に東京市牛込區南山伏町一一番地に住し電話牛込二〇三九番なり。

名取和作君

富士電機製造株式會社社長

君は名取和三郎君の長男にして同夏司君の令兄に當り、明治五年四月二十八日を以て信州諏訪郡落合村に生れ、同三十年十二月家督を相續す。夙に東上して慶應義塾大學に學び、同二十九年同校經濟科を卒業して古河鑛業株式會社に入り、實務に専念せしが明治三十二年同社を辭し慶應義塾より米國コロンビア大學に留學を命ぜられ、經濟學を専攻し、歸朝するや母校に經濟學を講じ傍ら日本絹綿紡績株式會社の取締役に就任し、同四十一年教職を辭して東京電燈株式會社倉庫課長、營業課長等を歴任し現時は前記會社

の社長たる外鐵瀾紡績、岐阜電力各株式會社の重役として知らる。

夫人フク子は東京府の人朝吹常吉君の令妹にして兩人の間に木之助君、洋之助君、懷之助君等あり、現に東京市芝區三田町一ノ三五番地に住し、電話高輪一五一番なり。

中島玉吉君

法學博士 京都帝國大學教授

君は群馬縣の人中島又三郎君の二男にして明治八年一月を以つて生れ先代平太郎君の養嗣子となる。明治三十三年東京帝國大學法科大學を卒業し進んで大學院に入りて民法を専攻す。爾來京都帝國大學法科大學助教授、同教授、同大學部長等に歴任し現に同大學教授にして從四位勳三等たり。其の間民法法研究の爲め獨佛兩國に留學を命ぜられ又歐米各國に出張を命ぜられたり。

夫人鶴卷子との間に二男二女あり、現に京都市上京區淨土寺西田町に住し、電

那波 齊治君

朝日信託株式會社事務取締役(前)

新興日本の財界に活躍して漸時其の名聲を博しつゝある我が那波齊治君は岐阜縣士族那波光儀君の二男にして、即ち學界の泰斗工學博士那波光雄君の令弟に當り、明治七年九月二十三日を以つて大垣市に生る。夙に郷校を卒ふるや笈を負ふて東上し東京商科大学の前身たる東京高等商業學校に入學し、明治三十年優秀の成績を以つて同校を卒業するや直ちに滋賀縣立商業學校教諭に任命せられ、後轉じて實業界に身を投じ、聘に應じて第三十四銀行に入り爾來同行基隆支店支配人同東京支店長等の要職に就任し大正七年迄同行の幹部として盡力せしが後辭して日米信託株式會社事務取締役、中島礦業內國通運各株式會社の取締役等を歴任して君が稀代の敏腕を振ひ何れも發展の域に達せしめたり。

南波 禮吉君

中央證券株式會社社長

君は舊名古屋藩士南波傳内君の長男にして明治六年四月を以つて生れ、同卅七年一月家督を相續す。夙に實業界に志し上京して慶應義塾に入り、明治廿六年四月同校を卒業するや直ちに株式仲買業研究の爲め實務につき其の後今井萬吉君と共に株式取引店を經營せしが同卅六年獨立して株式仲買店を開始し、金萬商店と稱して堅實なる營業方針を以つて着々商勢を擴張せしかば業運頓に擧り今や其の聲名斯界に噴々たるものあり。

尙ほ傍ら横濱棧橋倉庫、青島物産等各株式會社の重役たり、書畫を愛好し秘藏の幅物又抄からずといふ。夫人つね子は愛知縣士族馬淵益彦君の令妹にして其の間に長男進吉君、二男二郎君、三男海三君、四男陸雄君、五男中藏君、六男鮮吉君、七男正吉君、長女ヒサ子、二女きよ子、三女すみ子、四女静子等あり、因に長女ひさ子は東京府の人宮本信彦君に嫁

す。現に東京市赤坂區青山南町二ノ四八番地に住し電話青山二五七八番なり。

根尾 宗四郎君

中越銀行取締役

勳八等地方財界の重鎮根尾宗四郎君は石川縣の人岩井重兵衛君の長男にして明治七年三月を以つて生れ、先代宗四郎君の養子となり、前名嘉十郎を改めて襲名し家督を相續す。當家は代々當地方の豪農にして且つ當主宗四郎君に至り各種事業に關係し、前記の要職にある外木谷黒鉛電化株式會社の取締役として知らる。夫人マツ子は富山縣の人中男ミツ子の令妹にして其の間に行雄君、洋永子、梅子、田美子等あり、現に富山縣東礪波郡庄下村に住す。

分家して一家を創立す。夙に錦城中學校を卒業するや直ちに實業界に身を投じ株式界に活躍して名聲を斯界に馳す。明治三十九年より四十三年まで紅葉屋商店に勤務せしが同年日本橋坂本町に有價證券現物問屋を開業して着々と其の地歩を占め今や斯界の重鎮を以つて目ざるゝに至る。

君は尙ほ前掲會社の社長たる外日本セメント株式會社の取締役たり。夫人すぎ子は福井縣士族濱與右衛門君の二女にして福井縣立女學校を卒業し其の間に長男輝道君、二男元吉君、長女くみ子、二女喜和子、三女喜代子、四女泰子等あり、現時東京府北豊島郡高田一六六七番地に住し電話牛込二〇六〇番なり。

名取 忠愛君

山梨貯蓄銀行頭取

君は山梨縣の人名取忠文君の長男にして慶應二年十月を以つて生れ明治三十八年家督を相續す。久しく市參事會員其他

中山 平次郎君

醫學博士

九州帝國大學教授

君は福岡縣士族中山德輝君の二男にして明治四年六月を以つて生る。明治三十三年東京帝國大學醫科大學を卒業するや直ちに教育界に身を投じ爾來京都帝國大學、福岡醫科大學等の教授に歴任し、現

南部 修三君

南部興業株式會社社長

君は福井縣士族南部貫一君の三男にして、明治十九年十月二日を以つて生れ後

時は從四位勳三等にして九州帝國大學教授兼學生監たり。曩に病理學及病理解剖學研究の爲め獨、埃へ留學を命せらる、現に福岡縣福岡市荒戸四番町に住す。

南部 麒次郎 君

正四位勳一等功四級
陸軍中將 工學博士

君は佐賀縣士族南部春雅君の二男にして明治二年十一月三日を以つて佐賀縣に生る。夙に陸軍に志し明治二十五年陸軍士官學校を卒業し同年砲兵少尉に任ぜられ日清の役には少尉として出征し戦地に於て中尉に進み功により功五級金鵄勳章を賜り、更に日露の役に出征して功あり功四級金鵄勳章を賜はる。

爾來戸山學校教官、東京砲兵工廠小銃製造所員、同製造所長、陸軍技術審査部審査官、技術審査部議員、陸軍歩兵學校教官、陸軍砲兵工廠附兼陸軍技術審査官同議員、東京砲兵工廠設計課長等を歴補し、大正七年陸軍技術會議員仰付られ、

同十一年八月東京砲兵工廠提理に補せられ、同十二年四月火工廠長に轉じ、同年八月更に陸軍科學研究所長となりたるも大正十四年五月官を辭し目下閑地にあり大正五年より七年に亘りて歐米各國に出張し、大正八年學士會の推薦により工學博士の學位を授與せらる。夫人エイ子は佐賀縣の人石丸忠英君の長女たり、現に東京府下豊多摩郡大久保百人町四九番地に住し電話四谷二四二八番なり。

名川 侃 市 君

辯護士 特許辯護士

君は廣島縣の人名川治良平君の長男にして明治十六年六月一日を以つて廣島縣は高田郡坂村に生る。君天資英明にして群童の比にあらず、夙に郷校を卒ふるや笈を負ふて東都に上り明治大學の前身たる明治法律學校に入學し、研鑽琢磨明治三十六年優秀の成績を以つて同校を卒業し翌三十七年身を官界に投じて司法官試と補なり、同三十九年判事に任ぜられ前

橋地方裁判所、千葉地方裁判所等に勤務すること一年有半後東京地方裁判所に轉す。

大正二年同裁判所部長に累進して令名を馳せしが期するところありて大正六年官を辭して野に下り、現在の場所辯護士を開業し爾來今日まで精勵事務に當り其の井然たる法理辯論と熱心懇切とを以つて人に接したりしかば、君の信望や頓に擧り今や帝都法曹界の白眉として其の令名や高し。君末だ春秋に富む宜しく自重自愛以つて將來の大成を期すべきあらざるか否哉

君又忙中閑を見ては園藝に親しみ殊に菊を愛好すといふ、又其の人と爲りを知るべきなり、夫人を静子と呼び其の間に敬太郎君、順次郎君、良三君、正之君、鶴子等あり。現に東京府外大井町鹿島谷三〇一五番地に住し電話大森一〇七六番にして事務所を東京市京橋區丸屋町四番地に有し電話銀座一二五〇番たり。

中島 宇三郎 君

大岡々銀行頭取

君は群馬縣の人小林傳次郎君の令弟にして明治元年十月を以つて生れ、先代利三郎君の養嗣子となる。現に前記銀行頭取たる外に日本合鐵金株式會社取締役、上野銀行、研電社、足尾鐵道、渡良瀬興業各株式會社監査役たり。夫人テイ子との間に二男五女あり、因に長男彌一郎君は其夫人あさ子を伴ひ分家し、二男英之助君も又分家し、長女ミキ子は東京府の人曾根豊三君に嫁す。現に群馬縣山田郡大間々町に住す。

永井 柳太郎 君

衆議院議員

君は石川縣士族永井登君の長男にして明治十四年四月を以つて生る。明治三十八年早稻田大學政治經濟科を優秀の成績を以つて卒業するや更に歐米に遊學して牛津大學に學び更にマンチエスターカレッジを卒業す。夙に故候爵大隈重信君の

知遇を得て政治界に入り、金澤市より推されて衆議院議員に當選すること數回、現に其の公職にありて憲政會に所屬し院の内外を問はず君が政論は實に堂々たるものにして其の雄辯は全日本の民衆に轟はれ君が令名蓋し噴々たるものあり。

大正十三年加藤内閣成立するや君は外務參與官に擧げられ又曩に早稻田大學教授、雜誌新日本主筆、日本國產株式會社取締役等たりしことあり。夫人次代子は東京府士族三浦徹君の長女にして其の間に明雄君、道雄君、愛子等あり、現時東京市外戸塚三五〇番地に住し電話牛込七四三番なり。

中井 新右衛門 君

銀行家 中井銀行頭取

當家は江州出身の著名なる豪商にして今を去る二百年以前より江戸に住し、各藩御用達を勤め歴代新右衛門を襲名して現在に及ぶ。維新前より酒商を營み且つ中井銀行を興し今日に至れるものにし

永瀬 庄吉 君

川口商事株式會社長

當家は當地方に於ける舊家にして代々鑄造業を營むを以つて知られ、先代庄吉君は幕府の貨幣鑄造の任に當りたる人にして君は其の長男にして安政四年十月を以つて生る。僅かに十二歳の頃より先代を助けて家業に従事し二十歳の時石川島造船所に於て米國人技師キング氏の優秀なる機械と相待つて日本の機械工業界に

華しく活動しつゝあるを聞き、其の機械の構造を知らんが爲にキンゴ氏に雇はれ苦心研究の結果遂に其精巧なる機械の構造を看破し、自己の考案を加へて蒸氣機關及送風器を完成し、鑄造能力の革命増大を來たさしめたり。

後從來の日本式鑄造法と西洋式生型法を折衷して「グリーンサンドムード」を案出して鑄造界に新紀元を開きたり。東京市水道の鐵管及び宮城二重橋の鐵管は君の鑄造に係るものにして、彼の日露戰役の際には君の工場は砲兵工廠の支廠となりて砲彈を製造し又歐洲戰役の際には露國政府より魚形水雷、手投彈の註文を受けたりといふ。現に埼玉縣多額納稅者にして、其の直接國稅四千六百十餘圓を納むといふ、浪花節、義太夫、團圓等に趣味を有す。現に埼玉縣川口本町二番地に住し電話川口二番、二二番、三一番なり

内藤 勝 藏 君

東京中央郵便局長

從五位勳三等内藤勝藏君は兵庫縣士族内藤誠一郎君の長男にして明治八年七月廿三日を以つて生る。夙に鳳鳴中學校、東京郵便電信學校等を卒業し、爾來廣島郵便局監理課長、神戸鐵道郵便局長、東京鐵道郵便局長、青島野戰郵便局長、大阪中央郵便局長、東京中央郵便局長等を歴任し現在に至る。

宗教は佛教を奉じ趣味又廣しといふ。夫人すず子は廣島縣士族神川涉六君の六女にして廣島高等女學校を卒業し、君との間に長男健君、二男俊君、三男英君等あり、現時東京府下目黒下目黒四五八番に住し電話高輪七〇〇番なり。

永井 當 清 君

東京毛織株式會社取締役兼大井工場監督
地下工業株式會社監査役

君は東京府の人永井當昌君の二男にして明治十四年二月二十一日を以つて東京

市麴町區に生る。夙に麻布中學校を卒業するや直ちに東京高等工業學校に入學し明治三十六年同校機械科を優秀の成績を以つて卒業す。後間もなく日本製粉株式會社の懇請する事となりしかば君之に應じ入りて同社技師となり、大いに君が技倆を發揮せしも後東亞製粉株式會社の創立せらるゝや是に參畫し其の設立を見るに及んで同社に轉じ能く内外の社務を執掌して其の發展に盡瘁せしかば遂に擧げられて同社常務取締役の要職に就任す。偶々大正十四年六月同社が日本製粉株式會社と合併するや辭して東京毛織株式會社に入社し、同社取締役兼大井工場監督役に擧げられ、愈々君が多年の經驗と其の漢語を傾注して同社の發揚に盡瘁すること蓋し甚大にして又大正十五淺野系統たる地下工業株式會社の創立に盡力し其の設立するや同社監査役に就任し、今や君が全力を擧げて是等諸會社の爲其の天稟の才を縦横に振展するに至る。君や年齒未だ春秋に富む其に社交的に

して且つ圓満なる風貌と高潔なる人格に加ふるに博大なる學識とはやがて新日本財界の第一線に立つて活躍する又疑ひなかるべく、宜しく自重自愛以つて其の大を期して可ならん哉。尙ほ傍ら麻布中學校の理事にして日本工業俱樂部會員たり夫人トキ子は東京府の人中村榮三郎君の二女にして、君との間に四男二女ありて清一君清治君幸三君英雄君及び茂子の子と呼ぶ。現に東京市麴町區下六番町六番地に住し電話四谷五二九九番なり。

夏 秋 十 郎 君

南洋興發株式會社取締役會長

從四位勳三等夏秋十郎君は佐賀縣士族金持清一君の令息にして明治十一年三月十六日を以つて生れ、同廿七年夏秋幸一君の養子となり後家督を相續す。明治卅六年東京帝國大學法科大學政治科を卒業し同年十一月高等文官試験に應じて首尾よく合格し、直ちに官界に入り爾來山梨視學官、同縣及び三重縣千葉縣等各事務

官、千葉、石川、廣島各縣内務部長を経て大正六年十月青島守備軍民政部勅任事務官となり。尋いで大正八年五月官を辭すると共に東洋拓殖株式會社理事に就任せしが同十二年任期満了して退職し、現に日本信託銀行取締役、南洋興發株式會社取締役會長たり。學識博大にして就中和漢の文學書を愛好すといふ。夫人エダ子は佐賀縣の人藤山萬吉君の二女にして跡見高等女學校の卒業たり。現時は東京市牛込區市ヶ谷砂土原町二ノ七番地に住し電話牛込三五五番なり。

成 瀨 正 恭 君

十五銀行頭取
千代田火災保險會社監査役

君は香川縣の人成瀨岩太郎君の二男にして明治元年五月を以つて生る。夙に慶應義塾大學普通部を卒業するや直ちに米國に留學して市俄古市なるブライアント、エンド、ストラットン商業學校に入り同

校を卒へて更に紐育コルネル大學法學部に入り明治二十二年優秀の成績を以つて卒業しバチエラーオプローの稱號を受け進んで大學院に學びマスターオプローの稱號を得て歸朝す。明治二十四年横濱正金銀行に入り同二十八年日本貿易株式會社に入り同社支配人の要職に就き、更に明治三十一年十五銀行に轉動し其の支配人となり爾來専心同行の發展に努め現に同行頭取たる傍ら千代田火災、川崎造船所、帝國倉庫各株式會社監査役にして且つ丁酉銀行頭取として君が偉才を縦横に振展し今や我が財界一方の重鎮として録々の名を博するに至る、尙ほ其の他國際信託株式會社相談役、東京交換所委員として知らる。現に東京市芝區白金三光町四百七十三番地に邸宅を構へ電話高輪五五五九番たり。

中山説太郎君

實業家

君は岡山縣の人中山才一郎君の長男にして明治七年八月を以つて生る。夙に實業界に志し現に函館商業會議所特別議員久原鑑業、日魯漁業、日本汽船、國際汽船、山陰電氣各株式會社取締役たる外下松銀行、樺太物産、大阪海上火災保險各株式會社監査役たり、夫人を千代子と呼び君との間に二男五女あり、因に令妹松代子は岡山縣の人守屋光三郎君に嫁す。現に大阪市北區堂島濱通二ノ六番地に住し電話一一一四番なり。

根津甚平君

協林會社社長

金平商店取締役支配人

曾つては教育界に盡瘁して幾多學徒の崇敬の標となり、一度期するありて斷然教職を擲ち身を實業界に投するや其の惠まれたる敏腕は間もなく斯界の信望を一身に擔ひ愈々多事多端なる我が協林合資

會社代表社員根津甚平君は新瀧縣の人根津安一郎君の長男にして明治三年十月十六日を以つて生る。

夙に新瀧縣立師範學校教員講習所を卒業するや直ちに同地に於て教鞭を執りしも大志ある君は永く教職にありて地方にくすぶることを欲せず、遂に奮然起つて教職を捨て、單身上京し株式界に雄飛するに至る。爾來幾多艱難と闘つてこれを征服し今や前記諸會社の重役として其の天與の才腕を發揮し君が前途益々多望なるものあり。それ根津甚平君宜しく自重自愛以つて來たらんする時機に一矢を放つて可なりである。

夫人もと子は新瀧縣の人河田喜平君の長女にして君との間に三男三女ありて卓治君、清治君、活治君、美代子、萬代子喜代子と呼び家庭團樂たり。現に東京市下谷區御徒町三丁目七十八番地に住し電話下谷三一七五番なり。

中川久任君

伯爵 從三位

貴族院議員

當家は清和天皇の皇孫鎮守府將軍源經基三世攝津守源頼光十二世の裔兵庫頭中川清深の十世瀨兵衛清秀の後なり。清秀初め荒木攝津守村重に屬し天正元年七月單身和田維政を淀川にて破り同六年織田信長に參じ屢々軍功あり攝津茨木の城主となる、後羽柴秀吉に屬し賤ヶ嶽の戦に従軍して戦死す、其の子右衛門尉秀政家を繼ぎ播州三木の城主となり、秀吉に従ひて所々に軍功を樹て令弟秀成其の後を享け豊後國岡に移封して七萬四百四十石を食すそれより十二代を経て現代久任伯に至る。

君は正四位中川久成伯の相續者にして舊廣島藩主淺野長勳侯の從弟君に當り故淺野懋績の末男にして明治四年五月を以つて生れ、明治三十年久成伯の養嗣子となり幼名倉吉を改むるに至る。夙に學習院を卒業し、又曾つては國光生命保險株

式會社取締役たり貴族院議員に互選せらるゝ事二回現に其の職にあり。夫人隆子との間に二男二女あり、現に東京市麻布區宮村町に住し電話高輪四八四二番なり

根本祐太郎君

郡山信託株式會社社長

君は福島縣の人根本庄次郎君の長男にして明治四年三月を以つて生る。夙に實業界に志し活躍大に努め現に前記會社社長たる外尚ほ郡山銀行、郡山土地建物、川前電氣、大日本紡績、郡山化學工業、郡山電爐工業、郡山電氣各株式會社の取締役にして且つ村田電燈株式會社監査役として地方財界に名あり。夫人ツネ子は同縣の人大内爲一郎君の二女にして其の間に祐一君、セツ子、シン子、サワ子等あり。現に福島縣安積郡々山町に住す。

鷺尾勇平君

日清紡績會社取締役兼龜戶工場長

君は新潟縣の人鷺尾甚平君の長男にし

て明治十六年十二月を以つて生る。夙に郷校を卒業や笈を負ふて東上し明治四十二年東京帝國大學工科大学機械工學科を優秀の成績を以つて卒業し、直ちに實業界に身を投じ聘に應じて日清紡績株式會社に入社し、大正四年同社高岡工場長に榮轉せしが後再び日清紡績株式會社に轉じて以來専心同社の發展に盡瘁して今日に及ぶ。現に同社取締役兼龜戶工場長として令名あり。

夫人をたま子と呼び新瀧縣の人伊藤仁太郎君の令妹にして君との間に長男真平君、二男忠平君、三男平三郎君、四男龍平君、五男俊平君、六男尚平君、長女雪子、二女花子、三女八重子等ありて家庭圓滿なり。現に東京市本郷區駒込神明町三三〇番地に住し電話小石川四四六八番なり。

永田秀次郎君

從四位勳三等 貴族院議員

我が東京市長として令聞高かりし永田

秀次郎君は兵庫縣士族永田實太郎君の長男にして明治九年七月を以つて生る。明治廿二年判檢事登用試験に首尾よく登第し、兵庫縣洲本中學校長、大分縣視學官、大分、石川、熊本、岩手等各縣事務官、内務書記官、福岡縣事務官、同内務部長、内務省警保局長、東京市助役、同市長として令聞ありしが後之を辭して現時貴族院議員たり。

夫人いそ子は兵庫縣の人羽田平五郎君の令妹にして君との間に亮一君あり。現に東京市小石川區雜司ヶ谷八三番地に住し電話牛込二〇七番なり。

永田新之允君

實業之日本社理事

衆議院議員

君は東京府士族永田孝之允君の長男にして明治四年四月を以つて山口縣は玖珂郡に生る。實業之日本社長増田義一君が新潟より立候補を宣して遂鹿場裡に奮戦するや、君また相呼應して郷里山口縣の

一角に戦宣を布告して幾多闘士と敢戦し遂に社長と共に當選の榮譽を擔ひ實業之日本社より二人の代議士を出せしは單に同社に限らず我が雜誌界の誇りとすべきにあらざるか否哉

其の昔名古屋に出で名古屋扶桑新聞社に入り後久しく新聞記者として操觚界に活躍する處ありしが、因より天性英明なる君は聘せられて讀賣新聞社に入り間もなく編輯長の要職に就き更に明治三十七年實業之日本社に入りて編輯長、理事となり今日に至る。君早くより政治に興味を有し大正六年寺内内閣の當時總選舉に際し郷里より立候補して不幸落選を見たるも、堅忍不拔の君は爾來常に中央地方の政治界に奔走盡瘁する處ありしが其功空しからず今日の榮冠を擔ふに至り、今や立志傳中の第一人者として其の令名や高し、現に東京市牛込區南榎町七六番地に住し電話牛込二〇九七番なり。

長峰 與一 君

衆議院議員

君は宮崎縣の人長峰伊作君の令弟にして明治七年一月を以つて生る。夙に東京帝國大學法科大學政治科を卒業し後語學研究の爲め米國に留學せしことあり。現時天津商工銀行取締役に於て大正六年以來衆議院議員に當選すること前後三回に及び政友本黨に屬し黨内に重きをなす。夫人ユク子は宮崎縣士族長井アイ子の長女にして其の間に俊一君、萬里子文字等ありて一家團樂たり、現に宮崎縣宮崎郡宮崎町大字上別府に住す。

中橋 徳五郎 君

實業家 政治家

君は舊金澤藩士齋藤宗一君の五男にして明治元年九月を以つて生れ、先代はん子の養子となる。夙に金澤專門學校文學部を卒業し更に明治十五年東京帝國大學法學部に學び商法を研究し、同十九年卒業して大學院に入り幾許もなく判事試験

に任せられ横濱始審裁判所に勤務し、農商務省參事官、法制局參事官となり議院制度取調の爲め歐米を巡歴し、明治二十九年更に清國に航し郵便制度を視察し歸朝後逡信省監査局長を経て鐵道局長に任ぜらる。

曩に日清戦役後實業界は極度に倒産の悲境を來し、大阪商船株式會社も亦其の渦中に投するや君は多數株主の懇望に依り官を辭して同社に入り活躍大いに努め克く同社今日の盛大を致し、今や關西實業界の大立物として信望極めて厚し、而して一旦後進の道を開くのを以つて同社を辭するや直ちに政界に乗り出し衆議院議員に當選する事四回先に文部大臣たり、政友會分裂するや政友會本黨の重鎮として政界に重きをなすに至る。夫人をえつ子と呼び其の間に一男五女あり。現に東京市麴町區中六番町三九番地に住し電話牛込六二九番なり。

鳴海 周次郎 君

貴族院議員

鳴海銀行頭取

今や地方産業開發就中本邦産馬事業の改良發達を目標に其の献身的努力を惜まざる、地方の一勢力我が鳴海周次郎君は青森縣の人鳴海廉之助君の長男にして、明治二十年三月一日を以つて生る。夙に青雲の志を抱いて上京し東京大成中學校を経て東京主計學校選科に學び、明治四十年優秀の成績を以つて同校を卒ふるや暫らく斯學研鑽の爲め滯京し、歸郷後は専ら父君を援けて家業に精勵し、曾つては村會議員、區會議員、郡會議員等の名譽職にありて地方自治の爲めに盡瘁し、今又青森縣産馬蓄産研究會評議員、西北産馬蓄産組合副組長、青森縣地方森林會議員等の公職にありて君が公共事業に貢獻すること甚大なり。

抑々當家は遠く先代より産馬事業に盡瘁して本邦有數の名馬を産出して斯界に令名ある家柄にして、君又祖業を繼承し

てこれを恥かしめず今や君の識見に加ふるに多年の經驗に基きて、専心名馬の産出に精勵し、斯業に對する君の功績たる蓋し甚大なりと謂ふべし。尙ほ深く意を森林事業に用ひ其の植林區域實に數百町歩の廣きに亘り、斯くて君が地方産業の發展に貢獻すること枚擧に遑あらず。

君又地方財界に於ける曉星を以つて目せられ、現に鳴海銀行頭取たる外立誠銀行、松木屋呉服店、津輕酒造等各株式會社の取締役に於て且つ五十九銀行、青森貯蓄銀行、金木銀行等の監査役として令名高く、現に青森縣多額納稅者にして、大正十四年九月推されて貴族院議員に當選し今や中央政界に於ける一異彩たるを失はず。

夫人ひさは青森縣の人古川和三郎君の長女にして内助の聞え高く、其の間に健太郎君、健次郎君、健三郎君、廉司君、榮司君及びさだ子、さと子、さい子、ふさ子、はるえ子等ありて其の家庭は常に春風颯蕩たり。現に青森市米町三九番地

に住し電話八三七番なり。

中田 清兵衛 君

二十銀行頭取

富山縣多額納稅者

君は富山縣の人蜜田林藏君の五男にして明治九年九月を以つて生れ、後先代清兵衛君の養子となり大正五年十一月家督を相續し前名徳太郎を改めて清兵衛と襲名す。現時二十銀行頭取にして又富山縣多額納稅者として方今直接國稅八千四百三十餘圓を納むといふ。

夫人キタ子は富山縣の人田中勝次郎君の三女にして君との間に勇吉君、俊吉君、亮吉君、幸吉君、朝子、登代子等あり尙長女喜久子は石川縣の人神保成吉君に嫁す。現に富山縣東四十物村三五番地に住す。

中村 貫一郎 君

中央證券株式會社專務取締役

君は東京府の人中村嘉十郎君の長男に

して明治十五年九月一日を以つて生る。裏に現法政大學の前身たる京都法律學校を卒業して直ちに身を實業界に投じ中野屋商店に入りて専ら株式界に活躍し、大正十一年同店名義人となり、尙ほ中央證券株式會社創立せらるゝや同社長南波禮吉君に重用せられて其の専務取締役となり現在に及ぶ。傍ら東京株式取引所一般取引員として我が財界に聲名あり。

宗教は佛教にして團基に趣味を有し夫人朝子は本田巳之助君の三女にして淑徳の譽れ高し。現時東京市本郷區森川町一番地に住し電話小石川二四九二番なり。

中江 種 造 君

實業家

京都府多額納税者

中江家は元豊岡藩士として知られ君は同藩士河本筑右衛門君の三男にして、弘化三年二月を以つて生れ幼にして先代辰吉君の養子となり其の家督を相續す。夙に藩主に仕へ多く京都御所の守護に任ぜ

り、維新後造幣局に勤務し次いで生野鑛山局詰を命ぜられ當時外人に就き専ら探掘其他に關する知識を養ひ後官途を辭して鑛業に志し幾多の障礙を排して遂に今日の如き巨萬の富を築くに至る。

中江産業合資會社は更に中江一族の爲めに設立せられたるものにして鑛山業を營み傍ら土佐に於て造林業を兼營す。君は精力主義の勇士にして京都府多額納税者たり、現時直接國稅五千六百餘圓を納む。夫人はる子は京都府の人二木芳美君の長女にして君との間に種一君、龍二君、盛三君、二三雄君、麓夫君、道子、幸子、博子等あり。現に京都府上京富小路町夷川に住し電話上七三八番なり。

中村 不 折 君

畫家 正五位

君は本名を作太郎と稱し長野縣の人中村源藏君の長男にして、慶應二年七月十日を以つて生る。明治三十四年洋書研究のため歐洲に留學し、畫伯ジャン、ポー

ル、ローランスの門に學び泰西名畫の神隨を會得し、滯留中巴里大學繪畫競技大會に出品して巴里畫壇に其の令名を馳せ最優等の賞牌を受け、歸朝するや東京博覽會に「建國創業」を出品して一等賞金牌を受く。

爾來文展、帝展に傑作を出品すること數次にして今や洋畫界の泰斗として新興日本畫壇に令名噴々たるものあり。帝國美術院會員、大平洋畫會員たり。曩に日清の役に從軍し戦地寫生をなし戦報通信に獨特の妙筆を揮つて知らる。君は一方日本畫に造詣深く君一流の日本畫を描き更に六朝風畫道の達人なりといふ。

夫人いと子は埼玉縣の人堀場一郎君の二女にして君との間に二男一女あり長男丙午郎君、二男摠文君、長女みね尾子と呼ぶ。現時東京市下谷區上根岸町一二五番地に住し電話下谷三七九八番なり。

中 目 覺 君

大阪外國語學校長

正五位勳四等中目覺君は宮城縣士族中目安富君の二男にして明治七年五月を以つて生る。明治三十二年東京帝國大學文科大學獨逸文學科を卒業し、更に地理學研究の爲め埃洪國に留學し、歸朝するや第四高等學校教授、廣島高等師範學校教授、同生徒監、松山高等學校教授等に歴任し、現時は大阪外國語學校長たり。

夫人しげよ子は宮城縣士族守屋成憲君の三女にして君との間に悟君、廣安君、足男君、四彦君、てる子、アキ子等あり現に京都府伏見京北八ノ八〇番地に住し電話伏見六七三番なり。

中 村 信 治 君

實業家

君は平澤直道君の二男にして明治九年六月一日を以つて生れ、後中村家に入りて中村姓を冒す。夙に東京藥學校を卒業し、爾來杏雲堂病院、田代病院等に勤務

して後小石川區小日向水道町に於て藥局を開き傍ら現住地に於て製藥業を營み、更に工場を東京府下高田町に開設し藥綿社と稱し主として衛生材料を製造す。

現時は其の傍ら模範賣藥株式會社の取締役にして尙ほ日本藥劑師會代議員、東京藥局會副會長、全國賣藥業團體聯合會東京賣藥同業組合各理事、中興會幹事等の要職にあり。曩に小石川藥業會々長に選ばれしこと二回なりしが大正十三年之を辭任す、又會つて區會議員たりしことあり、趣味として俳句を好み一樹園心甫と號し宗匠として令名高し。

夫人初枝子は樺島信滿君の四女にして家庭にありて裁縫生花音樂等を專修し、其間に長男信孝君、二男秀雄君、三男泰治君、五男克己君、六男雅明君等あり。現時東京市小石川區武島町三三番地に住し電話小石川二四五二番なり。

中 村 三 郎 君

中村高等女學校長

君は埼玉縣の人石川多仲君の三男にして明治十年七月を以つて生れ先代富五榮君の養子となり後家督を相續す。夙に東京高等商業學校を卒業し大倉組外國部に入り、次いで深川倉庫株式會社に轉じ後中加貯蓄銀行を經營せしが現時は中村家の經營に係る中村高等女學校長たる外日本炭酸瓦斯、日本コルク等各株式會社の重役として知らる、趣味廣く就中謠曲園碁等に堪能なりといふ。

夫人をいそ子と呼び東京府の人中村富三郎君の長女にして其の間に邦之助君、ひさ子等あり。現に東京市外入新井新井宿一九九二番地に住し電話大森六二七番なり。

長 久 伊 勢 吉 君

合同油脂グリセリン會社専務取締役

帝國染料株式會社社長

君は廣島縣の人長久喜十郎君の二男にして明治十一年三月二十六日を以つて生れ後分家して一家を創立す。夙に廣島縣

立福山中學校を優等の成績を以つて卒業

するや直ちに實業界に投じて獨力製糸業を興し、大正四年鈴木商店に入り、大正六年王子製油所工場監督兼經理部長となり同十年スタンダード石油株式會社創立と同時に其の専務取締役となり、同十二年日本グリセリン株式會社となるや同社専務取締役に擧げられ又帝國染料株式會社々長として令名高し。

君は曩に福山市會議員たりしことあり宗教は眞宗を奉じ圓基撞球等に趣味を有すといふ。夫人糸子は廣島縣の人長久長治君の長女にして廣島縣立高等女學校を卒業し君との間に長男忠君、二男文雄君長女定子、二女豐子等あり、因に長女定子は福山高等女學校を終へて東京音樂學校を卒業し、法學士松本修一君に嫁す。現に東京府下北豊島郡巢鴨平松一三〇八番地に住し電話小石川五七〇三番なり。

中村圓一郎君

貴族院議員

長岡外史君

正三位勳一等功二級 陸軍中將
衆議院議員 帝國飛行協會副會長

君は靜岡縣の人中村圓藏君の長男にして慶應三年六月を以つて生る。曾つて靜岡縣會議員に當選せしことあり、又巴里萬國博覽會靜岡出品監督、横濱稅務監督局相續稅審查委員等に擧げられしこと二回縁綬褒章を賜はる。大正七年貴族院議員に互選せられ今日に至る。
現時は靜岡縣多額納稅者にして遠陽銀行頭取、東遠電氣株式會社長たる外靜岡農工銀行、三十五銀行、日本紅茶株式會社、日英水電株式會社、藤相鐵道株式會社、静岡薄茶株式會社、東京電業株式會社、東京製茶株式會社、中村製茶部各取締役として地方財界の重鎮たり。夫人きく子との間に三男五女あり、現に靜岡縣榛原郡吉田村に住し電話長靜津三二番なり。

當家は先代南陽子無く周防國下松驛在末武北村の豪農堀三右衛門君の二男外史を養ひて嗣となす。君幼にして山口明倫館に經書を學び明治十二年陸軍士官學校同十八年陸軍大學校を卒業し、爾來參謀本部局員、歩兵第四聯隊中隊長、第一師團參謀、混成大島旅團參謀、軍務局軍事課長、歩兵第九旅團長、大本營參謀次長等に歴補し、後國民飛行會長となりしも現時は帝國飛行協會副會長にして斯界の爲め盡瘁する處尠なからず曩に獨逸に留學すること三年、戦後の歐米を視察漫遊して歸朝す。現に山口縣第七區選出衆議院議員として知らる。

夫人芳子は大阪府の人清水久助君の令妹にして君との間に護一君、護郎君、護君、磯子、京子等あり、因に長女磯子は東京府の人朝吹常吉君に、二女京子は男爵園田武彦君に何れも嫁す。現に東京市外千駄ヶ谷原宿一七〇番地に住し電話青山三九八番なり。

中山源治君

長崎土地建物株式會社長

君は長崎縣の人中山すゑ子の長男にして明治十三年一月を以つて生れ、先代善三君の養子となる。夙に印刷業を營み印刷界に活躍すること久しく、現時は長崎土地建物株式會社々長たるの外長崎印刷株式會社の取締役として其の名斯界に高し。

夫人しん子は長崎縣の人横井時乘君の長女にして君との間に善勝君、善敏君、善彦君、善徳君、善秋君、善隆君、幸恵子等ありて家庭圓滿なり、現に長崎縣千馬に住し電話長五二八番なり。

中村芳三君

實業家

君は東京府の人中村米吉君の二男にして明治十四年七月七日を以て生る。夙に府立第一中學校を経て慶應義塾大學に入り同校を卒業するや明治卅八年家業牛乳搾取販賣業に従事し同四十二年嚴父の歿

後之を嗣ぐ。爾來駿東煉乳、中村畜産、日本煉乳等各株式會社を創立し其の常務取締役となり、大正九年日本煉乳株式會社が森永製菓株式會社と合併せらるゝや君入りて其の取締役となり、尙ほ其他中村畜産株式會社部長、岡山、八丈、山陽等各煉乳株式會社の取締役として知らる

宗教は眞宗を奉じ旅行、登山等に趣味を有し日本貿易協會々員たり。夫人仲子は東京府の人小林半助君の長女にして君との間に長男芳雄君、長女弘子、二女鈴子、三女節子等あり、現時東京府在原郡駒澤村上馬引澤一〇五〇番地に住し電話世田ヶ谷四一番なり。

中野寅吉君

衆議院議員

君は福島縣の人小林辰四郎君の令弟にして明治十二年四月を以つて生れ、先代中野寅次郎君の養子となり後分家して一家を創立す。夙に早稻田大學法科を卒業し曩に北海道廳、臺灣總督府、朝鮮總督

府、警視廳、各警部に歴任し、現時は鑛山業を營み、大正九年以來福島縣郡部より推されて衆議院議員に當選すること二回に及び憲政會に屬し院内に於ける猛者として其の令名噴々たり。
夫人せつ子は養父寅次郎君の養女にして君との間に一男一女ありて一郎君、スミ子と呼ぶ、現に福島縣大沼赤澤村に住す。

中村啓次郎君

北海製業株式會社長

君は和歌山縣士族吉川定之進君の二男にして慶應三年十月を以つて和歌山市に生れ、先代中村宗兵衛君の養子となる。夙に青雲の志を抱いて東上し英吉利法律學校に入りて切瑳琢磨、明治二十三年卒業し、後辯護士となり臺灣に航し同地に於て事務を開設し熱誠事務を執掌し、難訴よく快刀亂麻的敏腕を振ひしかば令名頓に擧り、後斯界の推す處となり臺灣辯護士會々長となる。

更に日刊臺灣民報を創立し同地操觚業者の中心勢力となし今や其他各種新聞の牛耳を執れり。而も君の事業的才腕は歩一步と發揮され、北海礦業株式會社々長日本果物、臺灣爆竹花火、亞鉛電解特許權、臺灣炭礦、大氣堂各株式會社の重役として同地實業界に於ける重鎮たり。

曩に郷里和歌山縣第一區より推されて衆議院議員たること三回に及ぶ。君人として爲り豪快加ふるに襟度頗る大なり、而も人と交りて厚く、後進を導く亦頗る親切なりといふ又以つて敬すべきなり。夫人ちか子との間に啓一郎君あり。現に東京市麻布區櫻田町五八番地に住し電話青山六二六八番なり。

長尾美知君

正五位 醫學博士
長尾病院長

君は茨城縣の人海老原平作君の二男にして明治九年九月を以つて生れ、同三十一年先代精一君の養子となり同三十五年

家督を相続す。明治三十五年東京帝國大學醫學科大學を卒業するや直ちに現千葉醫科大學の前身たる千葉醫學專門學校教授に住せられ、更に千葉病院部長、同病院副院長等を歴任せり。

大正二年醫學博士の學位を受く。然れども同年不幸にして病を得て職を辭し、自ら長尾病院を經營し小兒科及産婦人科内科の専門診療に従事し斯界の老手を以つて知らる。夫人うた子は新瀧縣の人今泉正友君の長女にして其の間に乾君、精君、巖君、正君、富美子等あり、現に其住宅を東京市日本橋區濱町三ノ一番地に有し電話大手一五七六番なり。

南部常次郎君

從四位勳四等
工學博士

君は新潟縣土族南部信近君の長男にして即ち友田貞吉君、片山徹吉君等の令兄に當り、慶應元年六月十日を以つて生る。明治廿年東京帝國大學工學科大學土木工學

科を卒業し同年更に米國に留學して米國コーネル大學を卒業し、同廿二年歸朝し宮城、兵庫、鳥取等の各縣に奉職し、明治廿八年監督署技師に同卅二年長崎市營長崎港灣改良監督技師に轉じ、同卅八年東京電力株式會社臨時部長に就職し同四十四年內務技師に任せらる。

先是明治四十年東京市技師に任じ、大正七年青森縣技師に轉じ青森築港事務所長たりしが同十三年事務完了に付き退職し現時閑地に在り、先是大正四年には工學博士の學位を受け學士會及土木學會の會員にして、謠曲、園藝等に趣味を有すと云ふ。夫人あさ子は東京府の人銀林綱男君の長女にして君との間に一男四女ありて、修太郎君、ひさ子、みさ子、みよ子、みね子等と呼ぶ、現に東京市麻布區新龍土町一二番地に住し電話青山四五一八番なり。

中井永一君

中井銀行取締役

君は東京府の人中井新右衛門君の令弟にして、明治十四年四月十一日を以つて生れ、同卅五年九月分家して一家を創立す。夙に實業界に身を立てんと志し、令兄新右衛門君と共に我が國銀行界に活躍して腕敏を鳴らし、今や斯界の重鎮として其の名噴々たるものあり。現に中井銀行取締役として知らる。

夫人ひさ子は東京府の人須田鐵次郎君の長女にして君との間に長界孝二君、長女登志子等あり一家團欒にして春風颯蕩たり。現に東京市神田區鎌倉町一七番地に住し電話神田二七五番なり。

中川小十郎君

從四位勳三等
財團法人立命館長

君は京都府士族中川祿左衛門君の長男にして慶應二年一月四日を以つて生る。明治廿六年東京帝國大學法科大學を卒業

して直ちに文部省に入り京都帝國大學書記官となり、後首相秘書官、内閣書記官文部大臣秘書官、樺太廳事務官等に歴任し又加島銀行理事、大日本生命保險株式會社副會長、臺灣銀行頭取等の重職に就きしが大正十四年八月辭任して立命館長となり現在に至る。

曩に樺太廳事務官在任中樺太慈惠病院を創立して新版圖の醫事衛生に盡力すること大なるものあり、故祿左衛門君は西園寺公の家臣として明治維新の際王事に奔走し其の功に依りて特に從六位を賜はる、宗教は禪宗にして禪學に趣味を有し日本工業俱樂部、學士會、交詢社、銀行俱樂部各會員たり。夫人榮子は京都府の人草本左内君の二女にして君との間に幹太君あり、現時其の住宅を東京府豊多摩郡戸塚諏訪一九番地に有し電話牛込二二七七番なり。

中川末吉君

實業家

君は滋賀縣の人赤塚又左衛門君の四男にして明治七年十一月を以つて生れ、先代石松君の養子となり明治二十二年家督を相続す。夙に米國に學びユール大學を卒業して直ちに實業界に入り現時は古河合名會社理事たる外横濱護謄製造株式會社、古河電氣工業株式會社、日本電線製造、古河銀行等各會社の重役として令名高し。夫人をこみ子と呼び男爵古河虎之助君の養妹にして君との間にすみ子、文子等あり、因にすみ子は法學士板倉勝富君に嫁す。現に其住宅を東京市芝區高輪南町四六番地に有し電話高輪四二三番なり。

中村梅太郎君

書家 日本書道會幹事
日本女子大學及各學校書道教授

君は福岡縣の人にして明治元年七月を以つて同縣は京都郡秋郷村に生る。春堂と號し本邦書道の泰斗を以つて知らる。夙に經學に精通して名高き嚴父の薰陶を受けて習字に精勵し、明治十七年豊津中

學を出づるや中津に赴きて河野私塾に入り漢學を學び、居ること二年大いに造詣を深くして歸郷し直ちに小學教育界に身を投じたりしが、偶々明治二十年の交同郷の先輩にして當時法制局長官たりし末松謙澄子の徳意に遭ひ即ち好機逸すべからずとなし、遂に志を立て、上京し子の幹旋に依りて法典調査會書記を拜命し傍ら餘暇を以つて東京專修學校に入りて經濟學を學ぶ。

偶々君が能筆は當時の宮中顧問官にして法典調査會長たりし三浦安氏の認むるところとなり、即ち氏の勸奨に依り書道を以つて世に貢獻せんと決心し専ら實利實益に便せんことを計り、自ら實用書道の鼓吹者を以つて任じ、先づ漢學の造詣深き君は假名の研究を以つて斯界に名をなさんと欲し、明治三十一年二月小野鷲堂師の門に贅を入れ一意専心假名の研究をなし、君が天才に加ふるに漢學の造詣深かりしかば其技能頓に舉り未だ年ならずして翌年早くも文部省の檢定試験に合

中川孝太郎君

正五位勳六等 法學博士
辯護士 特許辯護士

君は京都府土族故中川春雄君の長男にして明治六年十月廿日を以つて生る。明治卅一年七月東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し、同年九月更に大學院に入り斯學の蘊奥を極め、同卅三年三月檢事に任ぜられ東京區裁判所に奉職す。同年四月東京帝國大學法科大學助教授に任ぜられ幾何もなくして刑事訴訟法研究の爲獨佛英諸國に留學し同卅六年十一月歸朝するや直ちに同大學教授に昇進す。

趣味廣く就中繪畫、和歌等に堪能にして又刀劍を愛好し、陽明學に精通す、更に閑を見ては山嶽に登りて幽邃淡雅、秀靈の氣に接するを樂しみとなす。又著書多く製百首、三体千字文、女子手紙文、大正書幹、新體女子用文其の他數十種ありて何れも社會に噴々たる好評を博す。現に東京市牛込區市ヶ谷谷町二ノ二三番地に住す。

明治卅七年十一月法學博士の學位を受け、同四十年四月檢事を兼任し、同四十二年三月韓國に差遣せられ同四十五年五月退官して暫時閑地に在りしが大正二年辯護士を開業して現時に至る。曩に東京辯護士會々長たりしことあり、觀世流能樂に趣味を有すといふ。

夫人豐子は東京府の人永持明德君の長女にして東京女子高等師範附高等女學校

の卒業にして君との間に尙君、春子等あり。現に東京府豊多摩郡中澁谷四〇番地に住し電話青山五二八番なり。

成田倉吉君

土木建築請負業

建築設計施工成田工務店主

東京市京橋區内に於ける建築請負業者としての老舗成田工務店經營者成田倉吉君は新潟縣西蒲原郡大字石瀨の産にして慶應三年五月を以つて生る。當家は同地方有數の舊家として知られし家柄にして君は夙に大志を抱き偶々伯父成田久平氏が帝都に於ける建築業者として已に令名あるを幸に君又將來建築界に名を成さんと志し、年齒僅かに十五才にして單身上海し久平氏に就いて具さに辛酸を嘗め建築の業を見習ふや、固より天資英明なる君は幾許もなく業務に熟練せしかば伯父久平氏深く其の將來有望なるを看破して後事を托して明治二十八年没す。

爾來同氏の遺業を繼承して成田工務店

と名命し斯界に活躍せしかば業勢漸次舉り、社會の信用益々増大し君が優秀の技術を以つて完璧を期せし施工數枚舉に遑あらざるも就中米國大使館、伊太利大使館、和蘭公使館、立教大學、全中學、全女學校、築地聖路加病院、各教會、大山公爵邸、埴原邸等の著名なる建築物を始めとして其他都下會社商店諸名家等何れも皆完成を期して多大の賞讃を博し、今や帝都業界の第一人者を以つて目ざるに至りぬ。

然して目下其の營業の一切を長男祐三君に繼承して君は單に其の顧問役として事業に參與するのみにて、祐三君能く父君の事業を繼ぎて恥かしめざる人物にして青年實業家の間え高く、既に内外の信望噴々たるものあり。君は立教中學を終へて築地工手學校建築科に學び優秀の成績を以つて同校を卒業するや直ちに父君を援けて業務に精勵し今日に至りしものにて、君が濫蓄と優秀なる技術とは相俟つて事業益々發展し其の將來を囑望せら

中野寅次郎君

鬼怒川水力電氣株式會社副社長

君は高知縣の人中山門作君の二男にして中山曠繁君の令弟たり。元治元年九月廿五日を以つて生れ後中野直輔君の養子となりて家督を相續す。夙に高知縣師範學校を卒業し暫らく教育界にありて育英の道に専念たりしが、後上京して小石川區長、東京市土木部長、小石川區會議員

自由通信社主幹、東京鐵道局庶務課長、満洲水力電氣株式會社取締役兼理事等の諸職に歴任し、現に鬼怒川水力電氣株式會社事務取締役副社長として令名高く尙ほ曩に衆議院議員に選出せられたることあり。

夫人富子は高知縣士族宮崎恭平君の二女にして君との間に二男一女あり勇君、靜君、富榮子と呼び長女富榮子は兵庫縣士族小林清君に嫁す。現時東京府豊多摩郡中澁谷七二四番地に住し電話青山三四四番なり。

中島久萬吉君

男爵 正四位勳三等 貴族院議員

當家は先代從三位勳二等中島信行君より家名を擧ぐ信行君は舊高知藩士にして文久慶應年間坂本龍馬君の海援隊に入りて其の參謀となり、維新の際國事に奔走するところあり、後板垣伯と共に自由黨を組織し明治二十三年國會の開設せらる

ゝや衆議院議長となり。後伊太利全權公使に任せられ、明治廿九年男爵を授與せらる。

君は其の長男にして明治六年七月を以つて生れ同卅三年三月家督を相續し襲爵仰せ付けらる。先是明治卅年東京高等商業學校を卒業し、同卅四年桂内閣組織せらるゝや内閣總理大臣秘書官に任ぜられしが後之を辭して、日本無線電氣株式會社創立副委員長となりて同社の創立に盡瘁せり。尙ほ東京商業會議所特別議員たり。

現時は貴族院議員にして曩に日露戰役の功に依り旭日小綬章を賜る。夫人八千代子は子爵岩倉具明君の令妹にして君との間に和夫君、正雄君、實君、清子、愛子等あり。現に其の住宅を東京市牛込区市ケ谷藥王寺町四三番地に有し電話牛込七〇六五番なり。

長瀬 鳳 輔 君

從五位勳五等

賀町一ノ八番地に住し電話牛込三九二八番なり。

根岸吉之助君

演伎座經營者 常盤興業會社事務取締役

君は我邦興業界の重鎮として斯界の發展に盡瘁し現に常盤興業株式會社事務取締役として令名ある小泉丑治君の長男にして明治二十五年二月を以つて生れ、先代根岸濱吉君の養子となる。明治四十三年茨城縣立土浦中學校を卒業するや直ちに興業界に入り同年三館共通を以つて東都に人氣を博せし根岸興業部の經營者となり、更に常盤興業株式會社の相談役に擧げらる。此に於て君が天才的手腕を發揮すべき時來るとなし多年の宿望を果すべく當時斯界に於ける最も年少なる經營者として劃策從横新に加ふるに新を以てし、其の宣傳に於て其の上演物に於て其の設備に於て其の觀客の待遇に於て遙かに同業者を抜く事數等なりき。

大東文化學院長

君は東京府の人長瀬麟太郎君の令弟にして慶應元年十月を以つて生る。夙に外國語學校、米國ジョンズホプキンス大學獨逸ヘルリン大學等を卒業し、爾來山口高等學校教授、陸軍大學教授、履門東亞書院校長、參謀本部囑託、早稻田大學教授等に歴任し、大正十三年大東文化學院の創立さるゝや入りて同院長となり子弟の薰陶に従事して現在に至る。

君に五令嬢ありて長女美喜子は寺田勇一君に、二女笑子は箕浦三郎君に、三女鶴子は秋陽隆一君に何れも嫁し尙ほ四女敏子、五女壽子等あり。現に住宅を東京市麴町區飯田町六ノ一三番地に有す。

永田善三郎君

衆議院議員 大連關東報社長

「我に勝算あり何ぞ敵艦の堅きに凌巡せんや」と勇進敢戰靜岡第八區選鹿場裡に戰火を交へて、遂に彼の政界の老將實

業界の巨星波多野承五郎君を向ふに廻して見事大勝し、一躍政界に名をなしたる君は明治十八年六月を以つて靜岡縣周知郡久努西村に生る。夙に郷校を卒るや笈を負ふて東上し早稻田大學に入りて政治經濟を修め、明治四十二年優秀の成績を以つて卒業し、後臺灣に航し操觚界に投じ臺灣新聞社に入りて健筆を從横に振ひしが幾許もなく辭して滿洲に赴き、滿洲新聞社に入り活躍以つて滿洲の表裏に精通するに至る。

大正二年聘せられて大連汽船株式會社天津支店長となり其の蘊蓄を傾倒せしかば忽ちにして斯界に名聲を博し、後大連關東報社を創立して其の社長となり今日に至る。尙ほ大連漢字新聞社に關係せり君人と爲り豪毅にして快澗、聊も些事に拘泥せず器局頗る大今や議政壇上得意の境地に立つ、其の活躍必ずや大いに期待すべきものらん。夫人を菊子と稱し其の間に長男恒君、長女みどり子、次女あづま子等あり。現に東京市牛込區市ケ谷加

然して大正十年常盤興業株式會社と合併せらるゝや君入りて其の常務取締役に擧げられ更に大正十四年演伎座の再興を企て君其の經營主となり、君が前途實に洋々たるものあり。趣味として野球あり斯道は學生時代キャプテンとして令名あり。夫人を千枝子と呼び其の間に濱吉君、千賀子、貴美子等あり、現に東京市淺草區諏訪町十一番地に住す。

中野勇次郎君

辯護士 辯理士

君は京都府の人中野半右衛門君の長男にして明治十二年一月を以つて京都府北桑田郡知井村に孤々の聲を擧ぐ。明治三十四年中央大學の前身たる東京法學院を首席を以つて卒業し、翌年判檢事登用試験及び辯護士試験に合格し直ちに官界に入りて司法官たりしが後官を辭して同三十五年二月辯護士事務所を日本橋に開き着々として斯界に地歩を占め今や帝都法曹界に令名高し。

其の間東京辯護士會評議員に擧げらるゝこと數回にして且つ民衆の輿望を擔つて東京府會議員に推さるゝこと數回に及び現に其の榮職にあり。夫人その子は宮澤源助君の長女にして其の間に次雄君、うた子、つや子、とし子等あり、現に東京市本所區相生町四ノ一七番地に住し電話墨田二五六二番なり。

永田 錦心君

琵琶師 畫家

君は本名を永田武雄と稱し長野縣士族長田市右衛門君の長男にして明治十八年十二月一日を以つて生る。夙に薩摩琵琶の泰斗錦獅翁に就きて斯道の研鑽を積み更に吉水錦翁に師事して研究を積む。君が斯道に於ける無比の藝は世人の渴仰するところにして錦心流と稱して一派を起し、自らその宗家となり専心後進の指道に従事し今や令名斯界に高し。

君又畫を能くし曩に文部省美術展覽會に出品して入選すること二回畫家として

又一家を成すといふ、旅行を唯一の趣味とす。夫人まん子は東京府の人三浦太郎君の長女にして君との間に長女瑞枝子あり。現に東京府下豊多摩郡千駄ヶ谷五〇七番地に住し電話青山一一九六番なり。

中野喜三郎君

中野組頭取

勿來軌道株式會社社長

君は香川縣の人先代中野忠次郎君の二男にして安政六年九月十四日を以つて生る。當家は代々石工を業とし君又令兄を助けて石工請負業をなす。曩に皇宮御造營の際令兄と共に其の石工事を請負ひ謹嚴業に服せしも不幸にも業半ばにして令兄の逝去に遭ひ、一時苦境に陥りしが奮勵以てよく其の重役を果し名聲を博す。明治二十年以來完成せる主なる工事は司法省、裁判所、日本銀行、東京商業會議所、三井銀行、横濱正金銀行、東京電氣株式會社、軌道工事、利根川架橋工事大阪市營電氣鐵道工事、日本橋改築工事

舊警視廳、帝國劇場等にして、我が國石工界の第一人者として知らる。尙ほ斯業の傍ら石材商を營み茨城縣稻田に輕便鐵道を敷設し大規模に花崗石を搬出し其の品質の良好なるは斯界の定評あり。

傍ら東京土木建築業組合長として今や帝都復興途上に於ける君や蓋し多事多端なりと謂ふべきなり、現に其の事務所を東京市京橋區北櫻川岸町二二番地に有し電話銀座五一二四番なり、尙ほ其の住宅を東京市豊多摩郡淀橋町角等一番地に有し電話四谷四四七番なり。

鍋島直繩君

子爵 從四位

貴族院議員

當家は内大臣藤原鎌足の後裔鍋島平右衛門義尚の後肥前佐賀の城主加賀守直茂の第二子和泉守足茂の後胤たり。忠茂君父君の封二萬石を分與せられ同國鹿島の藩士となり、後經ること十一代にして直彬君に至る。直彬君は從五位下丹波守直

永の第三子にして、夙に重野安釋中村啓宇鹽谷岩陰等に就て學び長ずるに及んで鎔造館を設け文武の道を獎勵し、後進を薰陶す、嘉永年間先代の養子となり明治五年家督を相續す、維新の際には彼の鍋島閑叟君を援けて國事に奔走して功あり

同五年八月米國に航し文武制度を視察し翌年歸朝するや直ちに侍從に任じられ、同十二年沖繩縣令に、同十四年元老院議官等に歴任したり。

明治十七年子爵を授けられ、同廿三年以來貴族院議員に當選する事數回に及び錦鷄間祇候被仰付けられ日露事件の功に依り勳二等に叙し瑞寶章を賜ひ大正四年六月病を得て卒す。君實は鍋島直映君の令弟にして明治廿二年五月を以つて生れ同卅年四月先代の養子となり、大正四年六月家督を相續し襲爵仰せ付けられ同十四年七月貴族院議員に當選す。夫人政子は子爵毛利元秀君の令妹にして君との間に長男直紹君、二男直定君、三男直美君等

あり、現時住宅を東京市赤坂區新坂町八番地に有し電話青山六〇三七番なり。

七海兵吉君

三井礦山株式會社常務取締役

君は福島縣の人七海兵四郎君の三男にして明治四年四月廿日を以つて生れ、大正十年分家して一家を創立す。明治廿八年東京高等商業學校を卒業して直ちに三井礦山株式會社に入り累進して同社會計主任たりしが現時は前記の要職にあり尙ほ傍ら石狩石炭株式會社監査役たり。宗教は曹洞宗にして如水會、日本工業俱樂部等各會員たり。

夫人うし子は山形縣士族高野清一君の三女にして共立女學校の卒業なり、君との間に長男吉郎君、長女菊代子、二女富美子、三女武子、四女松代子、五女千代子六女光子等あり。現に東京市小石川區宮下町一〇番地に住し電話小石川二五六五番なり。

奈良武次君

陸軍大將

從三位勳一等功三級

當家は古くより栃木縣上都賀郡南摩村に住し農業を營みたる家柄なり。君は奈良彦一郎君の二男にして明治元年四月を以つて生る。明治十九年陸軍士官學校に入り、同二十二年砲兵少尉に任せられ後陸軍砲兵學校及び陸軍大學校に學び、爾來累進して陸軍大將に陞る。其間陸軍省軍務局課員、參謀本部附、鳴戸要塞司令官、攻城砲兵司令全部員、軍務局砲兵課長、陸軍技術審査部議員、陸軍省副官支那駐屯軍司令官、青島守備軍參謀長、陸軍省軍務局長、東宮武官長、侍從武官長等に歴補し獨逸に駐在すること二回に及べり。

彼の日清、日露の兩役に出征し又歐洲大戰後佛國に於ける講和會議には帝國陸軍代表として派遣せられ歸任後、大正九年八月東宮武官長に轉じ東宮殿下の御渡歐

に隨從の榮譽を擔へり。夫人ミツ子は東京府士族梅田義信君の長女なり。現に其の住宅を東京市外淀橋町柏木一六〇番地に有し電話四谷二〇八〇番なり。

長與 又郎君

正五位勳四等 醫學博士
傳染病研究所長

君は男爵長與立吉君の叔父君にして同程三君の令弟岩永裕吉君の令兄たり。明治十一年四月を以つて生る。明治三十七年東京帝國大學醫學科大學を卒業して更に大學院に入り、明治三十八年同大學助手となり、同四十年病理學研究の爲め獨逸に留學し斯學の研鑽を経て歸朝するや同大學助教授に任ぜられ、翌四十四年醫學博士の學位を受け同校教授に進み、大正三年傳染病研究所技師を兼任す。

現に同研究所々長の要職にあり、夫人玉子は東京府の人森村勇君の令姉にして君との間に太郎君、梯子、道子、八重子

等あり。現時其の住宅を東京市麻布區市兵衛町二ノ二番地に有し電話青山六五〇八番なり。

中塚榮次郎君

國民圖書株式會社社長

君は栃木縣の人中塚勇吉君の長男にして明治七年十二月十七日を以つて生る。年齒僅かに十七歳にして米國に渡り學究の傍ら日本人に語學を教授し、後美以學校長となる。次いで華府コロムビア大學に入りて研鑽を経ること四ヶ年マスターオブ、ロース、マスター、オブ、デプロマシー、ドクター、オブ、フイロソフイーの學位を受く。更に歐洲に留ること一ヶ年即ち前後十七ヶ年の久しき滞在の後歸朝して國民文庫刊行會を創立し國民文庫其

他を刊行し或は平山成信君のジャバンマガジンの主幹たりしが大正九年國民圖書株式會社を創立して其の社長に就任し現に其の任にあり。讀書に趣味を有すと言

ふ。

夫人鶴子は笠井彰君の長女にして東京府立第一高等女學校を卒業し淑徳の譽れ高き夫人なり、君との間に長男榮一君、長女敦子等あり。現に東京市芝區白金三光町五六番地に住し電話高輪七八三番なり

根岸耕一君

日本活動寫眞株式會社取締役支配人
富士水電株式會社常務取締役

君は岩手縣の人根岸貞三郎君の長男にして明治十九年十一月二十五日を以つて生る。夙に郷校を卒ふるや笈を負ふて上京し研鑽大いに務め後實業界に身を投じ君が天稟の才幹を縦横に發揮して各種事業會社に活躍せしかば令名忽ち舉り、現に富士水電株式會社常務取締役及び日本活動寫眞株式會社取締役兼支配人として益々其の技倆を發揮する傍ら尙ほ長門起業炭礦株式會社取締役にして今や我が財界に於ける君が聲名噴々たるものあり。

宗教は禪宗を奉じ、趣味又多様にして平和村、同氣俱樂部等の各會員たり、現に東京市麴町區永田町二丁目六十三番地に住し電話銀座五三三三番たり。

中山 輔親君

侯爵正五位 貴族院議員

當家は藤原鎌足の裔にして中山正二位内大臣忠親郷より二十一代忠能君に至る忠能君の男忠愛君の二男先代孝磨君は嘉永五年十二月を以つて生る。明治十四年六月以降東京市日本橋、麴町各區長となり次いで宮内書記官明宮勤務長、東宮侍從長等に歴任し同十七年七月候爵を授けられ、同二十三年貴族院議員に勅選せられ同二十八年二月東宮大夫、同三十五年宮中顧問官に任ぜらる。

明治三十五年二月彰仁親王殿下隨行被仰付大不列顛國戴冠式に參列し、翌三十六年八月、室會計審査局長に任命さる。同四十年十二月再び宮中顧問官に任ぜら

れ大正四年十二月日獨事件の功に依り旭日大綬章を授與せらる。君は其五男にして明治二十七年十一月を以つて生れ大正八年十一月家督を相続して同年十二月襲爵仰せ付けられ現時貴族院議員として其の重任にあり。夫人豐子は公爵九條道實公の三女たり現に邸宅を東京市赤坂區青山南町一ノ一番地に有し電話青山一〇七一番なり。

中原岩三郎君

吾妻川電力株式會社副社長

工學博士中原岩三郎君は山口縣土族中原衛人君の三男にして明治元年十一月十三日を以つて生る。明治廿五年東京帝國大學工科大學電氣科を卒業して直ちに東京電燈株式會社に入り技師長を経て同社常務取締役に進みしが、大正十一年二月辭して同社技師顧問となり現時に至る。

君は前記吾妻川電力株式會社副社長として敏腕を振ふ傍ら信越電力、玉川水道

等各株式會社の取締役にして又三ツ引商事株式會社の相談役たり。趣味として能樂、園基等あり、夫人ミチヨ子は山口縣士族宗像六郎君の長女にして淑徳の譽れ高きを以つて知らる、現時は東京市牛込區市ヶ谷町四十番地に住し電話四谷二二〇〇番なり。

中原市五郎君

ドクトル、オブ、サイエンス
日本齒科醫學專門學校長

君は長野縣の人中原仁左衛門君の三男にして慶應三年五月を以つて生る。夙に青雲の志を抱いて東上し東京齒科專門學校に入りて齒科醫學を研究し、明治二十二年醫術開業試験に首席を以つて及第せり。日本齒科醫學專門學校は實に君の設立に係れるものにして現に同校々長として聲名あり。

大正五年斯業視察の爲め米國に留學しメリーランド大學よりドクトル、オブ、サ

イエンスの學位を受け續いて大正十三年本邦齒科醫教育の功勞に依り勳五等に叙せられ瑞寶章を賜はる。又「齒科新報」「齒科醫報」等の各雜誌に社長として君が斯界に貢献すること甚大にして斯學に關する著書多く齒科機械器具の特許を受けたるもの實に數十個に及ぶといふ。

夫人ふく子は愛知縣の人日比野萬藏君の令妹にして君との間に三男四女あり實君、武秀君、光夫君、伸子、富美子、美子、貞子等にして、二女伸子は日本齒科學專門學校附屬病院長加藤清治君に、三女富美子は笠野泉君に夫々嫁す。現に醫東京市麴町區富士見町五ノ七番地に住し電話四谷七〇一六番なり。

中川 正左君

東京地下鐵道株式會社副社長
從四位勳三等中川正左君は奈良縣の人中川行保君の二男にして明治十四年十月を以つて生る。明治三十八年七月東京帝

國大學法科大學を卒業するや直ちに身を官界に投じ逓信省鐵道局に職を奉じ爾來臨時鐵道國有準備局書記官兼逓信書記官鐵道院參事、中部鐵道管理局運輸課長、逓信大臣秘書官、鐵道院總裁秘書、鐵道省運輸局長、鐵道次官等に歴任せり。

先是鐵道事業研究の爲め歐米各國に留學し歸朝するや東京帝國大學經濟部講師として鐵道論の講義を擔當しつゝありしが現時は東京地下鐵道株式會社の副社長として令名あり。夫人稔子は男爵中村雄次郎君の二女にして君との間に眞一君、讓二君、恭子、溫子、道子等あり、現に其の住宅を東京市牛込區中町三三番地に有し電話四谷一〇〇八番なり。

中村 雄次郎君

陸軍中將
男爵正三位勳一等功四級
樞密顧問官
當家の祖先は豊臣秀吉の出生地と稱せ

らるゝ、尾張國中村より出づるを以つて中村姓を冒す。秀吉主將たるに及びて之れに仕へ式部少輔に任せられ一時伯耆國に封ぜられしが後浪人となりて諸國武者修業の途に上り、晩年伊勢國波瀨村に居し一家を成し隱者として生涯を送り爾來今日に至るまで子孫連綿として同村に相傳ふ。

君は三重縣士族中村一貫君の二男にして嘉永五年二月を以つて生る。夙に身を軍籍に置き明治七年陸軍中尉に任せられ爾來累進して同三十五年陸軍中將に陞り陸軍次官兼軍務局長より轉じて製鐵所長官となり同三十七年貴族院議員に勅選せらる。

大正三年特に拔擢せられて南滿洲鐵道株式會社總裁に推され、同六年七月特に現役に列し關東都督に親任せられ、彼の日清の役に偉功ありて功四級、日露の役には勳功に依りて勳一等に叙せられ、明治四十年九月特旨を以つて華族に列し男

中野 金次郎君

國際通運(株)社長
大北火災海上運送(株)社長
君は福岡縣の人中野用七氏の長男にして明治十五年五月を以つて筑前若松市に生る。夙に實業界に投じ、門司鐵道局の前身たる九州鐵道株式會社に入社し、後ち叔父君なる秋田又太郎氏の經營に係る巴組肥後又海運業門司支店に入社し同支店の主任に選ばれ、斯くて一意専心事業の發展に盡瘁し、大正五年門司支店を秋田氏より繼承するや之を合資組織に變更して愈々才腕を振ひ活躍大いに努めしかば業運順に擧れり。

尙ほ此の間木屋瀨炭礦、樺島炭礦等を經營して異常なる機才を發揮し、事業の隆盛を計り、後ち選ばれて門司市會議員、門司商業會議所議員に推され、北九州に於ける實業界に名聲を馳せ、更に九州の一偶より中央に發展して其の驥足を伸展し、東都實業界に重きをなす。

君は頭腦明晰にして機略縱横、加ふる

に緻密細微なる事務的才腕あり、曾つて大正三年の交廣島縣多額納稅者たる八田氏の經營に關はる、八田銀行の破綻に頻するや、君懇請せられて其の整理の重任に當り、終に其の難關を突破して名聲を博す。今や國際通運會社を双肩に擔ひ而して、同社に於ける功績たる單に内部整理並に海陸運輸の聯絡を許るに止まらず内國通運、明治運送等の各株式會社の大合同を斷行して現國際通運株式會社を設立し以て我が國通運史上に一新機軸を劃するに到れり。

更に特筆すべきは彼の大震災災當時、君たまく北海道巡視中なりしが、一度凶報に接するや直ちに上京し、斯くて物質輸送の遲速が直ちに帝都三百萬市民の生死を制し、而も當時戒嚴令下にありて一切の輸送は擧げて陸海軍に依りて行はれ、而して震災救護局の内閣直屬の下に置かるゝや、君選ばれて震災事務局に囑託せられて、同時に物資の配給輸送は遂に軍隊より内國通運株式會社(現國際通

運會社)に移さるゝに至り、茲に於て君の得意や百倍し、其の活動たる疾風迅雷的に、其の功績たる絶大なりき。現時は前掲の外通運保全社、沙留驛運送、巴組(資)、上毛電氣軌道、門司土地、關門汽船各株式會社に會長又は社長並に重役として令名錚々たり。尙ほ鐵道省小口運送制度調査委員會委員、農林省馬政委員、帝國鐵道協會評議員、港灣協會理事たり。現に東京市麴町區中六番町九番地に住す。電話九段二七二二番

中村 巍君

正四位勳二等
衆議院議員

君は和歌山縣の人、野彌七君の三男にして、明治六年七月を以つて生れ、後ち中村清子の指定相続人となり中村家を繼げり。

夙に東京商科大学の前身たる東京高等商業學校を卒業し、明治廿八年外務省書記生試験に登第し、更に同卅年外交官及び領事官試験に合格するや官界に投じて領事官補、外交官補、公使館三等書記官領事、外務書記官、總領事、特命全權公使、外務省通商局長等を歴任す。

然して大正十三年五月衆議院議員に當選し、同年八月外務省政務次官に任ぜられしが同十四年八月辭す。尙ほ曩に對支文化事業調査委員たりしことあり。

夫人みつ江子は和歌山縣士族三輪國次郎君の長女にして君との間に弘君、健城君あり、現に東京市牛込區南町三三番地に住し電話牛込一五九〇番たり。

中村忠三郎君

京都府多額納稅者

君は京都府の人中村房次郎君の令弟にして、明治十年一月を以つて生れ、後ち先代つね子の養嗣子となる。

夙に京都財界に投じて生糸商を營み、現に京都府多額納稅者として直税二千二百圓を納むるを以つて知らる。

夫人うた子は京都府の人中村源次郎君の令姪にして君との間に三男あり、現に京都市上京區元誓願寺通福寺に住し電話西陣二六六番たり。

中村 精男君

理學博士 正三位勳二等
東京物理學校長

君は山口縣士族中村象吉君の長男にして、安政二年四月を以つて生る。明治十二年東京帝國大學理學部を卒業し、同十九年歐洲に留學して氣象學を研究するこゝと數年、明治二十二年造詣を積みて歸朝し、同廿三年中央氣象臺技師となり、同

鍋島 直明君

男爵 從三位勳三等功四級
貴族院議員

當家は舊佐賀藩の一門にして鍋島平左衛門君の後裔なり、世々祿二萬石を領し十數世を経て先々代直嵩君に至る。直嵩君は維新の際藩主を援けて功あり。

君は佐賀藩士鍋島孫六郎君の二男にして明治二年十二月を以つて生れ後ち直嵩

仲 萬次郎君

資産家

熊野屋塗料合資會社社長

君は東京府の人仲萬兵衛君の長男にして、明治十四年二月を以つて生る。當家は先代よりの資産家として知られ、君又これを繼承して益々増大せしめ、尙ほ熊野屋塗料店と稱し斯界に名あり。

夫人重子は東京府の人山岸三四郎君の長女にして、君との間に威雄君、與吉君、榮吉君、巖君、徹君、正威君、英雄君、達雄君等あり、現に東京市日本橋區本銀町四ノ十五番地に住し電話大手四八一番たり。

中 島 集君

田主實業銀行頭取
日進商事株式會社監査役

君は福岡縣士族中島修治郎君の長男にして、明治十四年五月を以つて生る。夙に實業界に投じ、現に田主實業銀行頭取たる外筑後軌道、九州電氣酸素、田主丸銀行、日進商事各株式會社の重役として知らる。

夫人キン子は福岡縣の人瀧井辰雄君の長女にして君との間に浩一君、二郎君、思朗君、恭三君及びタツ子、フキ子等あり、現に福岡縣浮羽郡田主丸に住す。

永田 吉衛君

長崎土地證券株式會社常務取締役

君は長崎縣の人永田惣十郎君の長男にして、明治十四年十一月を以つて生る。夙に長崎實業界に活躍して君の敏腕を振ひ、現に長崎土地證券株式會社常務取締役たる外長崎農事株式會社取締役として知らる。

夫人ムメ子との間に二男一女あり、現に長崎市酒屋町四十三番地に住す。

根津 啓吉君

山梨縣多額納稅者

君は山梨縣の人内藤宇兵衛君の令弟にして、實業家根津嘉一郎君の令甥に當り明治七年二月を以つて生れ、後ち先代一秀君の養嗣子となる。

明治二十六年京都同志社大學を卒業す

永田 信一 君

永田メリヤス機械(株)社長
平野ジャケツト(株)監査役

君は東京府の人故永田辰五郎氏の四男にして、明治十七年三月を以て生る。夙に獨立の精神に富み、明治三十七年本邦メリヤス機械製造業に従事して敏腕を振ひ、着々として本邦斯界に一大勢力を張り、斯くて大正三年斯業視察の目的を以て歐米各國を漫遊して歸朝す。

然して歸朝後時代の進運に鑑み從來の個人經營を株式組織に變更して愈々以て業務の一大擴張を斷行、今や永田メリヤス株式會社の聲名内外に普ねく、君尙は同社々長たる外中外紡績株式會社々長にして且つ中外紡績株式會社監査役たり。

尙ほ東京地方裁判所商事調停委員にして曩に巢鴨町第一區々長たりしことあり夫人むめ子は渡邊毅氏の三女にして其の間に三男二女あり、現に東京市外西巢鴨町巢鴨丸〇三番地に住す。電話大塚八三九番

永尾 文吉 君

淺野セメント(株)スレート部
東京工場主任

君は廣島縣の人永尾甚吉氏の長男にして、明治二十三年二月十日を以て生る。大正四年早稻田大學機械科を卒業するや直ちに淺野セメント株式會社に入社し同九年同社門司工場長に任じ、而して同十二年同社が淺野セメント株式會社と合併するや同社スレート部に轉じ同時に東京工場長に榮轉以て現在に及ぶ。

趣味に園藝あり、運動を好むといふ、夫人吟子は東京府の人飯田宗平氏の二女にして府立第四高女の出身、其の間に慶一郎君、敏男君及び婦志子、千恵子等あり、現に東京市外淀橋町角管一四四番地に住す。電話四谷二八六四番

永田 兵三 郎 君

正八位 歩兵少尉
横濱市電氣局長

君は神奈川縣に現籍を有し、兵庫縣士

族永田實太郎氏の長男にして、明治十二年十一月一日を以て生る。

明治三十七年京都帝國大學工科大学土木科を優秀の成績を以て卒業するや直ちに九州鐵道株式會社技師として入社、翌年一年志願兵として輜重兵大隊に入營止八位歩兵少尉に任す。

斯くて除隊と共に京都市役所に技師として奉職せしも後ち大阪電氣鐵道株式會社技師に任じ、在勤一ヶ年余にして再び京都市役所に復歸、土木局長、水道局長電氣局長等を歴任、其の間京都帝國大學講師として教鞭を執ること約七ヶ年に及ぶ。

然して大正十二年歐米各國を視察巡遊して翌十三年歸朝、昭和三年一月横濱市電氣局長に任じ以て現在に及ぶ。

趣味に端艇、撞球、園藝等あり、又書畫、骨董を愛好すといふ、學士會、復興俱樂部、鐵道協會、電氣協會各會員たり夫人綾子は大阪ミツシヨンスクールの出身、其の間に二男二女あり。

中村 林 盛 君

根生院住職

君は東京府に現籍を有し、埼玉縣の人故中村庄右衛門氏の長男として、同縣北葛飾郡に於て明治六年一月二十三日を以て生誕す。

夙に本邦宗教界に投じて思想の善導と社會教化事業に盡瘁すること甚大にして其の間先々代赤田明盛師に師事し、後ち眞義派大學林を卒業後、明治二十九年藥王院住職に擧げられ同四十三年根生院住職に轉じ以て現在に及ぶ、一世の名僧として信任は厚く、且つ君の師弟は何れも録々の名ある住職揃にして十念寺住職田中泰盛師、西光院住職鈴木仁盛師、光泉寺住職鈴木賢祐師等是なり。

はる子夫人は高田藩士村田盛孝氏の長女にして其の間に信君あり、現に東京府下高田町三四四番地に住す。電話牛込五三五七番

中山 福太郎 君

中山自動車商會主

君は群馬縣の人中山又一郎氏の二男にして、明治二十四年二月二十四日を以て群馬郡總花町に生る。

夙に郷校を卒ふるや實業界に投じ、後ち鴻圖を抱いて上京、鐵道省大崎機關庫に精勤せしも、大正四年海軍造兵廠に轉勤、更に大正七年東京瓦斯電氣株式會社自動車部に轉じ、爾來、專念自動車に關する各種の知識と技術とを修得す。

斯くて大正九年獨力以て鐵工所を創設機械の製造販賣に従事し、同十二年自動車部を兼營し、自動車界に於ける基礎確立するや鐵工所を廢して専ら同業界に活躍、斯くて本店の外に支店をも設置し、今や堂々の陣容を張つて斯界に活躍し、業界に名あり、尙ほ昭和三年特許中山式泥除器を發明し其の製造販賣に盡瘁す演劇、旅行等に趣味を有す、夫人ヨウ子との間に一男二女あり、現に東京府下

永原 伸 雄 君

三菱造船株式會社常務取締役
三菱電機株式會社監査役

君は岡山縣士族永原玄吉氏の二男にして、明治五年五月を以て生る。

明治二十五年東京高等商業學校を優秀の成績を以て卒業するや直ちに實業界に投じ、本邦財閥三菱會社に入社、爾來、敏腕と才幹とを以て社の内外に鳴らし、現に前掲諸職にある外三菱内燃機株式會社監査役として令名あり。

夫人浪子は岡山縣士族香川讓三氏の養妹にして其の間に太郎君、文高君及び満登子、康子、和子、須磨子等あり、現に東京市小石川區駕籠町二一八番地に住す。電話小石川一〇〇九番

中山 岷 三君

中山工場経営者
東京府高田町々長

君は東京府の人中山五百吉氏の二男にして、慶應二年十二月を以て生る。夙に内閣印刷局に職を奉じ、後ち海軍省工作局、内務省土木監督署第五區光立寺機械工場長等を歴任し明治四十年官途を辭して實業界に投ず。

斯くて可鍛鐵鑄物を發明し、鐵屑を利用して強靱なる小物機の製作に成功し、今や年産十數萬貫に達し年商實に數十萬圓に上り、鐵道省並に東京市電氣局を始めとして芝浦製作所、東洋電氣、大日本麥酒、大同電氣、北海道炭礦汽船各株式會社に納入して信望絶大、而も尙ほ時代の進運と共に愈々發展す。

君又社會公共の爲め盡瘁すること甚大會つては高田町第二小學校營繕費として莫大なる寄附をなし特に紺綬褒章を賜はり、高田町會議員、學務委員、高田町名譽助役等に推され、昭和三年全町會の推

舉により高田町々長に推され現に其任に

ある外北豊島病院組合議員、荒玉水道組合議員、高田町青年團長として知らる。

現に東京市外高田町雜司ヶ谷一・二六番地に住す。電話牛込一六九九番 三〇七四番

中村 峯 吉君

從六位勳五等 在郷陸軍歩兵中尉
男爵益田家々職

君は長野縣の人中村甚平氏の二男にして、明治五年九月廿九日を以て同縣更級郡川柳村に生誕す。

夙に郷校を卒ふるや明治二十七年陸軍教導團に入り、爾來、帝國陸軍々人として國防の重任に當り、たま／＼明治三十七年日露の國交斷絶して兩國の間に戰戈を交ふるに至りしかば君又陸軍歩兵少尉として征途に就き遠く滿洲の野に「ロスケ」と交戦、斯くて明治三十八年人道の敵露國を征服して滿洲の野に錦のみ旗を翻へし、東洋平和の大任を完うせし勇者

たり。

然して大正五年四月豫備役編入後、瓜生大將の紹介にて男爵益田家に入りて家職に任じ現に其の外同家經營の益田農事株式會社に在勤す。

夫人ひる子は東京府の人後藤與四郎氏の二女にして其の間に婦佐子、婦志子、婦久子、婦喜子、婦惠子等あり。

現に東京市外品川町北品川宿三〇六番地に住す。電話高輪三三五番

成瀬 達君

正五位勳四等 法學士
貴族院書記官長

君は東京府士族三井合名會社參與として同社に重きをなす從六位成瀬隆藏氏の長男にして、明治十八年六月廿八日を以て生る。

明治四十二年東京帝國大學法科大學政治科を卒業するや直ちに官界に身を投ず斯くて農商務省に勤務すること數年、累進して大正三年貴族院書記官兼農商務

省書記官に任じ、同時に戦時海上保險事務官、特許局事務官等を兼任し、尙ほ其の間に貴族院事務局速記課員、同議事課長等を歴勤す。

然して大正十五年七月貴族院書記官長に榮進し以て現在に及べるものにして尙ほ曩に文官普通試験委員、文官普通懲戒委員たりしことあり。

夫人を高子と呼び東京府の人田村謹壽氏の令妹にして東京女子高等師範學校を卒業し、君との間に正孝君、照正君等あり、現に東京府荏原郡品川町北品川宿一本木三四四番地に本邸を有し貴族院内官邸に住す。

中西 伸 次君

再製煉糖(株)監査役
日本香料藥品(株)監査役

君は福岡縣の輩出せる逸物、明治廿六年二月九日を以て同縣田川郡探銅所村に於て生誕し該地に成育す、故中西利平氏を嚴父と爲し其の四男に生る。

夙に下關商業學校に入り學窓に勉勵、同四十四年拔群の成績を以て同校を卒業するや直ちに笈を負ふて東上し、苦學力行具さに辛酸を萬喫す、偶々故伯爵後藤新平氏、實業家増田次郎氏等の知遇を得しが、同四十五年南滿洲鐵道株式會社に入社して身を實業界に挺するの第一歩を投せり、然して大正二年同社を退き神戸鈴木商店に轉じ克く穎才を發揮して大いに敏腕を謳はるゝに至れり、同七年獨立の機運に會し之れを辭するや直ちに中西伸次商店を創設、以て滿洲並に印度方面の貿易業に従事せしも同十年財界の變動に依り斯業を廢止せり。

尋いで翌十一年鮮水汽船株式會社の創立と共に入りて同社常務取締役役に就任せしも同十二年之れを退きて閑地にありしが、衆議院議員松野鶴平氏と特殊の知遇を享け、爾來、前掲各會社の樞機に關與し現に其の任に在り。

君は前途大いに春秋に富む年齒の壯、加ふるに才腕縦横に潑瀾の意氣を以て財

界に伸展せんとす、其の將來や極めて多事多端なりと謂ふべし。

居常已定人統、萬事三考、眞劍勇猛、超俗人權々旗幟となし又「強くして」克く「耐え忍ぶ」を以て處世上の主義方針となせり、蓋し君が性格の堅固なるを窺知するに足らん乎。

趣味廣汎なるも就中、謠曲を嗜み又參禪を以て快しとなせり。

家庭には條子夫人あり、愛知縣の人故坪井銀次郎氏の長女にして養嗣子脩郎君(慶應普通部在學中)及び長女八重子を擁して一家の和氣極めて掬すべきものあり現に東京府荏原郡神奈川郡文谷一五六八番地に居住す。電話荏原一一四二番

永山 武 敏君

從三位勳三等功五級
男爵 豫備陸軍歩兵大佐

當家は先代武四郎氏より其の家名を揚げし舊家なり、同君は舊鹿兒島藩士にして、故男爵永山盛輝氏の令弟たり。

明治四年陸軍大尉に任じ累進して同二十九年陸軍中將に陞進す、其の間開拓使出仕、開拓少書記官、屯田兵事務局長、開拓大書記官、屯田兵本部長、北海道廳長官、屯田兵司令官等を歴任、日清の役には第七師團司令官として出征、同二十八年勳功により特旨を以て華族に列し男爵を授けらる。

君は實に其の長男にして、明治四年九月を以て生れ同三十七年襲爵す、同二十八年陸軍歩兵少尉に任官、累進して大正六年歩兵大佐に陞り、同七年貴族院議員に擧げられしも現に閑地にありて悠々たり。

現に東京府豊多摩郡下遊谷一三五番地に住す。

永田 良吉君

從七位 衆議院議員
鹿兒島縣養蠶組合長

星霜此處に二十有余年、一身一家を顧みず全資財を湯盡して裸一貫となるも尙

ほ且つ苦節を守り正論を主張し、常に機性的精神を把持して國家民衆の爲め將又地方自治制の爲め努力貢献するを政客永田良吉君となす。

君は鹿兒島縣の人永田助三郎氏の三男にして、明治十九年九月十四日を以て同縣大隅郡大始良村に生る。

夙に加治木中學を卒ふるや年齒僅かに二十六才にして村會に參劃し、三十才にして村長に推され、任にあること四ヶ年熱と力とを以て村治に盡瘁し、大正七年には郷黨の信望を得て縣會議員に選ばれ前後九ヶ年間縣制に貢献すること甚大なり。

斯くて昭和三年二月日本政黨史上特筆すべき普選第一回の總選舉には大隅郡より推されて馬を陣頭に進め幾多猛者と闘つて遂に當選の榮譽を擔ひ、今や日比谷政壇に獨特の論陣を張り、院の内外に令名あり。

惟ふに君の二大主義たる蠶絲業の振展航空文化の開發は年と共に實を結び、而

して大正八年我が國防の見地より大隅半島の一角笠野原に飛行機航空場の創設を見、尙ほ氏の三大懸案たる大隅半島の開發として鐵道の敷設、肝屬川治水工事、航空隊の設置の中第一の國有鐵道は近く古江、志布志間二十九哩の完成を見るに至る等氏の同縣の爲めに貢献すること甚大ならん哉。

氏は曰く「政治は聖愛に基く強き精神を以て進まずんば到底善政を施く能はず」宜なる哉氏の政治的信念は必ずや將來に大成を見る又期して待つべきなり。

現に鹿兒島縣大隅郡大始良村に住す。

中村庸一郎君

櫻子株式會社常務取締役

君は東京府の人中村時中氏の長男にして、明治廿九年五月廿日を以て千葉縣安房郡瀧田村に孤々の聲を擧ぐ。

大正五年專修大學經濟科を優秀の成績を以て卒業するや、實業家荒井泰治氏の秘書役となり、後ち荒井合名會社に入り

しも、大正九年南滿洲製糖株式會社東京出張所長に就任、更に昭和二年櫻子株式會社常務取締役に聘せられ現に其の要職にありて新進實業家の名も高し。

中山 政吉君

土木建築設計施工業製材加工業
中山組經營者

當家は先々代中山松五郎氏安政年間新潟より江戸に出で大工職を始めしに始まる舊家たり。

君は其の養子喜市氏の長男にして、明治二十一年二月十四日を以て麻布區に生誕す、明治四十二年立教中學を経て工手學校建築科を卒業するや東京市役所營繕課に勤務せしも、大正三年辭して以來、竹中工務店、米國貿易會社鐵筋部、ホーコンバンニー建築部等を歴勤す。

布區西町四番地に住し、事務所を日本橋區蠣殼町一ノ四番地に有す。電話茅場町二五八四番

中西嘉三郎君

中西商會主

東都財界に於ける紳士紳商として土木建築界に幾多の信用をあつめて前途益々多望なるを我が中西商會主中西嘉三郎君となす。

君は大阪市の出身にして、明治八年一月を以て同市東區に生る、夙に京都美術學校を卒業するや直ちに日本アスファルト株式會社に入社し、漸次累進して同社大阪支店長の要職を占め、後ち同社が寶田石油株式會社と合併するに及んで同社東京支社長として君が敏腕を振ひ同社に貢献すること甚大なりき。

然して大正八年獨立の機運熟するや同社を圓滿辭して獨力にて中西商會を興し土木建築材料特にアスファルト、フェルト木煉瓦及び防水材料等の製作販賣に従

事して鋭意奮闘これ怠たらざりしかば業勢逐次加はり、今や東都業界は勿論遠く東北、關西までも其の勢力を波及し斯界に聲望噴々たり。

君亦「蘆汀」と號して漢詩並に俳句を能くし且つ又書畫、園藝等に趣味を有するを見て如何に其の人と爲りの高潔にして其の事業の誠實なるかを窺ふに足るべし。

夫人を多喜子と呼び滋賀縣の舊家野玉錫吉氏の二女にして又内助の聞え高し、現に東京市牛込區市ヶ谷長延寺町六番地に住し、電話牛込三八一七番たり。

中山千太郎君

勳八等 落語家 柳亭左樂
東京落語協會頭取

本邦落語界の恩人として重きをなす君は年齒僅かに二十才の頃より斯界に志を立て、明治二十七八年日清の役には征途に就き軍功あり。

後ち四代目左樂（本名福田太郎吉）に

師事して研鑽すること多年、更に柳家勢太郎に師事すること數年、柳家春樂に師事すること六七年、愈々二代目柳家坂太郎と改稱して雷名を鳴らし、明治三十七八年日露の役勃發するや再び征途に上り遠く滿洲の野に轉戦して戦功を立て、當時二代目芝樂として鳴らせしも更に騎江亭と改稱、現に五代目柳亭左樂として斯界に令名あり。

現代議士伊藤痴遊氏とは親分子分の間柄にて君が今日斯界の御大として勢力を波及せしは一つに以て伊藤氏の後援に外ならずといふ。

趣味に書畫、骨董あり、又讀書を能くするが如し。
現に東京市本郷區湯島一ノ十二番地に住す。電話下谷二一〇七番

根岸鉄太郎君

勳八等 表具師
東京府表具組合長（登録商標都表具）

當家は代々平戸の城主松浦侯の士籍に

民衆の僑鑑と仰がれし人物、同村役場に名譽職を勤めて村治に貢献すること甚大なりき。

君又嚴父の遺志を繼ぎて夙に郷里の中学校を卒業すると共に村役場に奉職すること十余年なりしも、期するところありて上京、然して大正十二年十一月獨力以て中田商會自動車部を興し、至誠奮闘以て斯業の發展に盡瘁せしかば業勢頓に舉り、今や使用車數實に十余臺に達し東都業界に覇を競ふ、蓋し君の人格と奮闘の賜と謂ふべし。

現に前記の諸職にある外志を公共の爲めに抱き常に同僚間に其の信望絶大なり現に東京市芝區金杉町三ノ二十一番地に住す。電話芝二八七七番

内藤義清君

株式會社朝日タクシー專務取締役
城北乗合自動車專務理事

君は甲州武田家の重臣内藤正豊氏の一門にして、山梨縣の人内藤義禮氏の二男に當り、明治二十七年七月十一日を以て

列せし舊家を以て知らる。

初世半兵衛敬勝氏に至り糊細工を嗜み漸次製品の巧妙を極めしかば公許を得て表具師となり、天明三年江戸は淺草猿屋町に斯業を開設するや名聲頓に舉り、松浦家を始めとして水戸家、土屋家其他幾多の諸名家に出入し、遂に江戸城本丸の御用命を拜するに至れり。

然して松浦侯平戸城に赴くや氏も又其の隨伴の榮を賜はりしかば彼の地に於て專心斯業及び斯技の發展に盡瘁すると共に幾多の弟子を養成せり。

斯くて第四世安藏氏に至り東京に居を移し、日本橋區杉ノ森に斯業を開設してより家運日に月に隆盛に赴き、正に本邦斯界の泰斗を以て目ざるゝに至れり。

君は其の長男にして、明治四年六月十四日を以て生れ、後ち第五世を繼ぎて業勢を高め、明治三十七年歐米各國を巡遊し、米國に在ること五ヶ年、佛獨英白に留まること二ヶ年有餘、普ねく彼の地の美術並に洋館の塗貼等を視察研究して全

生誕す。

夙に横濱福音英語學校を卒業後兵役の關係上歸省す、偶々陸軍自動車學校の前身たる陸軍自動車試験班に入り、第一期卒業生としてシベリヤに出征し、兵站部第二自動車隊附として功あり、勳八等に叙せらる。

然して大正十三年株式會社朝日タクシーを創立して同社專務取締役に任じ、大正十五年城北乗合自動車組合を設立して專務理事に、昭和三年十一月京北乗合自動車組合を設立して其の組合長に就任す是より先、斯界に造詣深き君は東京自動車業組合の理事評議員又は常務理事として斯界の爲め盡瘁すること甚大、尙ほ全國自動車聯合會評議員にして、年齒三十有餘にして斯界幾多の要職にある君の前途や多事多望、今や東都同業界に重きをなす。

夫人くらは子は東京府の人川井茂三郎氏の長女にして實踐高女の出身たり、現に埼玉縣浦和町鹿島臺一九九〇番地に住す

四十一年歸朝するや本邦表装の技術一日も舊態に安んずるを許さずとなし、奮然起つて其の改善を高調し、先づ表装競技大會を開催し、次いで獨力にて研究展覽會を起して東奔西走、能く斯界の進展隆昌に勉めたり。

斯くて井上東京府知事に建言して東京高等工業學校に表装科を設置せしめしが當局の經費續かず二ヶ年余にして廢止せられしかば更に東京美術學校に表装科設置の議を當局及び世の識者に唱導する等君が斯界に盡瘁すること甚大、今や本邦斯界の先覺者として名望噴々たり。

現に日本橋區蠣殻町二ノ一番地に住す

中田登之君

中田商會自動車部主
東京自動車組合評議員

君は千葉縣の人中田富可之呂氏の長男にして、明治二十六年七月廿四日を以て同縣長生郡に生る。

嚴父は同地に於ける名望家にして常に

電話浦和四四八番 事務所を東京市本郷區駒込神明町二〇三番地に有す。電話小石川五〇九一番一四〇一番

中江 要助君

常務副火災保險部長

君は京都府の人中江忠助氏の長男にして、明治十四年四月二日を以て京都に生る。

夙に學業を卒ふるや明治四十五年關東應に職を奉じ大正七年辭して實業界に投じ、株式會社常務商會に入社して同社經理課長に就任す。

斯くて大正九年保險部主事となり同年榮進して保險部次長となり大いに敏腕を振ひしかば信望内外に舉り、能く同部長を輔佐し以て保險部の隆昌を計り、而して昭和三年十一月遂に同部長の椅子を贏ら得、今や社の内外に令名あり。

夫人をなつ子と呼び其の間に純詮君、尙平君及び温子、美知子等あり、現に東京市外澁谷町松濤五番地に住す。

中川 十一郎君

辯護士 特許辨理士

各商會社法律顧問

我が法曹界の重鎮中川十一郎君は東京府士族中川八三郎氏の二男にして、明治二十一年七月二十八日を以て生る。

大正三年日本大學法科を卒業するや直ちに辯護士登用試験に應じて日比谷登龍門に幾多天下の奇才を打ち破つて見事登第の榮譽を擔ひ一躍法曹界に令名を謳はるゝに至る。

斯くて東都法曹界に投じ、獨力中川法律事務所を開設して以來民事を専門に君が卓抜なる才幹を縦横に振ひ、今や社會の信望最も厚く株式會社平野商店及び千代田土地建物株式會社等其の他幾多銀行會社商店の法律顧問として知られ前途益々多事多望なり。

君尙は東京辯護士會常議員、日本辯護士協會理事等を兼ね且つ赤坂區溜池青年團評議員會議長及び同區溜池青年團長たり。

夫人をふさ子と呼び其の間に一男一女ありて卓君及び秀子と呼ぶ、現に東京市赤坂區溜池町二番地に住し、電話青山四一〇一番たり。

長 滿 欽司君

正四位勳三等

東京株式取引所常務理事

君は廣島縣の人長滿發朗氏の長男にして、明治十三年八月廿九日を以て生る。

明治三十九年東京帝國大學法科大學を卒業するや翌年文官高等試験に登第直ちに職を官途に奉じ、農商務省に入り、附來、特許局審査官兼農商務書記官、礦山監督局事務官、臨時産業調査局事務官兼參事官、商務局監理課長、食糧局長等を歴任す。

斯くて大正十年農商務省農務局長に擧げられ、越えて大正十三年十二月官途を勇退し、現時前掲の外取引所商議員、日本放送協會理事、産業組合中央會顧問、大日本畜産會參事、日本大學、法政大學

各講師として知らる。

夫人義子は熊本縣士族岩男三郎氏の三女にして宮崎高等女學校の出身たり、現に東京市外大久保町西大久保四一〇番地に住す。電話四谷五三一二番

長 井 長 義君

正三位勳一等 理學博士

藥學博士 東京帝國大學名譽教授

我が學界の恩人長井長義君は舊徳島藩士長井琳章氏の長男にして、弘化二年六月を以て生る。

夙に普國及佛國に留學し研鑽を積みて歸朝後句讀師小察長心得、東京帝國大學醫科大學教授等を歴任、幾多學徒の薰陶に盡瘁すること甚大なり。

斯くて帝國學士院會員仰せ付けられ明治二十一年には理學博士の學位を授けられ、後ち更に藥學博士の學位を授與せらる、現に前掲の外帝國學士院會員、中央衛生會委員たり。

君に二男あり、法學士亞歷山君、理學

士維理君何れも新進の聞えあり、現に東京市外澁谷町金王十三番地に住す。電話青山二六一番

長 島 新 藏君

桂公爵家職

君は埼玉縣の人長島文吉氏の令弟にして、明治六年五月二十二日を以て同縣北葛飾郡吉田村に生る。

夙に埼玉縣立柏壁中學校を卒ふるや直ちに上京して桂家に勤め、爾來、勤績實に四十五年、能く同家の繁榮に力を致せしかば同家の信任殊に厚く、且つ東京府知事より賞狀を贈らるると共に木盃一組を下賜せらるゝの榮に浴す。

君や資性温厚にして學徳高く、時代を見るの慧眼を有し、社會を談じ、能く公益事業に理解あると同時に自ら之に參劃するの士、宜なる哉桂家の家職として重職を完うす、蓋し君の人徳の然らしむるところと謂ふべし。

夫人蝶子は東京府の人安田孫三郎氏の

長 井 亞 歷 山 君

正八位 在郷陸軍三等主計

獨逸大使館商務書記官

君は本邦學界の恩人理學博士藥學博士

長井長義氏の長男にして、明治二十年一月を以て生る。

大正二年七月東京帝國大學法科大學を卒業するや直ちに官途に職を奉じ、大正六年辭して久原鑛業株式會社に入社し、同社商事部、外國部等を歴勤、曾つては國際興農社々長たりしことあり。

然して後ち再び官途に就き、現に獨逸大使館商務書記官にして、昭和二年四月瑞西國ジュネーブに於て開催せられたる國際經濟會議委員隨員仰せ付けらる。

農村文化事業に趣味を有しローマンカトリック教の信徒たり。

夫人多計代子は男爵目賀田綱美氏の令妹たり。

成富信夫君

法學士 辯護士

現時法學博士鶴澤總明氏の事務所に在りて主として民事の法曹事務に當る吾が成富信夫君は、佐賀縣の産、明治二十八年八月二十三日を以て同縣神埼郡蓮池村

に於て出生、嚴父を故成富信敬氏となし其の長子に當る。

君は幼少既に凡庸と異なるありて逸足克く神童の譽れあり、夙に郷校に學び、後ち嚴父の校長たりし和歌山中學校に入學大正三年之れを出するや、第一高等學校を経て東京帝國大學法科大學に入學し、同九年優秀の成績を以て同大學獨法科を卒業せり。

斯くて直ちに官途に就き、農商務省に奉職せしが同十三年官を辭して辯護士となり現に其の職に在りて穎才益々令名を高むるに至れり。

君は夙に參禪して松島瑞巖寺の松原盤龍師に師事し、開悟解脫に精進すと、宜なる哉其の人物たるや性寔に卓落、恰も禪定の妙機を得たるが如し。

家庭には千恵子夫人あり、鶴澤總明氏の二女にして双葉高等女學校出身の佳人其の間に安信君、順子、禮子ありて和氣頗る霽々たり、現に東京市外千駄ヶ町千駄ヶ谷五六二番地に住す。電話青山六七

七邊格太郎君

三井物産(株)文書課兼秘書

君は岡山縣の人故七邊長右衛門氏の長男にして明治元年二月十三日を以て生る明治二十六年中央大學法科を卒業し、超えて同二十九年橫濱地方裁判所書記に任じ尋いで司法省屬となり、其の間明治三十六年東京外國語學校を卒業し同四十年一月官途を辭して實業界に投じ、三井鑛山株式會社に入社、大正二年二月三井物産株式會社に轉じ同社文書課に轉勤以て現在に及ぶ。

趣味に圍碁あり、謠曲に至つては其の道の通人ごまで評せらる。

夫人幸子は愛知縣士族天野晋橋氏の二女にして其の間に正夫君あり、中大法科の出身、正八位三等主計にして三井銀行營業部在勤中なり。

現に東京市外杉並町大字天沼七九七番地に住す。

永田成美君

昭和出版社々長

中外商業新報社(株)取締役

君は福岡縣の産にして明治六年九月十一日を以て出生、嚴父は舊久留米藩士故陸軍歩兵少尉永田磐之助氏たり。

幼時既に穎悟にして神童の聞えあり、夙に郷校を出で後ち笈を東都に負ひ、慶應義塾に入りて學窓に黽勉刻苦、同廿八年之れを卒業するや操觚界に挺身し、中外商業新報社に入社して縦横の靈筆を揮つて雷名を馳す。

然して同四十年同社を辭去し三越呉服店に轉じ庶務課長たりしが、尋いで日本瓦斯株式會社理事、帝國新報主筆等に歴勤するところあり。

斯くて大正元年再び中外商業新報社に復歸し營業部長に就任、同九年同社取締役に擧げられ營業部、廣告部主幹理事たり、次いで總務部長となりしが、昭和三年昭和出版社を創設し勿々にして「伊藤公全集全參冊」の刊行に着手し廣く内外

中村金太郎君

樺太鐵道(株)監査役

富士製紙(株)倉庫部長

君は東京府の人中村源六氏の長男にして、明治五年二月二十七日を以て生れ、同二十三年九月家督を相續す。

夙に學業を卒ふるや東都實業界に投じ明治三十年以來富士製紙株式會社の發展に貢献すること甚大、現に同社倉庫部長として内外に重きをなすのみならず樺太

鐵道株式會社監査役として知らる。

現に東京市京橋區築地一ノ七番地に住す。電話京橋五七七二番

長野英造君

樺東硝子工業所經營者

電球用の硝子製造業者として斯界に活躍して以來、擴張に亞ぐに擴張を以てし日を逐つて異數の伸展を爲しつゝある吾が長野英造君は、愛媛縣の産にして明治二十三年三月を以て同縣今治市に孤々の聲を擧ぐ。

夙に工業界に志を抱き、今治中學校を卒ふるや笈を負ふて上京、東京工業大學の前身東京高等工業學校に入學し、大正二年同校窯業科を卒業するや直ちに東京電氣株式會社に入社、同社硝子課に勤務せり、然して同六年之れを辭し、後ち南滿洲鐵道株式會社に轉じ、同社中央試験所に在ること二ヶ年、大正八年同社を退きて獨力極東硝子工業所を現地に創設せり。

斯くて専ら同所の經營に傾倒し、逐次業績を擧げ第一工場を市外大崎町桐ヶ谷六二八に、第二工場を同町谷山六二〇番地に設置し、隆々實に旭日昇天の勢ひを以て斯界に君臨するに到れり。

君の事業上のモットーに曰く「廉價、迅速、優良」と、業務の殷盛を招來せる根幹實に茲に在り、君は現に四百名の職工の間に伍し、孜孜乎として製品の向上發達に出精して余念なし、今後の發展洵に刮目に價せん。

君に趣味として觀世流謠曲あり、亦旅行を好む、家庭には兎喜子夫人との間に正敏君ありて一家團樂たり、現に東京市外大崎町桐ヶ谷六二八番地に住す。電話高輪四〇八九番

鳴海文四郎君

鳴海共立株式會社社長
弘前無盡株式會社社長
衆議院議員
地方財界の巨頭にして、且つ又中央政

界の異彩我が鳴海文四郎君は青森縣南津輕郡黒石町に於て明治十一年十月一日を以て孤々の聲を擧ぐ。

夙に本邦實業界に投じて活躍大いに努め、現に前記諸會社に社長として雷名あるのみならず、曾つては町會、郡會、縣會等に議員として地方自治制に盡瘁すること甚大なりき。

然して昭和三年二月大日本政黨史上特筆すべき普選第一回の總選舉に際し青森縣第二區より立候補、馬を陣頭に進めしかば、多數縣民の輿望を擔つて見事當選今や中央政壇に知らる。

趣味に和歌、謠曲あり、夫人をたき子と呼び其の間に敬夫君、英夫君及びみき子、つね子、せき子、りよ子、けん子等あり、現に青森縣南津輕町黒石町に住す

中川清君

正八位勳六等 工兵少將
東京電燈(株)南部營業所長
君は山梨縣の人中川亨氏の長男にして

明治十四年一月八日を以て生る。

明治三十五年東京工業大學の前身たる東京高等工業學校電氣科を卒業するや直ちに甲府電力株式會社に入社し同技師として敏腕を振ひしもたま／＼明治三十七年日露兩國の平和破れて戰亂勃發するや君又第一師團工兵一大隊附工兵少尉として滿洲の野に轉戦功あり。

斯くて平和克復後再び實業界に投じ、爾來、古河鑛業、足尾銅山、日光電氣、製銅發電所、細尾發電所各主任技師を歴勤、後ち猪苗代水力電氣株式會社に轉じ同社第一、第二發電所の竣工に盡瘁して其の完成を見、更に郡山電力株式會社常務取締役として敏腕を振ひしのみならず只見川水電技師長として優秀の技術を發揮し、昭和二年東京電燈株式會社の聘に應じて入社、現に同社南部營業所長として知らる、尙ほ東邦無線電信株式會社長及び大同電氣株式會社監査役たり。

趣味に富み、寫眞藝術に長じ、自強術によつて身心の鍛練に努むるといふ、社

交にありても人にまけず即ち電氣俱樂部電氣協會、電氣學會、各會員たり。

夫人を総子と呼び其間に多保子、菊夫子等あり、現に東京市外大井町一本松二二四五番地に住す。電話高輪六四〇二番

鍋島直映君

侯爵 正三位 東京府多額納稅者
貴族院議員

當家は藤原鎌足の裔鍋島茂昌氏の子加賀守直茂氏の後たり、直茂氏徳川家康に屬し佐賀三十五萬石を領し、夫より十一代直正氏大政奉還に盡瘁す。

然して先代直大氏は直正氏の二男にして、夙に英國に留學し、歸朝後佐賀藩知事、外務省御用掛、伊國駐劄特命全權公使、元老院議長、式部長官、式部長等を歴任し明治十七年特旨を以て華族に列侯爵を授けらる。

君は其の長男にして明治五年七月十七日を以て生れ、大正十年家督を相續し襲爵仰せ付けらる。

夙に學習院を卒業するや英國に留學し現時は貴族院議員として、議政府に列し國政に參劃して功あり、曩に佐賀縣佐賀市道路開墾費並に屠場敷地買收費として多額の寄附をなし、更に佐賀市公園地として廣大なる土地並に建物とを寄附する等佐賀藩の爲め貢献すること甚大、昭和二年表彰せらる。

尙大正十四年四月白國皇帝陛下より「グランオフィツシヨークローヌ」勳章を受領し其の佩用を允許せらる。

農園の實際並に其の學理的研究に趣味を有すといふ。
夫人禎子は伯爵黒田長政氏の令妹にして、其の間に直泰君あり、尙ほ令姉朗子は侯爵前田利爲先代利嗣氏に、令妹伊都子は梨本宮守正王に、全信子は駐英大使松平恒雄氏に、全尙子は伯爵柳澤保惠養子保承氏に、全俊子は伯爵松平賴壽氏令弟胖氏に各嫁し、令弟直繩氏は故子爵鍋島直樹氏に、全信孝氏は故子爵南部信方氏に各養子となる。

中倉專一郎君

合資會社東京青寫眞工業株式會社代表社員

君は長崎縣の人中倉榮一郎氏の長男として、明治二十二年七月二十一日を以つて長崎縣北松浦郡世知原村に於て生る。祖父孝次郎氏は代議士として九州に於ける元老株たりき。

夙に縣立平戸中學猶興館を終て、明治四十五年仙台高等工業學校土木工業科を卒業するや、直に内務省東京土木出張所に奉職す。

斯くて後農商務省海外實業練習生として、米國に渡航し、シカゴ市に於て鐵筋コンクリートの研究並に視察をなし、大正九年九月シカゴ市を立ちて、歐洲諸國を漫遊す。

大正十年五月歸朝するや、中倉工務所を創立し其の所長たりしも、大正十一年東京青寫眞工業株式會社を創立し取締役

社長に就任す。

然るに彼の大正十二年の大震災の爲氏の苦心創立になる會社も遂に解散し、全時に合資會社東京青寫眞工業社を創立し其の代表社員に就任し現時に至る。

君又大正十二年平和住宅組合を創立し現に理事總代たり。

趣味として將棋、圍碁等を好くする傍ら狩獵は又君の最も得意とする男性的趣味の一つと云ふ。

夫人をしく子と呼び佐世保成徳女學校の出身にして、君との間に太郎君、文子純孝君の二男一女あり。

現に芝區西久保櫻川町二番地に住し、電話芝三一五六番たり。

中川登代吉君

正六位勳五等

東京鐵道局新橋運輸事務所長

君は故中川彌右衛門氏の二男として、明治十四年二月十三日を以つて金澤市に生る。

夙に郷校を卒業するや、一驛員として、金澤驛に勤務し、後雇員試験に合格して改札口掛となる。

爾來車掌、貨物掛、助役等を経て、明治三十九年鐵道作業局運輸部調査掛となり、全四十年判任官に任じ、帝國鐵道局運輸部旅客課に勤務す。

大正八年十二月高等官に榮任し鐵道院參事補、全九年五月官制改正に依り鐵道省事務官、全十一年支那に出張す。

然して全十二年米國に留學を命ぜられ其の間歐州各國を視察巡遊して歸朝し全十四年ロンドンに於て、萬國鐵道會議開催せらるゝや委員として參列す。

昭和二年三月鐵道局參事東京鐵道局運輸掛長となり、昭和三年八月新橋運輸事務所長に就任し現時に至る。

實に立志傳中の人にして、一驛員より刻苦勳勵今日の地位を得たる、苦心察するに余りあり。就中多忙なる奉職の傍ら明治大學に通ひ同學を卒業したる實に吾等の敬服する處也。

夫人を靜子と呼び、神戸高等女學校の出身にして、君との間に、登志代君、登雄君、靜代子、吉雄君、登君の四男一女あり。

現に芝區芝公園鐵道官舎に住し、電話芝二六七六番なり。

中村芳治君

毛利公爵家々令

圓滿無礙にして清廉謹直は蓋し中村芳治君の人格を髣髴し得る好文字也。多年毛利公爵家に仕へて其の家政の運用に與り老來益々鏗鏘として尙ほ孜孜之に盡瘁する君は、安政六年十二月十一日を以つて山口縣佐波郡和田村宇高瀬村に生る、嚴父は故中村權六氏にして毛利藩の帷幕に參じて特功ありし人、君は其の嫡男にして夙に藩費に學を修む、癡藩置縣となりて後ち官途に志し明治十六年九月山口縣屬となりしが爾來陞進して會計課長、土木課長に歷仕す、同三十四年感ずるところありて實業界に轉向し當初北海道鐵

中野貫一君

勳四等 日本石油(株)取締役

中野興業(株)社長

君は新潟縣の人中野治郎左衛門氏の長男にして弘化四年九月を以て生る。

夙に朝日實學館に學び後實業界に投じ現に前記の外中央石油株式會社々長にして且つ新潟水力電氣株式會社の監査役たり、本邦實業界の元老として知らるゝのみか曩には衆議院議員に擧げられ中央政界に活躍して功あり特に勳四等に敘せらる。

現に新潟縣中蒲原郡金津村に住す。

中村幸之助君

正四位勳三等 工學博士

東京工業大學々長 東京工業專修學校長

君は宮城縣の人中村寛次郎氏の二男にして、明治五年六月を以つて誕生し、大正七年分家して一家を創立す。

明治三十一年東京帝國大學工科大学電氣工學科を卒業し、更に大学院に學び明

山株式會社に入社して同社事務部長たりしが、同三十六年七月之れを辭し直ちに毛利家に入りて財産部員となり傍ら第十銀行取締役に推さるゝ、又同三十八年六月函館辨天倉庫株式會社取締役に擧げらる。

斯くて同四十三年二月毛利公爵家財産副主管となり、其翌年七月同家理事に任せられ財務部長を兼務するところあり、然して後ち金田鑛業株式會社取締役たりしが次いで兼職を辭し同家々令として恪勤忠を抽んで今日に到れり。

君は人となり概ね前述の如し、玲瓏玉の如き紳士にして慈父の如き温顔は一見直ちに舊知の懐しさを感せしむ。

君は書畫、圍碁、謠曲に興味を有し、家庭にはマ子夫人あり、大谷敏行氏の令姉にして温淑なる典型的の婦人、其間に養嗣子隆一君あり、帝大法科出身の秀才にして現時戸畑鑄物株式會社に勤務す現住所は東京市芝區高輪南町二十七番地(電話高輪一七二番)なり。

治三十二年東京高等工業學校教授に任じ翌三十三年電氣學研究の爲め獨瑞英米各國に留學を命ぜらる。

歸朝後特許局審査官を兼ね大正三年再度歐米各國に出張し同八年工學博士の學位を受く同十一年特許局技師を兼ね同十五年同校々長に昇任し昭和四年四月同校昇格して東京工業大學となるや其の學長に榮任以て現在に及ぶ。

夫人ハマ子は東京府の人田澤萬太郎氏の二女にして、其の間に彌太郎君、小彌太君、英紹君及びミツ子、芳子、八重子、英子等あり。

現に東京市本郷區駒込林町二二六番地に住し電話小石川四〇七六番たり。

永井直邦君

子爵正五位 文學士
臨時帝室編修局編修官補

當家は永井右近大夫直勝の二男、日向守直情氏の後たり、直情氏は大阪の役に軍功あり、後ち嚴父の所領を分ち別に一家を成し、慶安二年攝津國高槻三萬石に封せらる。

夫より十世を経て先代直諒氏に至る。氏は夙に宮中祇候賢所勤番等仰せ付けられ、明治十七年特旨を以て華族に列し子爵を授けらる。

君實は子爵戸田康保氏の令弟にして、明治二十九年一月を以つて生れ大正二年直諒氏の養嗣子となり前名邦光を改め、大正八年家督を相續し襲爵仰せ付けらる。夙に學習院を経て大正十年帝國大學文學部國文科を卒業するや、直に文部省に出仕し、後ち宮内省に轉じ現に臨時帝室編修局編修官補たり。

君は華胄界のみならず、社會的にもスポーツマンとして令名あり、現に庭球に

中村喜七君

中村グラニット商會主

抑々人生は奮闘にあり、奮闘なくして成功あるべからず。斯くて華々しき成功の曉、顧みて過去を疑視する時、奮闘の裏面に泪ぐましき涙史なくしてなんぞ。

吾が中村喜七氏が、中村グラニット商會主として、錚々の聲名を馳せ、今日の地位を獲得せしは、是れ全く血と泪の結晶、奮闘の賜と云はざるべからず。

君は岩手縣の人故中村喜助氏の三男として孤々の聲をあげ、長するに及び獨學好く務め、斯くて大正四年大阪に出で、大阪工科大学夜學部に學ぶ、然るに感ずる處あり、斷然夜學部を退きて、室内裝飾業を營む。然るに英邁なる君は人造石材の改良を思ひ立ち研鑽好く務めて、遂に眞石材より以上の人造石材の優良品の製造に成功し、全九年專賣特許權を獲得せり。

茲に於て哉多年の苦心は報ひられ、自ら中村グラニット商會を創立し、改良石

永原伸雄君

三菱造船(株)監査役

君は岡山縣士族永原玄古氏の二男にして、明治五年五月を以つて生る。明治二十五年東京商科大学の前身たる東京高等商業學校を卒業し、現に前記の外三菱内燃機、三菱電氣各株式會社の重役たり。

現に東京市小石川區駕籠町二一八番地に住す、電話小石川一〇〇九番

於ては君の指導を受けて一流の名テイクーマンとして斯界に重きを成す者數多く、大日本体育協會、大日本ホッケー協會々長として、斯道の發展に盡力する傍ら、劇の研究に專念「近松門左衛門」に關する劇の研究論文等あり。

艶子夫人は女子學習院の出身にして、公爵三條公輝氏の令姪、其の間に直英君直俊君、光子あり。
現に市外濫谷町金王一番地に住し、電話青山二九四一番なり。

永井茂彌君

三省堂(株)支配人

君は東京府の人永井正義氏の三男にして、明治二十四年十一月三十日を以つて生る。

夙に第一高等學校を経て大正五年七月東京帝國大學法科大學政治科を卒業し、同年八月帝國製麻株式會社に入社せしも同十一年十一月三省堂支配人に轉じ以つて現在に及ぶ。

趣味に野球、園芸あり、謠曲に至つては通人の通とか承はる。
夫人三枝子は東京府の人平岡佳吉氏の二女にして青山女子學院の出身、其の間に都士子あり。現に東京市外東大久保四七七番地に住す。

中村利三郎君

日本棉花(株)取締役
大阪ゴム同業組合長

君は北海道の人中村與四郎氏の令弟にして、安政六年四月十日を以て生る。

夙に實業界に投じ、現に前記の外日本物産、大阪造酢各株式會社の重役たり。現に大阪市東區平野町二ノ九番地に住す。電話本局九七六番

永井就一君

東部電力株式會社技師長

素と技術家なりと雖も情味寔に豊かにして極めて人間的なる好箇の紳士、吾が永井就一君は明治二十二年九月二十四日を以て福井縣遠敷郡西津村福谷に生誕す。先考芳太郎氏の嫡男に當り小學校を卒へるや京都第一中學校に入學し後ち第三高等學校を経て京都帝國大學工科大学に入り電氣科を專攻、孜孜學窓に研究維れ努力めり、斯くて大正五年同大學を卒ゆるや同年直ちに雲電氣株式會社に入社し同

材の製造販賣に従事す。其の耐久力の強き事、眞石材以上にして、火力に對する又驚くべき程にして、全年再び特許權を得、越えて十五年更に改良石材品の特許販賣權を獲得す。

斯くて東京市芝區月見町二ノ四番地に工場並に支店を設けて、東西大都市相呼應して今や堂々營業をなし前途多望なり。君未だ齡三十有余、然るに成功に至る今日まで、君の事業に資本家の資力をまたずして、獨立獨歩、實に世人の範として足る處、今後世に出でんとする、青年後輩の好教訓にして龜鑑たり。

曾つて東京會館に於て、早稻田大學教授の君による研究の紹介發表は、斯界に一大センセーションを卷起し、實業家の耳をして立たしめたる一事は、吾人の未だに記憶に新なる處、目下米國特許出願中と云ふ。

趣味としては撞球を好くし、大阪上町俱樂部、大ビル俱樂部會員たり。本店を大阪市西淀川區娘島町一七番地に有し

七年之を辞し茨城電力株式會社に轉じ同社技師長たりしが同十四年郡山電氣株式會社と合併成りて東部電力株式會社となるや、引續き同社技師長の任に在り、恪勤精勵以て今日に到れり。

君は一般スポーツに興味を有し家庭には須磨子夫人あり、京都の人菅谷太郎氏の長女にして京都第二高等女學校出身の麗人、琴瑟相和し霽然たる一家を成す。

現住所は東京市外千駄ヶ谷町穩田、青山アパートメント三号の三四（電話青山三〇五四番）たり。

中野正剛君

正五位 衆議院議員
逓信政務次官

君は東京府士族中野泰次郎氏の長男にして、明治十九年二月を以て生る。夙に早稻田大學政治經濟科を卒業するや東京朝日新聞に入り、記者として名聲を博し大正九年以來衆議院議員に選ばれ、大藏參與に任せられ更に昭和四年濱口内閣の

逓信政務次官に任じ以て現在に及ぶ。夫人たみ子は文學博士三宅雄二郎氏の長女にして其の間に克明君、雅志君、達彦君、泰雄君等あり。現に東京市外原宿一九八番地に住す。電話青山六三六番

今歸仁朝英君

男爵 從四位

當家は先代朝敷氏より立つ、同氏は舊名を尙弼と稱し舊琉球王尙育氏の第三子にして明治十一年華族に列し、今歸仁朝敷と改稱し同二十三年男爵を授けらる。

君は其の嫡孫にして同朝和氏の長男たり、明治十九年八月を以て生れ、大正四年祖父の後を承けて家督を相續し同五年襲爵仰せ付けらる。

夫人延子は侯爵尙裕氏の伯母君に當り其の間に一女和子あり、現に首里市儀保町六七九番地に住す。

中野鐵平君

日本石油(株)専務取締役
日本工業(株)監査役

君は新潟縣の人中野禎吉氏の二男にして、明治二年一月を以て生る。

明治二十四年早稻田大學邦語法律科を卒業するや實業界に投じて敏腕を振ひ、現に前記會社に今名あり。

夫人キナ子は新潟縣の人武藤常吉氏の令妹にして其の間に守之助君及びレツ子等あり。

因に嗣子守之助氏は日本工藝株式會社専務取締役たり。現に東京市外西大久保町四一六番地に住す。電話四谷一六七〇番

南郷三郎君

日本棉花(株)監査役
尼ヶ崎土地(株)社長

君は故貴族院議員南郷茂光氏の二男たり。夙に東京商科大学の前身たる東京高等商業學校を卒業す。現に前記の外大阪

成瀬正行君

旭石油(株)常務取締役
東邦電力(株)取締役

我が實業界の重鎮にして錚々の名ある君は同じく財界の明星、成瀬正恭氏の令弟にして、明治九年十月を以て生誕す。

明治二十七年慶應義塾大學を卒業するや直ちに實業界に投じて活躍大に努め、現に前掲諸要職にある外千歳火災海上再保險、千代田火災保險、川崎造船所、大同電力、園池製作所、濃飛電氣、國際

信託、岐阜電力、各株式會社取締役にして、且つ白山水力東邦蓄積、長良川電化各株式會社に重役として知らる。

現に東京市麻布區廣尾町三番地に住す 電話高輪五五一三番

成瀬正忠君

白山水力(株)取締役社長

君は財界の恩人成瀬正恭氏、同正行氏等の令弟にして、明治十四年一月を以て生る。

莫大小紡織、神戸棧橋、大正製麻各株式會社社長にして且つ大湊興業、帝國油脂、共榮土地、山陽中央水電、大阪海上火災保險各株式會社の重役たり。兵庫縣武庫郡御影濱東三番地に住す。

南日恒太郎君

從四位勳四等
富山高専學校長

君は富山縣の人南日喜平氏の長男にして、明治四年九月を以て生る。本邦英文學の泰斗として令名高く、曩に正則中學校教師、第三高等學校講師、學習院教授等を歴任以て現在に及ぶ。

現に富山市富山高専學校内に住す。

中村達太郎君

正三位勳二等 工學博士
東京帝國大學名譽教授

君は舊名古屋藩士中村應氏の長男にして、萬延元年十一月十五日を以て東京に生る。

話高輪六七九六番

明治三十八年慶應義塾大學を卒業するや直ちに實業界に投じ、現に白山水力株式會社に社長として知らる。

夫人しか子は故貴族院議員平井晴二郎氏の長女にして其の間に宗彦君、清三郎君及び忠子あり。現に東京市外上大崎五九一番地に住す、電話高輪一三二三番

内藤 政雄君

經濟學士

樺太工業(株)會計課勤務

君は廣島縣士族中井愛之助氏の二男にして、後ち從二位勳三等現鴨綠江探木公司理事長たる内藤確介氏の養嗣子となる。夙に第七高等學校を経て大正十五年京都帝國大學經濟學部を優等の成績を以つて卒業するや直ちに樺太工業株式會社に入社し現に同社會計課に精勤して新進の聞えあり。

夫人樂子は實業家石森安太郎氏の息女にして三輪田高等女學校の卒業たり。現に東京市外中目黒八八一番地に住す、電

中村房次郎君

松尾製業株式會社社長

横濱船渠(株)監査役

君は神奈川県の人増田嘉兵衛氏の二男にして、明治三年十月を以つて生れ後ち先代初太郎氏の養嗣子となる。

夙に横濱商業學校を卒業するや直ちに實業界に投じ、現に前記の外横濱生命保險、太平興業、朝鮮電氣興業、三増不動産、増田製粉所各株式會社重役にして且つ増田合名代表社員たり。尙ほ横濱商業會議所常務員たり、明治三十八年歐米に出張せしことあり。
現に横濱市老松町二ノ二八番地に住す
電話長者九八八八番

中谷 貞頼君

正七位 衆議院議員

日本活動寫眞(株)監査役

君は茨城縣士族中ノ内爲彦氏の令兄に

して、明治二十年二月を以て生れ、後ち中谷速水氏の養嗣子となる。

大正二年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業するや官途に投じ、警視廳外事課長たりしが現時は前記の外長門起業炭鑛株式會社の常務取締役たり。

夫人を清子と呼ぶ。現に東京市外大井町立會四〇九番地に住す。電話高輪三九七六番

中田 熊次君

大阪府多額納稅者

凸版印刷(株)取締役

當家は彦根藩主井伊家に仕へたる士分なるも維新に際し、養父貞矩氏大阪に出でて印刷業を初め、當時店員たりし君を養嗣子となせり。

君實は香川縣の人西條恒四郎氏の令弟にして、明治四年五月を以つて生る。幼にして中田家に入り歐洲戰爭の好況時代に乘じて富を致し現に前記の外精版印刷株式會社々長にして、且つ大日本金箔工

中野四郎太君

大沼電燈(株)代表取締役

業、日本エッチビー特許製版各株式會社の重役たり。
現に大阪市南區安堂寺橋通り四ノ二〇七番地に住す。

中村 貫之君

横濱正金銀行大阪支店支配人代理

君は東京府の出身、男爵中村雄次郎氏の長男にして、明治二十一年十月十七日を以て生る。

大正三年東京帝國大學法科大學を卒業するや直ちに横濱正金銀行に入り、爾來、同行上海、ハンブルヒ、ロンドン、東京各支店を歴勤、大正十五年十一月大阪支店に轉じ現に同支配人代理たり。

趣味にスポーツあり、就中庭球に長ずるといふ、學士會々員たり。
夫人八重子は男爵坂谷芳郎氏の三女にして御茶ノ水高等女學校の出身たり、現に兵庫縣武庫郡芦屋に住す。

中野 長吉君

日本紙業(株)取締役

君は新潟縣の人中野平彌氏の四男にして、明治十二年十月を以つて生る。

現に前記の外新潟電氣株式會社事務取締役にして且つ名古屋紡績、新潟港灣倉庫、日本電氣工業、各株式會社取締役たり。
現に新潟市西大畑町に住す。

中内 松次君

日本紙業(株)常務取締役

君は高知縣の人毛利虎三郎氏の二男にして、明治二十一年一月十日を以て生れ後ち土佐紙株式會社々長中内久太郎氏の養嗣子となる。

明治四十三年土佐紙會社に入社、京城支店に勤務せしが大正十五年日本紙業株式會社に轉じ、同社營業部長を経て現に同社常務取締役たり。
現に東京市赤坂區青山南町五ノ三十三番地に住す。電話青山六七六九番

内藤 確介君

從三位 勳三等

鴨綠江探木公司理事長

君は廣島縣士族内藤延雄氏の二男にして、慶應元年三月を以つて生る。

明治二十年東京農林學校を卒業し曩に農商務省技師、林務官、營林技師、山林技師、鹿兒島大林區署長等を歴任し以つて現在に及ぶ。
現に滿州安東縣探木公司社宅に住す。

中澤彦七君

勳八等 叙利彦本店々主

享保年間の往時より酒類商を營み帝都知名の老舗たる叙利彦本店の經營者たる吾が中澤彦七君は、明治十七年八月十八日を以て兵庫縣下に孤々の聲を放てり父を和泉利平治氏と謂ひ夙に中澤家の家籍に入り其祖業に従事せり、然して大正十四年先代彦七氏の逝去に遭ひ同年十月家督相續と共に襲名せり。

君は人と爲り寔に篤實、拮据精勵して家業に勉め深く佛神を信じ、社會共存共榮の念よりして毎月祖先日たる一日十三日廿二日を期して其販賣品たる醬油の安賣日と爲して奉仕的の業を營む、業礎茲に成る同店の益々殷盛なるは蓋し祖統の守護と君の篤信の依て致す所以なりと謂ふべし。

趣味に謠曲あり、夫人をろく子と謂ひ中澤彦三氏の長女にして令嗣彦一君は開成中學校を卒へ現時嚴父を補佐して店務に携る。

現住所並に店舗を東京市京橋區松川町九番地とす。電話京橋二番五番九四番九五番

中島司君

朝鮮殖産銀行囑託
中央朝鮮協會主事

君は福岡縣の出身にして、明治十八年三月十日を以て生誕す、明治四十二年早稻田大學政治經濟科を卒業するや東京毎夕新聞社に入社し爾來、東京日々新聞經濟部記者、國民新聞記者、京城日報經濟部長等に歷勤す。

斯くて大正七年朝鮮銀行東京支店に轉じ更に翌八年朝鮮殖産銀行調査役に聘せられ、同十五年一月中央朝鮮協會主事に擧げられ現時は朝鮮殖産銀行囑託にして且つ中央朝鮮協會主事として知らる。趣味に讀書あり、又旅行を愛好するが如し、現に東京市外北品川御殿山三一九番地に住す。

成清信愛君

衆議院議員
大分縣多額納稅者

君は大分縣速水郡日出町の名家成清博愛氏(的山)の嫡男にして明治十九年一月を以て該地に生誕、大正五年其家督を相續せり。

夙に早稻田大學に學び後ち明治四十三年嶺山業を創め爾來大正十一年の交に至るまで斯業に携りしが、次で各會社重役に推され現に朝陽銀行頭取、三帆醬油、宇佐參宮鐵道各株式會社社長、成清貯金銀行取締役たるの外兩豐銀行、三池銀行、大分セメント、國東鐵道各株式會社監查役として錚々の令名あり、又酒造業を兼ね乃父の雅号を酒銘と爲し「的山」を醸造販賣す。

君は公事に盡瘁尠らず、曩に貴族院議員たりしが、昭和二年普選に際し郷黨より推されて衆議院議員に當選し立憲政友會に屬し大分縣支部長たり、又大分縣山林會副會長の任に在り。之等多數の公私

職に携るの傍ら日出裁縫女學校を經營し家庭的の實際教育の掌に當りて其薰陶に意を須ひつゝあり。

君は觀世流謠曲を以て娛しんと爲す、夫人靜子との間に五男二女あり。現住所は大分縣速水郡日出町に在り。

長島鐵之助君

實業家

君は靜岡縣の人、明治五年七月を以て同縣燒津町に於て出生す、嚴父を故長島重吉氏となし其次子に當る。

夙に祖業たる農に従事せるが明治二十九年帝都に出で直ちに日本橋區秋山萬兵衛氏の許に勤務し孜々として其業務に携りて大正元年迄恪勤するところあり、然して同四年の交株式會社東京芝市場の經營困難なるに際し君は之れを讓受け、爾來拮据經營の掌に當り遂に今日の殷盛を招來するに至れり。

君は又大正九年東京飼料株式會社の創立せらるゝや同社々長に推され現に其任

に在るの傍ら福德生命及び安田生命各保險會社代理店を營めり。

曩に赤羽町々會の設立に盡し同會長として公共事業に尠らざる力を致せり。夫人をやす子と謂ひ千葉縣安房郡館山町の人にして克く内助の功あり。現に東京市芝區赤羽四番地に住す。電話高輪三七〇二番

中島彌團次君

從五位 衆議院議員
内閣總理大臣秘書官

君は高知縣の人明治十九年六月を以て生る。明治四十五年東京帝國大學法科大學政治科を卒業するや直ちに文官高等試験に登第す。

爾來、青森縣屬、專賣局書記、同參事補、同副參事、同參事、大藏大臣秘書官、内務大臣秘書官等を歷任す、後ち官途を辭し濱口民政黨秘書となり、昭和三年衆議院議員に當選、同四年七月濱口内閣成るや同秘書官に任じ以て現在に及ぶ。

現に東京市本郷區駒込曙町十三番地に住す。

永井繁君

從四位勳三等 道幣局長

君は故大審院判事永井岩之丞氏の五男にして、明治十六年六月を以て生る。明治四十年東京帝國大學佛法科を卒業するや文官高等試験に登第す。

爾來官途にありて理財局書記官、大藏省參事官、外務事務官、同書記官、大藏書記官、函館、長崎、門司各稅關長を歷任以つて現在に及ぶ。現に大阪府北區新川崎町一番地に住す

武藤 信義君

從三位勳一等功二級

陸軍大將 關東軍司令官

君は佐賀縣の人武藤喜八君の令弟にして、明治元年七月を以つて生る。明治二十六年歩兵少尉に住じ、爾來累進して大正十五年三月陸軍大將に陞進す。

其の間參謀本部出仕、同部員、陸軍大學校教官、近衛師團參謀、露國駐在武官近衛歩兵第四聯隊長、歩兵第二十三旅團長、鐵道會議々員、參謀本部附第一部長、參謀本部總務部長、第三師團長、參謀本部次長、軍事參議官兼東京警備司令官等を歴任し、更に大正十五年七月關東軍司令官に榮補して以つて現在に及ぶ。

夫人能婦子は靜岡縣士族戸倉能則君の長女にして、君との間に長女正子及び二女みさを子等あり、現に關東軍司令官々舎に住す。

村上半太郎君

愛媛銀行頭取

君は愛媛縣の人村山久太郎君の長男にして、明治八年八月を以つて生る。夙に實業界に活躍し現に愛媛銀行頭取たる外伊豫貯蓄銀行取締役に、曾つては伊豫農業銀行頭取、松山紡績株式會社取締役たりしことあり。

夫人タケヨ子は愛媛縣の人田村昌八郎君の令妹にして其の間に温太郎君、審太郎君、平四郎君、東五君、宏君及び四女あり、現に愛媛縣温泉垣生村に住す。

村木正憲君

大阪機械工作所社長

君は岡山縣士族進藤叔吾君の三男にして明治元年四月を以つて生れ、先代義正君の養子となり前名字三郎を改稱す。明治二十四年東京帝國大學法科大學を卒業するや官界に投じ佐賀、栃木各縣收稅長

司稅官、遞信書記官兼參事官、大阪郵便電信局長、郵便爲替貯金管理局長、名古屋

屋郵便局長等を歴任す。

然して後ち實業界に入りて宇治川電氣株式會社常務取締役及び備後船渠株式會社々長たりしが現時は前記會社々長たる外大阪鐵工所取締役、大阪住宅經營、日本輕鐵工業各監査役たり。

夫人繁喜子は高知縣士族横山直陽君の二女にして其の間に二男四女あり、現に大阪市東區十二軒町一九番地に住し電話南六六〇一番なり。

武藤 互三君

第二十八銀行頭取

君は岐阜縣の人關谷貫三君の令弟にして、慶應二年一月を以つて生れ後ち先代喜一郎君の養嗣子となる。明治三十三年東京專門學校に法律英文學等を修業するや直ちに實業界に投じ製糸、山林事業に盡瘁すること甚大なりき。

現に前記の外濃飛農工銀行取締役にし、且つ岐阜縣多額納稅者として知られ岐阜縣製糸同業組合長、蠶糸同業組合中

中央議員、同評議員、大日本蠶糸會評議員、帝國蠶糸組合幹事等の要職にありて地方財界の一勢力たるを失はざるべし。

夫人きい子は養父喜三郎君の長女にして君との間に五郎君及びふみ子、うた子喜美子、多喜子等あり、現に岐阜縣上郡八幡に住す。

武藤 金吉君

勳四等 衆議院議員
内務政務次官

君は群馬縣の人武藤房吉君の長男にして、慶應元年五月を以つて生る。夙に中央大學の前身たる英吉利法律學校を卒業し曩に實業新聞、上野新聞各社々長として快腕を振ひしことあり。

現に群馬縣農工銀行、山保毛織、豊時計製作所各株式會社の重役にして、且つ群馬縣郡部より推されて衆議院議員たること前後六回、現に其の職にありて政友會に屬し昭和二年四月若槻内閣倒崩して田中政友會内閣の成立を見るや、其の内

務政務次官に任ぜられ以つて現在に及ぶ會つて歐米支那南洋等を歴遊して彼の地の實狀を視察して歸朝す。

夫人ミツ子は東京府の人石留寅次郎君の令姉たり、現に東京市芝區南佐久間町二ノ一八番地に住し電話高輪四八九五番なり。

向山庄太郎君

横濱劇場株式會社事務取締役
東京府會議員 東京府參事會員

君は長野縣の人向山齊君の再従弟君にして、明治八年三月を以つて生る。夙に郷校を卒ふるや笈を負ふて東上し、研鑽を積むや直ちに實業界に投じ、現に横濱劇場株式會社事務取締役たる外ルナーバ一ク株式會社取締役にして、今や我が財界の重鎮として知らる。

然して會つては小笠原長幹伯と相謀り本邦演劇界の改善發達を企圖して東京演劇協會を創立し、其の設立を見るや推されて同會副會長に就任し、且つ東京府市

政に參與して其の貢獻すること甚大、現に東京府會議員、東京府參事會員、土地收用審査會委員等の公職にありて令名高し。

夫人あき子は東京府の人三井勝治郎君の長女にして其の間に芳郎君及び鶴子等あり、東京市京橋區新富町六ノ七番地に本邸を有し電話銀座五二六六番七八三五番にして、其の別宅を市外代々幡町幡ヶ谷笹塚一一九九番地に住す。

村岡藤太郎君

小湊鐵道會社取締役兼支配人

君は香川縣の人村岡三郎君の長男にして、明治七年五月一日を以つて生る。夙に郷校を卒ふるや笈を負ふて東上し、研鑽大いに勉め後ち實業界に投じ、桂川電力株式會社主事、富士水電株式會社支配人等を歴任す。

然して聘に應じて小湊鐵道株式會社に入社して、恪勤精勵、同社の發展に盡瘁せしかば、累進して同社取締役兼支配人

に就任し以つて現在に及べり、園藝を好み謠曲に堪能なるが如し。

夫人をよし子と稱し三重縣の人村島右平君の二女たり、東京市芝區白金今里町一五一番地に現住し電話高輪二七〇八番たり。

村上賢二君

中央證券株式會社事務取締役
大日本人造大理石會社事務取締役

君は静岡縣の人袴田金藏君の二男にして明治十六年十月を以つて生れ、同三十八年五月先代喜次郎君の養嗣子となる。

夙に大志を抱いて東上し、研鑽を積むや直ちに實業界に投じ、特に株式界に活躍して令名を馳せ、現に前記の要職にある外第一商店、入丸商店、海岸ホテル各株式會社の重役にして且つ東京株式取引所一般取引員として知らる。

夫人隆子は東京府の人財界の新人村上文策君の令姉たり、現に東京市麴町區山元町一ノ八番地に住し、電話四谷二四七

六番たり。

室木彌次郎君

正七位勳四等
石川縣多額納稅者

君は石川縣の人先代彌八郎君の二男にして、明治十五年十月を以つて生る。夙に官界に身を投じ大阪地方裁判所判事たりしが、後ち官を辭して野に下り石川縣

郡部より推されて衆議院議員に當選し、憲政會に屬し、尙ほ石川縣多額納稅者として當地方財界及び政界に名あり。夫人を豐子と稱し、石川縣の人喜多一平君の長女たり、現に石川縣鹿島郡西岸村に住す。

武藤 虎太君

第四高等學校長

君は舊熊本藩士武藤一忠君の長男にして、慶應三年七月を以つて生る。明治二十八年帝國大學文科大学を卒業するや直ちに教育界に投じ、爾來第二高等學校長

兼教授を経て第四高等學校に轉じ、以つて現在に及べるものにして尙ほ先に正四位勳三等に叙さる。

夫人カキワ子は同縣士族紫藤猛君の令妹にして其の間に三男一女あり、現に金澤市仙石町に住す。

武藤 山治君

從五位 衆議院議員
實業家

君は岐阜縣の人佐久間國三郎君の長男にして、慶應三年三月を以つて生れ先代松右衛門君の養嗣子となる。明治十七年慶應義塾を卒業するや米國に航し、歸朝後三井銀行に入り、後ち鐵道紡績株式會社に轉じて神戸支店支配人より事務取締役を経て同社長に推され、今や本邦紡績界の重鎮にして傍ら神戸商業會議所特別議員たり。

曩に商工業者を打つて一丸となし政治團體の組織を企て遂に實業同志會の成立を見るに至り、這般の總選舉に方り大阪

府第四區より起つて衆議院議員に當選し會つて國際労働會議開催に際し本邦資本家を代表して米國に赴きたることあり。夫人千世子は京都府士族福原節介君の二女にして東京府立第一高等女學校の卒業たり、兵庫縣武庫郡住吉に現住す。

村田 命 穆君

南洋興發株式會社取締役

君は京都府士族村田命徳君の三男にして、明治二十三年七月三十一日を以つて生る。夙に郷校を卒ふるや更に神戸高等商業學校に學び、大正二年優秀の成績を以つて卒業し、直ちに東洋拓殖株式會社に入社して格勤精勵、累進して同社參事たりしが大正十一年南洋興發株式會社に轉じて同社取締役に就任し以つて現在に及ぶ。

夫人ミネ子は京都府士族工學士松室重光君の長女にして府立第三高等女學校の卒業たり、現に住宅を東京府下小金井村大城堀に有す。

村井 三 治君

第九十銀行監査役

岩手縣多額納稅者

君は岩手縣の人先代村井三治君の二男にして、明治七年八月を以つて生る。夙に實業界に投じ、現に第九十銀行監査役に就き且つ岩手縣多額納稅者として知らる。現に岩手縣盛岡市馬町二二六番地に住す。

村松恒一 郎君

大東通信社長

東京市參事會員

勳四等村松恒一郎君は愛媛縣士族村松嘉久藏君の長男にして、明治元年四月を以つて生る。夙に同人社に學び、其の造詣を積みしかば直ちに東京朝日新聞社に入り、同社政治部記者として健筆を揮ひ後ち獨力大東通信社を開設して、我が新聞通信界に貢献すること甚大、現に東京市參事會員にして會つて郷里より推されて衆議院議員に當選すること前後二回、

村上 浪 六君

著作家

君は本名を信と稱し大阪府の人村上市助君の長男にして、慶應元年十一月二十日を以つて堺市神明町に生る。年齒十九歳にして岡山縣廳に職を奉じ、後ち農商務省に轉勤せり。

然して明治二十四年職を辭して文壇に入り、君が天稟の文才を縦横に振ひ、其の處女作「三日月」を發表して以來「鬼蘇」「放言録」「罵倒録」「男女の戰」「當世五人男」「八軒長屋」「親鸞」「日蓮」「時代相」「海賊船」「天眼通」「皮肉社會見物」等を始め凡そ百七十餘種の著書を

續刊して浪六の名と共に全國に喧傳せられ、今や我が文壇の明星として斯界に令名高し。

夫人クマ子は埼玉縣の人中山兵吉君の四女にして君との間に大六君、五郎君、信彦君、鐵夫君及び君子、壽子等あり、現に東京市下谷區下根岸八番地に住す。

村井 貞 之 助君

大平生命保險會社長

大日本人造肥料會社取締役

君は和歌山縣の人坂田元隆君の二男にして、明治三年七月を以つて生れ後ち村井家の養嗣子となる。夙に京都同志社大學を卒業するや、更に米國に航しエール大學に學び研鑽を積みて歸朝す。

然して歸朝後村井兄弟商會に入りしが現に前記の外大平火災海上保險株式會社々長及び臺灣製糖、南國産業、新京阪鐵道、帝國製糸、京阪電氣鐵道、都ホテル各株式會社の重役として知らる。

夫人ミツ子は東京府の人村井吉兵衛君

而して功により勳四等に叙せらる。

夫人きよ子は静岡縣士族坂井祐吉君の長女にして君との間に正俊君、憲雄君、治君、和男君、榮君及び磯江子、嘉津子千枝子等あり、現に東京市麻布區富士見町四三番地に住し電話高輪一三四〇番たり。

の令妹にして君との間に二女あり、現に東京府豊多摩郡下澁谷七五五番地に住し電話青山三九四一番たり。

向井藤右衛門 君

鹿兒島林業株式會社取締役

鹿兒島商事株式會社取締役

君は鹿兒島縣の人向井藤右衛門君の長男にして、明治八年十二月を以つて生る。夙に實業界に身を投じ、現に前記の要職にある外肝屬電氣、萬瀬水力電氣、九州工業各株式會社の取締役として地方財界一方の重鎮たり。

夫人訓子は同縣士族有村松雄君の令姉にして其の間に重成君及び文子等あり、現に鹿兒島市樋之口町に住す。

村田 龍 司 君

群馬縣農工銀行監査役

君は群馬縣の人村田陸七君の長男にして、明治四年八月を以つて生る。現に群馬縣農工銀行監査役に就き且つ群馬縣多

額納稅者として直税一千二百七十餘圓を納むといふ。

夫人トモ子は群馬縣の人横山宗三郎君の長女にして君との間にナヲ子、つね子ふみ子、喜久重子、ひろ子、とし子等あり、現に群馬縣勢多桂管村に住す。

村山 龍 平 君

勳三等 朝日新聞社長

當家は三重縣の出にして彼の有名なる國學者村山守雄君は實に君の嚴父たり、君は其の長男にして嘉永三年四月を以つて生る。明治四年大志を抱いて大阪に出て西洋雜貨商を營みしが、偶々明治十四年木村平八君の發刊に係る日刊新聞を自ら引受けてこれが經營に任じ今日の朝日新聞社の前身たらしめたり。

當時財政の窮乏その極に達し、惡戰苦闘の年月を閲すること久しと雖も、君毫も倦まず社運の發展に敏腕を振ひしかば漸次隆盛に赴き、明治二十二年東京めざまし新聞を買収して東京朝日新聞社と命

名して朝日新聞社東京支店となし、東西相呼應して我が言論界に重きをなすと同時に君が令名東西に謳はるゝに至れり。

君は年少の頃よりあらゆる辛酸を嘗め人格圓轉滑脱毫も圭角なく、弱者に對する温情特に見るべきものあり、而も一方に於て又意志鞏固にして直截明快、果斷敢行の士にして今や東西朝日新聞が東洋屈指の大新聞として堂々たる陣容を張り嚴然として中外に重きをなす、蓋し君の力與つて大なるものあり、曩に衆議院議員に擧げらるゝこと前後數回、中央政界に活躍して貢献すること甚大なり。

夫人増子は京都府の人小林卓藏君の長女たり、兵庫縣武庫郡御影町に現住す。

村上保郎君

静岡縣多額納稅者
藤枝銀行取締役

君は静岡縣の人先代令一郎君の長男にして、明治二十四年七月を以つて生る。夙に地方財界に活躍し現に藤枝銀行取締

役にして且つ静岡縣多額納稅者として知らる、現に静岡縣志田郡和田村に住す。

村上文策君

村上文策商店社長
東京府多額納稅者

新日本財界の第一線に直面して其の優れたる才腕を縦横に振ひ、新進實業家として前途多望なる我が村上文策君は静岡縣の人加藤貞一君の令弟にして、明治二十八年一月を以つて生れ大正二年十月先代太三郎君の養嗣子となる。

夙に學に厚く慶應義塾普通部を経て同大學理財科に進み、優秀の成績を以つて同學を卒業するや直ちに實業界に投じ、其の新進の學理を傾注して非凡の敏腕を振ひ、現に株式會社村上文策商店取締役社長たる外株式會社入丸商店代表社員にして、今や東京株式取引所一般取引員として、斯界に重きをなすのみならず、東京府多額納稅者として知らる。君や博學にして資性濃厚、又極めて情

誼に富める稀に見る紳士にして、社交に厚く、趣味多様なるが如し、東京市麴町區平河町五丁目二番地に住し電話四谷五七九五番たり。

村井昌八君

岩手日報社監査役
盛岡倉庫株式會社取締役

君は岩手縣の人關重兵衛君の三男にして、明治十二年五月を以つて生れ後村井彌兵衛君の養嗣子となる。夙に醬油醸造業を營み尙ほ傍ら前記諸職にある外白山火山灰、第九十銀行、盛岡電氣工業、盛岡土地建物各株式會社重役たり。

然して岩手縣多額納稅者にして現に直税一千百三十余圓を納め、且つ盛岡市參事會員として知らる。

夫人リカ子は岩手縣の人村井彌兵衛君の長女にして君との間に清一君、彦次郎君、達司君、廣吉君及びナカ子、キク子、ナヲ子、ハナ子、テル子、ミツ子、ヨシ子等あり、現に盛岡市紙町四六番地に住

し電話二二七番たり。

村井吉兵衛君

村井銀行社長
村井合名會社代表社員

君は京都府の人村井彌兵衛君の二男にして、明治元年一月を以つて生れ後叔父吉右衛門君の養嗣子となる。夙に村井商會を興して煙草販賣業に従事し、明治二十三年卷煙草愛用者の數年々増加するに鑑み、直ちに米人に就きて卷煙草の製造法を修得し、愈々該製品を市場に送るや忽ちにして江湖の賞讃を博し、村井商會の名聲頓に擧るに至る。

爾來益々業務の刷新發揚に力を致し、明治三十二年米國煙草會社と共同して村井兄弟商會を開設し、君其の取締役社長として活腕を振ひしもたま／＼煙草の官營事業となるや、轉じて村井銀行を創立し現に同社々長たる外村井鑛業、村井貿易、日本石油、帝國製糸、帝國劇場、東亞興業各株式會社重役にして且つ大平火

災海上保險、帝國ホテル各株式會社相談役として我が財界に令名あり。

大正四年勳三等に叙し瑞寶章を賜はる夫人薰子は子爵日野西資博君の令妹たり現に東京市麴町區永田町二ノ二八番地に住し電話銀座二三四五番たり。

武藤茂平君

川俣銀行頭取

君は福島縣の人武藤茂平君の長男にして、明治五年三月を以つて生る。夙に實業界に投じ現に川俣銀行頭取たる外郡山商業銀行、川俣電氣、川俣委託各株式會社の重役にして且つ福島縣多額納稅者として直税五千七百十圓を納むといふ。

夫人ゆき子は愛知縣士族安藤成君の令姉にして君との間に丈夫君、成夫君及びヤス子、ミホ子等あり、現に福島縣伊達川俣に住す。

村瀬九郎右衛門君

村瀬銀行頭取

君は愛知縣の人村瀬九郎右衛門君の長男にして、慶應元年六月を以つて生れ前名鐵太郎を改稱す。夙に地方財界に活躍し現に前記の外村瀬貯蓄銀行頭以にして且つ村瀬殖産、村瀬同族各株式會社の重役として知られ、且つ愛知縣多額納稅者たり。

夫人やえ子は愛知縣の人山田清三郎君の長女にして養子を陸藏君と呼ぶ、現に愛知縣丹羽郡布袋に住す。

村上敬次郎君

男爵 貴族院議員

君は廣島縣士族堀尾笑石君の二男にして嘉永六年九月を以つて生れ、後ち先代邦裕君の養嗣子となる。夙に官界に身を投じ、爾來海軍省書記官、海軍省經理局長、海軍大臣秘書官、同官房主事、海軍省經理局第一課長、吳鎮守府監督部長等を歴補し現時は正三位勳一等功二級後備

海軍主計中將にして、明治四十二年貴族院議員に勅選せられ明治四十年特旨を以つて華族に列し男爵を授けらる。

夫人ツル子との間に隆吉君、圭彦君、喜久雄君及びマサヨ子等あり、現に東京市小石川區小日向茗荷谷町五七番地に住し電話小石川四八一番なり。

村岡範爲馳君

理學博士 正三位勳二等
京都帝國大學名譽教授

君は鳥取縣土族村岡秀造君の長男にして、嘉永六年十月を以つて生る。明治八年文部省に出仕し、師範學科取調の爲め獨逸に留學を命ぜられストラスブルグ大學に學びて歸朝す。

爾來文部省御用掛、東京大學教授、第一高等學校教授、第三高等學校教授、京都帝國大學理工科大學教授、女子高等師範學校教諭兼教頭、東京音樂學校校長兼高等師範學校教授等を歴任し現在に至る。夫人ひさの子は愛媛縣土族佐々木善次

郎君の令姉にして其の間に二男五女あり現に滋賀縣大津市下部田町通に住す。

村上清君

日本耐火スレート會社常務取締役

君は東京府の人増田利直君の二男にして、明治十八年四月十日を以つて生る。明治四十五年慶應義塾大學理財科を卒業するや、直ちに東都實業界に身を投じ、大和洋行南洋貿易部に入りて格勤すること數年、後ち辭して現に前記の外船生石材株式會社取締役として知らる。

趣味多様にして就中日本音樂に精通し常盤津の如きはなか／＼以つて妙なりといふ、東京府豊多摩郡大久保百人町八七番地に現住し電話四谷一一六八番たり。

村田敏君

實業家

君は東京府土族村田光道君の長男にして、明治十年十一月二十五日を以つて生る。明治三十年中央大學を卒業するや直

ちに三菱鑛業株式會社に入社し、同三十九年同社門司支店に轉じ、大正三年本店詰となり更に大正七年同社會計課長となり、漸次累進して大正十三年同部長に就任し以つて現在に及ぶ。

然して同社の發展に敏腕を振ふ傍ら雄別炭礦鐵道、美唄鐵道、九州炭礦、中島鑛業各株式會社の重役として知らる。園菘、謠曲、旅行等に趣味を有し又中央大學實業同窓會會員たり。

夫人はる子は千葉縣の人芳賀春毅君の三女にして君との間に好夫君、恒彦君及び光子、咲子、孝子等あり、現に東京府豊多摩郡杉並町高圓寺五三九番地に住し電話中野一六一番なり。

村田素一郎君

九州製鋼會社取締役兼支配人

君は長野縣の人村田敬次郎君の長男にして、明治六年十月を以つて生る。明治三十二年東京帝國大學探鑛冶金學科を卒業し、農商務省製鐵所技師、統監府技師

朝鮮總督府農商工部鑛務課長等を歴任し後ち實業界に入り、現に前記會社の重役として知らる。

夫人せい子は茨城縣土族酒井嘉親君の五女にして其の間に巖君、重雄君、三郎君、四郎君及びい子、元子、美代子、靜子、五百子等あり、現に福岡縣小倉市堺町に住す。

村田由藏君

日清紡績株式會社常務取締役

君は彼の高野甚内君の二男にして、明治八年十一月十日を以つて大阪市に生れ後ち村田喬君の養子となる。明治二十七年大阪高等商業學校を卒業するや、直ちに一ノ川鑛山に入りて格勤すること二ケ年、明治二十九年平野紡績株式會社に轉じ同三十七年日本綿花株式會社、東京紡績株式會社各常務取締役となりしが大正八年日清紡績株式會社に入社して同社常務取締役に就任し現在に至る。

趣味として園藝、讀書あり、日本工業

俱樂部、大阪高等商業學校同窓會、經濟聯盟會各會員たり、夫人ハナ子は大阪府土族岡田森久君の長女たり、現に東京府豊多摩郡中野四〇七四番地に住し電話中野二四番なり。

村尾栗君

從四位勳四等
早川電力株式會社工務長

君は愛媛縣土族村尾則固君の二男にして、明治十六年三月十四日を以つて生る。夙に第一高等學校を経て明治四十年東京帝國大學工科大學電氣科を卒業し、更に電氣事業研究の爲め英獨兩國へ留學す。歸朝後通信技師、遞信技師兼臨時發電水力調査局技師等を歴任せしが、大正十三年官を辭して早川電力株式會社に入り其の工務長となり現在に及ぶ。

夫人セツ子は愛媛縣土族藤野漸君の二女にして、松山高女學校を卒業し君との間に力君及びフサ子、アキ子、ヨシエ子、タマエ子等あり、現に東京府荏原郡

新井宿二六二四番地に住し電話大森九〇一番なり。

村上關藏君

神戸製糖株式會社社長

君は廣島縣の人村上定八君の五男にして、明治二年十一月を以つて生る、夙に郷校を卒ふるや實業界に志し神戸に出でて活躍すること久しく、現に前記會社の社長たる外港川土地建物、神戸中央土地各株式會社取締役に就き且つ兵神官、神戸製材、舞子土地各會社監査役たり。

夫人あさ子は兵庫縣の人平井精二君の令姉にして其の間に真雄君及び靜子等あり、神戸市楠町五ノ三四番地に現住す。

村田不二三君

辯論士 特許辦理士
札幌水力電氣會社取締役

君は鳥取縣の人村田晋君の長男にして、明治二年三月を以つて生る。夙に郷校を卒ふるや笈を負ふて東上し、中央大學法

科に學び後ち辯護士登用試験に登第して辯護士となり、北海道に到りて辯護士を開業す。

現に當地方法曹界に令名ある傍ら札幌水力電氣、札幌工作所、札幌軌道、同無盡、北海道製鋼、太陽火山灰各株式會社重役にして、又道會議員に推さるゝこと一再ならず、且つ札幌商業會議所特別議員たり。

夫人との間に晋一君、達雄君、文雄君及びスズエ子、珠江子等あり、現に札幌市北四條西一丁目に住し電話一三八番なり。

向山軍二郎君

正八位勳六等 醫師
陸軍一等軍醫

君は山梨縣の人向山福太郎君の長男にして、明治六年十二月二十九日を以つて生る。夙に醫學に志し千葉醫學專門學校を卒業するや、更に濟生學舎に入りて研究する所あり、明治二十八年卒業を卒へ

るや明々堂に入りて實地に研鑽し、後ち日本郵船株式會社に入り醫長として歐洲及び濠洲に航し、同三十二年印度檢疫歴となり、更に神奈川監獄醫、山梨縣檢疫醫等を歴任し、後ち山梨縣小井川村に於て自ら醫院を開業す。

然して明治卅七八年日露戰役に際し陸軍一等軍醫として出征し、功により勳六等に叙せらる、後居を現在の所にトし専ら開業醫として東都刀圭界に活躍し、傍ら淺草區會議員を勤め尙ほ帝國在郷軍人會審議員、財團法人帝國在郷軍人會財團保護員、帝國在郷軍人會淺草區分會長、淺草區第八借行社義濟會評議員、東京聯合青年團淺草分團顧問、東京少年義勇團顧問、富國徵兵保險會社商議員、本郷聯隊區司令部將校團理事、帝國在郷軍人會本郷支部評議員、淺草區教育會幹事、東京市醫師會理事、東京府醫師會代議員、柳原町會長、淺草中和會幹事、淺草區醫師會理事等の要職にあり。

夫人クメ子は東京府の人江川太兵衛君

の長女たり、現に東京市淺草區向柳原町一ノ一一番地に住し電話淺草六二〇一番なり。

向井又吉君

旭川倉庫株式會社監査役
向井醫院長

君は山梨縣の人向井又右衛門君の二男にして、明治十六年十二月を以つて生る。夙に醫學に志し學を卒ふるや直ちに開業し、現に當地方刀圭界に聲名ある傍ら前記會社の重役たり。

夫人ちよ子は千葉縣士族下村充君の令姪にして其の間に進君、博君及び美津子信子等あり、現に旭川市二條通十一丁目に住し電話八〇四番なり。

村松舜祐君

從五位 勳六等
盛岡高等農林學校長

君は靜岡縣の人村松茂十郎君の長男にして、明治十四年四月を以つて生る。明

治三十八年東京帝國大學農科大學農藝化學科を卒業し、更に大学院に入り、大正四年斯學研究の爲め米國に留學し、曩に靜岡縣立農學校教諭たりしが現時は從五位勳六等にして盛岡高等農林學校長たり

夫人しま子との間に毅君、與正君、良治君及びはま子、波子等あり、現に盛岡市下臺に住す。

宗田哲夫君

實業家

君は東京府の人池上忠藏君の二男にして慶應二年一月二日を以つて生れ、後ち宗田平五郎君の養子となる。明治二十五年中央大學を卒業するや、養父の事業を承けて精米業を営み以つて現在に至る。

其の間目黒町會議員に選ばれ又大正二年郡會議員となり同郡會副議長たりしが同七年目黒町長に推され、大正十三年之を辭して現に家業たる精米業を営む傍ら目黒農會長、三田用水普通水利組合議員水道委員、共榮會々長、保險代理業等の

諸職にあり。

夫人せき子は養父平五郎君の長女にして君との間に義久君、秀雄君等あり、現に東京府荏原郡上目黒六〇二番地に住し電話青山二一五〇番なり。

武藤三枝君

品川白煉瓦會社取締役技師長

君は福島縣の人伊藤德藏君の二男にして、明治四年十二月十九日を以つて生れ、後ち武藤三郎平君の養嗣子となる。明治二十七年東京高等工業學校窯業科を卒業するや、直ちに一年志願兵として入營し陸軍砲兵少尉に任ぜられ正八位に叙せられ後ち農商務省技師、東京高等工業學校助教授、臨時稅關工事部技師、露國スタルチセフ製陶所技師等を歴任せり。

然して明治三十五年實業界に投じ品川白煉瓦株式會社技師長に就任し、累進して現に同社取締役技師長たり、趣味廣く謠曲、撞球等は其の最もなるものなり。夫人イシ子は福島縣の人石井庄藏君の

二女にして君との間に武夫君、富三郎君及びみえ子、三輪子等あり、現に東京府荏原郡大崎町居木橋五三九番地に住し電話高輪三二六一番なり。

村越藤三郎君

國府津銀行頭取

君は神奈川縣の人村越藤八君の長男にして、明治四年一月を以つて生る。夙に金融界に身を投じ現に前記銀行の頭取として同地方金融界の重鎮たり。

夫人ナカ子との間に信夫君、正夫君、敏夫君、英雄君及び八千代子、智恵子、芳江子等あり、現に神奈川縣足柄郡下豊川村に住す。

村井 四郎君

従五位勳五等 商工書記官兼外務書記官
商工省商務局商政課長

君は東京府の人堀永有隣氏の二男にして、明治二十一年十一月を以て生れ、大正二年村井貞之助氏の養子となる。

大正三年東京帝國大學法政科大學政治科を優秀の成績を以て卒業するや直ちに文官高等試験に登第、同六年農商務省臨時産業調査局事務官に任ず。

斯くて大正八年同省軍需事務官、同書記官を兼任し、同九年専任農商務書記官に任じ、同十一年商務局貿易通報課長、次いで商政課長となり、同十五年更に外務省書記官を兼任尙ほ工藝審査委員幹事たり。

夫人加壽榮子は養父貞之助氏の長女にして、其の間に隆一君、兼二君、省三君及び淳子、泰子あり。現に東京市外濠谷町八幡通三ノ八番地に住す。電話青山六四七七番

村上與惣太君

辯護士 辦理士
會社法律顧問

君は宮城縣の人先代伴次郎氏の四男にして、明治十六年一月二十日を以て生る。

夙に郷校を卒ふるや青雲の志を抱いて上京し、勉勵大いに努めし結果は學業順を追ふて進み、明治四十年日本大學法科を優秀の成績を以て卒業す。

斯くて將來法曹界に名を成さんと志し先づ法律評論社に入りて一般法律に關する編輯若しくは執筆に従事しつゝ、専心斯學の研鑽に耽り、然して日比谷登龍門に天下幾多の奇才と其の才幹を競ふや見事幾千の猛者を打ち敗つて登第の榮譽を擔へり。

然して、大正三年獨力にて法律事務所を開設して民事一般其の他あらゆる事件に熱誠以つて當りしかば忽ちにして社會の信望を博し今や東都斯界に重きをなし且つ國際通運、川長運送各株式會社に法

律顧問たる外、多數會社商店に聘せられ前途益々多事多望、尙ほ東京辯護士會、日本辯護士協會各理事たり。

趣味として讀書あり又音樂、撞球、圍碁等にも相當の嗜ありといふ。
夫人フミ子は東京府の人林正樹氏の二女にして三輪田高女の出身たり。現に東京市芝區南佐久間町一ノ一番地に住す。電話芝三四七番

村林 秀藏君

株式會社末廣商店常務取締役

事業の成否は其の經營社の人物如何に依ること敢て贅言を須ふまでもなし、如何に好望の業務なりと雖、之れを處理する人物に經營の才無からんには其の成績決して擧るべからず。

都下味噌醸造業者として嶄新斯界に王座を占むる株式會社末廣商店の中樞人物たる吾が村林秀藏君は、繁望なる店務を宰するの傍ら第三方面員、同會計、區劃整理委員、明治小學校教育會理事及び門

村木政太郎君

巢鴨町名譽助役
全町會議員

前山本町々會幹事等の公職に在りて貢獻淺からず、寔に至公至平の人、君は明治十年一月五日を以つて三重縣飯南郡松坂町に生る、夙に祖業たる農に携りしが、同三十五年東上して、君の叔父君に當れる先代村林榮助氏の許に於て商業に従事せること多年、斯くて大正元年末廣商店を設立して斯業を創め、同十三年之れを株式組織に革め同社常務取締役に就任し君の經營上の才腕と同社製品の優秀なると相俟つて遂次實績を收め、今や末廣味噌の聲價は帝都に普く、斯業界に君臨するの盛況を招來するに到れり。

君は其の人物寔に堅實篤厚にして温和公共事業にも盡瘁多大なるに徴しても、君の人と爲りを窺知するに足る、君は余技に義太夫あり、龍秀と号して頗る堪能既に玄人の域に達せり。

家庭にはさい子夫人あり、内助の功頗る多く嗣子歳夫君ありて圓滿和樂の一家を營む。現時東京市深川區門前山本町十番地(電話本所二二二一五番)に居住す。

ものあり。

君は体軀堂々として常に溫顔不斷の微笑を浮べ而も剛毅果斷の士、其の才幹と敏腕とは正に町内屈指の人材たるに恥ぢざるべし。

花子夫人との間に政君及び君子、靜子、伊滿子等あり。現に東京府下巢鴨町巢鴨一六九五番地に住す電話大塚二五二六番

村尾 重孝君

從七位 法學士
多摩川水力電氣(株)事務取締役

君は鳥取縣の人故村尾貞治氏の三男にして、明治十九年五月十一日を以て鳥取市に生る。

明治四十五年東京帝國大學法政科大學獨法科を卒業するや海軍主計として官途にあること二ヶ年有餘、後ち帝國電燈株式會社に入りて、庶務課長、總務課長等を歴勤す。

斯くて同社が東京電燈株式會社に併合せらるゝや引き続き同社に勤務、昭和二

年二月同社監理課長たりしが、昭和四年二月多摩川水力電気株式会社専務取締役就任、現に其他東部電力株式会社取締役等として知らる。

趣味に長唄あり、柔道の達人にして三段たり。學士會、電気俱樂部、電気協會各會員たり。

夫人春江子は大阪府の人森川彌三郎氏の長女にして其の間に裕也君、進也君及び千重子、靖子、洋子等あり。現に東京市芝區三田網町一番地に住す。電話高輪三一四一番

村上元紀君

正七位 工學士

逓信省工務課土木掛長

君は愛媛縣の人村上重吉氏の五男にして、明治二十三年二月五日を以て生る。大正五年京都帝國大學工學科大學を卒業するや鴻圖を抱いて海外に飛躍、朝鮮、滿洲、シベリヤ方面に於て土木建築請負業に従事して巨利を占めつゝありしも滯

留約二ヶ年にして歸朝す。

斯くて官途に志を轉じ農商務省に職を奉じて同技手に任じ、後同技師拜命、精勵四ヶ年にして東京市土木局技師に轉ず。

然して君此處にあること三ヶ年、優秀なる技術と濃厚なる人格とを以て鳴らし、大正十四年四月逓信省技師に轉じ現に同省工務課土木掛長として内部に知らる。

扱て幹子夫人との間に一女あり、トミエ子と呼ぶ。現に東京市外瀧野川町中里四四一番地に住す電話小石川六〇九三番

村上熊治郎君

東京便達社長

東京自動車組合評議員

君は群馬縣の人原澤勇藏氏の四男にして、明治十五年八月十五日を以て同縣利根郡に生る。十八歳の時同縣の人村山熊次郎氏の養嗣子となり之を襲名せり。夙に大志を抱いて上京し、直ちに東都

實業界に投じ、今を去る二十余年前東京便達社を創設して活躍せしが、時代の趨勢を見るに敏なる君は、自動車を使用することの最も有利なるを洞察するや大資を投じて之を購入し、漸次業勢の發展すると共に臺數を加へ、今や所有の自動車五臺、使用人十數人の多きに達し、東都業界の白眉を以て目されるに至りしは蓋し君の多年の奮闘と至誠以て事業に終始せるの結果にして前途益々多望なるものあり。

夫人をくに子と呼び其の間に曉君、博君及び美枝子、智恵子等あり。現に東京市神田區西小川町二ノ九番地に住す。電話九段二八九四番

村井禎造君

朝日信託(株)常務取締役

君は山口縣の人村井東作氏の二男にして、明治二十二年二月五日を以て生る。夙に郷校を卒業するや鴻圖を抱いて東上後ち北海道帝國大學に入學し、大正元年

優秀の成績を以て同學水産科を卒業す

斯くて直ちに北海道輸出製品検査所に入りて技師兼主任に就任し、在勤中農商務省より海外留學を命せられ、米國、英國、加奈陀、メキシコ、ニューファウンランド等に滯留研鑽すること六年有半主として彼の地の金融貿易狀態及一般商業狀況に關する視察見學をなし、蘊蓄を高めて歸朝す。

斯くて同所を辞して三井物産株式會社に入社し、同社紐育支店勤務を拜命、偶々歐洲大戦亂當時なりしかば君は同支店にありて劃策大いに努めて、能く物資の供給販路の擴張に全力を掲げ、事業の盛衰興亡と戦つてつぶさに財界の体驗を得て大正十年無事大任を果して歸朝す。

然して大正十一年神田銀行の聘に應じて同行に轉じ信託部長、理事等として内外の社務を執掌して敏腕を縦横に振ひ、昭和二年十二月同行を辞し、同三年一月推されて朝日信託株式會社常務取締役に任じ以て現在に及ぶ。

天資穎明なる君は其の絶えざる研鑽によつて現下の經濟界に新進の聞えあり、將來又多事多望、是れ會つて海外滯留中余暇あれば常に各國の學者實業家及び一流銀行會社等に直接得たる賜と謂ふべく尙ほ本邦經濟並に貿易に關する著書ありて今や實業家にして將又學者として令名あり。

夫人を貞子と呼び山口縣の人故藤本淳佐氏の五女にして、山口縣立山口高等女學校の出身たり。現任東京市外濫谷町字長谷戸七番地

牟田易太郎君

牟田鑄工所(資)代表社員

君は福岡縣久留米市の人牟田虎藏氏の長男にして、明治八年二月五月を以て生る。

夙に機械製造業界に志し年齒僅かに十歳にして上京、最初横須賀海軍造船工學校に入學すべく順序として工廠設計工場に入り、候補生として研鑽を積みつゝ、

日本鑄鐵株式會社にありて斯業を實地に就きて研究中、不幸にして右腕を切斷するの悲運に遭遇するや候補生を斷念して築地工手學校機械科に入學す。

斯くて明治廿九年七月機械に關する諸學の研究を修得卒業するや日本鑄鐵會社を辭し、同年同月長崎三菱造船所設計課に入社して在勤四ヶ年明治卅二年五月同社を辭して芝浦製作所鑄物工場に轉じ、技手たりしが同卅四年八月横濱船渠株式會社に入社、同社鑄物工場技師の要職に在ること實に十六年、能く部下を統率して同社の内外に信望絶大なりしが、君はもとより一技師として終始するに忍びず愈々獨立の機運熟するや其の永き經驗と抱懐せる高見とを以て大正五年五月牟田鑄工所を創設し、同年十一月組織を變更して合資會社となし、君は其の代表社員として内外の社務を執掌し、主として鐵器鑄造及び機械の製作に従事せしかば業務順に擧り其の製品は廣く識者間の贊詞を得今や東京瓦斯電氣、東京電氣、日本

特種工、三菱航空氣、日本トラスコン、沖電氣、日本精工各株式會社を始めとして一般業界に確實なる得意を獲得し其の聲名赫々たり。

因に同工場より製造搬出する年産額實に三十有餘萬圓を下らず、使用職工百數十名社員十數名の多數に達し前途益々多望なるものあり。

夫人テイ子との間に三男四女あり。現に中野町中野三三〇番地に住す、工場下大崎四二五番地、電話高輪一〇九番一八三九番

村上貞造君

日本棉花(株)取締役
辻紡績(株)監査役

君は大阪府の人中川長兵衛氏の二男にして、明治十一年三月を以つて生れ、後ち先代彌平次氏の養嗣子となる。

明治二十八年大阪高等學校を卒業するや直ちに財界に投じ、現に前記の要職にあり。

現に大阪市豊能郡池田町室町四番地に住す。

村上豊作君

浦賀船渠(株)取締役
横濱工作所(株)取締役

君は長崎縣の人村上儀平氏の二男にして明治六年五月を以つて生る。

明治二十三年第一銀行に入り、同行検査役、横濱支店長等を歴任し、現に前記の外山下合名理事、山下汽船株式會社監査役たり。

現に市外代々幡町代々木一〇六七番地に住す。

内田康哉君

伯爵 從二位勳一等
樞密顧問官

君は熊本縣士族内田玄真君の長男にして、慶應元年八月を以つて生る。明治二十年東京帝國大學法科大學を卒業するや直ちに外交官試補を拜命してワシントンに在勤し、明治二十三年農商務大臣秘書官に任じ、爾來、公使館二等書記官、同一等書記官、辨理公使通商局長、政務局長等を歴任し、明治三十二年特命全權公使に昇任し政務局長を兼ねたり。

明治三十三年外務總務長官に轉じ、翌三十四年再び特命全權公使に任せられ、清國駐劄を命ぜられ、日露戰役後大使に昇進し、坤國に駐在し尙ほ公使として瑞西を發轉し、尋いで米國に轉任し後ち西園寺内閣成るや臺閣に列して其の外務大臣に親任せらる、然して後ち辭して暫く閑地に在りしが、本野大使の後を承けて特命全權大使に任せられ露國駐劄仰せ付けられ、日露事件の功に依り特旨を以つ

て男爵を授與せられ、更に條約改正の功により子爵に陞る。

斯くて大正七年原内閣の成立を見るや再び入閣して外務大臣に親任し、大正九年伯爵に陞爵し大正十年原首相凶刃に斃る、や君は臨時内閣總理大臣を兼ね、加藤友三郎内閣の成立後も引き續き外相の椅子を占め、大正十四年樞密顧問官に親任し以つて現在に及ぶ。

夫人政子は奈良縣の人士倉庄三郎君の二女たり、現に東京府豊多摩郡大久保町西大久保三五〇番地に住し電話四谷一九〇番たり。

上原鹿造君

辯護士 辨理士
實業家

君は大分縣士族岡本英太郎君の養嗣子にして、慶應元年十二月を以つて生れ、後ち明治三十一年實業家上原家を再興す。

明治二十五年東京專門學校法律科を卒業し、同年辯護士試験に登第して辯護士を

開業す。

斯くて東都法曹界に活躍して令名を擅にする傍ら尙ほ財界に關係し、京成電氣軌道、多摩鐵道、東京珠瑯、南洋護謨、萬歲生命、ボルネオ護謨各株式會社の重役たりしことありしが今や東都法曹界に重きをなし、尙ほ實業界に令名あり。

夫人豐子は辯護士代議士鳩山一郎君の養姉君にして君との間に昇君、四郎君、武夫君、勇夫君及び雛子等あり、現に東京市小石川區新諏訪町十六番地に住し電話小石川二八五番たり。

内田嘉吉君

從三位勳一等 貴族院議員
日本無線電信株式會社社長

君は東京府の人先代正八君の長男にして、應慶二年十月を以つて生る。明治二十四年帝國大學法科大學を卒業す。

爾來、司法官試補、逓信省試補、逓信事務官、逓信參事官、高等海員審判所理事官、逓信大臣秘書官、逓信省管船局長

兼高等海員審判所長、拓殖局長、臺灣總督府民政部長、遞信次官、臺灣總督等を歴任す。

其の在官中屢々歐米各國を漫遊して足跡海外に普ねく、而して大正七年貴族院議員に勅選せらるゝの榮に浴し、後ち官界を去るや大正十四年十月前記日本無線電信株式會社創立と共に推されて同社社長に就任し、現に其の外南洋協會副會長日本安全協會々長たり。

夫人りん子は千葉縣士族石島壽平君の令妹にして君との間に誠君あり、現に東京市外入新井町不入斗一四七五番地に住し電話高輪五三〇番なり。

宇佐美勝夫君

從三位勳二等
實勳局長

君は山形縣士族宇佐美駿太郎君の令弟にして、明治二年五月を以つて生る。明治二十九年七月東京帝國大學法科大學政治科を卒業す。

を傾倒して活躍大いに努めしかば、に推されて同社取締役に擧げられ、兼ねて東京支店長の要職に就任し間もなく同社常務取締役に推され、今や、東西相呼應して内外の社務を執掌し、帝都復興建築界に貢献すること蓋し甚大なり。現に東京市本郷區駒込千駄木町三六番地に住し電話小石川一八〇九番なり。

上原勇作君

子爵 從二位勳一等功二級
元帥陸軍大將

君は宮崎縣士族龍岡棲山君の二男にして、安政三年十一月を以つて生れ、後ち先代尙實君の養嗣子となる。明治十二年陸軍工兵少尉に任じ、大正四年陸軍大將に累進す。

其の間陸軍士官學校教官、參謀本部第五部長、工兵監、第三、第七各師團長、教育總監、參謀總長等を歴任し且つ陸軍大臣に親任せらる。

現に元帥の稱號を賜はり、特に元帥府

爾來、内務屬、德島縣、京都府各參事

官、内務書記官、内務省參事官、富山縣知事、統監府參事官、韓國内務次官、朝鮮總督府內務部長、同府土木局長、東京府知事等を歴任し、大正十四年九月賞勳局總裁に轉じ以つて現在に及ぶ。

夫人トク子は宮崎縣の人四屋惠太郎君の令姉にして君との間に洵君、毅君、宏君、格君等あり、現に東京府荏原郡上大崎町四四四番地に住し電話高輪七九一番なり。

内山松世君

實業家

君は舊富山藩士小池春香君の長男にして、明治元年二月を以つて生れ、後ち累代名主役を勤め農を業とせる縣下有數の素封家内山彦君の養嗣子となる。夙に漢學を草場船山師に學び、更に慶應義塾を卒業するや家事に専念し、而して衆議院議員に擧げられ國政に參與せり。曩に富山縣農工銀行頭取たりしが、現

に列し、尙ほ鐵道會議々長たり、曩に日露戰役の功に依り特旨を以つて男爵を賜はり、大正十年子爵に陞爵せらる。夫人楨子は侯爵野津鎮之助君の令妹にして其の間に七之助君、勇次郎君及び愛子、尙子、しづ子等あり、現に東京市外大井町鹿島谷二九八番地に住し電話高輪三二四〇番なり。

上松泰正君

鐵道銀行頭取
岐阜縣多額納稅者

君は岐阜縣の人關谷醇三君の令弟にして、明治元年九月を以つて生れ、後ち先代治郎一君の養嗣子となる。夙に岐阜縣師範學校を卒業するや直ちに上京し、研鑽琢磨、優秀の成績を以つて東京法學院を卒業す。

斯くて地方財界に投じ、現に前記の外濃飛農工銀行、十六銀行、岐阜貯蓄銀行、岐阜不動産各株式會社の重役にして、且つ岐阜縣農會長たり。

時は富山銀行、富山電氣鐵道、富山信託日本電氣應用、帝國火災保險各株式會社の重役として知られ、尙ほ富山縣多額納稅者にして直稅千四百二十余圓を納む、書畫、骨董に興味を有すと云。

夫人たか子は養父年彦君の三女にして君との間に威丸君及びひろ子、あて子、すが子、さや子等あり、現に富山縣婦負百塚村に住す。

植村克己君

株式會社大林組常務取締役

君は奈良縣の人植村傳十郎君の長男にして、明治九年九月九日を以つて生る。夙に郷校を卒ふるや大志を抱き笈を負ふて東上し、將來、我が建築界に名を成さんと即ち東京工手學校建築科に入りて研鑽を積み、優秀の成績を以つて同校を卒ふるや直ちに東西土木建築界の權威たる株式會社大林組に入社せり。

然して爾來、一意専心同社の發展に盡瘁し、君が優秀なる技術と斯學の蘊蓄と

夫人よね子は養父治郎一君の長女にして君との間に通子、榮子、茂子、絹子等あり、現に岐阜市稻葉町鏡島に住す。

植村澄三郎君

十勝開墾株式會社社長
大日本麥酒株式會社常務取締役

君は舊幕臣植村厚十郎君の長男にして文久二年十月を以つて生る。夙に職を官途に奉じ、爾來開拓使吏員、大藏省及び農商務省出仕、遞信管理局次長等を歴補せしが後ち官を辭して實業界に投じ、敏腕を縱横に振ひしかば漸次斯界に重きをなし、其の關係する諸事業は着々として其の實績を擧げ得たり。

然して今や前記の外明治製糖、電氣化學工業、スマトラ興業、三共製藥、日本醋酸製造各株式會社取締役に於て且つオリエンタル寫真工業株式會社社長、城東電鐵、關東水電各株式會社監査役に於て我が財界の曉星を以つて目せらる。

夫人誠子は和歌山縣士族中島信次郎君

の令姉にして君との間に甲午郎君、泰二君及び梅子等あり、現に東京市赤坂區表町四ノ四番地に住し電話青山一四一〇番たり。

内野辰次郎君

正四位勳一等功三級 陸軍中將
衆議院議員

君は福岡縣の人内野喜太郎君の令弟にして、明治元年八月を以つて生る。明治二十四年陸軍歩兵少尉に任ぜられ、大正八年陸軍中將に陞進す。

其の間、陸軍大學校を卒業し士官學校生徒隊中隊附、戸山學校教官、陸軍大學校兵學教官、近衛師團參謀長、教育總監部第一課長、陸軍審査部議員、歩兵第四十旅團長等を歴任し、後ち官を辭し大正十三年門司市より推されて衆議院議員に當選し以つて現在に及ぶ。

夫人路久子は千葉縣士族水上清君の長女にして君との間に遊才君、功三君及び松代子等あり、門司市大里町に住す。

宇井孝三君

有隣生命保險會社專務取締役
關門鐵道株式會社取締役

君は千葉縣の人宇井嘉七君の長男にして、明治十四年七月十日を以つて生る。夙に千葉縣立中學校を卒業するや志を抱いて上京し、研鑽琢磨、明治四十年東京商科大學の前身たる東京高等商業學校を優秀の成績を以つて卒業す。

斯くて直ちに實業界に投じ、神國生命保險株式會社に入社して同社取締役兼支配人に推され、大正七年同社が有隣生命保險株式會社と合併せらるゝや、君擧げられて同社專務取締役に就任し、現に其の傍ら關門鐵道、北海道探炭各株式會社取締役に就任し、且つ南滿洲太興株式會社理事として知らる。

夫人くら子は千葉縣の人飯倉清右衛門君の長女にして君との間に孝君、滋君及び都代子、康子等あり、現に東京市赤坂區青山高樹町二〇番地に住し電話青山三九二番なり。

上杉慎吉君

法學博士 從四位勳三等
東京帝國大學法學部教授

君は東京府士族上杉寛二君の二男にして、明治十一年八月を以つて生る。明治三十六年東京帝國大學法科大學政治科を卒業するや同大學助教に任じ、同三十九年私費を以つて海外に航し斯學の研鑽を積むこと數年、明治四十二年十一月法學博士の學位を授けられ、大正元年八月東京帝國大學法科大學教授に任じ以つて現在に及ぶ。憲法學の泰斗として我が學界に令名あり。

夫人ノブ子は廣島縣の人山本金一君の長女にして君との間に正一郎君、重二郎君、彌三郎君、捨彦君、聰彦君及び稻子等あり、東京市小石川區大塚坂下五四番地に現住し電話小石川二四〇五番なり。

上田貞次郎君

法學博士 正五位勳四等
東京商科大學教授

君は東京府士族上田敬太郎君の令弟にして、明治十二年五月を以つて生る。明治三十五年東京商科大學の前身たる東京高等商業學校專攻科を卒業するや、更に商業經濟學研究の爲め獨米に留學し、尙ほ商學財政學研究の爲め英國に留學し斯學の蘊蓄を究めて歸朝す。

斯くて東京高等商業學校の教授に任じ先年大學令に依り東京商科大學に昇格せし後も引き続き同學教授として教鞭を執り、現に同校附屬商學專門部教授を兼ね我が學界の權威として知らる。大正八年法學博士の學位を授與せらる。

夫人てい子は東京府の人向笠岩之丞君の長女にして、御茶の水高等女學校を卒業し、君との間に正一君、貞二君、信三君、勇五君等あり、現に東京市外高田雜ヶ谷谷一二三番地に住し電話牛込一八八一番なり。

上田 晃君

兵庫縣多額納稅者
灘酒造株式會社長

君は兵庫縣の人上田幸次郎君の長男にして、明治十八年二月を以つて生る。明治三十六年縣立神戸商業學校を卒業するや、直ちに實業界に投じ肥料問屋を營み尙ほ灘酒造株式會社社長にして、曩に播州物産、加古川製絲各株式會社取締役たりしことあり。

現に兵庫縣多額納稅者にして、直税二千五百七十余圓を納むるを以つて知らる夫人ヨシ子は兵庫縣の人藤井六兵衛君の五女にして君との間に三女あり、現に兵庫縣加古郡平岡村に住す。

上原才一郎君

圖書出版業
光風館主

富岳千載の雪は永遠に潔よく、其の泰然として連峯に屹立し、日本民族の精隨にして且つ大和武夫の志氣を表徴する東

洋一の富士の山、そは我等が讚美し、渴仰措く能はざるころのものなり。

然して、其の裾野は遠く延びて信州の山岳に連り、名にしあふ諏訪湖の圓廓をなす。斯くて我が信州は、山と水との相對照する大自然の恩恵豊かにして、人材又輩出するに最も相應しく、永遠の過去より、永劫の未來へと變りなく、實にや幽遠淡雅なる神祕の地よ！吾等は慕ひ且つ嘆賞するに吝ならざるものなり。

本邦圖書出版界の重鎮我が上原才一郎君、即ち白雪藏く富士の山を遠く南空に眺めつゝ、諏訪湖上を靜かに撫で去る靈氣を吸ふて、慶應二年も未だ新なる二月の三日を以つて諏訪郡中洲村の一農家上原七左衛門君の長男に生る。

夙に學に厚く、穎才群を抜き、小學校時代より讀書を好み、長ずるに及んで教育家たらんことを乞ひ願ひしも、君の兩親の勤めにより遂に志を實業界に轉じ、斯くて郷里の一書籍店に手代奉公に赴く是れそも君が圖書出版界に今日の大

を成す濫觴とも謂ふべきなり。

然して、幾何もなく大志を抱いて單身上京し、神田今川小路二ノ十七番地にさゝやかなる古書籍店を開く、時に明治二十二年五月、年齒漸やく二十四才の青春燃ゆる時なりき。而して明治二十七年二月同區通神保町(現在の場所)に移轉するや愈々新刊書籍の出版販賣をも兼營し、主として教育學術に關する圖書雜誌類を取扱ひ、至誠至純、日夜奮闘精勵せしかば業運漸次加はるに至れり。

斯くて業績加はるや、即ち明治三十三年の交より事業の大擴張を斷行すると共に専ら中等教科書の發行發賣を營業課目となし、而して最善の注意を拂つて其の取捨選擇を怠らず、君の主義たる「量より質」を以つて發行物の内容を吟味せしかば、月に年に全國各中等學校は勿論一般教育界より其の信認厚きを加へ、斯くて幾年かは夢の如くに過ぎ去り、今や斯界の白眉を以つて目さるゝに至りぬ。顧みるに、君が斯界に身を投じてより

茲に三十有八年、其の間終始一貫一道を

辿り、斯界の爲めはた又日本文化の向上發展に貢献すること甚大、而も君は成功を急がず、只それ事業の爲め一身を提げ已が生命を事業の上に確立し以つて不朽の文化を垂れんとす。「怠らず行かば千里の後も見ん、牛の歩みのよし遅くとも……」とは君の信條にして六十路を越ゆる君の意氣や壯、其の永き尊き體驗の象徴たる風貌や溫和、人格や崇高なり。今や我が「光風館」の名は天下に普ねし、而して同館より出版せらるゝ圖書の大部分が全國各中等學校に普ねく採用せられ、正に教育文化の泉我が光風館にその源を發するの觀を呈す。

君は過ぎし三十有八年の體驗を忍びつゝ、更に將來の發展へと孜孜としてこれ勉めて倦まず、而して閑日を讀書に圍碁に將棋に或は書畫骨董等あらゆる趣味に割愛す、蓋し當代立志傳の人と言はずして何ぞや。東京市外巢鴨宮下一八三四番地に現住し電話大塚二二三三八番たり。

浦口善爲君

正四位勳三等
日本醫學專門學校教授

君は東京府の人先代善養君の二男にして、明治五年七月を以つて生る。明治二十九年東京帝國大學理科大學物理科を卒業す。

然して明治三十一年海軍大學教授に任せられ、海軍機關學校教官、海軍大學校長等を歴任し、大正十二年辭して川崎工手學校長となり、尙ほ日本醫學專門學校教授を兼任し以つて現在に及ぶ、曩に官命を奉じて歐米各地に出張せしことあり夫人春子は東京府士族秋田玄性君の二女にして君との間に善之助君及び華子、久子等あり、現に東京市芝區松本町十一番地に住し電話高輪四一七〇番たり。

上野金太郎君

藥學博士
大日本麥酒株式會社監査役

君は東京府の人上野銓三郎君の三男に

して、慶應二年十月を以つて生る。明治二十四年東京帝國大學醫科大學藥學科を卒業するや聘せられて惠美須麥酒株式會社に入社し、同二十九年社命を帯びて斯業研究視察の目的を以つて獨逸に航し、同三十一年歸朝す。

斯くて其の蘊蓄を傾注して同社の爲め貢献すること甚大、明治三十九年朝日札幌兩會社と合併して大日本麥酒株式會社の成立を見るや、君推されて工務部長に擧げられ、後ち同社常務取締役を経て現に同社監査役として知らる。曩に明治四十一年藥學博士の學位を授けらる。

君に四女ありてきぬ子、あや子、紀子、はる子と呼ぶ、東京市麻布區筈町一六番地に現住し電話青山六三三八番たり。

浦野謙朗君

從七位勳六等功五級
辯護士 衆議院議員

君は愛知縣の人先代鏡平君の長男にして、明治十五年三月を以つて生る。夙に

辯護士を開業し、尙ほ縣民多數の輿望を擔つて衆議院議員に當選し現に中央政界に聲名あり。夫人甫子は岐阜縣の人福岡福右衛門君の二女にして君との間に金男君、伴一君、忠一君及び照子、泰子、周子等あり、現に愛知縣西加茂郡猿投に住す。

内ヶ崎作三郎君

衆議院議員
早稻田大學教授

君は宮城縣の人内ヶ崎作太郎君の長男にして、明治十年四月を以つて生る。明治三十四年東京帝國大學文科大學英文科を卒業するや、早稻田大學の聘に應じて同學に教鞭を執り、爾來、同學名教授として學生間の信望厚く、又同學理事として貢献すること甚大なり。

明治四十一年英國牛津大學に留學し、大正九年歐米及び支那地方を視察漫遊す君は常に文化運動を興して社會教化の爲めに盡瘁し、曩に國際聯盟協會理事に擧

げられ、大正十三年の總選舉に際し郷里宮城縣より推されて衆議院議員に當選し現に其の任にありて憲政會に屬し、博大なる識見と獨特の雄辯とを以つて知られ又數種の著書あり。夫人喜代子は東京府の人平岩恒保君の長女にして、東洋英和女學校を卒業し、君との間に浩一郎君、虔二郎君、英四郎君及び光枝子、玉枝子、幸枝子等あり、現に東京府北豊島郡巢鴨一四七〇番地に住し電話小石川四五七七番なり。

内田虎三郎君

正四位勳二等功五級
海軍中將

君は熊本縣の人内田繁太郎君の三男にして、明治五年七月一日を以つて生る。夙に熊本縣立高等中學校を卒業するや海軍兵學校に學び、後ち海軍大學校を卒業す爾來、累進して海軍中將に陞進す、其の間學術研究會議會員、水路部長を歴任す。趣味に讀書旅行あり。

夫人龍子は福岡縣の人山本徳三郎君の長女にして君との間に成志君、成和君及び富美子等あり、現に東京府豊多摩郡中澁谷三〇九番地に住す。

上原菊之助君

從四位勳四等
第四高等學校教授

君は岐阜縣の上原清三君の長男にして、明治四年八月を以つて生る。明治三十年東京帝國大學文科大學史學科を卒業し、後ち大學院に入りて專攻せり。曩に陸軍教授たりしが現に第四高等學校教授同校生徒監たり。

夫人惠津子との間に四男二女あり、現に金澤市池田町三番地に住す。

有働良夫君

農學博士 從四位勳三等
農林省技師

君は熊本縣士族有働宗龍君の長男にして、明治九年三月を以つて生る。明治三

十三年東京帝國大學農科大學を卒業するや直ちに農林技師に任す。

然して明治三十七八年日露戰役中農事情視察の爲め韓國に出張し、更に明治四十三年より大正元年に亘り産業組合及び農政視察の爲め歐米に差遣せられ、大正五年より同六年に亘り貿易事情調査の目的を以つて濠洲及び新西蘭に出張し、後ち農學博士の學位を授けらる。

夫人ハツエ子は熊本縣士族中原惇藏君の長女たり、現に東京市本郷區駒込曙町一番地に住し電話小石川七三〇番たり。

梅村惣之助君

宮城縣魚業株式會社取締役
仙臺魚市場株式會社取締役

君は宮城縣の人梅村惣五郎君の長男にして、明治元年一月を以つて生る。現に前記諸會社の重役たり。

夫人をたよ子と稱し宮城縣の人渡邊利三郎君の三女にして君との間に五男五女あり、現に仙臺市肴町二十番地に住し電

話四二七番たり。

上野季三郎君

正四位勳二等
宮内省大膳頭

君は秋田縣士族中田直慈君の令弟にして、法學博士中田薫君の叔父君に當り、元治元年三月を以つて生れ、後ち先代彌平君の養嗣子となる。

明治二十三年東京商科大學の前身たる東京高等商業學校を卒業するや職を官途に奉じ、爾來、領事館書記生、二等領事總領事、宮内大臣秘書官、式部官等を歴任し以つて現在に及ぶ。

夫人トク子は養父彌平君の長女にして君との間に太郎君、二郎君、三郎君及びエイ子、富美子、米子、美智子等あり、現に東京市赤坂區青山南町五ノ四五番地に住し電話青山一〇七〇番たり。

梅浦健吉君

合名會社大倉組參事
共同メルプ株式會社監査役

君は東京府の人太竹逸藏君の二男にして、明治十八年六月を以つて生れ後ち先代精一君の養嗣子となる。明治四十一年水産講習所を卒業するや直ちに實業界に投す。

現に合名會社大倉組參事及び共同メルプ株式會社監査役として敏腕を振ふのみならず、尙ほ入山採炭、鳴緑江製紙、日本化學工業、郡山電氣各株式會社の重役にして、且つ山本鑛業株式會社等を勤め今や、我が財界に令名あり。

夫人きみ子は茨城縣の人飯島正男君の令妹にして東京高等女學校を卒業し、君との間に一男あり、現に東京市麴町區永田町一ノ三〇番地に住し電話銀座三五一〇番たり。

上田卓君

佐治銀行常務取締役

君は兵庫縣の人上田孝之輔君の長男にして、明治十七年六月を以つて生る。明治四十一年早稻田大學商科を卒業するや直ちに地方財界に投じ、現に佐治銀行取締役として知らる。

夫人ゑん子は兵庫縣士族田村捨三郎君の長女にして君との間に卓郎君、泰三君及び孝子、道子、素子等あり、現に兵庫縣水上郡新井町に住す。

内田恒太郎君

大日本麥酒株式會社取締役
東京會館取締役

君は岡山縣の人内田武壽君の長男にして、慶應二年一月一日を以つて生る。夙に岡山縣立中學校を経て横濱高等商業學校專攻科英文簿記科を卒業す。

然して同郷の先輩馬越恭平君の三井物産株式會社横濱支店長たりし時代に同社に入りしが、後ち本店詰となり更に岡山

貯蓄銀行本店支配人を経て、大日本麥酒の前身エビス麥酒株式會社に入社す。

斯くてエビス、サツボロ、朝日の三社併合して大日本麥酒株式會社となるや、君は同社販賣掛長、商務課副課長、東京營業部長等を歴任し、現に同社取締役たる外東京會館取締役たり、趣味に讀書、將棋等あり。

夫人幾子は江田兼親君の長女にして京都府立第一高等女學校を卒業し君との間に俊一君、英二君及び由利子、敏子、璋子、千代子等あり、現に東京市麻布區廣尾町三五番地に住し電話高輪二五五〇番たり。

鵜澤宇八君

勳四等 千葉縣多額納稅者
神中鐵道株式會社取締役

君は千葉縣の人鵜澤彌右衛門君の長男にして、慶應三年五月を以つて生る。夙に東京專門學校及び慶應義塾等に學び、後ち實業界に投す。

現に前記の外日本亞鉛、大正水産、朝鮮製粉各株式會社の重役にして、曾つて千葉縣會議員、房總三鱗社長、衆議院議員等に擧げられしことあり。

夫人まさは千葉縣の人八木重四郎君の長女にして君との間に辰雄君あり、現に東京市芝區日蔭町一ノ一番地に住し電話銀座三九〇番たり。

宇垣一成君

正三位勳一等功四級
陸軍大將

君は岡山縣の人宇垣十七八君の令弟にして、明治元年六月を以つて生る。夙に陸軍に志し明治二十四年歩兵少尉に任官し、大正十四年八月陸軍大將に陞進す。其の間陸軍大學校を卒業し、參謀本部員、獨國駐在武官、陸軍省軍事課長、歩兵第六聯隊長、參謀本部第一部長及び總務部長、陸軍大學校長、東宮御學問所評議員、第十師團長、教育總監部本部長、陸軍次官等を歴任す。

浦邊襄夫君

實業家

君は千葉縣の人菰田貞藏君の二男にして、明治四年六月を以つて生れ、先代喜平君の養嗣子となる。明治三十年早稻田大學政治科を卒業するや、直ちに實業界に投ず。

爾來、明治製革株式會社々長たりし外ボルネオ護謨、共同生命保險各株式會社專務取締役及び由多加商會、土地興業、東京動産火災保險、浦邊商事、兩毛紡績各株式會社取締役、戦友共済生命保險、東機械ナット、大徳汽船、東京興業信託各株式會社監査役たりしことあり。

夫人いち子は養父喜平君の長女にして其の間に鶴子、幸子等あり、現に東京府豊多摩郡大久保町東大久保二三番地に住し電話番町二二三九番なり。

宇津木喜一君

神太物産株式會社社長

君は東京府の人宇津木孟紹君の長男に

内山好十君

内山小兒科病院長

君は長野縣の人上多條三郎君の令弟にして、明治五年二月を以つて生れ、後ち内山家に入りて其の家督を相續す。夙に獨逸に遊びドクトルメヂチーネの稱號を得て歸朝し、現に内山小兒科病院長として知らる。

現に東京市淺草區下平右衛門町十七番地に住し電話淺草四一五八番たり。

に知らる。

夫人トミ子は神奈川縣の人高島長政君の令妹にして其の間に勝正君、啓勝君、通勝君、康勝君、照勝君及び淳子等あり現に東京市芝區三田綱町四番地に住し電話高輪四二番なり。

上野初太郎君

室蘭建築株式會社監査役
北海道多額納稅者

君は北海道の人上野辨助君の長男にして、明治二年十二月を以つて生る。現に室蘭建築株式會社監査役にして且つ北海道多額納稅者として知らる。室蘭札幌通八二番地に現住す。

内池廉吉君

法學博士 從四位勳三等
東京商科大学教授

君は福島縣の人内池三十郎君の長男にして、明治九年十月を以つて生る。明治三十一年東京商科大学の前身たる東京高

宇田川啓輔君

東京運河土地株式會社取締役
東京製糖株式會社取締役

君は埼玉縣の人赤沼與三郎君の二男にして、明治七年八月を以つて生れ、後ち先代安太郎君の養嗣子となる。夙に東都實業界に投じ、現に前記の外櫻田機械製造株式會社監査役たり。

して、明治十四年四月を以つて生る。夙に實業界に活躍して敏腕を振ひ、現に樺太物産株式會社々長として知らる。

夫人を景子と稱し君との間に喜雄君、喜治君、正男君等あり、現に東京市麻布區我善坊町二十一番地に住す。

内海勝二君

男爵 從四位
實業家

當家は先代内海忠勝君より家名を擧ぐ忠勝君は舊山口藩士にして、兵庫縣斷獄局に出仕し後ち長野縣令、三重、兵庫、長崎、神奈川、大阪、京都各府縣知事、會計検査院長、内務大臣等を歴任し後ち貴族院議員に勅選せられ、明治三十三年特旨を以つて華族に列し男爵を授けらる君は其の二男にして、明治二十年一月を以つて生れ、同三十八年襲爵仰せ付けらる。明治四十五年慶應義塾大學政治科を卒業し、現にウトム研究所を設け、専ら印刷研究をなし又印刷業を營みて斯界

夫人いちは東京府の人杉浦太郎吉君の長女たり、現に東京市外砂町八郎右衛門新田三九一番地に住し電話墨田四四六二番たり。

宇野 朗君

醫學博士 樂山堂病院長
東京帝國大學名譽教授

君は静岡縣の人宇野陶君の長男にして嘉永三年十月を以つて生る。明治九年東京醫學校醫學部を卒業し、後ち東京帝國大學助教、同教授兼醫科大學第一醫院長心得及び第二醫院、東京帝國大學醫科大學教授兼同大學附屬醫院長等を歴任す現に正五位勳四等醫學博士にして東京帝國大學名譽教授、樂山堂病院長たり、曾つて明治二十二年歐洲に出張し日清戰役の際には戰地に差遣せられて功勞顯著なりき。

夫人いし子との間に八男四女あり、現に東京市本郷區弓町一ノ一四番地に住し電話小石川二三六九番なり。

浦田 清造君

京都府多額納稅者

君は京都府の人浦田清兵衛君の長男にして、明治十七年八月一日を以つて生る。夙に京都財界に投じ、現に京都府多額納稅者にして直稅二千八百余圓を納むるを以つて知らる。

夫人ひさ子は滋賀縣の人高野とく子の長女にして君との間に正三君、富久三君、健造君及び喜美子、フク子、壽美子等あり、現に京都市下京區寺町錦小路に住し電話中二六五五番たり。

宇野要三郎君

正五位勳五等 判事
東京地方裁判所部長

君は青森縣の人宇野清左衛門君の二男にして、明治十一年九月を以つて生る。明治三十七年京都帝國大學法科大學を卒業するや、更に大學院に入りて専攻す。斯くて同年官途に就き、司法官試補となり、爾來、神戸地方兼同區裁判所判事

右近和作君

日本海上保險株式會社常務取締役

君は福井縣の人八十島五郎右衛門君の三男にして、明治九年三月を以つて生る。明治三十四年早稻田大學英語政治科を卒業するや直ちに實業界に投ず。

斯くて君の蘊蓄を傾倒し、加ふるに天賦の敏腕を縦横に揮ひしかば忽ちにして斯界に頭角を現はし、現に前記の外日海興業、大阪工商、右近商事、大東海上火

宇川雄太郎君

三十八銀行事務取締役

君は長野縣士族宇川榮次郎君の長男にして、明治五年八月を以つて生る。明治三十二年東京帝國大學法科大學政治科を卒業するや直ちに實業界に投ず。

曩に浪速銀行主事、同神戸支店長、三十八銀行取締役兼神戸支店長等を歴勤し現に三十八銀行事務取締役たり。

夫人あさ子は東京府の人田中元三郎君の長女にして、其の間に彰君及び繁子等あり、現に兵庫縣武庫郡住吉町に住し電話御影七一九番なり。

内山安兵衛君

五口市鐵道株式會社長

君は東京府の人内山善右衛門君の長男にして、慶應元年十二月を以つて生る。

現に五口市鐵道株式會社社長にして當地の有力者として知られ、曾つて神奈川縣會議員、東京府會議員、同郡々會副議長等に擧げられ、又衆議院議員として中央

上田 宗雄君

男爵 正四位

當家は代々廣島藩家老にして、一萬七千石を領し相傳へて先々代謙翁君に至る謙翁君は維新の際藩主を輔けて國事に奔走し、先代龜次郎君其の後を享け、明治三十三年特旨を以つて華族に列し男爵を授けらる。

君は先代龜次郎君の四男にして、明治十六年五月を以つて生れ、明治四十年襲爵仰せ付けらる。夙に早稻田大學を卒業するや直ちに故郷に歸り、現に當地にありて權勢を振ふ。

夫人松枝子は東京府の人鴻雪年君の二女にして、君との間に武子、幸子、茂子等あり。現に廣島市大手町七丁目に住し電話六一〇番たり。

災保險、百三十銀行各株式會社の重役として知らる。曾つて米國に留學せしことあり。

植松 良三君

千代田火災保險株式會社取締役
東京報知機株式會社監査役

君は山形縣の人先代學君の長男にして明治三年十一月十五日を以つて生る。夙に慶應義塾を卒業するや時事新報編輯部に入りて編輯に専念たりしが、後ち千代田火災保險株式會社に入社し、現に同社取締役たる外東京報知機、千歳火災海上保險各株式會社の重役たり。

夫人を貞子と稱し加藤彌四郎君の長女たり、現に東京市外淀橋町柏木一六〇番地に住し電話四谷一二八一番たり。

生方大吉君

利根銀行頭取

新治電氣株式會社社長

君は群馬縣の人生方太吉君の長男にして、明治十五年三月一日を以つて生れ、後ち前名賢通を改稱す。夙に學業成るや直ちに地方財界に活躍し、現に前記の外利根製糸株式會社監査役たり。

尙ほ地方財界に名あるのみならず群馬縣郡部選出代議士として中央政界に知らる、夫人をひさ子と稱し星野寛治君の令妹たり、群馬縣利根郡新治に本宅を有し東京市外田端三二一番地に現住す。

上野兵松君

株式會社上野兵松商店社長

君は茨城縣の人竹政定平君の五男にして明治十一年八月四日を以つて生れ、同四十年二月先代上野兵松君の養嗣子となり、前名要之助を兵松と改稱す。

曩に關東窓硝子商會株式會社取締役たりし外合名會社東明商會、合名會社上野

商店各代表社員たりし事ありしが、現時は前記會社の社長たると共に上野合資會社代表社員にして、板硝子問屋として東都斯界に重きをなす。

夫人しげ子は東京府の人上野兵松君の長女にして君との間に恭男君、兵藏君及び千代子、あや子、普佐子、静江子等あり、現に東京市神田區鍛冶町二番地に住し電話大手六九〇五番なり。

卜部直輔君

東洋生命保險會社直營部長

其の淵奥なる學理と其の徹底せる人生觀とを提げて、今や新日本財界の彼方へ靈光を目がけて躍進し、吾等は爲すべく吾等は進むべしとや、常に其の第一線に活躍し、新進の名あるを我が卜部直輔君其人なりとす。

君は埼玉縣の人卜部龜太郎君の長男にして、明治二十一年九月六日を以つて同縣兒玉郡大澤村猪俣に生る。夙に才學群を抜き、東京開成中學を卒ふるや直ちに

東京商科大学の前身たる高等商業學校に入學し、優秀の成績を以つてを卒業す。

斯くて直ちに實業界に投じ、東洋生命保險株式會社に入りて格勤精勵、累進して同社東京支店長に就任し、後ち獨力にて新に同社保險部直營部を開設して自ら同部を總裁し、今や内外多事、而して多端、前途の大成期して待つべきなり。

君や資性闊達、識博大にして讀書を愛好し、其の哲學宗教觀や、思想藝術觀は眞に透徹し、諄々として三寸の舌端より進る卓越せる論議や敬すべく、時に臨んでパンフレットを刊行し、以つて江湖に頌つを一種の趣味となす、又偉なる哉現に東京市本郷區肴町十三番地に住し電話小石川七三三四番たり。

内丸最一郎君

工學博士 從四位勳三等

東京帝國大學工學部教授

君は福岡縣の人内丸民平君の長男にして、明治十年九月を以つて生る。明治三

上野午之助君

株式會社丸明運送店社長

我が通運界に其の令名高き上野午之助君は、明治三年九月二十七日を以つて茨城縣西茨城郡北川根村に生る。幼にして慧敏學を好むこと切にして早くも神童の稱あり、長ずるに及んで學業に志し、郷里にありて漢學の研鑽を積み、更に進んで商大の前身たる東京高等商業學校に入り同校を卒業せり。

然して暫らく鐵道院にありしが後ち丸明運送店を繼承して業務に精勵し、斯くて組織を變更して株式會社となし、現に同社々長として知らる。

夫人をばま子と呼び君との間に欽一君及び久子等あり、現に東京市小石川區大塚坂下町六二番地に住し電話大手三一三一番なり。

宇田川清三良君

實業家

君は東京府の人宇田川權藏君の長男に

して、明治九年三月を以つて生る。祖先よりの資産家にして、君又其の自然の恩恵を豊かに受けし幸運兒にして、夫人ヨウ子との間に三男三女あり。現に東京市外大井町出石五一八五番地に住す。

内池三十郎君

第七銀行頭取

福島第二重株式會社取締役

君は福島縣の人内池三十郎君の長男にして、安政元年十二月を以つて生る。夙に實業界に志し曩に福島精練製絲、同三器商會各株式會社取締役たりしが現時は第七銀行頭取たる外百七貯蓄銀行、福島羽二重、同土地、同紡績、同誠臺、東華生命保險、信達軌道各株式會社取締役福島銀行、臺東製糖、日本油脂工業各株式會社監査役たり。

夫人サキ子は同縣の人武藤民作君の二女にして其の間に五男二女あり、現に福島市大野五一番地に住す。

十五年東京帝國大學工科大学を卒業するや直ちに同學助教に任じ大正六年同學教授に陞進し、而して翌年工學博士の學位を授與せらる、會つて機械學研究の目的を以つて歐米各國に留學せしことあり夫人タケ子は神奈川縣の人岩田武彌太君の長女にして、君との間に正三君及びヨネ子、キヨ子、ミヨ子、トヨ子等あり現に東京市外巢鴨上駒込九〇番地に住し電話小石川九八〇番たり。

瓜生治君

實業家

君は舊山口藩士安村治孝君の二男にして、明治四年七月を以つて生れ後ち先代震君の養嗣子となる。夙に帝國大學文科大學を卒業し、後ち破産せざりし前の高田商會及び現東洋汽船株式會社等を歴勤せり、資産家として知らる。

現に東京市小石川區大塚町五五番地に住し電話小石川一八二一番たり。

内田 清君

福井銀行監査役
福井貯蓄銀行取締役

君は福井縣の人赤根やす子の従弟君にして、明治三年十一月を以つて生れ、後ち先代清君の養嗣子となる。夙に地方實業界に活躍して其の敏腕を振ひ、現に前記の外株式会社福井鐵工所、北陸絹布各株式會社の重役にして、且つ福井縣多額納税者たり。

夫人とく子は神奈川縣士族山室慶三君の令妹たり、福井縣佐佳枝中に現住す。

上田 萬年君

文學博士 正三位勳一等
貴族院議員 東大文學部教授

君は愛知縣士族上田虎之丞君の長男にして、慶應三年一月を以つて生る。明治二十一年東京帝國大學文科大學和文學科を卒業し、更に獨逸及び佛國に留學し同三十三年文學博士の學位を授けらる。爾來、文部省専門學務局長兼同省參與

官、外國語學校長心得、東京帝國大學文科大學教授、同學長、同部長等を歴任し、後ち東京帝國大學文學部教授に任じ、疊に貴族院議員に勅選せられ以つて現在に及ぶ。

夫人つる子は東京府士族村上楯朝君の長女にして君との間に壽君及び千代子、富美子等あり、現に東京市小石川區觀籠町一六一番地に住し電話小石川四六七六番たり。

上野山重太夫君

東京麻糸紡績會社社長
日華紡績株式會社取締役

君は北海道の人石戸德之助君の令兄にして、明治四年七月を以つて生れ、後ち先代たく子の養嗣子となり前名友吉を改稱す。明治三十一年東京帝國大學法科大學を卒業するや、直ちに實業界に投ず。曾つて富士瓦斯紡績株式會社調査部長、北陸水電株式會社專務取締役、日本電化工業株式會社監査役等の要職を歴勤し現

に前掲會社取締役社長たる外日高川水力電氣、杖立川水力電氣、九州水力電氣、日華紡績各株式會社の重役として令名斯界に高し。

夫人トセ子は大分縣の人奥山六三郎君の令妹にして君との間に重太郎君、重夫君、陽一君及びチセ子等あり、現に東京府豊多摩郡中澁谷七三番地に住し電話青山一八九七番なり。

潮 惠之輔君

從四位勳二等
内務省地方局長

君は故判事潮恒太郎君の令弟にして、明治十四年八月を以つて生る。明治四十年東京帝國大學法科大學を卒業するや、同年直ちに文官高等試験に登第す。斯くて職を官途に奉じ爾來、長野縣事務官、内務事務官兼内務書記官、内務省參事官、地方局事務官、内務省衛生局長等を歴任し、以つて現在に及ぶ。夫人實根子は男爵益田兼施君の令姉に

宇田友四郎君

高陽銀行頭取
貴族院議員

君は高知縣の人宇田長藏君の二男にして、明治元年三月を以つて生る。夙に實業界に投じ、現に高陽銀行頭取たる外土佐セメント、白洋商船、土佐電氣各株式會社社長にして且つ組谷川水電、土佐電化工業、大東漁業各株式會社重役たり。疊に高知縣郡部より推されて衆議院議員に當選し、大正十四年九月多額議員に當選し、議政府に列して國政に參與するの光榮を擔へり。夫人兼子は高知縣の人松本彦吉君の令妹にして君との間に二女あり、現に高知市鷹匠町に住す。

植 場 平君

高槻銀行取締役
勳三等 衆議院議員

君は香川縣の人高橋宗吉君の三男にして、安政二年三月を以つて生れ、後ち植場家に入りて其の家督を相續す。

現時は高槻銀行取締役として關西財界に令名あるのみならず、明治三十五年以來衆議院議員たること前後八回、現に其の任にありて政友本黨に屬す、疊に大阪

して、君との間に遙子、照子、光子等あり、東京市牛込區市ヶ谷藥王子町四十五番地に現住し電話牛込三二〇八番たり。

裏松友光君

子爵 從四位
貴族院議員

當家は内大臣藤原鎌足の後裔正三位權中納言烏丸廣賢の二男資清の後なり、資清後に至り一家を創立して姓を裏松と稱す、夫より七世を経て先代其光君に至り明治十七年子爵を授けらる。

君は其の二男にして、明治十八年十一月を以つて生れ、大正四年襲爵仰せ付けらる。明治四十四年東京帝國大學法科大學政治科を卒業するや横濱正金銀行に入り、後ち辭して現時は貴族院議員たり。

夫人ミチ子は東京府士族貴族院議員橋本圭三郎君の長女にして君との間に園子あり、現に東京府下代々幡町代々木山谷一六九番地に住し電話四谷七〇二番たり

牛塚虎太郎君

正四位勳二等
宮城縣知事

君は富山縣の人牛塚太平君の長男にして、明治十二年四月を以つて生る。明治

府會議員に推され且つ大阪府大冠町長たりしことあり。

夫人コズエ子は養父植場惣治君の三女たり、現に大阪府三島郡大冠町に住す。

右近權左衛門君

日本海上保險株式會社社長
右近商事株式會社社長

君は福井縣の人先代權左衛門君の長男にして、明治二十二年十一月を以つて生れ、後ち前名義太郎を改稱す。大正三年慶應義塾理財科を卒業するや直ちに關西實業界に投ず。

斯くて海運業を營み傍ら前記各會社々長たる外日海興業、朝鮮電氣各株式會社の重役にして、且つ福井縣多額納税者として直税二萬七千八百六十圓を納むるを以つて知らる。

夫人政子は石川縣の人時國甫太郎君の二女にして、君との間に保太郎君、保雄君、義三君及び富久子等あり、現に大阪府市西區西長堀北通五ノ十四番地に住し電話四谷四七五〇番たり。

話新町三九九番たり。

内野五郎三君

太平生命保險會社取締役
大平火災海上保險會社取締役

君は千葉縣の人滑川藤兵衛君の令弟にして、明治六年二月を以つて生れ、後ち先代喜助君の養嗣子となる。夙に實業界に投じ、現に前記の外明治製革、内野農事、千代田製革各株式會社監査役にして且つ武藏野鐵道株式會社相談役たり。

夫人こご子は養父喜助君の長女にして君との間に晋君、謙君、恂君、完君及びさく子、よね子、きく子等あり、現に東京市麴町區富士見町六ノ九番地に住し電話四谷四七五〇番たり。

鵜澤總明君

法學博士 勳三等
大東文化學院教授

君は千葉縣の人鵜澤已之松君の長男にして、明治五年八月を以つて生る。夙に

上京して第一高等學校に入り尙ほ進んで同三十二年東京帝國大學法科大學を卒業するや、直ちに辯護士事務所を開設して法曹界に活躍し漸次斯界に重きをなし、後ち法學博士の學位を授けらる。

明治四十一年以來衆議院議員たること前後六回に及び又曾つては立教大學、青山學院、慶應義塾大學、明治大學各講師たりしが現時は辯護士にして明治中學校長並に大東文化學院教授たり。

夫人いちは神奈川縣の人今井宗三郎君の四女にしてフェリス高等女學校を卒業し、其の間に晋君、昌和君及び總子、明子等あり、現に東京市外千駄ヶ谷町四五六番地に住し電話青山四七〇番たり。

白田有信君

日本化學工業株式會社常務取締役

君は岡山縣の人古田峯治郎君の三男にして、明治十八年一月を以つて生る。現に日本化學工業株式會社常務取締役として知らる。

瓜生外吉君

男爵 正三位勳一等功二級
海軍大將

君は舊加賀國大聖寺藩士瓜生吟禰君の二男にして、安政四年一月二日を以つて生る。明治五年海軍兵學校に學び、同年六月米國に留學し、同十四年海軍中尉に任せられ大正元年海軍大將に陞進す。

其の間浪速副長、横須賀鎮守府海兵團長、佛國公使館附、赤城、扶桑、松島、八島各艦長、常備艦隊第二艦隊各司令官横須賀鎮守府司令長官等を歴補し、日露の役には仁川港に敵艦を撃破して偉勳を立て、明治三十九年二月勳一等に叙せられ功二級を賜ひ、同四十年九月功に依り特に男爵を授けらる。曩に桑港博覽會副總裁、貴族院議員たりしことあり。

夫人しげ子は男爵益田孝君の令妹にして、從五位前女子高等師範學校教授として我が國女流教育界に知られ、君との間に剛君、勇君及び千代子、しのぶ子、榮枝子等あり、現に東京府北豊島郡日暮里

夫人をシズ子と稱し大阪府の人渡邊ユキ子の長女にして君との間に光太郎君、百合子等あり、東京市本所區横綱町二ノ二番地に現住す。

上田兵吉君

男爵 正四位勳三等功四級

當家は先代有澤君より顯はる、有澤君夙に陸軍に志し明治五年陸軍大尉に任じ同四十五年陸軍大將に陞進す。其の間廣島鎮臺中隊長、第五師團參謀長、西部都督參謀長、陸軍大學校長、歩兵第二十二旅團長、教育總監部參謀長、第五、第七及び近衛各師團長、臺灣及び朝鮮各軍司令官等を歴任し、明治四十年特旨を以つて華族に列し男爵を授けらる。

君は德島縣杉崎奏太郎君の令弟にして明治二年二月を以つて生れ、同二十八年六月先代有澤君の養嗣子となり、大正十年十二月襲爵仰せ付けらる。曾つては長こくも 明治天皇の侍從武官として側近に奉仕し又 大正天皇に仕へ且つ歩兵第

元金杉一九六番地に住し電話淺草六〇六二番たり。

上野 正雄 君

伯爵 從四位勳六等
海軍大尉

當家は故北白川宮能久親王殿下より出づ、君は北白川宮永久王及び竹田宮恒徳王の叔父君にして、侯爵小松輝久君の令弟に當り、明治二十三年六月を以つて生れ、明治三十年七月華族に列し伯爵を授けらる。

夙に海軍兵學校を卒業し現に海軍大尉たり、夫人惠以子は伯爵伊達與宗君の叔母君にして君との間に正恭君、龍雄君、忠雄君等あり、佐世保福田町三十三番地に現住す。

上田 實 君

勳六等 實業家
神戸商業會議所議員

君は兵庫縣の人岡田宗三郎君の三男に

して、明治十四年四月を以つて生れ、後ち先代保兵衛君の養嗣子となる。夙に第五高等學校醫學部を卒業するや直ちに實業界に投ず。

斯くて藥種商を營み淺川藥局と稱して神戸界限に聲名あり、尙ほ神戸商業會議所議員にして、曩に日本藥劑師會兵庫縣支部長、神戸藥種賣藥同業組合長、神戸市西區會議員たりしことあり。

夫人とめ子は兵庫縣の人植木忠次郎君の三女にして君との間に保孝君、保實君及び静子、種子、健子等あり、現に神戸市水木通り一ノ四七番地に住し電話本局一六七二番なり。

宇佐川 一正 君

男爵 正三位勳二等功二級
陸軍中將 貴族院議員

君は舊山口藩士藤村太郎右衛門君の四男にして、嘉永二年十一月を以つて生れ、後ち先代久平君の養嗣子となる。夙に軍籍に投じ明治三十九年陸軍中將に陞進す

其の間第一、近衛各師團參謀、第一師團參謀長、軍務局軍事課長、歩兵第二旅團長、軍務局長、軍事參議員幹事長等を歴任し、日露戦役の功に依り特旨を以つて男爵を授けらる。又曾つて東洋拓殖株式會社總裁たりしことあり、現時は貴族院議員として國政に參與し功勞尠ならず。

現に東京市外千駄ヶ谷町八七〇番地に住し電話四谷五〇四番たり。

浦田 久吉 君

北海道多額納稅者

君は秋田縣の人浦田平兵衛君の四男にして、安政四年十二月を以つて生る。夙に北海道に渡りて材木商を營み、現に北海道多額納稅者として直稅三千二十余圓を納むるを以つて知らる。

夫人ヒサ子は秋田縣の人平川甚太郎君の二女にして、君との間に平吉君、久三郎君等あり、現に北海道函館市眞砂町四番地に住す。

梅村 貞明 君

從四位勳四等 辯護士
帝國海軍協會常務理事

君は東京府士族梅村貞友君の長男にして、明治元年四月二十七日を以つて生る。明治二十五年東京帝國大學法科大學英法科を卒業し、同二十五年司法官試補となり、爾來、地方海員審判所理事官兼船舶試驗所試驗官、高等海員審判所審判官、海事局長及び地方海員審判所長、逓信管理局書記官、東部逓信局海事部長、北海道逓信局長等を歴任す。

然して大正九年官を辭して辯護士を開業し現に其の傍ら帝國海軍協會常務理事日本海員救濟會理事等の要職にあり。

夫人たね子は東京府士族前川茂矩君の三女にして東京府立高等女學校を卒業し君との間に一男ありて貞夫君と呼ぶ、現に東京市芝區高輪南町三〇番地に住し電話高輪一〇一七番なり。

上野 精一 君

朝日新聞社事務取締役

君は大阪府の人上野理一君の長男にして、明治十五年十月を以つて生る。夙に學に厚く學業順を追ふて進み、明治三十年東京帝國大學法科大學獨法科を優秀の成績を以つて卒業す。

現に東西朝日新聞社事務取締役として内外の社務を執筆し、我が國文化の開發に貢献すること甚大にして、且つ、民衆啓蒙の先鋒となつて活躍し、其の令名や噴々たり。

夫人むめ子は子爵九鬼隆輝君の令妹にして、君との間に淳一君及び千代子、正子等あり、現に大阪市東區平野町一ノ五番地に住し電話本局一三九番たり。

上田 彌兵衛 君

從七位勳四等
大日本石油鑛業會社取締役

君は兵庫縣の人武田三衛君の二男にして、明治十三年九月を以つて生れ、後ち

先代彌兵衛君の養嗣子となる。明治三十三年大阪高等商業學校を卒業するや直ちに實業界に投ず。

斯くて大阪商船株式會社に入社せしも同年一年志願兵として入營し、後ち日露の役勃發するに及んで君出征し、後ち陸軍二等主計に進み勳六等を賜はる。

爾來、米穀同屋を營み且つ大正六年以來大阪府より推されて衆議院議員に當選すること前後二回、現に東京米穀商品取引所理事たる外南洋護謨拓殖、大阪製鐵所、大日本石油鑛業各株式會社取締役として知らる。

夫人瀧子は兵庫縣の人坂口吉藏君の令妹にして京都女學校を卒業し、君との間に延彌君、能弘君及び千鶴子、美子、綾子、美代子等あり、現に東京府下千駄ヶ谷町四五〇番地に住す。

内田 信也 君

勳三等 實業家
衆議院議員

君は茨城縣士族内田誠太郎氏の令弟にして、明治十三年十二月を以つて生る。明治三十八年東京高等商業學校を卒業するや直ちに實業界に投ず。

現に海運業を營み内田汽船、内田商事各株式會社の社長たる外朝日海上火災保險、内田造船、國際汽船各株式會社取締役にして、曩に茨城縣那部より推されて衆議院議員に當選し、田中政友會内閣成立と共に海軍政務次官に任せらる。夫人ます子は兵庫縣の人山田雪枝子の叔母君たり。現に東京市麻布區三河臺町二八番地に住し電話青山四九六七番たり

内海長太郎 君

日榮商事(株)社長

君は東京府の人内海藤之丞氏の令弟にして、明治十四年一月を以つて生る。夙に實業界に志し入りて活躍大いに努め、

現に前記の外東雲商會社長たり。

現に本郷區神明町十二番地に住す。

内山丑太郎 君

神奈川縣多額納稅者

君は神奈川縣の人内山定治氏の三男にして、明治十年十一月を以つて生る。現に神奈川縣多額納稅者として直税三千七百四十余圓を國家に奉納す。現に横濱市常盤町二ノ廿一番地に住す。

植原悦二郎 君

正五位 前外務次官 衆議院議員

バチエラー・オブ・アーツ

ドクトル・オブ・サイエンス

君は長野縣の人植原繁太郎氏の二男にして、明治十年五月十五日を以つて同縣南安曇郡明盛村に生る。夙に米國に航し華盛頓州立大學に學び

明治四十年優秀の成績を以て卒業しバチエラー・オブ・アーツの學位を受け、更に英國に渡つて倫敦大學大學院に學びドクト

ル・オブ・サイエンスの學位を授けられ、特に其著書は政治經濟科學に貢獻する所大なりとしてアダムスミス銀牌を與へらる

然して留學中米國西北新報記者、日米商報社長、華州日本人會副會長を勤め、且つ日英博覽會、巴奈馬太平洋萬國博覽會各事務囑託として勤務せり。

斯くて君は多年英米の最高學府に於て研鑽を積みて歸朝するや聘せられて東京工業大學講師及び明治大學教授、立教大學教授に任じ、尙ほ大正六年以來衆議院議員として議政壇上に君獨特の熱辨を振ひ、今や立憲政友會に重きをなし我が政界の花として知らる。

大正十三年護憲三派の聯立内閣成るや逋信參與官に擧げられ昭和三年田中内閣成立するや外務參與官に任せらる。君又著書多く今其重なるものを擧ぐれば、ポリテクナル・デウ・エロップメント・オブ・ジャパン、日本改造、英國の産業革命、日本民權發達史、立憲代議政体等なり。

夫人彰子は津田英學塾、日本女子大學

國文科、米國ジョージヤ大學の卒業にして君との間に康之君、賢二君及び其枝子

和子等あり、現に東京市赤坂區青山高樹町一二番地ノ五號に住し電話青山四〇八〇番なり。

上田 勘兵衛 君

上田勘兵衛商店常務取締役

君は京都府の人上田勘兵衛君の二男にして、明治九年九月を以つて生れ、前名豊三郎を改稱す。夙に京都財界にありて西陣織物商を營み、現に上田勘兵衛商店株式會社常務取締役として知らる。

夫人たね子は滋賀縣の人清水藤三郎君の令姉にして、君との間に勘君、隆三君及びきみ子、きぬ子、惠美子等あり、現に京都市下京區不明門松原に住し電話長下三〇八番たり。

上田市 治郎 君

實業家

君は滋賀縣の人岸田伊之助君の三男に

して、明治十一年十二月を以つて生れ、幼にして上田家の養嗣子となる。夙に郷

里に於て普通教育を了し、更に土地の儒僧旭洞眞師に就き漢數學を學び其の造詣淺からざるべし。

然して、明治二十八年年齒僅かに十八歳にして大津市なる近江麻糸紡織會社に入り、専心製麻の技術を研究し更に製品販賣會計事務等を執掌し、後ち同社が日本製麻株式會社と改稱せられ、明治四十年帝國製麻と改稱せらるゝや同社會計課長の要職に就き、大正二年北海道、札幌各支店長を歴勤す。

斯くて同社が斯界に獨占的傾向あるを看破し、新に會社創立を畫するに當り聘せられて札幌支店長を辭し、其の創立を補佐し、大正三年二月日本製麻株式會社の創立と共に入りて同社理事に任じ、經理部長より支配人に昇り爾來、君が敏腕を縦横に振ひ社業益々隆盛に赴きたりしが、大正十五年病の故を以つて同社を辭す。現に東京市芝區二本榎町二番地に

住し電話高輪一一六〇番なり。

宇野 哲人 君

文學博士 正五位勳五等

君は熊本縣士族宇野文九郎君の四男にして、明治八年十一月を以つて生る。明治三十三年東京帝國大學文科大學漢文科を卒業し更に大學院に入りて専攻す。

爾來、東京高等師範學校教授、東京帝國大學文科大學教授兼東京高等師範學校教授等を歴任し、尙ほ清獨兩國に留學せしことあり。

夫人ひで子は東京府士族三宅正信君の長女にして其の間に四男二女あり、現に東京市小石川區竹早町八二番地に住す。

烏賀陽 然良 君

法學博士 從四位勳三等

京都帝國大學法學部教授

君は京都府の人烏賀陽然問君の長男にして、明治九年六月を以つて生る。明治三十六年京都帝國大學法學部大學を卒業す

然して身を教育界に投じ、神戸高等商業學校教授に任じ、明治四十三年民法及び商法研究の爲め獨佛へ留學し、大正八年法學博士の學位を授けられ、同年京都帝國大學法學部教授に任じ以つて現在に及ぶ。

夫人たつ子は京都府の人福田たね子の二女にして、君との間に恒正君、眞彦君、重徳君、忠純君、英彰君、博嗣君、和之君、豊君及び幸子等あり、現に京都市上京區吉田神樂岡八番地に住し電話上二八一一番たり。

内田良平君

黒龍會々長

君は福岡縣の人内田良五郎君の二男にして、明治七年二月二十一日を以つて生る。幼にして覇氣に富み青雲の志を抱いて東都に上るや、講道館に入り遂に柔道五段の免狀を受けたり。

たま／＼明治二十七年朝鮮に東學黨の亂起るや、鈴木天眼君等と共に天祐俠を

組織し東學黨を援けて大いに朝鮮改善に奔走し、又彼の日清戦役の際には裏面に於て國家の爲めに活躍し、戦後三國干渉に逢ふや悲憤慷慨措く能はず、露西亞腐懲と我が大陸政策とを標榜して大連より西比利亞を横斷して露都に赴き、歸來するや露西亞亡國論、露國東方經營圖面全部を著し、大いに主戦論を鼓吹せり。

然して日露戦役後韓國統監府の聘により渡韓し、日韓併合に盡瘁すること甚大なりしが、後ち東京に歸り依然對外問題に盡力し、尙ほ社會問題に對する熱烈なる研究家實行家として名高し。

夫人かめ子は富岡金藏君の長女にして君との間に年惠子あり、現に京都市赤坂區新町五ノ七番地に住し電話青山五一六〇番なり。

宇都野 研君

醫學博士

君は愛知縣の人宇都野式君の長男にして、明治二十六年八月十五日を以つて生れ、後ち前名正太郎を改めて嚴父の名を襲ふ。夙に學業を卒ふるや、志を實業界に抱き、即ち入りて君の敏腕を振ひて斯界に名を馳す。

現に合資會社梅岡本店代表社員にして且つ東京府多額納稅者として直稅六千七百三十余圓を納むるを以つて知らる。

夫人愛子は千葉縣の人庄司和三郎君の令妹にして、日本女子大學英文科を卒業し君との間に房子、富子等あり、現に京都市本郷區湯島天神町一ノ一〇三番地に住し電話下谷四一四番たり。

宇佐美薰次君

信越電力株式會社監査役

君は島根縣の人津田平君の三男にして明治六年三月を以つて生れ、後ち先代要人君の養嗣子となる。

夙に大志を抱いて東上し、直ちに東都實業界に投じ、而して縦横の敏腕を振ひしかば一躍斯界に重きをなし、現に信越電力株式會社監査役たり。

現に京都市赤坂區青山南町四ノ三番地に住し電話青山一五〇八番たり。

梅岡平七君

合資會社梅岡本店代表者

東京府多額納稅者

君は東京府の人梅岡平七君の二男にして、明治二十六年八月十五日を以つて生

て、明治十年十一月を以つて生る。明治四十一年東京帝國大學醫科大學小兒科を卒業するや直ちに宇都野小兒科病院を開設し以つて今日に及ぶ。

夫人澄子は和歌山縣の人醫學博士田村昌君の令姉にして君との間に紀君及び百合子、鈴子、祥子等あり、現に京都市本郷區東片町三十三番地に住し電話小石川四九六二番たり。

宇田 尙君

東海興業株式會社社長

大陸貿易株式會社社長

君は栃木縣の人安田廉平君の四男にして、明治十四年十二月十二日を以つて生れ、後ち先代藤房君の養嗣子となる。明治四十三年中央大學經濟科を卒業す。

然して北白川宮家に奉仕し、後ち實業界に投じて君獨特の才腕を振ひ、現に前記會社の社長たるのみならず、日本印刷株式會社專務取締役にして、今や我が財界一方の重鎮として知らる。

て、明治二十六年八月十五日を以つて生れ、後ち前名正太郎を改めて嚴父の名を襲ふ。夙に學業を卒ふるや、志を實業界に抱き、即ち入りて君の敏腕を振ひて斯界に名を馳す。

梅澤惠三郎君

群馬銀行監査役

群馬縣多額納稅者

君は群馬縣の人先代正造君の二男にして、明治七年八月二十五日を以つて生る。夙に普通教育を卒ふるや、直ちに地方實業界に投す。

斯くて幾多事業會社に關係して君の才幹を自由に發揮し、現に群馬銀行監査役たる外上毛木工株式會社取締役にして、且つ縣下多額納稅者として知らる。

夫人ひろ子は群馬縣の人松原徳次君の長女にして君との間に庫太郎君、萬次郎君、治三郎君、秀四郎君及びこと子、秋子等あり、現に群馬縣前橋市諏訪町五十七番地に住す。

漆 昌 巖 君

勳三等 品川町長

日東製氷(株)監査役

君は三重縣の人加藤武右衛門氏の二男にして、嘉永三年一月一日を以て美濃國石津郡江内村に生れ後漆姓を冒す。

夙に身を佛門に投じ、明治元年上京、芝増上寺の學寮に入りて佛典を研究して造詣を深くし、同七年北品川宿法禪寺の住職に任じ、社會教化に盡瘁せしも同三十年故ありて還俗す。

斯くて實業界に投じ、品川氷商會を創立して其の取締役に任じ、更に同三十二年馬車會社並に富貴麥酒會社等を設立して各社長に就任して敏腕を振ひぬ。

是より先同三十一年品川町會議員に擧げられ次いで荏原郡會議員となり同議長に擧げられ、更に明治三十五年八月第七回の總選舉に際し東京府郡部より推されて衆議院議員に選ばれ、爾來、當選すること前後六回、日露事件の功により勳四等に叙し、日獨事件の功により勳三等に

陞叙し旭日章を賜ふ。

大正七年十月擧げられて品川町長に任じ以て今日に至るまで名町長として町民の尊稱の的となり、曩に品川白煉瓦、京濱運河、小笠原水産各株式會社監査役たりしが現時は日東製氷株式會社監査役たり。

趣味に書畫、骨董あり、現に東京市外品川町北品川宿八十二番地に住す。電話高輪二〇一六番

宇 川 濟 君

正五位勳三等功五級

海軍中將 第一遣外艦隊司令官

君は長野縣士族宇川雄太郎氏の令弟にして、明治十二年十二月を以て生る。

明治三十三年海軍兵學校を卒業するや軍籍に投じ、累進して昭和三年十二月海軍中將に陞進す。

其の間吳海軍人事部長兼吳鎮守府人軍部長、横須賀鎮守府參謀長、第一遣外司令官等を歴任以て現在に及ぶ。

夫人るく子は東京府の人田中元三郎氏の二女にして其の間に毅君、和子等あり現に本郷區曙町十六番地に住す。電話小石川六五〇八番

内 田 隆 君

正五位勳四等

臺灣總督府殖産局長

君は仙臺藩の舊家長田家の出たり、後ち母堂方の絶家を再興して内田姓を冒すに至れり。

夙に第二高等學校を経て東京帝國大學に學び、明治四十一年同法科大學獨法科を優秀の成績を以て卒業す。

斯くて身を本邦實業界に投じ、東洋拓殖株式會社に入りて精勤すること約三年後ち職を官途に轉じ朝鮮總督府に勤務せしが、たま／＼寺内内閣成立するや擢んでられて青島民政の創始に當り、爾來、所謂山東引渡に至るまで五ヶ年青島守備軍民政部の要職に就任、此の間大連に於ては彼の有名なる阿片問題勃發せるに拘

らず、ひとり青島のみは何等の問題をも惹起することなく民政有終の美を濟せしことは實に同君の公明正大なりしを立證するに足るべし。

然して青島に於ける民政引渡後田臺灣總督に招せられて臺灣に赴き、川村總督就任の當初に至り島内異數の拔擢によりて殖産局長に任せられて現在に及ぶ。

夫人てい子は佐賀縣池田家の出にして現大審院部長池田法學博士の令妹に當り其の間に二男一女あり、現に臺北市南門町官舎に住す。

瓜 生 通 君

三菱礦業(株)横濱出張所次長

君は東京に於ける資産家を以て知らるゝ瓜生泰氏の長男にして、明治二十二年十月十六日を以て生る。

大正四年慶應義塾大學政治科を優秀の成績を以て卒業するや直ちに本邦實業界に投じ、三菱商事株式會社に入社、爾來同社唐津、名古屋各支店石炭部主任とし

て敏腕を振ひ大正十年三菱礦業株式會社に轉じ、現に同社横濱出張所長次席として知らる。

夫人敏子は滋賀縣の人伊庭貞則氏の四女にして聖心女學院の出身、其の間に聰君、明君及び節子あり、現に鎌倉町小町二一〇番地に住す。電話鎌倉二〇六番

漆 原 正 君

山一證券株式會社取締役

今や本邦株式界に活躍して新進の聞えあるを我が漆原正君となす。

君は栃木縣の人漆原清六郎氏の三男にして、明治二十五年四月二十四日を以て生る。

夙に郷校を卒ふるや青雲の志を抱いて上京し、大正五年東京商科大学の前身たる東京高等商業學校を優秀の成績を以て卒業す。

斯くて身を實業界に投じ、山一合資會社に入社して敏腕を振ひしかば累進して同社參事に擧げられ、大正十五年十月同

社の組織變更せられて山一證券株式會社と改稱せらるゝに及び推されて同社取締役に就任し以て現在に及ぶ。

趣味多様な中にも弓術、劍道は其の最もなるものなりといふ。

夫人をモン子と稱し栃木縣の舊家福田直吉氏の長女にして佛英和高等女學校の出身たり、現に東京市外世田ヶ谷町若林九四番地に住す。事務所電話茅場町三一四一番三一五一番

内 田 德 郎 君

東京石川島造船所(株)事務取締役

日本トロール株式會社取締役

君は兵庫縣の人内田兵右衛門氏の二男にして、明治四年二月九日を以て生る。

明治二十九年東京帝國大學工科大学機械科を卒業するや東京石川島造船所に入社、現に同社事務取締役として内外の社務を執掌する外日本トロール、大阪乗合自動車各株式會社の重役として知らる。社交に厚く、日本工業俱樂部、學士會

交詢社各會員たり。

夫人エツ子は京都府の人司馬晋一氏の長女にして其の間に誠一君、晋次君、徳三君及び艶子等あり、現に東京市麴町區上六番町四十一番地に住す。電話九段一六三番

植木万里君

東京鐵工所(名)代表社員

モーターボート商會(株)取締役社長

本邦實業界は勿論、日米貿易業界に活躍して貢献すること甚大、今や各事業會社に代表並に重役として録々の名あるを我が植木万里君となす。

君は東京府の人植木雄飛氏の令弟にして、明治四年十二月十六日を以て生誕す。明治十八年明治學院高等學部を卒業するや米國機械輸入業として知らるゝ、ホン株式會社の創立に參劃、同社設立後引續き同社の發展に盡瘁すること十二年、後ち池貝鐵工所販賣掛主任として同所中興の重任に當り、二年有半にして整理成

るや辭す。

斯くてアンドリュース・エンド・ジョーシ合名會社支配人に聘せられて再興勤實に十四ヶ年、同社の發展に貢献すること尠少なざりき。

現時は前記の諸要職にある外帝國御筒株式會社取締役にして、且つ大正六年以來本邦ダイカスト工業の發達に盡瘁、我がダイカスト合資會社が着々として斯界に聲名を馳せつゝある蓋し君を以て開祖と謂はざるべからず、君今や陰に陽に同社に力を致し、代表社員田中早苗氏を援けて功ある正に本邦實業界の恩人と謂はすして何ぞや。

夫人きぬ子は東京府の人原胤昭氏の二女にして其の間に活己君、勝治君、和平君、繁君及び幸子、博子等あり、現に東京市芝區高輪南町四十四番地に住す。電話高輪四四八番

宇野三郎君

正六位勲六等

東京府立化學工業學校長

當家は代々福岡藩士黒田侯に仕へて普請奉行及び町奉行等を勤めし舊家にして君は故宇野作茂氏の令息、明治十一年二月十九日を以て生る。

夙に郷校を卒ふるや青雲の志を抱き奮を負ふて東上、斯くて東京工業大學の前身たる東京高等工業學校應用化學科を卒業す。

然して聘に應じて朝鮮總督府中央試驗所技師に任じ、爾來、同工業專門學校教授、朝鮮總督府技師等を歴任、曾つて歐米各國に出張を命ぜられ彼の地の化學工業界を視察見學して歸朝す。

大正九年三月東京府立化學工業學校長に任せられ現に其の外藏前工業會常議員理事、全國實業教育會幹事兼常議員、全國中等教育會調査委員、全國工業學校長協會理事等を勤め、本邦教育界の恩人として令名あり。

現に東京市本郷區富士前町五番地に住す
電話小石川五二二九番

瓜生正君

森永製菓株式會社建築係主任

瓜生正建築事務所長

新進の學理と優秀なる技術とを以て前途を嚮望せられつゝある我が瓜生正君は東京府の人瓜生泰氏の二男にして、明治二十五年七月十七日を以て生る。

夙に穎才の聞え高く、中學を卒へるや早稻田大學理工科に學び後ち更に明治大學に學び、大正九年同學法學部を卒業するや直ちに東都實業界に投ず。

斯くて獨力以て瓜生建築事務所を創立して斯界に活躍せしかば、君の技術的才幹に加ふるに其の熱誠とは忽ちにして一般社會の信望を博し、爾來、東都に於ける諸名家の建築を引き受けて何れも完璧を期し、而して大正十二年森永製菓株式會社に聘せられて同社建築係主任に任じて現在に及べり。

君は乘馬に長じ、暇あれば斯道に耽るを常となす、又建築學會會員たり。

夫人を能子と稱し、子爵福岡秀猪氏の三女にして學習院の出身、君との間に玄君及び圭子あり、現に東京市芝區二本橋西町三番地に住す。電話高輪一四五番

梅田重次郎君

梅田自動車商會主

東京自動車組合評議員

君は東京府の人鈴木勝五郎氏の七男にして、明治二十年二月九日を以て東京府北多摩郡立川町に生れ、年齒十八才にして梅田桃太郎氏の養子となり後ち分れて一家を創立す。

夙に實業界に大志を抱き、最初は獨力にて自轉車製作販賣に力を注ぎしも更に自動自轉車の販賣に轉じて相當の發展を見たり。

然るに時代の趨勢を看破するに敏なる君は大正七年九月梅田自動車商會を設立し、爾來、東都斯業界に全力を掲げて日

夜精勵せしかば業勢月に年に加はり今や同業界の白眉を以て目せられ、現に公認東京自動車組合評議員にして且つ同組合第十二區支部長として知らる、讀書を以て其の趣味となす。

夫人をふく子と呼び内助の聞え高く、其の間に重義君、重行君及び英子、智恵子等あり、現に麻布區三軒家町四十六番地に住す。電話高輪七六七一番

梅津周作君

ミカドタクシー經營者

君は富山縣の人梅津佐右衛門氏の長男にして、明治三十六年三月十八日を以て同縣新川郡野中村に生る。

夙に郷校を卒ふるや青雲の志を抱いて單身上京、學事に専念たる後ち、本邦自動車界の有望なるに着眼するや斯界の研究と實地に就き練磨の必要を感じ、爾來水島自動車商會、富士自動車商會、朝日自動車商會、菖蒲倉庫株式會社自動車部タカラ自動車商會、平和タクシー等を歴

勤す。

斯くて昭和元年同志と謀り、共力にてミカド自動車商會を興し、昭和三年二月一日之を引き受けて個人經營となし、爾來、今日に至るまで終始一貫至誠奮闘を以て斯界に活躍せしかば業勢漸次加はり今や業界の新人として知られ前途愈々多望なるものあり。

夫人をムツエ子と呼び富山縣の人河村新右衛門氏の三女、内助の聞えあり、現に麴町區中六番町四二番地に住す。電話九段二五七二番

上田良武君

正五位勳三等 海軍中將
海軍航空本部技術部長

君は鹿兒島縣士族上田良貞氏の二男にして、明治十二年五月を以て生る。

明治三十三年海軍兵學校を卒業するや軍籍に投じ、累進して昭和三年十二月海軍中將に陞進す。

其の間海軍技術研究所航空研究部長兼

艦政本部技術會議員、吳海軍工廠長等を歴任以て現在に及ぶ。

夫人信子との間に清二君及び利子、撮子、京子、富子、隆子等あり、現に東京市麻布區富士見町四十三番地に住す。電話高輪二八二三番

梅垣 越君

株式会社松村組監査役

本邦土木建築界にありて清水組、大林組等と對立して令名あるを我が株式會社松村組となし、而して同社長田中英詰氏を援けて同社内外に重きをなす梅垣越君あるを忘るべからず。

君は京都府士族梅垣顯藏氏の長男にして、明治二十二年八月十二日を以て丹後國舞鶴町に生る。

明治四十年兵庫縣立第三中學校を卒業するや直ちに關西財界に投じ、明治四十四年松村組に入りて格勤精勵せしかば漸次重要視せられ、大正八年七月同社が時運に應じて株式會社に組織變更せらるゝ

や同社庶務係主任に擧げられ、大正十二年には一躍同社監査役に推され、大正十三年東京支店に移つて帝都復興事業に盡瘁し、爾來、同社支配人、専務取締役等を経て現在に及ぶ。

趣味として刀劍、書畫あり、社交に厚く現に丸ノ内俱樂部會員たり。

夫人を茂美子と呼び實業家三角覺行氏の三女にして、君との間に滿春君、壽春君、正春君及び照子あり、現に神奈川縣川崎市京町一ノ一二八番地に住す。

宇都宮綱久君

辯護士 技師

特許辯護士

新進の法理と新進の氣鋭とを以て我が法曹界に若手花形として、其の前途を囑望せらるゝのみならず、優秀技師として又特許辯護士として知らるゝを我が宇都宮綱久君となす。

君は長崎縣士族宇都宮辰太郎氏の長男にして、明治二十六年十一月十八日を以

内山 道 郎君

内山模型製圖社長

單式印刷株式會社取締役

君は三重縣津市の出身にして、明治十一年三月廿日を以て生れ、後ち内山徳兵衛氏の養嗣子となる。

明治三十四年農商務省に入り山林局技手として格勤すること前後約八ヶ年、明治四十三年官途を辭して獨力内山模型製圖社を創立し、爾來、研鑽を積むこと甚大、今や本邦斯界に於ける最大權威として令名高く、内外各博覽會に出品する各種模型を始めとして、官公私立諸學校の參考模型其の他一般大規模の模型は主として全社の製作に係るものなり。

然して君は本邦印刷技術界の今尙ほ幼稚なるに鑑み、是れが改善發達に貢獻せんが爲め、大正七年内山印刷所を開設し孜孜として斯業の進展に盡瘁せしかば終に世界的驚異たる單式印刷法を發明し、大正十四年同所を合資會社となし、後ち單式印刷株式會社と改稱して資本の増大

と共に愈々大規模なる印刷會社として斯界に於ける劃時代的センチションを興ふるに至れり。

尙ほ昭和二年四月日本統計普及會を起して其の理事長に就任し、斯業の普及發展に盡瘁すること甚大なり。

夫人ふさ子は先代徳兵衛氏の長女にして君との間に二男あり、現に東京市本郷區元町二丁目五〇番地に住し、電話小石川二三九二番たり。

白倉平十郎君

元王子町長 王子町會議員

大日本清涼飲料水株式會社社長

王子信用組合理事兼組合長

當家は代々府下王子町豊島に於ける舊家素封家として知られし家柄にして、君は故白倉源助氏の長男として慶應二年八月十八日を以て王子町豊島に生る。

明治二十九年大藏省印刷局雇を拜命し精勤實に二十余年些少の過失もなく功績甚大、斯くて大正五年後進の道を開いて

て同縣北高來郡諫早町に孤々の聲を擧ぐ

明治四十五年佐賀縣立工業學校を卒業するや長崎縣立波佐見工業練習所講師として聘せられ工業教育に盡瘁すること數年、後ち海軍省佐世保造船所造船部に勤務せしが青雲の志に燃ゆる君は奮然起つて高等學府に學ばんと即ち笈を負ふて東上し、明治大學法科に入りて研鑽大いに努め、斯くて大正九年同學を卒業するや直ちに石特許事務所に入り大正十三年辨護士試験に合格し、更に大正十五年には辨護士登用試験に應じて見事登第の榮譽を擔へり。

然して直ちに現在の場所に事務所を開設して辨護士辨理士として斯界に活躍し今や東都斯界に於ける新進を以て目せられ前途多望なるものあり。

乗馬、撞球、庭球、劍道は君の最もよくするところ、夫人美代子は東京府の人物合忠禮氏の令妹にして大妻高等女學校の出身たり、現に東京市芝區南佐久間町一ノ三番地に住す。電話芝三二二九番

同省を勇退す。

曩に明治四十一年五月王子町會議員選舉に際し町民多數の輿望を擔つて町議に當選し、以來五期の久しきに亘りて其の任に當り、至誠以て町治に貢獻今日に及べり。

然して此間大正八年二月推されて王子町長に就任、大正十年五月卒先して庶民金融機關たる王子信用組合の創立に奔走し、其の設立するや同理事兼組合長に擧げられ、爾來、町民金融の圓滑を計ると共に地方産業の發展に盡瘁すること甚大或は關西地方に赴ひては全事業の視察研究を怠たらず、同組合今日の信望と業礎の確立を見るに至りしは君の奮闘と人徳に俟つべきもの大なりと謂ふべし。

現に前掲の諸職にある外王子倉庫株式會社に取締役として敏腕を振ひ、且つ荒玉水道組合會議員として臨時購買委員をも兼ね尙ほ種々なる社會公共的施設の研究實現に余念なく常に社會救済的大觀念の所有者にして其の過去を追想して正義

と奮闘其の現在を眺めて幾多公私の事業に敏腕を振ひ、其の前途を卜するや多望而して終始一貫奮闘努力の士、實に後進徒輩の龜鑑として恥ぢざる人物なりと謂ふべし。

夫人國子との間に崇君、信君、進君等あり、現に東京府北豊島郡王子町豊島一四七三番地に住す。電話王子二〇四番

海野浩太郎君

工學士

清水組技師兼設計部長

君は東京府の人海野美盛氏の長男にして、明治二十六年六月三十日を以て東京府に生る。

大正六年東京帝國大學工科大學建築科を優秀の成績を以て卒業するや直ちに合資會社清水組に入社し、累進して設計部主任技師となり、次いで昭和二年十二月推されて設計部長に任じ現に其の職にありて社の内外に重きをなし前途多望なるものあり。

社交に厚く、學士會々員にして趣味又

多様、就中、運動、旅行等を好むといふ夫人を良子と呼び東京府の人安達喜次郎氏の二女にして東京女學館の出身、君との間に長男覺君、二男勉君及び長女眞壽子等あり、東京市下谷區上野櫻木町三十六番地に現住す。電話下谷二〇一一番

内山熊八郎君

清水組(現)理事第一部長

同社大阪、京都各支店長

柏崎合同運送株式會社社長

君は新潟縣の人内山末人氏の長男にして、明治十六年十月五日を以て同縣刈羽郡柏崎町に生る。

夙に郷校を卒ふるや青雲の志を抱いて上京、東京工手學校を卒業して直ちに東京都實業界に投ず。

斯くて直ちに本邦土木建築界の覇たる清水組に入り、其の敏腕を振ひしかば漸次重要な地位を占め、大正五年同社に工事部長の制度設立せらるゝや推されて同部長に就任し、同十四年には同社大阪支

店長を兼ね、更に昭和二年京都支店長をも兼任し今や同社の東西に活腕を振ふのみならず、前記會社々長にして且つ北日本製菓、柏崎瓦斯各株式會社の重役として知らる。

夫人をケン子と呼び新潟縣の人吉浦吉助氏の長女にして其の間に正熊君、憲治君、敬三郎君及び八壽子、壽恵子、阪恵子等あり、東京府豊多摩郡落合町下落合八二番地に現住す。電話牛込一三七〇番

宇野澤辰次君

工學士 鐵工業

宇野澤鐵工所長

君は東京府士族宇野澤辰雄氏の長男にして、明治三十一年一月廿一日を以て生る。

大正十二年早稻田大學理工學部機械工學科を優秀の成績を以て卒業するや直ちに本邦機械業界に大飛躍を試みんとて先づ横濱船渠株式會社に入りて實地に就き研鑽すること半歳に及ぶ。

然して全年九月同社を辭して家業たる宇野澤鐵工所を經營主宰し、今や東都斯界の學究家且つ實際家として新進の聞え高し。

趣味多様にして就中、登山、旅行を好み、園芸に妙を得たりといふ。夫人三枝子は東京府士族野口保興氏の三女にして府立第二高等女學校の出身たり、現に東京市外中野町一七五二番地に住す。電話中野十六番

内山敬三郎君

相武電力(株)内山同族(株)各社長

上信銀行事務取締役

君は神奈川縣の人内山市平氏の長男にして、文久三年八月八日を以て生る。

夙に三菱商業學校を卒業するや英人バラー氏の塾に學び後ち實業界に入り外國貿易商館の日本支社長となる。斯くて明治三十三年獨力内山商會を興し、貿易商を營みしも全四十二年之を廢し、爾來、相武電力、戸塚銀行、横須賀

電燈、横須賀商業銀行等を創立し、本邦財界に飛躍し現に横濱實業界の重鎮にして、前記會社の重役たる外東京動産火災保險株式會社の取締役たり。

曩に神奈川縣多數選舉民に推舉せられて馬を陣頭に進め衆議院議員に當選すること前後二回、我が國議政府に列し國政に參劃して貢獻すること甚大なり。

夫人キヨ子との間に一男哲君あり、中央商業學校を卒業するや英國に留學し、現にABC製菓株式會社々長として知らる、現に横濱市本牧町一二三八番地に住す。電話本局一九三番

浦田竹次郎君

東洋時計製作所主

君は富山縣の人浦田市次郎氏の二男にして、明治二十二年十月十二日を以て生る。

夙に大志を抱いて東上し、大正五年神田今川小路に於て時計側製造業を創立し同八年現地に移轉して事業の大擴張を斷

更に分工場を府下巢鴨町に設置し、今や時計側の外置時計の製造をも兼營して陸々の發展を見、國內のみならず遠く海外にまで其の販路を有し斯界の權威として知らる。夫人キミ子は栃木縣の人鈴木兼吉氏の三女にして其の間に至君、昇君あり。現に東京市小石川區丸山町十一番地に住す。電話大塚一九七六番

上原 敬 二君

從六位 林學博士
東京高等造園學校長

君は東京府の人先考安平氏の二男にして、明治二十二年二月五日を以て生る。

大正三年東京帝國大學農科大學林學科を優秀の成績を以つて卒業するや同學大學院に入りて研鑽、更に引き續き大正九年まで同大學にありて斯業の蘊蓄を極め後ち明治神宮造營局に職を奉せしも大正九年六月米國に航し、視察見學を了して同十一年十月歸朝するや内務省都市計畫課囑託を受け、同年十月復興院技師を拜

命、更に翌年六月東京市保健局及び公園課囑託となり以て現在に及ぶ。

然して同年四月私立高等造園學校を創立し同校長に就任、昭和二年四月四日布哇に開催の汎太平洋教育會議政府代表委員として渡航す。

趣味に書畫、音樂あり、夫人静子は静岡縣の人梅島正造氏の長女にして、香蘭女學校の出身、其の間に梓君、桂君、楓君及び淳子、澄子、滂子等あり。現に東京市外上目黒一三七三番地に住す。電話青山二〇〇四番

内田 政 夫君

實業家

抑々當内田家は累代神奈川縣足柄上郡福澤村に居住し酒造業を營み近郷に鳴れる豪家なりしが、先考内田直三氏夙に實業界に在りて各種の事業に關與し、入山採炭株式會社專務取締役たりし外東京株式取引所、日本活動寫真株式會社等の各社重役として往年の實業界に飛躍して嘖

々の令聞ありし人、吾が内田政夫君は即ち其次子に當り、明治二十八年三月四日を以て前掲家郷に孤々の聲を擧げしが大正六年先考逝去の後を承けて其家督を繼げり。

君は夙に曉星中學校を卒へ外國語學校佛語科に學び之を出するや一年志願兵として近衛歩兵第一聯隊に入營、斯くて除隊後更に東京帝國大學法科大學に入學し致々學窓に黽勉以て佛法科を專攻し大正十二年之れを卒業す。

然して昭和二年三月同族と共に、自動車及部分品販賣を業務の目的とせる内田自動車株式會社を創立し同社取締役に就任せり、次いで昭和四年之を辭し同年二月東京セルバ塗裝所を興し同所支配人瀬戸佳六氏の名に於て出資經營に任じ現に其事業を統宰しつゝあり。

しく幾多の欠陥あるに鑑み、君は年壯潑湖の意氣を以て斯業に携り銳意其の進展に挺身盡瘁す。

君は尙春秋に富む、加ふるに人物敦厚にして學識才腕あり、蓋し光彩ある前途を展開すること期して待つべきなり。

君は余暇あれば旅行を娛しみ又自動車運轉に特技あり、家庭には東京の人廣瀬益三氏の長女たる康子夫人あり、阜哉君、満里子嬢を其の間に擁して霽然たる一家を營めり。現住所は東京市本郷區根津須賀町十番地(電話下谷一四三五番)に又別宅は神奈川縣國府津町字境に所在す。

宇野 友 義君

官吏

君は先考友一氏の長子として明治十七年七月廿九日を以て東京市麴町區有樂町に於て生誕せり。

抑々當家は先代故宇野友一氏(舊姓本多氏)より顯る、友一氏は山口藩士にして夙に勤王の志あり、十有七歳の弱冠を

以て倒幕に參劄し故山縣有朋公、故三浦觀樹子等と共に奇兵隊に在りて奮戰維れ努め日夜皇城挽回に奔馳せり、宿志成りて明治維新の鴻業を遂げ、後ち西南の役終るや即ち東上して麴町區有樂町に居をトし、爾來區政に參與して在實に甘有參年に及べるが比間尙は義勇艦隊、水難救濟會各委員其他幾多の公職に推され功績寔に尠からざりしも惜しむべし、大正十三年五月長逝せられたり。

當主友義君は即ち其嫡男に生れ慈母をふく子刀自と爲せり、君祖統の靈を承けて秀凡、明治三十五年海軍豫備校一海城中學校前身を卒業せしが同年早稻田大學商科に入學して大いに學窓に黽勉することありしも、中途感ずるありて之れを退き攻玉社工學校に轉じ同四十五年同校土木科を卒業す。

斯くて農商務省に奉職せしが後ち猪苗代水力電氣株式會社の聘に應じて入社せり、然して後ち再び農商務省に復歸せしが次いで東京大林區署に勤務すること多

年に互り、此間官命に依り全日本の深山幽谷を跋渉して、山林の保護、河川氾濫の防止等に就き大いに蘊蓄を傾注して盡すところ多大なりき。

是より後ち君は同署を辭するや大正九年東京遞信局に入り現に其官職に在るの傍ら母校攻玉社工學校教授を兼ね子弟黨育の任を帯ぶ。

君は平素實踐躬行するに「堅實」を以て其の處世上の綱領とし以て現職に挺身獻替す。運動に趣味あり、就中水泳を特技と爲し曾つて日本水泳術協會、日本体育會水泳部、京橋區水泳部各教授たりしことあり。

家庭は客年不幸にして愛妻を亡ひ、現時故令夫人との間に成せる榮壽君、進君、富美子を擁して自ら其教養に當れり、亦近親關係としては令姉孝子は實業家光田幸次郎氏に令妹美子は豫備海軍大佐にして大阪製鐵所東京出張所長宮部光利氏に令妹泰子は東京赤坂なる星ヶ岡茶寮經營者たる中村竹四郎氏に各々婚家せられ何

れも清福なる一家を営めり。
因に君は現住所を東京府荏原郡調布町
にあり。

其の間にひさ子、利子あり。現に静岡市
鷹匠町三番地に住す。電話静岡九三八番

好く其の蘊蓄を極め、芝支店をして隆盛
ならしめし其の手腕たるや蓋し宜なる哉
だ。

海野 數馬君

静岡毎日新聞社長
衆議院議員

君は静岡縣の人、大井善吉氏の三男にし
て、明治二十二年六月廿一日を以て生れ
後ち先代平作氏の養嗣子となる。

明治四十四年日本大學法科を卒業し、
後ち縣下自治制に盡瘁すること甚大、靜
岡縣會議員として常に縣治に活躍するの
みならず、静岡毎日新聞社長として地方
啓蒙開發に貢献すること尠ならず。

斯くて昭和三年三月大日本政黨史上特
筆すべき普選第一回の總選舉に際し、逐
鹿場裡に奮戦せしかば縣民多數の輿望を
擔つて見事當選、今や中央政壇に令名あ
り。

夫人さよ子は静岡縣の人、倉澤保七氏の
二女にして東京裁縫女學校の卒業にして

鶴飼 照太君

川崎貯蓄銀行芝支店長

君は岡山縣の人、難波定之助氏の二男に
して、明治二十二年八月六日を以て生
れ、後ち岩手縣の人、鶴飼悅彌氏の養嗣子
となる。

夙に京華商業學校を卒業するや、川崎銀
行に入り、斯くて櫻橋支店、淺草支店等
を歴任し、大正九年同系統たる常盤貯蓄
銀行創立に際し、新設委員として川崎本
店より入り、當行發展の爲め盡瘁する處
多、斯くて神樂坂支店長代理に補せら
れ、後ち深川支店次長となる。

尋いで大正十二年關東大震災後本店營
業部次長に就任し、昭和二年十一月當行
川崎貯蓄銀行と合併するや、本店營業部
長代理に補せられ、昭和三年九月芝支店
長に榮轉以つて現在に及ぶ。

君はまれにみる斯業の苦勞人にして、

内村 達次郎君

正六位勳六等 辨理士
東京特許代理局長

君は舊米澤藩士、柿崎家教氏の二男にし
て、明治元年一月二十八日を以て生れ、
後ち先代源藏氏の養嗣子となる。

明治二十三年東京工業大學の前身たる
東京高等工業學校機械科を卒業するや直
ちに官途に投じ、爾來、特許局審査官、
水産局技師、水産講習所教授等を歴任せ
り。

斯くて官途を退き、帝國冷蔵株式會社技
師長に轉じ、同四十年歐米各國を歴遊し
て歸朝後特許辨理士となりて東京特許代

理局を創設し今や斯界の白眉を以て目さ
る。

現に其の傍ら入新井町々會議員にして
有學會、帝國發明協會各理事、工政會、
大日本水産會、工業化學教會、機械學會
各役員たり。

夫人まさ子は内村良藏氏の長女にして
其の間に良二君、省二君、酉君及びナル
子あり。現に東京市外入新井町二六五二
番地に住す。電話大森二六八番

浦上 次郎君

南昌洋行(株)東京出張所主任
滿洲棉花(株)東京出張所主任

君は富山縣の人、大塚義太郎氏の二男に
して、明治三十年三月二十三日を以つて
生れ、後ち石川縣の人、浦上よね氏の養子
となる。

夙に郷里の中學を卒業するや、鴻圖を
抱いて支那に渡り、斯くて青島山東運輸
株式會社に入り、後ち會計課長に就任す。
然して大正十三年南昌洋行株式會社に

轉じ、大正十五年十月滿洲棉花株式會社
創立さるゝや、全社東京出張所主任に就任
し、現時南昌洋行株式會社東京出張所主
任を兼任す。

趣味としては、スポーツ旅行等を好み
夫人松子との間に浩君、幸子あり。
現に東京市外大井町倉田三二四九番地
に住す。

上田 誠君

法學士 愛國生命保險(株)契約課長

君は大分縣の人、先代秀作氏の長男にし
て、明治二十五年八月二十日を以て生れ
同縣宇佐郡驛館村に生誕す。

夙に第一高等學校を経て大正六年東京
帝國大學政治科を卒業するや、直ちに高砂
生命保險株式會社に入社し、同社外務課
長、庶務課長等を歴勤、大正十三年愛國生
命保險株式會社に轉じ、外務課長、庶務
課長を経て昭和二年契約課長に擧げられ
以て現在に及ぶ。

社交に厚く、學士會、生命保險協會各會

員たり。

夫人靜子は東京府の人、岡村百太郎氏の
長女にして、女子職業學校の出身たり。
現に東京市外澁谷町豊分五番地に住す。
電話青山七九一五番

浦山 助太郎君

有樂商事(株)取締役社長
岩越電力(株)常務取締役

君は青森縣の人、夏目彌平氏の長男にし
て、慶應元年十月を以て生れ、後ち浦山太
郎兵衛氏の養子となる。

夙に明治義塾に入りて法律經濟學を修
め、學成るや實業界に投じて敏腕を振ひ
現に前掲諸職にある外、笛吹川水電、桂川
電氣興業、東信電氣、吾妻川電力、第二
吾妻川電力、旭電化工業、草津電氣鐵道
昭和肥料各株式會社の重役として本邦財
界に令名あり。

曩に青森縣民の輿望を擔つて衆議院議
員に擧げられ、政界に貢献すること尠少
ならず。

現に東京市小石川区上富坂町四十番地に住す。電話小石川三一九二番

宇木素絢君

正五位勳三等 在郷一等獸醫正
明治中學校、京北中學校各教諭

君は佐賀縣の人にして明治四年九月を以て同縣三養基郡旭村に於て出生す、嚴父を故宇木只道氏とし其四男に當る。

夙に佐賀中學校に學びしも中途之れを退き笈を負ふて東上、成立學舎に學び次いで農林學校豫備校に入り後ち東京帝國大學農科大學豫科に入學、明治二十八年同大學獸醫學科を卒業せり、然して其在學中より陸軍依託學生たりしが後ち陸軍三等獸醫に任官し、漸次陸軍進して大正六年陸軍一等獸醫正となれり。

此間日露役に出征し同三十八年以降陸軍獸醫學校教官たり、又大正六年朝鮮駐劄軍附となれり。

君は同三十九年廣島に於て軍馬の傳染病の一種たる皮鼻疽病の傳染防遏に偉功

あり以來嘖々の令聞を有するに到れり。

趣味として釣魚あり、現住所は東京市外世田ヶ谷町池尻三九三番地電話世田ヶ谷五六番

上野平一郎君

三井室町家々扶

一度君の溫容に接したる者は謂ひ難き感懐に魅了されざるなし蓋し敦厚なる其人物の反映と謂ふべき乎

君は未だ年壯の往時より三井王國の人と爲り一貫終始して今日に到れるが、回顧すれば時維れ明治二十一年三井銀行に入り各課に轉勤し最後に同行京都支店に勤務し大正元年之れを辞するや直ちに三井六本家の一たる男爵三井高精氏の家扶となり精勵以て今日に到れり。

君の令嗣太門君は現に三井銀行外國課に勤務、一家極めて清福を得、現に東京市牛込區番地に住す。

工藤八之助君

庄内電氣株式會社社長

羽前製糸株式會社取締役

貴族院議員

君は山形縣の人工藤八之助君の長男にして明治四年三月二日を以つて生る。夙に郷里の格知學舎に入り國史國文漢學等を學び其の造詣を深くするや直ちに實業界に身を投じ、曩に羽前製糸株式會社社長として令名を謳はれ今又庄内電氣株式會社社長として内外の社務を執掌し、君が敏腕を縦横に振展する傍ら羽前製糸株式會社取締役にして今や地方財界一方の重鎮として聲名嘖々たり。

君は天資英明加ふるに學識博大にして常に地方財界に活躍する傍ら地方産業の開發より教育の改善に至るまで幾多社會公共事業に貢献すること甚大にして、曾つては村長たること二期間、郡會議員三期間、全議長一回、縣會議員二回等を勤め又深く教育事業に心を用ひ縣立寒川中學校、全谷地高等女學校等に何れも校友

會々長、父兄會々長を勤め同校等縣費の補助を目的に數万圓を寄附せる外幾多公共事業に盡瘁する等枚擧に遑あらず以つて其の人と爲りを察知するに足るべし。

大正十四年九月には多數縣民の輿望を擔つて貴族院議員に當選し、現に其の榮職にありて中央地方の政界に活躍し以つて専心地方産業の開發、交通機關の改善及び教育的施設の改善發達に盡力すること甚大にして、君が政界の人たる徒らに政治を生活の具となす一部政治家とは同日の論にあらざるべく、眞に新興日本の産みし一異彩たるに恥ぢざる人物と謂ふべきにあらざるか否哉。

夫人いと子は山形縣の人安達庄六君の長女にして君との間に九男四女あり、因に長男昌吉君は東京帝國大學農科大學の卒業にして目下君を援けて家業に従事し二男慎吉君も東大法科大學の卒業にして現に東京地方裁判所商事部次席を勤め、三男亮吉君同じく東大文科を卒業し秋田縣の人二田是儀君の養嗣子となり、尙ほ

正介君八郎君吉郎君耕二君耕介君亮介君等あり、長女きよ子は渡邊靖君に二女麗子は多勢龜五郎君に夫々嫁し尙ほ三女雪子四女正代子等ありて家庭團樂たり、現に山形縣西村山郡高松村に住す。

久良知重彦君

久良知礦業株式會社社長

君は福岡縣の人久良知利久藏君の長男にして明治十四年三月を以つて生る。現時久良知礦業株式會社代表社員を初めとして宇島礦業株式會社取締役、日邦礦業株式會社監査役たり。

夫人房子は山口縣の人山田重作君の長女にして君との間に一男五女ありて將雄君、富美子、久子、信子、八重子、壽慧子等なり。現に福岡縣田川郡後藤寺町に住す。

久米正雄君

文學士 著述家

君は明治廿四年十一月廿三日を以つて

福岡縣安積郡桑野村南町四十八番地に生る。大正六年東京帝國大學文科大學英文科を卒業し、曩に里見淳君、田中純君等と人間社を興し同人雜誌「人間」を發刊せり。小説「螢草」を時事新報に連載するや頓に文壇人の認むる所となり、尋いで「牧場の兄弟」「三浦製糸工場主」等を著し劇作家の地位を占め、更に「阿武隈心中」「不死鳥」「破船」「冷火」等の長篇小説「手品師」「學生時代」「痴人の愛」等の短篇小説集出づるや最も人口に膾炙せらるゝに至りぬ。

然して君が天賦の才筆は愈々我が文壇の雄として矚目せられ近時は又鎌倉に於て民衆劇に人氣を集め、今や我が文壇の明星として斯界に令名あり。夫人を艶子と呼ぶ。現に鎌倉町大藏屋敷に住す。

栗原 幸藏君

玉川水道株式會社事務取締役社長
近時玉川水道會社代表者として將又幾多事業會社に關與して其の令名高き栗原

業し更に進んで専攻科に學び斯學の研鑽を積み、同三十九年高學士の稱號を得て卒業するや直ちに實業界に身を投じ、合資會社陸井商店の業務擔當社員として専ら米穀肥料の直輸入並に雜貨の直輸出業に従事して、君が蘊蓄を傾注したりしも大正五年株式界に轉じ有價證券現物専門の賣買業を開始し君が縦横の才腕を發揮して活躍するに至る。

爾來奮闘大いに努めしかば業運益々舉り同八年坂井屋株式會社を創立して代表取締役となり、同十年三月東京株式取引所一般取引員として勇往邁進愈々勵みしかば業況月に年に隆盛を極め遂に今日の大を成すに至る。趣味多様なる中に讀書を最も好み常に新刊の經濟書を愛讀するを唯一の楽しみとすといふ。

夫人かつ子は愛知縣の人夏目仲助君の長女にして其の間に太郎君、二郎君、三郎君及びひさ子、のぶ子、とよ子、てつ子、よし子等あり。現に東京市芝區白金三光町二七三番地に住し電話高輪六九五

幸藏君は埼玉縣の人栗山與惣次君の令息にして明治二十年十月を以つて生る。夙に實業界に志し爾來東京水産、東洋ヒューズ、東京府島嶼殖産等各株式會社重役として君が才量を縦横に振展して名聲を博するに至る。

然して東京府下荏原地方の水質粗惡にして當地住民の飲料水に甚だしき不便を感ずることを聞くや、君奮然として起つて玉川水道株式會社の創立を企劃し、其の設立を見るや同社事務取締役社長に就任して之が給水を完ふし、同地方民の爲めに貢獻するところ甚大、玉川水道株式會社の前途益々多望にして今や水道事業に製氷を兼營し、斯界に名聲噴々たるものあるは一つに君が奮闘に待つべきもの尠少なからざるべし。

夫人きく子は東京府士族伊庭秀榮君の長女にして君との間に長男新君、長女園子等あり、現に東京市牛込區若松町七二番地に住し電話牛込三六二四番たり。

久保田庄衛門君

日出土地株式會社長

君は京都府の人久保田正平君の二男にして明治二年六月を以つて生れ、前名幸次郎を改む。夙に藥種商を營みて速効散本舖たり、又京都市會議員にして前記會社々長たる外、商工貯金銀行、京都工商株式會社監査役たり。

夫人しげ子は同府の人上田勘兵衛君の令妹にして君との間に二男一女ありて正君、幸次君、綾子と呼ぶ。現に京都市下京區西洞院通五條下ルに住し電話長下六一九番なり。

陸井 幸平君

坂井屋株式會社取締役社長

君は愛知縣の人陸井太右衛門君の長男にして明治十四年十二月二十三日を以つて生る。夙に郷校を卒ふるや笈を負ふて東上し、東京高等商業學校に入り研鑽琢磨、明治三十七年優秀の成績を以つて卒

六番なり。

久保正助君

神戸瓦斯株式會社事務取締役

君は東京府の人久保勇君及同熊彦君の令弟にして明治十二年二月を以つて生る。明治三十三年東京高等商業學校を卒業するや直ちに實業界に身を投じ、現に前記會社に重役たる外尼ヶ崎瓦斯株式會社取締役、嵐山電車軌道、日本染料製造、北海炭業各株式會社監査役たり。

夫人雪子は大坂府の人阿部金次郎君の令妹にして君との間に四男二女ありて正一君、米次郎君、龍雄君、昌平君及び爲子、孝子等なり。現に神戸市西山平通七ノ一〇番地に住し電話本局三〇五三番なり。

草場 九十九君

草場特許事務所長

内外特許辯理士

今や内外特許辯理士界に令名を謳はれ

本邦斯界の第一人者として知らるゝ草場九十九君は福岡縣の人草場與三君の二男にして明治八年一月十一日を以つて生る。夙に福岡縣修猷館中學を経て第三高等學校高部工學機械科に學び、明治三十一年七月優秀の成績を以つて卒業するや特に選ばれて熊本第五高等學校工學部講師を拜命し、爾來專心育英事業に盡瘁したりしも、明治三十四年期するところありて決然職を辭して東上し、聘に應じてセルバーポール商會の支配人に就任せり。

偶々外國特許商標事件に關して幾多感ずる處ありしかば、明治三十九年進んで特許辯理士の試験に應じて首尾よく登第せり。爾後獨力其の事業に従事し、内外特許事務の掌握に盡瘁せしかば君が斯界に於ける信望年と共に擧り、其の豊富なる識見と經倫とは愈々他に比肩するものなく、今や歐米は勿論東洋南洋南米及び亞弗利加地方にまで及び正に世界的事業家として才器縦横に振展しつゝあり。

君や資性濃厚沈着にして、一度業務に

携るや眞摯熱誠而も極めて義侠に富める士にしてよく民衆の爲めに奮闘して已を忘るゝ程なりと云ふ。宜なるかな曩に東京市麻布區會副議長として區民の信望を一身に集め、今また東京府會議員として我が帝都制の改善發達の爲に其の政治的才量を發揮するに至る。

夫人壽喜子は熊本縣の人宮永甚二君の二女にして熊本尙祠高等女學校の卒業たり、現に東京市麻布區飯倉五丁目三三番地に住し電話青山五九七五番なり。

栗原 基 君

正五位勳五等
第三高等學校教授

君は宮城縣士族栗原長敬君の二男にして明治九年二月を以つて生る。明治三十四年東京帝國大學文科大學英文科を卒業し、更に大學院に入りて研究を積み後廣島高等師範學校教授に任ぜられ大正四年第三高等學校教授に轉じ、同七年南洋諸島に出張し、同九年英語及英文學研究の

爲め英米に留學し歸朝後引き続き第三高等學校教授として今日に至る。

夫人まりや子は宮城縣の人大阪徳治君の長女にして君との間に佐君、健君及び俊子、暢子、照子、喜美子等あり、現に京都府上京吉田河原町一九番地に住す。

久保 健 磨 君

從五位勳四等
九州帝國大學教授

君は福岡縣士族久保宅次郎君の二男にして明治十三年二月を以つて生る。明治三十八年東京帝國大學農科大學農學科を卒業するや直ちに同大學助手となり、爾來同大學助教授兼臨時産業調査局技師、九州帝國大學助教授、同農學部附屬農場長等に歴任し現時は九州帝國大學農學部教授たり。

黒田善太郎君

黒田商店主

東京木材倉庫株式會社取締役
東京材木市場株式會社取締役

我が國木材輸入商としての最大權威者たるは勿論、今や帝都復興事業に貢献して功績顯著なる黒田善太郎君は、東京府の人先代善太郎君の長男にして明治二十一年四月二十一日を以つて生る。夙に東京府立第三中學校を卒業するや直ちに早稻田大學商科に學び、明治四十三年優秀の成績を以つて卒業す。

當家は古くより材木問屋として東都に重きをなし傍ら米國材、加奈陀材等の輸入業を營みて遠く海外にまで令名を馳せし老舗にして、君亦學業成るや祖業を繼ぎて其の名を恥かしめ益々發展の域に達せしめ、尙ほ傍ら前記諸會社の重役にして且つ外國木材輸入協會々長として斯界に盡瘁すること蓋し甚大なりと謂ふべし。

夫人芳枝子は埼玉縣の人渡邊混君の二

久保田勝美君

大信銀行頭取
株式會社大信社常務取締役

女にして淑徳の譽れ高く、君との間に美和君、喜實子、壽子、敬子等あり。現に東京市麻布區櫻田町二五番地に住し電話青山五二〇六番にして營業所を深川區鶴歩町一番地に有し電話墨田三四八六番なり。

九鬼千代治君

大洋公司取締役

君は和歌山縣の人九鬼千代治君の養子にして明治二年十一月を以つて生れ前名寅之助を改む。現に明治物産、紀陽織布大洋公司各株式會社取締役、和歌山倉庫銀行、南海倉庫、和歌山足袋各株式會社監査役たり。

夫人たけ子は兵庫縣の人沖爲太郎君の三女にして其の間に四男五女ありて隆一君、文一君、賢三君、宗光君及びマサ子、艶子、隆子、富子、澤子等なり。現に和歌山市畑屋敷松ヶ枝町に住す。

窪田 四 郎 君

早川電力株式會社社長

君は茨城縣士族内田寛君の四男にして

同誠太郎君の令弟同信也君の令兄たり。明治六年五月を以つて生れ同二十年先代敬君の養子となる。明治二十九年東京高等商業學校を卒業するや直ちに三井物産株式會社に入り本店及神戸、香港、漢口等の各支店に勤務し後社命を帯びて東洋に於ける重要な各港を周遊し、親しく貿易事情を調査し歸りて同三十五年社務の發展を企劃す。

明治四十年堺セルロイド會社の設立せらるゝや推されて其の専務取締役となり同四十三年北海道炭礦汽船株式會社に入りて幹事となり、大正二年波佐見鑛業會社に聘せられて専務取締役に擧げられしが翌年同社休業の爲め職を辭し、窪田事務所を開設し南洋貿易に従事し、同三年富士製紙株式會社専務取締役に擧げられしことあり。

現に東京市赤坂區丹後町四番地に住し電話青山五八七〇番なり。

桑木盛雄君

從四位勳四等 理學博士
九州帝國大學工學部教授

君は東京府の人桑木巖翼君の令弟にして明治十一年九月を以つて生る。明治三十一年東京帝國大學理科大學物理科を卒業し、更に大學院に入り同四十年明治專門學校より學術研究の爲め海外留學を命ぜられ歸朝後大正三年九州帝國大學工學部大學教授に任ぜられ、現に其の職にあり同五年法學博士の學位を授與せらる。

夫人ミチ子は福島縣の人江森孝君の長女にして君との間に二男三女ありて務君道生君及び歌子、夏子、亮子等と呼ぶ、現に福岡市新大工町五二番地に住す。

久米寛三君

株式會社八洲商會常務取締役

新興大日本人物史の一編として世に公にせんとする本書の刊行に當り、著者は又株式會社八洲商會常務取締役久米寛三君の畧歴を掲載するに敢へて躊躇せざるものなり。

ものなり。

君は佐賀縣士族久米富助君の三男にして明治二十九年三月二十二日を以つて同縣は佐賀郡に孤々の聲を擧ぐ。夙に佐賀縣立商業學校を卒業するや青雲の志を抱き笈を負ふて東上し、早稻田大學商科に學び斯學の研究を積みて大正八年優秀の成績を以つて卒業し直ちに東都財界に身を投じ、合資會社高田商會電氣部に入社して君が蘊蓄を傾注し其の敏腕を縦横に振ふに至る。

然りと雖も固より大志ある君は永くサラリーマンとして甘んずるを快とせず、幾許もなく同社を辭して獨力以つて八洲商會を設立し、後ちこれが株式組織に變更せらるゝや君推されて同社常務取締役の要職に就任し能く内外の社務を執筆し今や新興日本財界の眞只中に活躍して着々其の地歩を占め前途益々多望なるものあり。

然して昭和二年二月米國に渡航し紐育市俄古、英領加奈陀等の各都市を巡遊し

六

て具に彼の地の經濟狀況を視察研究し、大いに見識を高めて歸朝し愈々同社の發展に盡瘁すること甚大、君や末だ年齒春秋に富めり新興日本の財界は君の力に俟つべきもの蓋し多々あらん、宜しく自重自愛以つて將來の大成を期して可ならんや否哉。

夫人菊子は東京府の人和田嘉衛君の三女にして御茶ノ水高等女學校卒業の才媛にして内助の聞え高し、現に東京市麻布區永坂町七〇番地に住し電話高輪二四八三番なり。

桑田熊藏君

法學博士 鳥取縣多額納稅者

君は鳥取縣の人桑田藤十郎君の長男にして明治元年十一月を以つて生る。明治二十六年東京帝國大學法科大學を卒業し後露國に漫遊すること數年にして歸朝し東京帝國大學法科大學講師、文部省參政官等を歴任す。貴族院議員に選出せらるゝ事二回、正五位勳三等に叙せられ、現

九條道實君

公爵 從二位勳二等

貴族院議員

に鳥取縣多額納稅者たり。夫人たつ子は東京府の人小島東十郎君の長女にして其の間に五男八女ありて一夫君、榮次郎君、三樹男君、士郎君、欣吉君及び民野子、千枝子、佳江子、二葉子、幾代子、時枝子等と呼ぶ、現に鳥取縣東伯郡倉吉町に住す。

國枝元治君

理學博士

東京高等師範學校教授

君は東京府の人國枝紋次郎君の長男にして明治六年八月を以つて生れ、先代國三郎君の養子となる。明治三十一年東京帝國大學理科大學醫學科を卒業するや間もなく斯學研究の爲め歐米に留學すること多年歸朝後は東京高等師範學校講師となり次いで教授に任ぜられ現在に至る。夫人秀野子は養父國三郎君の二女たり現に東京市小石川區大塚坂下町一〇番地に住す。

當家は藤原鎌足十七世の孫關白忠通の男兼實の後にして代々攝政關白たり、兼實洛南九條に住せしを以つて九條を姓となし、其の子道長より三十四代を経て明治元年奥羽鎮撫總督として大功あり明治十七年公爵を授けられし道孝君に至る。

君は道孝君の長男にして男爵鷹司信烈君の從兄君に當り、明治二年十二月を以つて生れ明治三十九年襲爵仰せ付けらる夙に宮内省に出仕し掌典次長を経て掌典長たる外貴族院議員たり。

夫人惠子は伯爵大谷光演君の令妹にして其の間に道秀君、兼子、豐子、充子、敏子等を擧ぐ。因に令妹節子姫は即ち現皇太后陛下に當らせられ、同範子姫は山階宮妃殿下に、尙ほ五女敏子姫は賀陽宮恒憲王妃殿下にならせられ尙ほ令妹蓬子は男爵澁谷隆教君に同衽子姫は伯爵大谷光明君に、長女兼子姫は侯爵佐竹義春

桑田透一君

東洋捕鯨會社取締役兼支配人

君に、三女豐子姫は侯爵中山輔親君に嫁し令弟良政君、良致君は各分家して男爵を授けらる。現に東京市赤坂區福吉町二番地に有し電話青山五七三〇番なり。

君は廣島縣の人桑田虎之助君の二男にして明治七年十一月を以つて生る。明治三十五年東京專門學校政治經濟科を卒業し、爾來廣島縣廳、臺灣總督府、農商務省、東京、大阪、廣島各地商業會議所、日本貿易協會、辨寸聯合會等の囑託として南清商工視察の爲め清國各地に歴遊す後東洋協會々報「太平洋」に執筆し、爾來マニユファクチュラル保險會社主事、大阪毎日新聞社東京支局經濟部主任、大日本捕鯨株式會社支配人、東洋捕鯨株式會社關西營業部主事等に歴任す。

現に前記會社の重役にして又帝國セラチン株式會社取締役たり。夫人八重子は水野常吉君の長女たり、現に大阪市南區

天王子町松ヶ鼻町五四七三番地に住し電話南七二〇番なり。

栗原廣太君

從五位 勳三等
滿鐵東亞經濟調査局主事

君は鳥取縣士族栗原茂吉君の長男にして明治十年十月十五日を以つて同縣は西伯群米子町に生る。夙に鳥取縣立中學校を卒ふるや青雲の志を抱き笈を負ふて東上し、研鑽大いに努め明治三十四年日本大學法科を卒業するや直ちに文官高等試験に應ぜしかば君の英才は首尾よく登第して世人の羨望の的となる。

然して身を官界に投じ宮内省書記官を拜命し、格勤すること十有五年大いに君の才量を發揮せしも後官界を辭して野に下り、聘に應じて南滿洲鐵道株式會社に入りて同社囑託となり、大正十二年四月滿鐵東亞經濟調査局主事の要職に任せられ以つて現在に至る。

夫人照子は鳥根縣の人嶋村幸之助君の二女にして鳥根縣立高等女學校を卒業し君との間に一男ありて廣夫君と呼ぶ、現に東京市牛込區南町二十八番地に住し電話牛込二八七〇番なり。

久原房之助君

從五位勳三等
久原合名會社代表社員
久原鑛業株式會社長

君は青森縣士族工藤家の出にして明治八年八月を以つて生る。夙に日本大學に學び後二六新聞社に入り尋いで日本新聞社に轉じ、明治四十四年新聞事業研究の爲め英國に航し、佛獨を漫遊して大正二年歸朝す。尙ほ日華實業協會に關係して支那に赴く事三回に及び、現時は日本大學及び東京齒科醫學專門學校講師たり。大正十三年青森市より選ばれて衆議院議員に當選し憲政會に屬す。

夫人りう子は青森縣の人工藤純之進君の三女にして淑徳の譽れ高く、君との間に一男ありて武夫君と呼ぶ。現に東京市

京橋區南金六町一三番地に住す。

君は山口縣の人久原庄三郎君の三男にして男爵藤田平太郎君の從兄君に當り、田村市郎君や齋藤幾太郎君等の令弟にして同浩介君の叔父君たり、明治二年六月を以つて生る。明治二十二年慶應義塾を卒業するや直ちに實業界に身を投じ、巖に森村組に入り後藤田組に轉じ小坂鑛山經營の任に當りしが後藤田組と分離し獨力鑛業に従事するに至る。

現時は久原鑛業株式會社々長たる外共保生命保險株式會社々長、合同肥料株式會社會長、久原商事、久原用地部各株式會社取締役及び久原本店代表社員にして我が實業界の巨星として知らる。夫人キヨ子は山口縣の人鮎川義介君の

倉知鐵吉君

正四位勳二等
貴族院議員

令妹にして君との間に長男光夫君、二男大亮君、長女泰子等あり。現に東京市芝區白金今里町一八番地に住し電話高輪九八〇番なり。

國重政亮君

朝鮮勸業株式會社長

君は山口縣の人國重左衛門君の長男にして慶應元年十一月を以つて生る。夙に慶應義塾を卒業し後山口縣會議員、防長銀行常務取締役等に擧げられしが現時は前記會社々長及開城電氣、萩製紙各株式會社取締役たり、又衆議院議員に當選する事二回に及べり。

夫人美代子は山口縣の人伊藤伊三郎君の二女にして其の間に四男五女ありて孝君、誠君、小五郎君、敬四郎君及び靜子貞子、淑子、末子、節子等と呼ぶ、現に山口縣阿武郡椿郷東分村に住す。

久原房之助君

從五位勳三等
久原合名會社代表社員
久原鑛業株式會社長

君は山口縣の人久原庄三郎君の三男にして男爵藤田平太郎君の從兄君に當り、田村市郎君や齋藤幾太郎君等の令弟にして同浩介君の叔父君たり、明治二年六月を以つて生る。明治二十二年慶應義塾を卒業するや直ちに實業界に身を投じ、巖に森村組に入り後藤田組に轉じ小坂鑛山經營の任に當りしが後藤田組と分離し獨力鑛業に従事するに至る。

現時は久原鑛業株式會社々長たる外共保生命保險株式會社々長、合同肥料株式會社會長、久原商事、久原用地部各株式會社取締役及び久原本店代表社員にして我が實業界の巨星として知らる。夫人キヨ子は山口縣の人鮎川義介君の

國枝謹君

香里園土地株式會社長

君は岐阜縣の人國枝靜也君の長男にして明治七年五月を以つて生る。明治二十六年慶應義塾を卒業するや直ちに實業界に身を投じ現に前記會社の社長たる外大阪農工銀行常務取締役、東洋造船工業株式會社取締役たり。

夫人美代子は滋賀縣の人淺見又藏君の令妹にして其の間に七女ありて君子、數子、千鶴子、田鶴子、由紀子、美佐子、蘭子等なり。現に大阪市南區天王寺北山町五四五三番地に住し電話南四二三番なり。

久良知重治君

炭礦商船株式會社常務取締役

君は福岡縣の人久良知政市君の長男にして明治十三年六月を以つて生る。夙に實業界に志し現に前記會社の重役たる外九州製革株式會社代表社員、藏内鑛業、九州運炭各株式會社取締役たり。

君に一男一女ありて長男を重基君、長女を治子と呼ぶ、因に令姉ゆき子は同縣の人藏内安太郎君に、同ゆり子は熊本縣の人古賀有文君に夫々嫁す。現に小倉市鍛冶町に住す。

吳 秀三 君

從三位勳二等 醫學博士
東京府松澤病院長

君は舊廣島藩醫吳黃石君の二男にして醫學博士吳建君の叔父君なり。故男爵箕作麟祥君、故男爵菊池大麓君、故理學博士箕作佳吉君、故文學博士箕作元八君等は其從兄弟君たり。君は慶應元年二月を以つて生れ、明治二十三年帝國大學醫科大學を卒業し更に大學院に入りて斯學の研究を積み、明治二十九年東京帝國大學醫科大學助教授、東京府巢鴨病院醫長等に歴任し、明治三十年精神病學研究の爲め獨逸に留學し、明治三十三年醫學博士の學位を授けらる。

然して明治三十五年東京帝國大學醫科

大學教授に陞任し、東京府巢鴨病院長を兼ね後府立松澤病院長として今日に至る

曩に日本神經學精神學會、精神病者救護會等を創立し、其主幹又は顧問となり又萬國腦髓研究會委員、維也納精神病學會々員、英國精神病學會員として本邦精神病學の泰斗たり。

夫人光子は東京府の人故本多富次郎君の三女にして東京音樂學校を卒業し、君との間に茂一君、章二君及びたま子、かつ子、いく子、芳江子等あり、現に東京市小石川區關口臺町二番地に住し電話小石川一二六五番たり。

黒岩 常平 君

日州銀行監査役

君は宮崎縣の人黒岩常次郎君の長男にして明治八年十二月を以つて生る。夙に實業界に活躍して名聲を馳せ現に株式會社日州銀行監査役たる傍ら都城電氣株式會社取締役、北諸縣郡製糸株式會社の監査役として知らる。

夫人キミエ子は宮崎縣の人瀬戸山國太郎君の長女にして君との間に七男二女ありて常衛君、明君、勇平君、常吉君、常郎君、常利君及び文子、静子と呼ぶ、現に宮崎縣北諸縣郡都城町に住す。

工藤 十三雄 君

弘前新聞社長
陸奥日報社長
衆議院議員

君は弘前市の人にして明治十三年を以つて生る。夙に東京帝國大學法科大學に學び後操觚界に身を投じ大いに敏腕を振ふ。曾つて故山縣公の生存中即ち君が時事新報記者時代公の寵愛を受け、常に悠悠々新椿山莊の門を潜り小田原古稀庵の表玄關より山縣公の居室に無遠慮に出入し更に又寺内伯の寵愛をも壇にし現に地方新聞界に盛名ある弘前新聞の如きは實に伯の出資に依りて創立し經營し來れるものなりといふ。君人と爲り英才、襟度又廣大加ふるに頗る敏腕家にして曾つて總

郡司 佐十郎 君

中央生命保險株式會社
東京支店長

君は千葉縣の人郡司左門君の長男にして明治九年一月五日を以つて千葉縣香取郡多吉町に生る。夙に郷校を卒ふるや直ちに上京して東都實業界に身を投じ、爾來佛敎生命、帝國生命、日宗生命各保險株式會社を歴勤し、偶々明治四十二年大平生命保險株式會社の設立を見みるや入りて同社會計課に勤務すること十有余年同社の爲め盡瘁すること甚大なりしが大正九年十月聘に應じて中央生命保險株式會社に轉じ同社徵收課長、會計課長等を歴勤し遂に擧げられて同社東京支店長の要職に就任し現在に至る。

久我 金三郎 君

日本亞鉛鐵株式會社社長

君は大阪府の人久我金次郎君の長男にして明治八年十二月を以つて生る。現時は日本亞鉛鐵株式會社專務取締役社長を初めとして亞鉛電解鐵業、四國生糸、東洋サンドペーパー、勝光山窯業各株式會社取締役、花屋敷土地、八木造酒各株式會社監査役たり。

夫人可代子は岡山縣の人太田梨一郎君の令姉にして其の間に寅之助君あり。現に大阪市南區天王寺堂ヶ芝町五六七九ノ二番地に住し電話長南三五八七番なり。

三三番なり。

桑本 巖 翼 君

文學博士 東京帝國大學教授

君は東京府の人桑本愛信君の長男にして明治七年六月を以つて生る。明治二十九年東京帝國大學文科大學哲學科を卒業し更に大學院に入り認識論を専攻す。後哲學研究の爲め歐米諸國に留學すること數年、歸朝後は第一高等學校教授、京都帝國大學文科大學教授等に歴任し、正四位勳三等高等官一等に叙され現に東京帝國大學教授たり。

夫人誠子は男爵安東貞美君の二女にして君との間に二男三女ありて信一君、久雄君及び素子、繁子、京子と呼ぶ。現に東京市牛込區北町三八四番地に住す。

黒岩 岩太郎 君

津久見鐵業株式會社社長

君は大分縣の人黒岩安五郎君の長男にして明治十三年三月を以つて生る。現に

前記會社の重役たる外津久見耐火煉瓦、
黒岩商事各株式會社取締役、津組銀行、
大分電氣工業各株式會社監査役たり。

夫人マセ子は同縣の人中津留喜代治君
の長女にして其の間に一男五女ありて安
雄君、初枝子、千代子、美代子、里子、
榮子等なり、現に大分縣北海部郡津組村
に住す。

桑原 莊 吉君

河野ゴム工業株式會社社長

君は岐阜縣の人桑原庄右衛門君の長男
にして文久元年六月を以つて生る。夙に
岐阜縣立醫學校に學び明治十八年海軍小
軍醫に任じ、同四十四年海軍々醫總監に
累進す。其の間淺間、龍驤、千代田、龍
田各艦軍醫長、横須賀、佐世保各海軍病
院長兼看護術練習所長、旅順、吳各海軍
病院長兼吳鎮守府軍醫長等に歴任して正
四位勳三等功四級に叙せられ海軍々醫中
將となり、後實業界に入り前記會社社長た
る外日本カルシウム泉株式會社社長、大正

鑛林業、東京測量器製作各株式會社取締
役に於て又曩に英佛獨各國を視察巡遊す
夫人すう子は同縣の人大塚庄三郎君の
四女にして其の間に二男四女ありて博隆
君、季隆君及び婦美子、波子、秀子、芳
子等あり、因に長女婦美子は法學士高田
貞三郎君に、二女波子は工學士千葉利智
君に、三女秀子は醫學士吉田準一郎君に
四女芳子は法學士鈴木佐平君に夫々嫁す
現に東京市外澁谷町下澁谷二四九番地に
住す。

工藤 善 助君

丸子鐵道株式會社社長

君は長野縣の人工藤傳五郎君の二男に
して安政元年一月を以つて生る。曾つて
依田銀行頭取たりしが現時は前記の要職
にある傍ら信濃絹糸紡績、上田蠶種各株
式會社取締役及び信濃電氣株式會社の監
査役たり。曩に衆議院議員に選ばるゝこ
と二回、功に依り勳四等に叙さる。
夫人たち子は同縣の人工藤柳助君の令

妹にして其の間に三男三女ありて倫君、
房金君、利助君及びふじ子、まさ子、乃
婦子等なり。現に長野縣小縣郡丸子町に
住す。

窪田 駒 吉君

日本製粉株式會社社長
株式會社鈴木商店取締役

君は高知縣の人島村只三郎君の令弟に
して明治十六年十月十五日を以つて生れ
後窪田平吉君の養嗣子となる。夙に實業
界に雄飛せんとの大望を抱くや本邦財界
の巨星を以つて目せらるゝ神戸鈴木商店
に入社し、奮闘精勵以つて同社發展に盡
瘁すること甚大、君が天才的敏腕は漸次
上長の認むるところとなり累進して同社
樞要の地位を占むるに至る。
然して同社取締役兼東京支店長として
君が才腕を縦横に振ひしも、昭和二年二
月日本製粉株式會社々長の要職に就任し
現に其の任にある傍ら鈴木商店、日本酒
類醸造、東工業、鹿兒島醸造、再製樟腦

各株式會社重役として我が財界に名高
し。

夫人シマ子は養父平吉君の二女にして
君との間に豊秋君、芳稻君、泰彦君及び
壽子、末子、敏音子、好子等あり。現に
東京市牛込區市ヶ谷河田町一九番地に住
し電話牛込九三五番たり。

栗原 象 吉君

東洋化學肥料株式會社社長

君は東京府の人栗原布久松君の長男に
して明治九年十一月を以つて生る。夙に
米穀委託販賣業を營み傍ら各會社に關係
し現に前記會社の社長たる外尙ほ日本製
菓、相生無盡各株式會社取締役、東洋製
粉、土浦製粉各株式會社監査役にして且
つ東京商業會議所議員たり。

夫人まさ子は静岡縣の人田中淺吉君の
長女にして其の間に五男二女ありて福太
郎君、良作君、三吉君、正雄君、勇君及
び久子、米子等なり、現に東京市本所區
綠町二ノ三番地に住す。

久保 勇 君

大日本農器具株式會社社長

君は東京府の人久保之昌君の長男にし
て、侯爵松方正義君の甥君に當り慶應三
年三月を以つて生る。明治二十三年東京
帝國大學法科大學政治科を卒業するや間
もなく日本銀行に入り後歐米視察を命ぜ
られ、歸朝後明治二十九年大隈内閣成る
や總理大臣秘書官となり、後自ら東海生
命相互保險會社を創立して専務取締役に
推さる。

現に羊毛製煉株式會社を創立して自ら
同社の社長となり、更に前記會社を創立
して其の社長たる傍ら日本水電、唐津炭
礦、東京ワセリン各株式會社監査役たり
夫人ハツ子は長崎縣の人柳谷謙太郎君
の長女にして君との間に長女美代子あり
現に東京市赤坂區青山高樹町一二番地に
住す。

黑板 勝 美君

文學博士
東京帝國大學教授

君は長崎縣の人黑板要平君の長男にし
て明治七年九月を以つて生る。夙に郷校
を卒ふるや笈を負ふて東上し、明治二十
九年東京帝國大學文科大學國史科を卒業
し更に大學院に入り、次いで斯學研究の
爲め歐洲に留學し歸朝するや東京帝國大
學文科大學講師、同大學助教教授兼史料編
纂官等を歴任し現に史料編纂官兼東京帝
國大學教授にして功に依り從四位勳四等
高等官二等に叙せらる。

夫人喜代子は東京府の人水野權之助君
の長女にして君との間に三男五女ありて
庚一君、授君、壬生夫君及び冬至子、澄
子、康子と呼ぶ。現に東京市外澁谷町中
澁谷五三二番地に住す。

九 鬼 隆 治 君

子爵

當家は内大臣藤原鎌足の後裔九鬼大隅守嘉隆の後にして嘉隆織田、豊臣兩氏に従ひ、軍功ありて長子長門守守隆徳川氏に屬し志州馬羽五萬六千石を食む、守隆の三男式部少輔隆季丹波綾部一萬九千五百石に移され後十世を経て正四位隆備君に至り明治十七年子爵を授けらる。

君は其の長男にして子爵大田原一清君同九鬼隆輝君の従弟君に當り、明治十九年六月を以つて生れ同三十年襲爵す。

令姉直子は静岡縣の人野崎彦左衛門君に、貞子は男爵津公照君に夫々嫁し、叔父末徳君は子爵一柳家の當主にして同秀隆君は子爵建部家の當主たり。現に東京市赤坂區溜池町二番地に住す。

久 保 猪 之 吉 君

從四位勳三等 醫學博士

九州帝國大學教授

君は舊二本松藩士久保常保君の長男に

して明治七年十二月を以つて生る。明治三十三年東京帝國大學醫科大學を卒業し更に大學院に學ぶ。爾來京都帝國大學醫科大學助教、九州帝國大學醫科大學教授等を歴任し、現に同大學教授にして從四位勳三等高等官一等たり。

曾つて耳鼻咽喉科研究の爲め獨逸に留學し、第十七回萬國醫學界開催に際し渡英し尙ほ大正三年獨逸國柏林咽喉科學會より「フオルンス、ボンデーレンデス、シットグリード」に英國王立醫學會咽喉科學部より名譽通信會員に推選せらる。

夫人ヨリ子は愛媛縣の人宮本正良君の長女たり。現に福岡市大名町に住し電話一二四七番なり。

黒 田 長 成 君

侯爵 從二位勳一等

貴族院議員

當家は左大臣源雅信の裔佐々木秀吉の曾孫京極近江守の後左衛門宗清の裔なり宗清近江國黒田に住せしを以つて其の姓

黒 田 長 和 君

男爵從四位 勳二等

貴族院議員

君は從三位勳三等黒田長知君の令息にして侯爵黒田長成君の令弟、子爵黒田長敬君の令兄に當り明治十四年一月を以つて生る。明治廿九年絶家黒田高政宗家を再興し華族に列し男爵を授けらる。夙に學習院高等科を卒業し更に東京帝國大學法科大學に入り、次いで英國劍橋大學に學ぶ事數年にして歸朝するや明治三十二年東京職出仕仰せ付けらる。

貴族院議員に當選すること二回現に其の要職にあり。勳功に依り從四位勳二等に叙さる。夫人久子は子爵毛利高範君の長女にして其間に一男一女ありて長義君定子と呼ぶ。現に東京市赤坂區福吉町一番地に住す。

九 鬼 紋 七 君

大阪麵粉株式會社社長

君は三重縣の人九鬼紋七君の長男にし

となす。後數代を経て官兵衛孝高に至る孝高秀吉に仕へ其子長政武勇あり、後徳川氏に従ひ福岡の城主に封ぜられ五十二萬石を領す。夫より十一代を経て長知君に至る、長知君は曾つて七卿落の際五卿を擁護し維新の大業に偉功あり朝廷其功を賞し一萬石を賜ふ。

君は其長男にして慶應三年五月を以つて生れ明治十一年家督を繼ぎ明治十七年侯爵を授けらる。夙に英國に留學し歸朝後式部官に任じ、明治二十七年貴族院副議長に任せられ爾來其職にあり名副議長として知られしが大正十三年樞密顧問官に任せられ、現時宗秩寮審議官を兼任す又東京府多額納稅者にして現時直接國稅九千二百二十余圓を納むといふ。

君に一男二女ありて長禮君、幸子、貞子と呼び、長男長禮君の夫人茂子は閑院宮載仁親王第二王女にして勳二等たり。現に住宅を東京市赤坂區福吉町一番地に住し電話青山五〇七〇番なり。

て慶應二年一月を以つて生る。夙に米穀肥料商を營み、傍ら諸會社に關係し縣下屈指の實業家たり。

現に前記會社の社長たる外北勢電氣、四日市鐵道各株式會社社長、四日市銀行、同貯蓄銀行、同倉庫、三重鐵道、ラサ島燐礦、朝鮮無煙炭、九鬼産業、東海電線日進工業各株式會社取締役、東洋紡績、日本木工各株式會社監査役たり。

君に一男三女ありて徳三君及びつね子とみ子、くら子等なり。現に四日市中福屋町に住し電話長四〇番なり。

黒 金 泰 義 君

從四位勳三等 内閣拓殖局長

君は舊米澤藩士黒金泰乘君の長男にして慶應三年七月十三日を以つて米澤城下に生る。明治二十九年東京帝國大學法科大學英法科を卒業するや官界に入り警視廳に職を奉じて警視に任せられ、爾來山口、栃木各縣警察部長、北海道事務官、群馬、山口、大分、各縣知事、函館區長

等に歴任し、大正十四年九月内閣拓殖局長に任せられ現在に至る。曩に推されて衆議院議員たりしことあり趣味として園藝に堪能なりといふ。

夫人えん子は愛知縣士族酒井強三君の令妹たり。現に東京市本郷區駒込淺嘉七〇番地に住し電話小石川七八七番なり。

久 野 義 麿 君

醫學博士

近藤内科醫院副院長

君は愛知縣の人時野芳治君の長男にして明治十八年九月二十八日を以つて生れ後久野慶二君の養嗣子となる。夙に醫學に志し大正元年十二月東京帝國大學醫科大學を卒業し同二年一月同大學副手を拜命して藥物學教室に勤務し、同年十月現職の儘東京市養育院に勤務し同四年七月同大學副手を辭して恩賜財團濟生會病院内科醫員となり、同八年二月同會小石川診療所長となりしが同九年五月辭す。

大正十年七月醫學博士の學位を授けら

久保田 鼎君

正四位勳三等 奈良帝室博物館長

君は舊豊前中津藩士久保田安兵衛君の長男にして安政二年三月を以つて生る。

明治七年度省寫字生を拜命し、爾來文部權少録、文部屬、東京職工學校幹事等を歴任し、同二十二年帝室博物館主事に進み翌年東京美術學校幹事を兼任す。

然して明治二十八年米國に派遣せられ翌年歸朝するや臨時博覽會事務長及古社寺保存會委員仰せ付けられ、同三十一年東京美術學校幹事兼同校教授に任ぜられ次いで同校長心得より校長に進み、後帝室博物館主事となり京都帝室博物館長より奈良帝室博物館長に轉じ今日に至る。

夫人いと子は群馬縣士族保岡巳太郎君の令妹たり、現に京都府下京區七條御料地に住す。

ノ一番地に住す。

栗原作太郎君

實業家

君は秋田縣の人栗原次郎左衛門君の長男にして慶應三年五月を以つて生る。明治二十四年東京高等商業學校を卒業するや直ちに京都市立商業學校教諭となり、同二十五年日本鐵道會社に入社し、同三十一年三井鐵山株式會社に轉じ同年三池炭坑株式會社倉庫主任となり爾來會計課主管計算主任、本社庶務部主事、總務部主事等に歴任し、大正九年以來北海道硫黃株式會社囑託として現在に至る、趣味として魚釣、謠曲等あり。

夫人らく子は神奈川縣の人矢澤良助君の二女にして横濱外人經營女學校を卒業し、君との間に一男二女ありて毅一君、キヨ子、チヨ子等なり。現に京都市小石川區原町二七番地に住し電話小石川五四四八番なり。

れ、同年十月華盛頓會議大使の隨員を命ぜられて渡米し、同十一年三月歸朝するや近藤内科療院副院長となり、傍ら自宅に醫院を設立して一般患者の診療に従事して今日に至る。

久保信之君

從五位勳六等 醫學博士

臺灣總督府醫學專門學校教授

君は佐賀縣士族先代隆君の長男にして明治十年九月を以つて生る、明治三十四年岡山醫學專門學校を卒業し現時は前記臺灣總督府醫學專門學校教授たり、大正十年醫學博士の學位を授與せらる。

夫人本女子は岡山縣の人戸田江三郎君の長女にして君との間に信人君及びタツ子、ユキ子等あり。現に臺北市御成町一

黒川新次郎君

前日本郵船株式會社副社長

近海郵船株式會社取締役

我が財界一方の重鎮として令名ある勳五等黒川新次郎君は山形縣士族金井正近君の二男にして明治八年七月を以つて生れ後先代陽太郎君の養嗣子となる。夙に青山學院高等科を優秀の成績を以つて卒業するや直ちに實業界に身を投じ、日本郵船株式會社に入社して海外各支店に勤務すること多年、同社の發展に盡瘁すること甚大、而して大正二年歸朝するや本社外航課主事、神戸支店長等を歴勤し遂に擧げられて同社副社長の要職に就任して愈々君が多年の蘊蓄を傾注して稀代の才腕を振ひ現に近海郵船、海外興業各株式會社取締役として知らる。

曩に日獨講和會議に隨員を仰せ付けられ功により勳五等に叙せられ、大正十五年國際汽船株式會社の囑に應じて外國に航し南北米各地を経て歐洲各國に巡歴し普ねく彼の地の海運界及び一般經濟界を

視察研究して歸朝し同社海外發展に貢献すること尠ならず、又曾つて神戸商業會議所議員たりしことあり。

夫人かね子は兵庫縣士族石川申一郎君の長女にして君との間に正雄君、信雄君、清雄君、澄雄君、博雄君、忠雄君、義雄君、和雄君及び千賀子、春子等あり、現に京都市麻布區材木町五五番地に住し電話青山六三一一番なり。

熊谷五右衛門君

勳四等 衆議院議員

福井日報社長

君は福井縣の人熊谷五衛門君の長男にして慶應元年六月を以つて生る。當家は代々農を以つて業となし當地の名家にしして現に福井日報社長たり。又福井縣郡部選出の衆議院議員にして政友本黨に屬し我が政界に令名高し。

夫人さき子は福井縣の人高島より子の四女にして君との間に一男一女ありて長男を淳二郎君、長女を貞子と呼ぶ、現に

福井縣坂井郡坪井村に住す。

日下部辨二郎君

正四位勳三等

工學博士

君は滋賀縣士族巖谷修君の長男にして巖谷小波君の令兄たり、文久元年二月三十日を以つて生れ、後東京府士族日下部東作君の養嗣子となる。夙に青雲の志を抱いて上京し育英義塾に入りて英學を修め、後開成學校を経て同十三年東京帝國大學理學部を卒業し内務省土木局に出仕せしが次いで土木監督署長に就任す。

然して明治二十三年歐米に派遣せられ歸朝後工學博士の學位を授けられ東京市役所に入りて技師長の要職にありしが後官を辭して實業界に入り大正砂利、東京鐵筋コンクリート各株式會社の取締役として令名を馳せ、現に閑地にありて悠々自適園藝に専念たり。

夫人をまちよ子と呼び養父東作君の二女たり、現に京都市赤坂區青山南町五ノ

四五番地に住し電話青山二四二五番なり

草野 順平君

正八位 實業家

君は元福島縣會議長佐藤甚右衛門君の長男にして明治十九年十一月を以つて生れ、前代議士白井博之君の夫人政奈子の生家草野家に入りて其の家督を相續す。

明治四十四年慶應義塾大學理財科を卒業するや一年志願兵として歩兵第三聯隊に入營し陸軍三等主計となり、後古川礦業株式會社に入りて好間嶺山庶務課長を経て磐城銀行に入り、現に同行支配人たる外小名濱商事、田村實業銀行、小田炭礦各株式會社の重役として知らる。尙ほ福島縣會議員として縣政に參與し盡力すること大なり。

夫人フタ子は舊平藩士有賀高利君の五女にして淑徳の譽れ高く、君との間に一男ありて良一君と呼ぶ、現に福島縣石城郡平村に住し電話特長三〇一番なり。

日下部 金三郎君

從七位 京濱電力株式會社總務部長

君は山口縣士族白井胤真君の三男にして、明治九年八月二十日を以つて生れ後日下部辨二郎君の養嗣子となる。明治三十六年東京帝國大學法科大學英法科を優秀の成績を以つて卒業するや、直ちに司法官試補を拜命し後檢事に任ぜられしが明治三十九年官を辭して日本石油株式會社に入り、更に猪苗代水力電氣株式會社に轉じ、次いで京濱電力株式會社に轉じて其の總務部長に就任し現在に至る。趣味として演劇あり。

夫人美香子は養父辨二郎君の長女にして東京女學館を卒業し、其の間に長女喜美子、二女八重子等あり。現に東京市赤坂區青山南町五ノ四五番地に住し電話青山二四二五番なり。

熊谷 直太君

正五位勳三等 衆議院議員

君は山形縣士族熊谷直能君の長男にして

慶應二年七月を以つて生る。明治三十年東京帝國大學法科大學英法科を卒業し判事に任ぜられ前橋、東京各地方裁判所判事、長崎、東京各控訴院判事等に歴補し、後官を辭して辯護士を開業せり。

然して山形縣郡部より推されて衆議院議員に當選すること前後四回に及び、大正十三年加藤高明内閣組織に際し司法政務次官となり翌十四年八月依願免官となり再び辯護士を開業し一般法律事務に従事し現に引き続き衆議院議員の職にありて政界に令名あり。

夫人ヒサ子は廣島縣の人下枝觀一郎君の二女にして君との間に長男宜夫君、二男均君、三男伍郎君、長女元子等あり、現に東京市麻布區本村町二〇九番地に住し電話高輪四八六四番なり。

黒田 清秀君

中央生命保險株式會社取締役

君は子爵黒田清輝君の令弟にして明治六年二月十三日を以つて生る。夙に札幌

農學校を卒業するや更に米國に航し、ミシガン州農科大學に入り研鑽を積み明治二十六年同校を卒へて歸朝す。

然して明治二十八年日本銀行に入りて格勤すること數年、同三十五年同行を辭し後日英博覽會事務局農商務省囑託となり、尋いで中央生命保險株式會社に入社して同社監査役を経て現在に至る。

夫人ツギ子は山梨縣の人太木喬命君の二女にして君との間に五男二女ありて綱秀君、光綱君、武綱君、清邦君、典綱君及び秀子、弘子等なり。現に東京市麻布區斧町一八一番地に住し電話青山六三七二番なり。

黒川 幹太郎君

男爵 正四位

貴族院議員

當家は伊豫國舊小松藩士にして先代通軌君より家名を揚ぐ、通軌君は明治六年陸軍大佐に任ぜられ明治十八年陸軍中將に進み、明治二十年男爵を授けらる。

熊谷 巖君

衆議院議員

從六位法學士熊谷巖君は岩手縣の人熊谷平助君の二男にして明治十六年九月を以つて生る。明治四十二年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業するや直ちに文官高等試験に應じて首席を以つて登第し、後職を官界に奉じて東京府理事官、佐賀縣警察部長、警視廳保安部長等に歴任せしが官を辭して野に下り、大正十三年岩

手縣郡部より推されて衆議院議員に當選し現に政友會に所屬して令名あり。

黒住 成章君

正五位 衆議院議員

君は岡山縣の人黒住秀治君の長男にして明治八年十二月を以つて生る。明治三十五年法政大學を卒業するや司法官試補となり辯護士たりしが後北海道郡部より推されて衆議院議員に當選し、現に其の任にありて我が政界に令名あり。

然して大正十三年商工參與官に任ぜられ同十四年八月之を辭す、夫人をナカ子と呼び北海道の人太和佐次郎君の三女にして君との間に一男一女ありて眞雄君、不二子と呼ぶ、現に北海道函館市に住す

久野 茂 君

日本通商株式會社常務取締役

君は大坂府士族久野宗興君の二男にして明治二十二年三月十七日を以つて生る。大正六年京都帝國大學法科大學を卒業するや直ちに實業界に投じ、大阪アルカリ株式會社に入社し、大正十一年日本通商株式會社に轉じ同社取締役を擧げられ、現に同社常務取締役として知らる。
夫人君子は兵庫縣の人田中祐吉君の二女にして大阪梅田高等女學校を卒業す。現に東京市外駒澤村世田ヶ谷新一三番地に住す。

を開始し現在に至る。

夫人たき子は東京府の人川口一君の三女にして三輪田高等女學校の出身たり、現に東京市赤坂區表町一ノ一番地に住し電話青山五七五六番なり。

朽木 綱 貞 君

子爵 從三位勳三等

當家は式部卿敦實親王の子左大臣源雅信の裔なり、代々江州朽木に住せしを以つて之を姓となす。然して民部少輔植綱慶安二年常陸土浦の城主となり、寛文九年丹波福知山に移城し封三萬二千石を領す。夫より十二世を経て爲綱君に至る。

君は爲綱君の二男にして明治八年十二月を以つて生れ同十七年子爵を授けらる。夙に陸軍歩兵少尉に任ぜられ大正十年陸軍少將に昇進し曩に工學博士の學位を授けらる。

夫人芳子は東京府の人徳川篤守君の長女にして君との間に一男二女あり、現に東京市外戸塚五番地に住す。

倉元 要 一 君

從六位勳四等 衆議院議員

君は静岡縣の人倉元岩五郎君の令弟にして明治十二年十二月を以つて生る。現に静岡縣郡部選出の衆議院議員にして中央政界に活躍する傍ら地方自治制に貢献すること甚大なり。

曾つて福井縣今立郡長、坂井郡長、同縣勸業課長及び静岡縣濱名郡長、同縣產業課長たりしことあり、夫人を春子と呼び東京府の人伊藤元君の二女たり現に静岡縣濱松市に住す。

熊野 芳 太 郎 君

山陽燗寸株式會社監査役

君は廣島縣の人熊野嘉吉君の長男にして明治三年四月を以つて生る。夙に實業界に身を投じ糸類問屋を營み、尙ほ傍ら山陽燗寸株式會社の監査役にして且つ廣島縣多額納稅者として直稅一千二百四十余圓を納め、當地方財界の重鎮たるを失

久保山 武 夫 君

辯護士 辯理士

君は熊本縣の人久保山了君の三男にして明治二年一月二十五日を以つて生る。大正二年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業するや直ちに實業界に身を投じ愛國生命保險株式會社に入社せしが、大正七年獨力以つて辯護士及び特許辯理士事務

はざるべし。

夫人ムメ子は廣島縣の人前田文助氏の三女たり、現に廣島市堺町一ノ二二番地に住す。

黒川 善 一 君

正六位勳六等 東京商科大学事務官

同學庶務課長兼會計課長

君は東京府士族黒川善繼氏の長男にして、明治九年十一月八日を以つて生る。夙に東京府青山師範學校の前身たる東京府師範學校を卒業するや、直ちに帝都教育界に投じて小學校に教鞭を執ること四ヶ年、後ち東京商科大学の前身たる東京高等商業學校附設商業教員養成所に入學し、明治三十六年優秀の成績を以つて同校を卒業す。

斯くて佐野商大學長の推薦にて静岡縣静岡商業學校教諭を拜命し、爾來同校にありて學徒の薫陶に盡瘁すること十有余年君が同校の爲めに貢献すること甚大なりしが、大正三年上京して東京市立商業

葛谷 貞 之 君

從七位勳六等 醫學博士

君は愛知縣の人葛谷貞逸氏の四男にして明治十六年十一月を以つて生る。明治

三十七年愛知醫學專門學校を卒業し、大正十三年醫學博士の學位を授與せらる。爾來本邦醫學界並に刀圭界に貢献すること甚大現に尾張電氣軌道株式會社取締役として財界に知らる。現に名古屋市西下園町三ノ五番地に住し電話本局二七一一六番たり。

久米 作 藏 君

増田屋合資會社代表社員

君は神奈川縣の出身にして明治十四年十一月三十日を以つて生る。夙に實業界に志し明治三十九年十二月増田増藏商店に入り、不動産有價證券所得利用輸出商の實務に當り、店主を輔佐して店務に精勵し、明治四十五年同店を合資組織に改め、而して増田増藏氏同社代表社員に就任せしも幾許もなく之を辭せしを以つて君推されて其後任として同社を代表し今や社の内外に重きをなし東都實業界に名あり。現に東京府荏原郡矢口村三一四に住す

黒田長禮君

從四位 理學博士 主筆官

君は侯爵黒田長成氏の嫡男にして、明治二十二年十一月廿四日を以て生誕。夙に東京帝國大學理科大學動物學科を卒業せるが更に同大學院に於て研鑽すること五ヶ年に及べり。

君は幼にして鳥類に興味あり、爾來、其の研究に没頭し鳥類の分布と分類、之に關する各個体の趨異等を研鑽し、大正十三年二月論文「琉球諸島の鳥類に關する私見」に依りて理學博士の學位を享け、今や斯學界の泰斗として世界的の令名を博するに至れり。

君は鳥の異種を發見せること約百種、哺乳動物は約二十種の多數に上り、又朝鮮に於て冠筑紫鴨を發見せり、斯學に關する著書頗る多く英文「日本産雉類圖說」「富士山鳥界一斑」「臺灣島の鳥界」「朝鮮鳥類一斑」英文「琉球諸島の鳥類」「世界の鴨」「世界の鴈と鶴」英文「日本鳥類の保護」等ありて學界に貢獻するところ

極めて多し。

君は又世界的に幾多の學會に關與し現に日本鳥學會幹事、鳥之會役員、米國鳥學協會名譽會員、米國哺乳動物學會會員、獨逸鳥學協會外國會員、英國鳥學協會外國會員、ボンベイ博物學會會員、萬國鳥類保護委員會日本委員、日本動物學會會員、日本生物地理學會會員等なり。

夫人茂子は閑院宮戴仁親王殿下の第二王女に在り跡見高等女學校出身の才媛、其の間に長久君及び政子、光子あり、現に東京市赤坂區福吉町一番地に住す。電話青山五〇七一番

倉富鈞君

朝鮮銀行東京支店検査役

君は東京府華族從二位勳一等男爵樞密院議長議定官法學博士倉富勇三郎氏の長男にして、明治十八年二月二十八日を以て生る。

明治四十三年東京帝國大學法科大學政治科を卒業し、全四十五年朝鮮銀行に入

り、本店並に仁川、大連各支店長次席、元山、木浦、神戸各支店支配人等を歴任し、大正十五年東京支店に轉じ現に検査役として知らる。

趣味多様な中にも登山、旅行等を最も愛好するが如し、學士會々員たり。

夫人フチ子は從三位勳一等男爵樞密顧問官荒井賢太郎氏の長女にして跡見高等女學校の出身、其の間に幹郎君、英郎君及び寛子、眞子等あり、現に東京市赤坂區丹後町一番地に住す。電話青山七二五七番

熊本石造君

野村銀行(株)取締役兼總務部長

由來實業界に才人甚だ多し、而かも多くは之れ靡々たる小才にして所謂機略縱横の逸才に至つては頗る稀なり、茲に於てか木邦財界の鎮臺たる野村銀行の取締役兼總務部長として其の才腕を顯はれ、夙に令聞ある吾が熊本石造君は即ち超凡の才器と謂ふべし。

君は明治十八年二月十一日を以て福島縣若松市に於て生誕せり、嚴父を福岡縣人熊本孫作氏、慈母を春子となし其の長子に生る。而して君は幼にして衆童に傑れ所謂双葉にして克く梅檀の芳香を放てり、夙に福岡縣立修猷館に入り、中等教育の課程を経て後ち笈を負ふて東上、早稻田大學に入學す、然して勉學大いに努むると共に故大隈侯の徳風に浴して將來の飛躍に備ふるところあり、明治四十三年優秀の成績を以て同大學商科を卒業す

尋いで實業界に志し、直ちに安田銀行の前身たりし日本商業銀行に入り、以て行務の實際に携はりしが大正七年に至り之を辭して野村銀行に轉じ、克く精勵して業務の進展に盡すところあり、大正十四年同行總務部長に榮進し亦取締役役に推さる、年齒壯にして此の樞機に與る、亦以て君の才腕の凡ならざるを窺ふに足るべし。

其の人物極めて玲瓏として玉の如し、宜なる哉その人格、その識見、その才腕

が今日の顯要を生みしことを、日本に於ける財界のパロメーター野村銀行は如斯人材を以て構成さる、行務の堅實なる寔に故なしとせず。

君はゴルフに堪能なり、夫人須恵子は福岡縣士族石野寛平氏の息女にして小倉高等女學校の出身たり、現に兵庫縣武庫郡御影町上ノ山一六六番地に住す。電話御影一五二三番

倉本彦五郎君

總町銀行取締役兼大井支店長

銀行家として敏腕を振ふのみならず、志を町制に抱き、今や東京府荏原郡大井町々會議員として將又學務委員として盡瘁するを我が倉本彦五郎君となす。

君は東京府の人倉本權兵衛氏の二男にして、明治十八年五月二十三日を以て生誕す。

夙に學業を卒ふるや實業界に投じて活躍大いに努め、現に前掲諸要職にある外

品川水利組合會議員、大井馬込耕地整理組合長等を勤めて令名あり。

趣味に讀書あり、園藝に長じ、旅行を愛好するといふ。

夫人カツ子は川島常太郎氏の四女にして其の間に正雄君、耕平君及びチエ子、ミツ子、フミ子等あり、現に東京府下大井町字原五二八〇番地に住す。電話大森九三一番

久保直吉君

久保直印刷所主

今や東都印刷界に新進の聞えあるを我が久保直印刷所經營者久保直吉君となす君は福井縣の人久保保藏氏の三男にして、明治二十一年一月十日を以て同縣大野郡猪瀬村に生る。

現に東京府に原籍を有し、夙に大志を抱いて上京し、始め洋服商に志して實地に見習ふこと約三ヶ年、然して後ち本邦印刷出版界の有望なるに着眼するや明治三十九年の頃より兄弟三人共同にて印刷

業を開始し、之を贊保堂紙工場と命名し爾來、斯業に對して常に眞摯なる態度と不斷の研究と誠實なる奮闘とを以てせしかば業運隆々として榮え、遂に東都同業界に重きをなすに至れり。

斯くて大正七年獨立の機運熟するや長兄長雄氏の贊同の下に分れて一家を創立すると共に現在の場所をトして久保直印刷所を創設し、從來の御得意に加ふるに更に新らしき御得意に對して終始一貫誠實勤勉をモットーにして日夜精勵せしかば業績日に月に擧り、今や久保直印刷所の聲價東都に普ねく、同君の信望又絶大にして前途益々多望なるものあり。

夫人をつね子と呼び東京府の人にして養嗣子榮若は亡兄長作氏の二男たり、現に東京市日本橋區濱町二ノ十七番地に住す。電話浪花三四六四番

久野 義 麿 君

醫學博士
久野義麿内科醫院長

君は東京府の人時野芳治氏の長男にして、明治十八年九月二十八日を以て生れ後ち久野慶二氏の養子となる。

大正元年東京帝國大學醫科大學を卒業するや翌二年一月大學副手を拜命、藥理學教室にありて研鑽、全四年恩賜財團濟生會病院内科に入り、全八年二月同會小石川診療所長に任じ、全十年七月醫學博士の學位を授けらる。

斯くて全年十月華盛頓會議大使隨員仰せ付けられ、全十一年三月歸朝するや近藤内科療院副院長となり、昭和二年四月獨力久野義麿内科醫院を創設し今や東都刀圭界に令名あり。

夫人さつき子は養父慶二氏の長女にして其の間に富士雄君あり、現に東京市本郷區曙町二十五番地に住す。電話小石川七二二五番

黒川 健 藏 君

諸機械製造業
黒川鑄工所長

本邦諸機械製造業界の權威、我が黒川健藏君は東京府の人明治五年十一月六日を以て生る。

夙に斯界に活躍せんとの大志を抱き、明治三十七年日露戰役の當時初めて横濱市南吉町に機械製造業を經營主宰して斯業の發展に盡瘁すること七年有半、後ち聘せられて横須賀造船鑄工廠に入り、同廠にあること九ヶ年にして東京砲兵工廠に轉勤して歳月六年を閱し、其の間常に専念斯業の改善發達に盡瘁すること尠少ならず。

斯くて大正四年の交獨力黒川鑄工所を設立して君が多年の濼蓄を傾注し、爾來奮闘精勵せしかば業運月に年に隆昌に赴き、今や廣大なる工場、優秀なる技術者と多數の職工とを有して常に優真なる製品を市場に送り、就中、平塚海軍工廠を始めとして諸官廳會社等に信望最も厚く

本邦斯界の權威として前途多望なるものあり。

尙ほ君は事業に精勵する傍ら町會、青年團等の公共的事業に心を盡くし、曾つては同町の名譽職、評議員等に擧げられ徳望と人望二つながらに一般民衆の範たるは蓋し君が今日ある所以なりといふべきにあらざる哉

現に東京府荏原郡北品川小關五一四番地に住す。電話高輪二九八六番

栗 田 淳 一 君

文學士 日本石油(株)秘書課長

君は山口縣の人栗田當信氏の長男にして、明治三年五月十七日を以て生る。

夙に第五高等學校を経て明治四十四年東京帝國大學文科大學東洋史學科を卒業するや高輪專修學院教師となり、後ち實業界に投じ、カルビス製造株式會社に入りしも、在勤一ヶ年にして寶田石油株式會社に轉じ、後ち同社が日本石油株式會社に併合せらるゝや同社に轉勤、昭和二

年同社秘書課長に擧げられ、以て現在に及ぶ。

趣味に富み、音樂、書畫を最もとなす現に東京市外上落合五七一番地に住す。

草 間 時 光 君

財團法人協會會參事

君は錦鷄間祇候草間時福氏の二男にして、明治二十年十一月を以て横濱市に出生し東京市に於て成育す。

夙に第二開成中學校に學び、岡山高等學校を経て京都帝國大學法科大學に入學大正四年同大學政治科を卒業す、斯くて直ちに日本染料株式會社に入社し、後ち東京電氣株式會社に轉じたるも、大正七年同社を辭して日東印刷株式會社に入り同社支配人に就任、尋いで同九年之を退くや君が平素研鑽の勞資問題の實際に携るべく、協調會に入りて現に其の參事たるの傍ら、司法省刑事局囑託を兼ね、曩に歐米を巡歴し、具さに各國の勞働問題等を攻究視察せることあり。

窪 田 源 一 郎 君

仁壽生命保險(株)常務取締役

君は福井縣士族窪田元吉氏の長男にして、明治六年十二月を以て生れ大正九年家督を相續す。

夙に學業を卒ふるや本邦實業界に投じ仁壽生命保險株式會社に入りて、同社名古屋、京都、大阪各支店長を歴勤し、後ち本社取締役支配人に推され、現に同社常務取締役として内外に令名あり。

夫人をハル子と呼び京都府の人戸澤家の出にして其の間に龍一君及び花子あり現に東京市麻布區仲之町六番地に住す。電話青山五一四六番

倉富勇三郎君

男爵 從二位勳一等 議定官
法學博士 樞密院議長

君は故久留米藩儒倉富胤厚氏の二男たり、夙に司法省法律學校を卒業するや明治十四年判檢事試験に登第司法省に入り爾來、民事局長、大審院檢事長、東京控訴院檢事長、韓國統監府司法次官兼參與官、司法廳長官、法制局長官、内大臣秘書官長、帝室會計審査局長官等を歴任す斯くて大正三年貴族院議員に勅選せられ、全九年樞密顧問官に親任、同副議長を経て同十五年四月樞密院議長に任せらる、先是明治四十一年法學博士の學位を授與、尙ほ帝室制度審議會委員、御歴代史實考查委員會委員、臨時法制審議會委員等を仰せ付けられ、大正十五年帝室制度審査に關する多年の功勞に依り男爵を授けらる。

現に東京市赤坂區丹後町一番地に住す
電話青山六〇八二番

九鬼周造君

文學士

君は樞密顧問官男爵九鬼隆一氏の四男にして、明治二十一年二月を以て生誕す夙に東京高等師範學校附屬中學校を卒業、第一高等學校を経て東京帝國大學文科大學哲學科に入學同四十五年之を卒業す、爾來、其の専攻たる哲學の研鑽に没頭し、大正十年歐洲各國に航し主として佛國に滯留、専ら純粹哲學を研究するありて昭和三年多大の滯蓄を得て歸朝せり滯佛中屢々公開の席上に於て「ね」「日本の永遠」等に就いて講演をなし又佛文「プロツボー・シュ・タン」の著を公にす。君は和洋音樂を以て趣味となす、夫人縫子は中橋徳五郎氏の息女にして東京府立第三高等女學校の出身たり、現に相州鎌倉町長谷一七四番地に住す。

久保 素君

田村自動車商會支配人

君は群馬縣の出身にして、明治十年十

一月十一日を以て生る。

夙に郷里の中學校を卒業するや笈を負ふて上京、東京工手學校に學び同校を卒業するや直ちに參謀本部陸地測量部に入りて技手に任じ、大正十二年官途を辭して獨力田村自動車商會を創立、今や東都自動車業界に重きをなし令名斯界に高し。是より先日露の國交斷絶して戰戈を交ふるや君又征途に就き遠く滿洲の野に轉戦功あり、旅行に趣味を有し、園藝に長ずるといふ。

夫人キクノ子は磯邊徳正氏の四女にして和洋裁縫女學校の出身、其の間に正之君、昭君及び知子、和子等あり、現に東京市芝區西久保明舟町十九番地に住す。電話芝一八四六番

栗栖末人君

三ツ引物産(株)常務取締役兼大阪支店長
昭和商事(株)取締役社長

君は廣島縣の人栗栖庄内氏の三男にして、明治二十年三月十三日を以て生る。

倉田 龜 吉君

勢城炭礦(株)事務取締役
茨城探炭(株)取締役

君は東京府の人小坂駒吉氏の長男にして、慶應元年八月を以て生る。

明治三十一年東大工科採鑛冶金科を卒業するや財界に投じ、現に前記の外淺野超高級セメント、帝國火藥工業、大正製氷各株式會社の重役たり。

現に東京市京橋區明石町河岸二號地に住す。電話京橋八五〇番

黑板 傳 作君

月島機軸(株)社長
日本鑄鋼(株)社長

君は長野縣の人黑板要平氏の二男にして、明治九年六月を以て生る。

現に前記の外日華同興株式會社取締役たり。

現に東京市牛込區新小川町二ノ二番地に住す。

大正四年早稻田大學商科を卒業するや直ちに實業界に投じ、爾來、大阪商船、横濱物産、日蘭貿易各株式會社を歴勤す斯くて大正十三年三ツ引物産株式會社を創立し同社常務取締役に就任、現に其の要職たる傍ら同社大阪支店長にして且つ昭和三年三月昭和商事株式會社を創立して同社取締役社長に就任以て現在に及ぶ。

曩に南洋ジャバ島に渡り南洋各地に支店出張所設置の調査をして歸朝す。寫真藝術に長じ、運動に趣味を有す、有恒俱樂部、清和俱樂部各會員たり。

夫人たつ子は神奈川縣の人小島太助氏の養女にして横濱高女の出身たり、現に大阪市住吉天王寺三一二八番地に住す。電話天王寺一五六一番

國井 磯 吉君

國井自動車部主

東京自動車組合評議員

君は東京府の人關口文吉氏の三男にし

安田善次郎君

安田銀行頭取

安田貯蓄銀行頭取

安田信託株式會社社長

當家は先代安田善次郎君より顯はる。先代は早くも實業界に志し奮然決意東都に上り、初め日本橋區小舟町に店舗を開き、金融業を営みしかば漸次隆昌に赴き明治維新後司法省爲替方及び栃木縣爲替方を命ぜられ、明治九年第三銀行を創立して同行頭取として活躍し、後ち幾多銀行の創立に參劃し、更に同十三年共濟生命保險株式會社の前身たる共立五百名社を興し、我が國生命保險業の嚆矢をなせり、次いで農商務省爲替方となり日本銀行の創立に際し其の監事に推さる。

此間東京府會議員、同市會議員、同市參事會員等に選ばれ、且つ鐵道、鑛業、運輸、紡績等各方面に事業を擴張し、而して既成銀行會社の買收合併を斷行する等枚擧に遑あらず、遂に我が國屈指の資産家として其令名一世に轟くに至る。斯

くて多年實業界に貢獻したる故を以つて勳二等瑞寶章を賜はる。

君は其の長男にして明治十二年三月七日を以つて生れ、大正十年十一月家督を相續すると共に前名善之助を改稱す。現に安田と言へば誰知らぬ者なき天下の大王國にして、今や其の勢力は全國金融界に波及し、信託、保險、諸製造業、鐵道電氣、土地、倉庫等あらゆる事業會社を經營し彼の三井、三菱を凌駕せんとするの盛況にあり。

現に前掲重要な地位にありて安田系統諸事業を總攬し、其の聲名や蓋し内外に噴々たり、現に東京市麴町區平河町六ノ十二番地に邸宅を有し電話四谷二三九七番たり。

矢吹友右衛門君

土湯電氣株式會社社長

福島縣多額納稅者

君は福島縣の人矢吹友藏君の長男にして明治九年十月を以つて生る。當家は當

地方に於ける素封家にして且つ福島縣多額納稅者として直接國稅四千三百三十余圓を納め、現に土湯電氣株式會社社長として知らる。

夫人シン子は福島縣の人阿部紀君の長女にして其の間に友品君、シン子、チイ子、ミト子等あり、現に福島縣信夫郡烏川に住す。

矢作榮藏君

法學博士 從四位勳三等

東京帝國大學教授

君は原籍を沖繩縣に有し、埼玉縣の人矢作八藏君の二男にして明治三年七月を以つて生る。明治二十八年東京帝國大學法科大學政治科を卒業し、更に大學院に入りて農業經濟學を専攻し、同三十四年東京帝國大學農科大學助教に任じ、翌年經濟學研究の爲め獨佛英各國へ留學を命ぜらる。

然して明治四十年五月農科大學教授兼法科大學教授となり、尋いで經濟學部の

獨立に際し同教授兼農學部教授に任じ、經濟學部長を命ぜられ現に其の職にある傍ら専修大學講師たり、先是明治四十年八月法學博士の學位を受け、我が法學界の泰斗たり。

夫人テツ子は京都府の人中西嘉助君の三女にして東京女子高等師範學校を卒業し正七位たり、現に東京市外千駄ヶ谷五六二番地に住し電話青山一六三〇番なり

山田 陸 槌 君

從四位勳二等功三級
豫備陸軍中將

君は福岡縣士族中村幸藏君の四男にして、明治二年八月を以つて生れ後ち先代有稱君の養子となる。夙に陸軍士官學校及び陸軍大學校を卒業し、明治二十四年陸軍工兵少尉に任じ、大正八年陸軍中將に累進す。

其の間參謀本部出仕、臺灣混成旅團參謀、陸軍大學校及兵學校教官、留守第十二師團參謀長、東宮武官、參謀本部課長

鐵道聯隊長、青島守備軍參謀長、舞鶴要塞司令官、臺灣總督府參謀長、交通兵團長、工兵監督を歴補し、曾つて滿洲に出張せしことあり。

夫人ヨネ子は福岡縣士族北澤俊夫君の叔母君にして其間に統一君及び愛子、光子、隆子、茂子等あり、現に東京市牛込區市ヶ谷仲之町四七番地に住し電話四一五番なり。

山脇雄三郎君

加茂酒株式會社專務取締役

君は愛媛縣の人富田伊平君の二男にして明治十年三月を以つて生れ後先代健藏君の養嗣子となる。夙に實業界に身を投じ酒造兼製鹽業を營み、現に前記會社專務取締役たる外日本製酒、佐竹鐵工所、平田商店各株式會社の重役として知らる尙ほ廣島縣多額納稅者にして現時直稅一千三百五十余圓を納む、夫人モト子との間に久雄君及びマサヨ子、節子、松枝子等あり、現に廣島縣加茂郡東野に住す

安田善四郎君

日本晝夜銀行頭取
富山銀行頭取

君は東京府の人安田善四郎君の長男にして、明治十年六月十八日を以つて生れ同三十五年十一月家督を相續すると共に前名善吉を改稱す。富豪安田家の一門にして現に前記の外正隆銀行頭取にして且つ安田銀行、安田貯蓄銀行、栃木伊藤銀行、安田商事、越後鐵道、博多灣鐵道汽船、安田信託各株式會社の重役として我が財界に名高し。

夫人ミネ子は東京府の人安田善次郎君の令妹にして君との間に楠雄君、秀次郎君、新君、樫雄君、良樹君、綠郎君等あり、現に東京市本郷區駒込林町十八番地に住し電話小石川一〇五番七七一番なり

山 田 一 君

小濱實業銀行取締役
第百七銀行取締役

君は福岡縣士族山口修君の長男にして

明治八年十二月を以つて生る。明治二十六年慶應義塾正科を卒業するや直ちに實業界に身を投じ、現に前記銀行取締役たる外只見川水力電氣、日東スレート、二本松銀行各株式會社重役として地方財界の一勢力たるを失はず。

然して福岡縣多額納稅者にして現時直稅一千七百十餘圓を納む、夫人富衛子との間に仁藏君、匡藏君、佛三君及び貞子千代子等あり、現に福岡縣安達郡二本松字鐵砲谷八番地に住す。

山内確三郎君

法學博士 正四位勳三等
衆議院議員

君は福岡縣の人山内潜吉君の三男にして、明治四年八月を以つて生る。明治三十一年東京帝國大學法科大學を卒業し、爾來大阪、神戸、東京各地方裁判所部長大阪東京各控訴院判事、東京地方裁判所大審院各檢事、司法省參事官、司法次官東京控訴院長等を歴任せり。

然して後ち官を辭して野に下り辯護士を開業して今日に至れり、曾つて視察の爲め歐米各國に差遣せられ、大正十五年補缺選舉に際し推されて衆議院議員に當選す。

夫人とみ子は同縣の人東タツミ子の養子にして其の間に金城君、三八君、東樹君、麴四郎君、正忠君、六郎君等あり、現に東京市外巢鴨町下新田一〇四一番地に住し電話小石川一三〇〇番なり。

山 縣 猛 彦 君

長崎縣多額納稅者
九十九銀行監査役

君は長崎縣の人山縣金十郎君の長男にして明治二年十月を以つて生る。夙に地方實業界に活躍し、現に九十九銀行監査役にして且つ多額納稅者として直稅六千二百餘圓を納め當地方の名物たり。
夫人シャ子は長崎縣士族村尾震三郎君の令妹にして君との間に正章君、浩君及びセイ子等あり、現に長崎縣佐世保市萬

津町七三番地に住す。

安田善五郎君

東洋、東京各火災保險會社長
共済生命保險會社長
帝國海上火災保險會社長

君は東京府の人安田善次郎君の三男にして、明治十九年六月を以つて生れ後ち前名三郎彦を改稱す。現に前記の要職にある外株式會社根室銀行頭取を初めとして、安田貯蓄銀行監査役及び桂川電力、安田商事各株式會社の重役として令名あり。

夫人孝子は東京府の人本尾敬三郎君の四女にして其の間に光子、竹子、延子、松江子等あり、東京市牛込區余丁町百番地に現住し電話四谷二四三五番たり。

山中紀三郎君

澤原銀行專務取締役

君は廣島縣の人門田安太郎君の二男にして明治八年十月を以つて生れ、先代忠

利君の養嗣子となる。廣島縣多額納税者にして現時直税六千五百七十餘圓を納め且つ澤原銀行専務取締役として地方財界に令名あり、夫人フナノ子との間に忠一郎君、孝君、英三君、利彦君、五男君、陸郎君及びマス子、タツ子、八重子、えな子等あり、現に廣島縣吳市本通七ノ一〇番地に住し電話特長二六番たり。

山内多門君

書家

君は日向國都城の人山内勝磨君の二男にして、明治十一年四月を以つて生る。年齒四才にして早くも書筆を執り、十六才にして郷の書家中原漢師に就て狩野派の書法を學び、明治三十二年京都に出て、先輩工學博士須田利信君に寄食し費を川合玉堂師の門に執り、一年有餘にして更に橋本雅邦師に師事して刻苦精勵せしかば遂に今日の盛名を贏ち得たり。然して帝展に「聚雨」「日光山四秀」「盛夏」「薩南六題」「金剛山」等を出品し

何れも人氣を集め就中「郡上十二景」は力作中の力作と稱せられ、大正七年推薦により審査員となる、會つて選書界に於ける「山家雪」は畏くも大正天皇猶東宮に在せし時御買上の光榮に浴し又「日光山四季」は文部省に「地引挽舟」は東京市の御買上を蒙り、今や東西畫壇の明星として令名高し。

夫人敏子は東京府の人植原惟忠君の長女にして其の間に多美夫君、誠二君及び喜美子等あり、現に東京府豊多摩郡淀橋町柏木八九六番地に住し電話四谷一六六四番なり。

山田足穂君

北海道多額納税者

深川製材株式會社取締役

君は北海道の人山田太三郎君の長男にして明治十二年十月を以つて生る。夙に土木建築界に身を投じ現に傍ら深川製材株式會社取締役にして、且つ北海道多額納税者として直税二千二百十餘圓を納む

夫人カツ子は北海道の人笠井嘉次郎君の長女にして其の間にカネヨ子、カネ子アサ子等あり、現に札幌市山鼻町四二二番地に住す。

安田善助君

帝國製麻株式會社社長

安田商事株式會社社長

君は東京府の人安田彌五郎君の二男にして、明治五年七月九日を以つて生れ、同二十三年十月先代善助君の養嗣子となる。夙に安田系統諸會社に關係し現に前記の諸職にある外大垣共立銀行、水戸鐵道、東京火災、小湊鐵道、奉天製麻各株式會社取締役にして、且つ安田銀行、興亞起業各株式會社の監査役たり。

夫人トヲ子は男爵鍋島直幹君の五女にして、其の間に孝一郎君、卯之助君、悌三君及び美登子、禮子、芳江子等あり、東京府豊多摩郡中野桃園三三四七番地に住し電話四谷二四六三番たり。

山梨半造君

従三位勳一等功二級

陸軍大將

君は神奈川縣の人山梨安兵衛君の二男にして、元治元年三月を以つて生る。明治十九年六月陸軍歩兵少尉に任せられ同二十二年十二月選ばれて陸軍大學に入學し、同二十五年十二月卒業、大正十年十二月陸軍大將に親任せらる。爾來歩兵第四師團副官、埃洪國公使館付武官、獨逸國大使館付武官、陸軍大學校教官、參謀本部員等に歴任し、同三十一年軍事研究の目的を以つて獨逸に留學を命せられ、同三十五年歸朝す。

彼の日清戦役には歩兵第五聯隊中隊長として出征し占領地總督部參謀に轉じ、日露戦役勃發するや第二軍參謀同參謀長第三師團參謀長として帷幄に參劃して戦功赫々たるものあり、功により勳三等功三級に叙し旭日中綬章及金鷄勳章を賜はり、戦終息するや埃洪國公使附武官として彼地に駐劄を命ぜられ越えて四十年獨

逸大使館付に轉じ歸朝後歩兵第三十旅團長に補せられ翌年一月轉じて歩兵第一旅團長となり大正三年日獨戦役には青島攻圍軍參謀長として功あり、勳二等に叙せられ功二級金鷄勳章を授けらる。然して大正五年教育總監部本部長に補せられ、大正七年陸軍次官となり、同十年十二月陸軍大將に親任せられ高橋内閣成立するや陸軍大臣に親任し、同十二年九月軍事參議官に補せられ同年九月關東戒嚴司令官に補せられ後ち東京警備司令官に任じ、同十四年五月待命仰せ付けられ目下閑地にありて悠々自適たり、東京市四谷區大番町三四番地に現住す。

安田善三郎君

勳三等 鐘淵紡績會社監査役

君は東京府士族伊臣眞君の令兄にして明治三年十月を以つて生れ同三十年故安田善次郎翁の養嗣子となり前名貞太郎を改稱す。明治二十五年東京帝國大學法料大學獨法科を卒業するや岳父を援けて事

業の發展に盡瘁し、數十會社の重役となり又韓國銀行、朝鮮殖産銀行設立委員、經濟調査會委員、東京商業會議所議員等に擧げらる。會つて東京府多額納税者として貴族院議員に互選せらるゝこと三回、且つ大正三四年事件の功に依り勳三等に陞叙せらる。

夫人てる子は養父善次郎君の二女にして其の間に岩次郎君、周三郎君、福四郎君及びさだ子、磯子等あり、現に東京市麴町區飯田町三ノ一番地に住し電話四谷二三九三番四一六六番なり。

山田復之助君

古河鑛業株式會社取締役

君は東京府士族山田純安君の長男にして明治十三年十二月を以つて生る。明治三十五年東京帝國大學工料大學採鑛冶金科を卒業するや、直ちに實業界に身を投じ古河鑛業株式會社に入社し、累進して鑛山部副部長等を勤め、現に同社取締役

として知らる。

夫人政子は京都府の人小野政吉君の長女にして其の間に純之助君あり、現に東京市牛込區中町四番地に住し電話牛込四九三番たり。

安川 隆 治君

従七位勳六等功五級

宇都宮瓦斯會社事務取締役

君は栃木縣の人岡田八十郎君の次男にして明治十二年一月を以つて生れ、同四十年十二月先代新七郎君の養子となる。

明治四十五年早稻田大學法科を卒業し一年志願兵として入營し歩兵少尉に任ぜられ、日露の役には乃木軍に屬し中隊長代理として旅順奉天に轉戦し、偉勳を奏し歩兵中尉に陞り勳六等に叙し功五級金鷄勳章を賜はる。

凱戦後日本鐵道會社に入り法規掛に職を奉じ故安川繁成君の知る所となり安川姓を冒す。而して同社が國有となるに及び東洋モスロン會社に轉じ、宇都宮瓦斯

株式會社創立に盡瘁して其の設立を見る

や同社事務取締役に擧げられ、現に傍ら戦友共済保險、兩毛紡織、日本電爐工業、ボルネオ殖産、明治製菓、日本曹達、下野倉庫各株式會社の重役たり。

君や又文才に富み「血烟」「此血潮」の名著あり、夫人朝子は東京府士族安川新七郎君の二女にして、府立第三高等女學校を卒業し、君との間に一男ありて隆大君と呼ぶ、東京市赤坂區青山南町五ノ四五番地に現住し電話青山五五七番なり。

安田 善兵衛君

第三銀行頭取

君は東京府の人藤田ブン子の二男にして明治八年十月を以つて生れ、先代安田彌兵衛君の養嗣子となる。現に前記の外安田保善社、日本晝夜銀行、大垣共立銀行、十七銀行、京濱電氣鐵道、水戸鐵道興亞起業、共済生命保險各株式會社の重役として知らる。

現に東京府豊多摩郡和田堀ノ内和田堀

八〇三番地に住し電話四谷四四六番なり。

山下 熊太郎君

明治運送株式會社事務取締役

君は先代山下逸平君の長男にして、明治十五年七月十六日を以つて静岡縣濱松市に生る。夙に郷校を卒業するや直ちに實業界に投じ、曩に天龍運輸株式會社に勤務せしが後ち日本運送株式會社に轉じ、墨田川支店長及び監査課長等を歴任せり。偶々明治運送株式會社の創立を見るや君入りて同社事務取締役に就任し、現に其の任にある傍ら國際運送株式會社計算法主管理取締役として令名あり。

夫人ひで子は静岡縣の人松本嘉平君の長女にして君との間に精一君、米造君、秀雄君及びアサ子等あり、現に東京府北豊島郡難司谷五〇五番地に住し電話牛込一〇六九番なり。

安廣 伴一 郎君

従三位勳一等

南滿洲鐵道株式會社社長

君は福岡縣の人安廣一郎君の長男にして、安政六年十月を以つて生る。夙に慶應義塾を卒業し明治二十一年清國に航し香港中央書院に於て英學を修め、更に北京に赴き支那學を研究し、尋いで英國に航しケンブリッヂ大學に入りて法律學を修めバアチエラー、オブ、ローの學位を受けて歸朝せり。

歸朝後内閣書記官、法制局參事官、内務大臣秘書官、社務局長心得、文部省普通學務局長、遞信省通信局長、内閣書記官長、農商務總務長官、製鐵所長官、法制局長官兼内閣恩給局長等に歴任し明治三十三年貴族院議員に勅選せられ、大正五年樞密顧問官に擧げられ同十三年六月南滿洲鐵道株式會社社長に任ぜられ現に其の職にあり。

夫人あい子は山口縣の人石川真平君の三女にして君との間に真一君及び花子等

あり、東京市牛込區市ヶ谷砂土町二ノ二番地に現住し電話牛込一六七八番なり。

藪田 岩 松君

東京建物株式會社社長

滿洲興業株式會社社長

君は三重縣の人藪田重右衛門君の三男にして、安政三年一月十八日を以つて生れ後ち先代喜三君の養嗣子となる。夙に龜山藩士岡本賢三君の塾に學び後ち實業界に投じ、明治元年藩士の設立に係る產物會社に入りて格勳精勵すること七ヶ年に及びり。

然して翌年三重縣地租改正課に出仕したりしが辭して上京し、明治十二年安田商店に入り翌十三年同店が安田銀行と改稱せらるゝや同行栃木支店支配人に擧げられ、後ち本店支配人に轉じ更に同行協議役等を歴任せり。

現に前記會社の社長たる外共済生命保險株式會社監査役にして且つ安田銀行相談役、同保善社理事たり、東京市下谷區

谷中坂町六二番地に現住し電話下谷三三三一一番なり。

山中 彦兵衛君

常陸鐵道株式會社社長

水海道銀行頭取

君は茨城縣の人五木田利兵衛君の四男にして慶應元年十二月を以つて生れ先代彦兵衛君の養嗣子となる。地方財界の重鎮として知られ現時前記の外茨城貯蓄銀行、茨城縣農工銀行、竹内製紙各株式會社の重役たり。

尙ほ茨城縣多額納税者にして現時直税二千八百三十余圓を納むといふ、茨城縣結城郡水海道に現住す。

矢野 晋也君

二六新報社長

君は鳥取縣の人矢野市郎兵衛君の六男にして、明治二十一年四月二十五日を以つて鳥取縣西伯郡米子町道管町に生る。夙に米子中學校を卒業するや青雲の志を抱

いて東上し、早稻田大學政治科に學び優秀の成績を以つて同校を卒業するや東京日々新聞社に入り、後ち中央新聞社を経て二六新報政治部長たりしが大正十三年六月前社長秋田清君の後を續いて同社々長の重職を擔ひ、愈々君が卓越せる才腕を縦横に發揮し以つて現在に及ぶ。

夫人をとみ子と呼び山口利兵衛君の四女たり、現に東京市小石川區丸山町一番地に住し電話小石川三三〇六番なり。

山本厚三君

正八位 陸軍三等主計

衆議院議員 實業家

君は北海道の人平澤義章君の三男にして、明治十四年五月を以つて生れ、大正八年三月先代久右衛門君の養嗣子となる明治三十六年東京高等商業學校を卒業するや直ちに財界に投じ、現に小樽商船株式會社々長たる外小樽倉庫、大正製麻、北海ホテル、北海道製綿、大北火災保險大信社、北海道煉乳、帝國養蜂農林、定

山溪鐵道各株式會社の重役として知らる

然して大正十三年の總選舉に小樽市より推されて衆議院議員に當選し、現に中央政界に活躍して新進政治家の名あり、現に北海道多額納稅者にして直接國稅二千四百三十余圓を納むといふ。

夫人晴江子は先代久右衛門君の長女にして君との間に久一郎君、信爾君、悌三君、忠志君及び俊子、孝子、恭子、博子等あり、現に別宅を東京市牛込區若宮町二六番地に有し、其の本邸を北海道小樽市富岡町に有す。

山口保三郎君

山保毛織株式會社社長

君は栃木縣の人山口七之助君の令兄にして明治二年一月を以つて生る。夙に實業界に活躍して功あり、今や山保毛織會社の總司令官として財界戰場へ奮進し、斯界の重鎮を以つて目ざるゝに至る。夫人ワキ子は群馬縣の人新井小八郎君の令妹にして君との間に康一君、俊二君

光三君及びヒデ子、テル子等あり、現に栃木縣足利市に住す。

柳澤光治君

子爵 正五位

東京府産業技師

當家は新羅三郎義光の末葉柳澤吉保の男經隆の後なり。經隆分れて一家を創立し越後黒川に封ぜられ後六世を経て先代光邦君に至り、刑部大輔、黒川藩知事、大藏省御用掛等を歴任し、明治十七年子爵を授けらる。

君は即ち光邦君の三男にして、明治二十四年六月を以つて生れ、大正十二年家督を相續し襲爵仰せ付けらる。大正四年東京帝國大學工科大學應用化學科を卒業し、後東京府産業技師に任じ現在に至る夫人エイ子は神奈川縣の人中山幸三郎君の令妹にして淑徳の譽れ高し、現に東京市芝區田町八ノ一番地に住す。

山本秀雄君

日本工業社長

飯坂電車株式會社取締役

君は千葉縣の人山本彌三郎君の三男にして、明治十六年十二月二日を以つて生る。夙に郷校を卒ふるや笈を負ふて上京し直ちに東京工手學校に入りて研鑽を積み、明治二十七年優秀の成績を以つて同校を卒業し、後ち實業界に身を投じ曩に海外輸出入貿易を目的とする會社を興し且つ大同電氣株式會社の前身たる關東電氣株式會社常務取締役たりしことあり。然して後ち獨力日本工業社を開設して帝都建築界に活躍し、今や復興途上にある帝都斯界に盡瘁すること甚大にして、尙ほ傍ら飯坂電車、大同電氣各株式會社の重役として令名あり。

社交に厚く現に日本土木建築協會常任理事にして、趣味又廣く謠曲、圍碁、撞球等頗る妙なるが如し、夫人をわか子と呼び東京府の人岸本鐵次郎君の長女たり現に東京市芝區西久保廣町二四番地に住

し電話青山九二六番たり。

山崎四男六君

從三位勳一等

日本銀行監事

君は肥前國唐津藩士石井直信君の四男にして明治四年九月四日を以つて生れ、明治二十五年同藩士山崎峰次郎君の養嗣子となる。夙に第一高等學校を経て東京帝國大學に學び、明治二十九年法科大學を卒業するや直ちに身を官界に投じ大藏を拜命し、同年文官高等試験に登第し翌年司稅官に任ぜらる。

爾來大藏省主計官、稅關事務官、大藏書記官、大藏大臣秘書官兼大藏書記官、同省參事官等を歴任し、明治四十一年一月横濱稅關長に榮進し更に同四十四年大藏省國債局長、理財局長等を経て大正三年六月内藏頭に任ぜられしが大正十三年二月錦鷄閣祇候仰せ付けられ、尙ほ日本銀行監事たり。君に二男三女ありて廣君、國武君及び

梅子、俊子、彰子等なり、現に東京市外代々幡町幡ヶ谷八番地に住し電話四谷九六五番たり。

八並武治君

正六位勳四等

衆議院議員

君は大分縣の人八並甚六君の四男にして明治十年十二月を以つて生る。明治四十二年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し、後八王子に於て辯護士を開業し一般法律事務を掌握して社會の信望を博し曾つて遞信大臣秘書官たりしことあり。大正九年以來引き續き衆議院議員として中央政界に令名高く、大正十四年八月司法省參事官に任ぜられ現に憲政會幹事長として知らる。

夫人七重子は東京府の人福島元太郎君の二女にして内助の開え高し、現に東京市下谷區上野櫻木町一七番地に住し電話下谷五五番たり。

安岡秀夫君

時事新報社常任監査役

君は高知縣士族安岡良亮君の三男にして、明治六年四月四日を以つて生る。夙に郷校を卒ふるや青雲の志を抱いて上京し、慶應義塾に入りて明治二十五年同校を卒業し直ちに時事新報社に入りて、政治部、社説部等を歴勤し、大年十二年五月同社主筆に同十三年常任監査役に擧げられ現在に至る。

夫人喜美子は高知縣士族甲藤大器君の長女にして、東京女高師附屬高等女學校を卒業し君との間に一男ありて隼太君と呼ぶ、現に東京市本郷區駒込西片町一〇番地への一六號に住し電話小石川二〇一五番なり。

安田昌君

明治製糖會社常務取締役

君は福岡縣士族安田仲元君の長男にして明治十二年十二月を以つて生る。明治三十三年東京高等工業學校を卒業するや

直ちに實業界に身を投じ、日本鐵道株式會社に入りしがたま／＼明治四十年明治製糖株式會社の創立を見るや、即ち同社に入り推されて常務取締役の要職に就き以つて今日に及ぶ、尙ほ傍ら明治商店株式會社の取締役たり。

夫人タケ子は愛知縣の人山田兵吉君の長女にして岡山高等女學校を卒業し君との間に元一君、仲雄君、京平君及びヒヲ子、フミ子、ミツ子等あり、現に東京市牛込區若松町八四番地に住し、電話牛込三四三三番なり。

山田惠一君

讃岐農工銀行取締役

君は香川縣の人山田光次郎君の長男にして、明治六年十一月を以つて生る。夙に第三高等學校に學び後郷里に歸りて公共の爲めに盡瘁し、推されて本郡會議長、同郡蠶糸組合長、本田米券倉庫組合長、本田倉庫組合長等に就任し、現に讃岐農工銀行、高松電氣軌道、朝鮮勸業

各株式會社取締役たり。

夫人佐和子との間に輝彦君、稼造君、統三君、卓四郎君及び多賀子等あり、現に香川縣本郡前田村に住す。

山本惣次君

共立企業株式會社營業部長

戸畑物産株式會社營業部長

君は新潟縣の人山本明治郎君の四男にして明治二十一年十月二十五日を以つて生る。夙に新潟縣立高田中學校を卒ふるや青雲の志を抱き笈を負ふて上京し、切磋琢磨螢雪の功空しからず、明治四十四年優秀の成績を以つて東京外國語學校を卒業せり。

然して直ちに實業界に身を投じ、爾來久保田鐵工所工務部長、久原合名會社主事、東洋製鐵株式會社調度課長兼支配人代理、藤田合名會社主事等を歴勤し現に共立企業、戸畑物産各株式會社營業部長として君が敏腕を縦横に振ひ同社發展に盡瘁すること蓋し甚大なり。

夫人とく子は新潟縣の人伊藤一隆君の三女にして新潟縣立高等女學校を経て青山女學院を卒業し、君との間に素明君、隆明君、敏明君、英明君及び正子、春子等あり、現に東京府下田園都市三二番地に住す。

山川健次郎君

男爵 正二位勳一等

理學博士 貴族院議員

君は舊會津藩士山川尙江君の二男にして安政元年七月を以つて生る。夙に魯國に留學し米國エール大學を卒業す、明治九年以來東京帝國大學理學部及理科大學教授、理科大學長、高等教育會議副議長九州帝國大學、東京帝國大學各總長等を歴任す。

現に東京帝國大學、九州帝國大學各名譽教授、明治專門學校總長にして且つ東京御學問所評議員たり、明治三十七年貴族院議員に勅選せられ大正四年勳功に依り特に華族に列し男爵を授けらる、現に

東京市外西巢鴨池袋町一〇〇番地に住し電話小石川五六番なり。

山口宗義君

正四位勳三等

日本銀行監事

君は舊松井藩士山口軍兵衛君の長男にして嘉永四年九月を以つて生る。明治三年藩の貢進生となり大學南校に入り同七年同校を卒業するや直ちに大藏省に出仕し、爾來大藏書記官、臺灣總督府財務部長等を歴任し、明治三十年官界を辭して日本勸業銀行に入り後日本銀行に轉動し累進して同行理事を経て監事の要職に就任し現在に及べり。

夫人てい子は佐賀縣士族安川能達君の令妹にして君との間に堅吉君、張雄君、多聞君、鐵彦君、由美君及びスハ子、カツラ子、太都子等なり、現に東京市牛込區拂方町九番地に住し電話牛込五三六番たり。

山田彌八郎君

日本冠製造會社社長

君は京都府の人守田宗次君の令弟にして明治元年二月を以つて生れ絶家山田氏を再興す。夙に大阪法律學舎を卒業し、曩に福岡日々新聞從軍記者及帝國麥酒株式會社支配人たりしが現時は前記會社の重役たる外小澤電氣工業會社取締役たり現に大阪府東成郡天王寺村に住し電話天下茶屋一一五番なり。

山田玄太郎君

從四位勳四等

鳥取高等農業學校長

君は北海道の人山田太右衛門君の長男にして明治六年六月を以つて生る。明治三十一年札幌農學校を卒業し後植物學及植物病理學研究の爲め獨佛米各國に留學し、歸朝後札幌農學校教授、盛岡高等農林學校教授、同生徒監、盛岡高等農林學校長等を歴任し今日に至る。夫人やす子は山形縣の人鏡谷一郎君の

令妹にして其の間に岩男君、忠雄君、耕三君及びサツ子、せい子等あり、現に鳥取市に住す。

柳谷己之吉君

共済生命保險會社常務取締役

君は長崎縣士族柳谷謙太郎君の二男にして、日本勸業銀行副總裁柳谷卯三郎君の令弟に當り、明治二十年十月二十三日を以つて生る。明治二十五年東京高等商業學校を卒業するや直ちに實業界に投じ、後米國に渡航し視察を遂げて歸朝し、同二十九年合資會社高田商會本店に入り同三十二年より同三十九年まで同社倫敦支店に勤務し、後歸朝し本社副事務長に擧げられしが大正八年之を辭す。

然して大正十四年共済生命保險株式會社に入り推されて同社常務取締役に就任し以つて現在に至る。夫人花子は東京府士族井上護君の三女にして君との間に俊郎君、千枝子等あり、現に東京市赤坂區新坂町一七番地に住し電話青山三五六〇

番なり。

山内元平君

山内合名會社代表社員

君は愛知縣の人山内莊助君の長男にして、明治八年一月を以つて生る。夙に實業界に入りて活躍し現に株式會社田原商工銀行取締役たる外渥美電氣、三河セメント、渥美養魚各株式會社の重役に於て又山内合名會社代表社員たり。

夫人すじゑ子は岐阜縣の人長谷川金左衛門君の長女にして其の間に一男ありて卓助君と呼ぶ、現に愛知縣渥美郡田原町に住す。

梁瀨長太郎君

梁瀨自動車株式會社社長

君は東京府の人梁瀨彌平君の長男にして、明治十二年十二月を以つて生る。夙に東京高等商業學校を卒業するや三井物産株式會社に入社せしも、後ち獨力にて自動車及び鑛油等の輸入販賣を營み後梁

瀨自動車、梁瀨商事各株式會社を創立して現に兩社々長たる傍ら日蘭貿易株式會社取締役たり。

夫人チャウ子は東京府の人黒澤市彌君の長女にして君との間に次郎君及び長女女子、二女綾子等あり、現に東京市麻布區富士見町二八番地に住し電話高輪四〇五番たり。

山岡直記君

子爵 從三位勳六等

當家は先代山岡鐵太郎君より顯る、鐵太郎君は鐵舟と號し二十二才の時出でて山岡家を嗣ぐ、劍道を能くし又書に堪能にして徳川氏の末葉勝海舟大久保翁等と協力し、盤根錯節に處して克く徳川氏の子孫を百世に安からしめ、明治二年以來静岡縣權大參事、茨城縣參事、伊萬里縣知事、侍從皇后宮亮、宮内少輔等を歴任し功に依り華族に列し子爵を授けられ、從三位勳二等に叙せらる。

君は其の長男にして慶應元年二月を以

つて生る。明治十年清國に留學し曩に式部官たり、又通譯官として日清の役に從軍して功あり勳六等に叙せらる。

夫人まさ子は東京府士族大澤二郎君の令姉にして其の間に鐵雄君、龍雄君、直雄君及び幹子等あり、現に東京府豊多摩郡淀橋町柏木一〇一三番地に住す。

安川雄之助君

三井物産株式會社常務取締役

東洋棉花株式會社取締役

君は京都府の人先代太郎助君の長男にして、明治三年四月を以つて京都府南桑田郡篠村柏原に生る。明治二十二年大阪商業學校を卒業するや直ちに三井物産株式會社に入り、爾來神戸、天津、大連各支店長及び本店營業部長等を経て同社取締役に推されて、大正七年常務取締役に擧げられ今や我が財界に令名あり。

夫人タイ子は山口俊太郎君の令姉にして華族女學校を卒業し、君との間に次郎君、三郎君、五郎君、六郎君、七郎君及

び直惠子、美代子等あり、現に東京市牛込區筑土八幡町二二番地に住し電話牛込七〇四番なり。

築田欽次郎君

中外商業新報社事務取締役

抑々新聞の使命たる、社會の木鐸として社會教化、民衆啓發の一大機關にして吾人の生活に必須缺くべからざるものなり、雖然その經營畫策に至りては實に至難中の至難事たること論を待たずして明白なり、今や東洋屈指の經濟新聞として令名高き我が中外商業新報社の經營發揚に孜孜として努めつゝある、同社事務取締役築田欽次郎君は廣島縣士族築田猛郎君の長男にして、明治八年八月を以つて生る。

夙に郷校を卒ふるや大志を抱いて東上し、明治二十七年專修大學理財科を卒業せしかば、同三十二年中外商業新報社に入りて同社記者として勤續すること十數年、明治四十四年同社重役に擧げられ、

大正三年其の専務取締役に榮任し、爾來專心同社の事業經營に盡瘁し其の發展に資するどころ甚大なり。

現に東京市牛込區二十騎町一六番地に住し電話牛込三〇五八番たり。

柳原義光君

伯爵 從三位勳三等

貴族院議員

當家は内臣藤原鎌足の裔日野大納言俊光の後なり、俊光の男大納言資明別に一家をなし柳原と稱す、夫より十數世を経て先代伯爵前光君に至る。

君は前光君の二男伯爵日野資謙君の從兄君にして明治七年九月を以つて生る。貴族院議員に互選せらるゝこと四回、現に日本教育生命保險、大正生命保險各株式會社々長、東明火災海上保險株式會社取締役等として令名あり。

夫人ハナ子は伯爵川村鐵太郎君の令妹にして其の間に福子、徳子、女子等あり、現に東京市赤坂區表町二ノ一七番地に

住し電話青山五七八一番なり。

山 田 穆 君

實業家

君は福井縣の人山田慎君の三男にして明治二十一年七月を以つて生る。夙に第一高等學校に學び更に米國に遊び、現に日本綿花、日華製油、中外貿易、攝津海上保險各株式會社取締役にして且つ安治川土地、南洋纖維工業各株式會社監査役たり。

夫人サヨ子は大阪府士族田宮元春君の二女にして其の間に信太郎君、敬次郎君正三君等あり、現に大阪市東區博勢町二ノ六八番地に住し電話長南四四五番なり。

柳 生 俊 久 君

子爵 正四位勳三等

貴族院議員

君は子爵小笠原牧四郎君の叔父君にして慶應三年三月を以つて生れ、前名東三

郎を改めて大正四年十月襲爵す。夙に軍籍に入り大正二年陸軍歩兵大佐に陞り、同四年一月豫備役に編入せられ、同八年貴族院議員に互選せらる。

當家は士師氏にして菅原道實公の後裔なり、其の裔永家に至り柳生莊に住せしを以つて姓となし、後十世を経て眞影流の劍者宗嚴に至る、其の子宗矩徳川家光に仕へ柳生莊一萬二千五百石を領す、それより十代を経て先代俊郎君に至り、明治十七年子爵を授けらる。

君は其の後を受けたるものなり、夫人滿壽子との間に俊武君、重五君及び喜久子等あり、現に東京市外代々幡町代々木初臺四七二番地に住す。

山 田 藤 次 郎 君

濱松紡績株式會社取締役

君は愛知縣の人後藤重太郎君の令弟にして明治六年五月を以つて生る。現に濱松紡績、日東捺染、城北機業、城北土地日瑞貿易各株式會社取締役にして且つ山

田商店、松田綿布、大同藍各株式會社監査役、東京銘石株式會社代表たり。

夫人シカ子は養父市郎兵衛君の長女にして其の間に藤治君、幸治君あり、現に大阪市東區南久太郎町二ノ九番地に住し電話長東四九番なり。

柳 谷 卯 三 郎 君

從七位勳六等

日本勸業銀行副總裁

君は錦鷄間祇候正四位勳三等柳谷謙太郎君の長男にして、慶應三年二月七日を以つて長崎市に生る。明治二十三年東京帝國大學法科大學政治科を卒業するや直ちに日本銀行に入り、實務を執ること六ヶ年、同二十九年時の營業局長山本達雄君の銀行業視察の爲め歐米に差遣せらるや其の秘書役として隨行し、親しく彼の地に於ける銀行事務及經濟界の事情を視察研究して大に得る所あり。

歸朝後同行發行局長となり次いで紐育支店監督役に進み、轉じて國債局長に就

任し、明治四十三年六月日本勸業銀行に入りて理事となり次いで副總裁に擧げられ現在に至る、曩に陸軍二等主計、從七位に叙し勳六等を賜はる。

夫人トヨ子は東京府士族白崎數馬君の令妹にして君との間に二男二女ありて武夫君、忠治君及び綾子、澄子等なり、現に東京市四谷區鹽町二三番地に住し電話四谷三二九〇番なり。

山 田 克 吉 君

正六位勳五等

富士製紙株式會社參事

君は高知縣の人田所儀左衛門君の五男にして明治七年四月十日を以つて生れ、先代眞事君の養子となる。夙に大志を抱いて東上し明治二十九年東京郵便電信學校を卒業するや、爲替貯金局副事務官兼關東都督府事務官等を歴任し、大正七年官を辭して富士製紙株式會社に入り、現に同社參事にして庶務部長兼秘書役として知らる。

夫人貴子は愛知縣の人尾崎四郎君の令姉にして其の間に靜夫君、正夫君、常夫君及びたけ子、千代子、光代子等あり、現に東京市牛込區市ヶ谷田町三ノ二一番地に住し電話牛込二五四番なり。

山 下 谷 次 君

東京商工學校長

衆議院議員

君は香川縣の人山下重五郎君の四男にして、明治五年二月二十二日を以つて生る。夙に盡誠舎及び琴平明道校等に學び業成るや直ちに教育界に投じ、各地中學校商業學校等に教鞭を執りて幾多學徒の薰陶に盡瘁すること二十有余年、我が教育界に貢献すること蓋し尠少ならず。

然して明治三十六年獨力東京商工學校を創設し、爾來専心同校の發展に献身の努力を提げて活躍し、着々として其の内容形式に改善又改善を加へて常に時勢の進運に伴ひしかば漸次校運舉り、今や我が東京商工學校の名實共に東西に轟き亘

り、其の内容の充實と施設の完備とは世人の普く知るところ、而して同校門を潜る學徒の數七千人何れも社會各方面に活躍し、其の在校生徒無慮壹萬人を算する盛況にして、今や東都有數の學校を以つて目ざるゝに至りしは一つに君が多年の奮闘と徳學の賜と云ふべきなり。

君は教育界に盡瘁するのみならず、又帝國政治に深く心を盡し、大正十三年の總選舉に際し、香川縣那部より立候補を宣して馬を陣頭に進め、幾多猛者と闘つて目出度く當選の榮譽を擔ひ、今や議政府に列し中央政界の一異彩たり、今後の活躍又期して俟つべきものあり。

夫人くら子は香川縣の人中田常吉君の長女にして東京女子高等師範學校を卒業し君との間に準一君、彦二君、又三君及び松枝子、美枝子等あり、現に東京市本郷區彌生町二番地に住し電話小石川二七六〇番なり。

山邊宗四郎君

國分銀行取締役

君は長野縣の人山邊宗四郎君の長男にして明治四年八月を以つて生れ前名宗重を改稱す。夙に蠶種業を營み、現に國分銀行取締役たる外上田銀行、神奈川銀行各監査役、信州蠶業合資会社の代表として地方財界の雄たり。

夫人かめの子との間に優君、公雄君、良秋君、四郎君、公紀君、正二君、宗吉郎君及びまづ子、たけ子等あり、現に長野縣小縣郡神川村に住す。

山岸慶之助君

從七位勲六等 在郷陸軍二等主計

三菱商事株式會社常務取締役

君は東京府の人北川久兵衛君の三男にして明治十二年五月を以つて生れ、同十五年十一月先代クラ子の養嗣子となる。夙に東京商業學校を卒業するや三菱合資會社に入り、累進して同社支那、漢口各支店長兼北京出張所長たりしが、大正六

年十二月三菱本店營業部に轉じ同社參事三菱商事株式會社參事等を経て現在に至る。

尙ほ傍ら三菱倉庫、清住製材、日本ソリヂチット、樺太木材各株式會社の重役にして曩に一年志願兵として日露戰役に出征し、陸軍二等主計に陞進し又會つて東京商業會議所議員、日華製油株式會社專務取締役たりし事あり。

夫人レン子には兵庫縣の人宮津賢次郎君の二女にして君との間に成一君、二郎君及び俊子、久子等あり、現に東京市芝區白金今里町一四六番地に住し電話高輪一七二八番なり。

山田寅次郎君

東洋製紙會社專務取締役

君は舊沼田藩家老中村莞爾君の二男にして慶應二年八月を以つて生れ、先代宗編流宗家宗壽君の養子となる。夙に横濱英和學校を卒業す、會つて土耳其軍艦エルトグロール號沈没の時義捐金を募集し

て土國に航し、同國皇室の優遇を受け勳章を授けられし事三回に及び滯留十八ヶ年巴爾幹諸國の國情を究む。

夫人タミ子との間に長守君、長敏君、博道君及び富士子、三保子等あり、現に大阪市東區内淡路町二ノ三〇番地に住し電話東一六七番なり。

山口喜三郎君

工學博士

東京電氣株式會社副社長

君は東京府の人山口長藏君の三男にして、明治七年一月三十一日を以つて生る夙に米國に遊學しボルチモア市ジョン、ホプキンス大學に入り、同三十五年優秀の成績にて卒業しドクトル、オブ、フィロソフイーの學位を得て歸朝す。

然して古河合名會社に入り同三十九年日光電氣製鋼所の創立に參與し、後同所營業部副部長兼技師長となり、累進して常務取締役に擧げられ更に古河電氣工業株式會社設立せらるゝや入りて其の專務

取締役に任じ、大正十年東京電氣株式會社副社長となり現に其の傍ら古河電氣工業、旭電化工業、大阪電球、大日本電球關西電球、大正電球、帝國聯合電球各株式會社取締役たり。

曩に工學博士の學位を授與せられ又會つて支那興業會社取締役、中華電氣會社監査役たりしことあり、夫人フサ子は山口縣士族長富直三君の長女たり、現に東京府荏原郡二日五市東淺間臺二六〇番地に住し電話高輪九六五番なり。

矢島榮助君

矢島製紙株式會社社長

山梨新聞社取締役

君は山梨縣の人矢島榮助君の長男にして明治二年二月を以つて生れ前名富吉を改む。會つて貴族院議員に互選せられたる外甲府瓦斯株式會社取締役たりしことあり。現に勳四等にして前記各會社の重役たる外日本電化、第十銀行各株式會社取締役にして且つ石渡電機、高砂麥酒、

富士燃系工業、臺灣製糖、常盤生命保險各株式會社監査役、甲府商業會議所常議員たり。

夫人くに子は同縣の人山内彌兵衛君の長女にして其の間に辰太郎君、歌子等あり、因に長女歌子に養子朋之丞君を迎へて其の間に久美子あり、現に甲府市綠町に住し電話一一八番なり。

矢木久太郎君

農學博士

大日本麥酒株式會社取締役

君は石川縣の人矢木八郎兵衛君の長男にして、明治三年六月を以つて生る。夙に郷校を卒ふるや笈を負ふて上京し、研鑽大いに勉め、明治二十七年東京帝國大學農科大學を卒業し、直ちに實業界に投じ曩に札幌麥酒株式會社技師たりしが現時は大日本麥酒株式會社取締役たる外東洋藥品株式會社取締役たり。

會つて斯學研究の目的を以つて歐米各國に留學し、後ち農學博士の學位を授與

せらる、趣味として謠曲あり又妙なりといふ。

夫人安子は東京府の人廣瀬實光君の令妹にして其の間に榮君、武君、昇君及び春枝子、愛子等あり、現に東京市芝區高輪南町三〇番地に住し電話高輪三五八番たり。

柳廣藏君

浪速礦物株式會社社長

正金貯蓄銀行監査役

君は和歌山縣の人柳仁兵衛君の二男にして明治八年三月を以つて生る。現に大阪株式取引所仲買人にして前記各會社の重役たる外浪花紡績、愛媛紡績、北濱信託、日本薄荷製造各株式會社取締役、紀阪銀行、日本證券、信越水電、浪速土地日本製紙、沖繩炭礦各株式會社監査役たり。

夫人すみ子との間に三男二女あり、現に大阪市東區小橋東町六番地に住し電話長南一六番なり。

藪内幸太郎君

土木建築請負員
井上合資會社社長

君は原籍を大阪府南河合郡古市町に有し、和歌山縣有田郡に生る。夙に和歌山縣立耐久中學校を卒業するや志を土木建築界に抱き、當時大阪に於ける斯界の重鎮佐藤組に奉職して格勩精勵、自己の利益を犠牲にして専心同組に貢献すること甚大、爾來實地の經驗を積むこと數年此の間完成せし大工事は枚擧に遑あらざるも、何れも完璧を期して克く佐藤組の面目を躍如たらしめたるは全く君の人格の表徴ともいふべきなり。

大正三年佐藤組を辭して松村組に入りて精勵すること二ケ年、偶々佐藤組の支配人たりし井上種次郎氏が獨力井上合資會社を設立するに及び、君の人格と技術とを悉知せる同氏に懇望せられて同社に入り、多年の蘊蓄と優秀なる技術とを施工の上に發揮し、井上合資會社の名漸やく東西に噴々たらしめたり。

然るに怨むべし天の配劑や、大正七年

井上氏不幸病を以つて黄泉の客となるや君即ち井上合資會社の代表者として、事業一切を繼承して奮闘大いに努めしかば其の信望益々加はり、特に彼の關東大震災災後は東京出張所を開設して復興建築に貢献すること甚大、今や文部省、大藏省を初めとして諸官廳の指定請負者として活躍し、其の已に完成せる工事は到る處好評を博せり。

君や年齒漸やく不惑を越ゆるのみにて春秋尙ほ豊かなり、復興途上にある我が帝都は君の力に俟つべきもの蓋し多々ならん、宜しく自重自愛以つて將來の大成を期して可なりである、夫人を芳子と稱す、現に東京市牛込區市ヶ谷田町二ノ四番地に住し電話牛込六四五番なり。

矢野時二郎君

浪速鐵業株式會社社長

君は大阪府の人矢野吉兵衛君の二男にして、明治十八年十二月を以つて生る。

夙に實業界に雄飛し現に浪速鐵業株式會社社長たる外大阪木材市場、木村組、千日土地建物、市岡沿岸土地建物各株式會社の重役として知らる。

夫人初枝子は大阪府の人寺本福太郎君の長女たり、現に大阪市南區問屋町五一番地に住す。

山星德太郎君

東洋モスリン株式會社監査役
大和毛織株式會社監査役

君は三重縣の人山星嘉七君の長男にして、明治二年二月二十二日を以つて生る夙に郷校を卒ふるや青雲の志を抱いて東上し、研鑽を積みて後ち實業界に投じ、曩に日本製麻會社常務取締役として敏腕を振ひ、現に前記會社の重役たり。

夫人ヤス子は東京府の人深江常吉君の令從妹にして、君との間に暢夫君及び志津子、美枝子等あり、現に東京市麻布區森元町一ノ二七番地に住し電話青山五五二八番たり。

柳澤保惠君

伯爵 正三位勳二等
貴族院議員

當家は清和天皇の末裔にして柳澤吉保君の後なり、君は越後黒川藩主柳澤光明君の次男にして明治三年十二月を以つて生れ、同十九年先代保申君の養子となり同二十六年襲爵仰せ付けらる。夙に學習院大學科を卒業するや獨逸に留學し伯林大學に入りて統計學、社會學、國家學等を専攻し、更に同國ストラズブルク大學、埃國維也納大學等に學び、白國に入りて佛語を修めたり。

明治三十三年歸朝後早稻田大學統計學講師となり、又帝國委員として國際統計會議に參列する事前後六回、英國欽定統計學院名譽會員、國際統計學院正會員に推舉せられ、本邦統計學界の權威にして中央統計委員會特別委員長、保健衛生調査會特別委員長たり。

然して柳澤統計學研究所を創設し現に其の總裁として統計學の開發發展に貢献

する所甚大、大正十一年東京市會議員に當選し、其議長たりしが同十三年之を辭し大正十四年八月伊國羅馬に於て開催の第十六回萬國統計協會々議委員として參列し、又貴族院議員に當選すること三回に及ぶ、雅號を愛亭と稱し詩歌文章を能くし將棋に興味を有すといふ。

現に東京市芝區田町八ノ一番地に住し電話高輪五六一、一六一〇、一六一一番なり。

柳田諒三君

エンバイヤ自動車商會主

正八位陸軍歩兵少尉柳田諒三君は長野縣の人白田鐵彌太君の二男にして、明治十六年一月十日を以つて生れ後ち柳田茂十郎君の養嗣子となる。

夙に立教中學を経て第四高等學校に入りしも故ありて中途退學し、直ちに實業界に投じ獨力エンバイヤ自動車商會を設立して經營發展に努め、現に傍らサンデユ電氣商會取締役にして且つ東京自動車

組合副組長、東京自動車用品商組合副組長及び東京聯合青年會理事たり。

君は財界に活躍して令名あるのみならず又公共事業に盡瘁し曩に東京市會議員日本橋區會議員に推され、又復興局評議員たり、日本橋區吳服町一八番地に事務所を有す。

矢野目孫一君

正四位勳二等功三級
豫備陸軍中將

君は大分縣士族矢野目小四郎君の長男にして明治三年五月を以つて生る。夙に陸軍に志し陸軍士官學校を卒業す、明治十五年陸軍工兵少尉に任じ、大正八年陸軍中將に累進す。

其の間陸軍士官學校教官第十二師團參謀、參謀本部々員、大本營陸軍幕僚、第四軍參謀、海軍大學校教官、參謀本部課長、陸軍大學校教官兼技術審査部議員兼海軍々令部參謀、工兵第十四大隊長、第七師團參謀長、陸地測量部長、東京灣要

塞司令官等を歴補し、滿韓に差遣せらるゝこと二回亦歐洲に差遣せらるゝ、大正九年豫備役仰せ付けらる。

夫人サダ子との間に源一君及び富美子等あり、現に東京市牛込區若松町七六番地に住し電話四谷一六六〇番なり。

矢村 克君

川北電氣企業社取締役兼支配人

君は静岡縣士族矢村宣昭君の長男にして、明治九年三月を以つて生る。明治三十年東京高等商業學校を卒業するや實業界に投じ、曾つて九州電氣軌道、長崎電燈各株式會社の重役たる外日本電話工業株式會社監査役たり。

夫人章子は東京府士族久保源治君の養妹君にして其の間に敏郎君、秀雄君、信夫君及び椰子、壽々子、加壽子等あり、現に大阪市北區堂島濱通一ノ六五番地に住し電話特長北二二三一番なり。

山川 端夫君

法學博士 正四位勳一等

法制局長官

君は長崎縣士族山川景範君の長男にして明治六年十二月十五日を以つて生る。明治三十一年東京帝國大學法科大學を卒業し、更に國際法研究の爲め大學院に入り同年文官高等試験に合格す。

爾來海軍省參與官、横須賀捕獲審檢所評定官、高等捕獲審檢所事務官兼鐵道院理事、海軍教授兼海軍省參與官、海軍大學校教授、外務省條約局長等を歴任し大正八年法學博士の學位を授けらる。先是明治四十年第二回萬國平和會議委員隨員として海牙に、翌年倫敦に於て海戰法規會議開催せらるゝや君専門委員として差遣せられ後ち歐洲へ出張を命ぜらる。

然して大正八年二月講和會議全權委員隨員として佛國へ隨行仰せ付けられ、又曾つて警察官練習所講師たり、日露戰役の功により勳四等に叙し旭日小綬章を賜ひ、大正十四年四月救恤審査會委員仰せ

付けられ同年八月法制局長官に任せられ現在に及ぶ。

夫人ミサ子は佐賀縣士族工學博士曾彌達藏君の長女たり、現に東京市赤坂區青山町六ノ一六番地に住し電話青山二二九九番たり。

山下 龜三郎君

山下汽船鐵業株式會社社長

山下合名會社社長

君は愛媛縣の人山下源次郎君の三男にして慶應三年四月を以つて生る。夙に明治法律學校を卒業するや直ちに實業界に投じ、石炭及船舶業を營み日露戰役及び歐洲大戰亂の風雲に乗じて奇利を占め、現に前記の外福島炭礦、浦賀船渠各株式會社々長たる外國汽船、扶桑海上火災保險各株式會社の重役にして我が財界一方の重鎮たり。

曩に陸海軍航空設備費として一百万圓を献金し、其の他公共事業に盡瘁して功あり勳三等に叙し瑞寶章を賜はり、次い

で歐洲戰役の功により旭日中綬章を賜はり、其外紺綬褒章及び佛國大統領よりグランオフキシエー、トラゴンドランナン勳章を贈らる。

夫人かめ子は神奈川縣の人山本幸太郎君の二女にして其の間に太郎君、三郎君波郎君、豊郎君及び象子、登美子、敬子等あり、現に東京市芝區高輪南町四七番地に住し電話高輪三三六番なり。

矢部 吉貞君

理學博士 從五位勳六等

東京女子高等師範學校教授

君は東京府の人矢部長禎君の長男にして、明治九年三月を以つて生る。明治三十三年東京帝國大學理科大學植物科を卒業するや直ちに教育界に投じ、曩に東京帝國大學理科大學助教授に任せられ、又清國北京大學堂教授に聘せられ、現に東京女子高等師範學校教授たり。

夫人正江子は東京府士族田澤直孝君の長女にして其間に長順君、治君及び菊枝

子、博子、百合子等あり、現に東京市小石川區宮本町四二番地に住す。

矢部 六三郎君

浦川銀行頭取

君は静岡縣の人矢部平四郎君の長男にして、安政三年四月を以つて生る。夙に實業界に身を投じ金融業に志し、現に浦川銀行頭取として知らる。

夫人はま子は愛知縣の人湯淺儀一郎君の叔母君にして其の間に和作君、邦輔君舜二君、鱗平君、愿一君及びはん子、まり子等あり、現に静岡縣磐田郡浦川村に住す。

山本 糸太郎君

日支紡績株式會社社長

衆議院議員

君は福井縣の人山本武雄君の長男にして慶應三年十月を以つて生る。夙に身を實業界に投じ曩に三井物産株式會社上海支店長、大阪支店副支配人等を経て明治

三十三年社命を帯びて歐米各地を歴遊し普ねく彼の地商工業の視察を遂げ、歸朝するや本社勤務を命ぜられ、同三十七年理事心得同三十九年理事に累進し、明治四十二年組織を株式會社に変更するや同社常務取締役に就任せり。

然して機略縱橫曠足を伸ばして同社の發展に盡瘁せしが、後ち辭して獨力各種の事業會社を興し、現に日支水力、日支紡績各株式會社々長を初め滿洲製麻、朝鮮生糸、京濱電力、朝鮮紡績、東京燃料中央新聞、帝國火藥工業各株式會社の取締役に於て、且つ大日本炭礦、中日實業日本火藥、日蘭貿易、日本彈漆、梁瀨自動車、梁瀨商事各株式會社相談役たり而して現に衆議院議員にして政友會に屬し中央政界に令名あり。

夫人ミサ子は東京府士族原亮一郎君の令妹にして君との間に一男あり武太郎君と呼ぶ、現に東京市赤坂區新坂町四三番地に住し電話青山五三三〇番なり。

八杉貞利君

東京外國語學校教授

從四位勳四等八杉貞利君は東京府士族八杉利雄君の長男にして、明治九年九月を以つて生る。明治三十三年東京帝國大學文科大學博言學科を卒業し、同三十四年露語研究の爲め露國に留學し、歸朝するや東京外國語學校教授に任ぜられ以つて今日に至る。

夫人名美子は海軍少將岩崎達人君の長女にして其の間に龍一君、正二君、孝三君及び房子、安佐子、典子等あり、現に東京市赤坂區青山南町六ノ一三五番地に住す。

矢板寛君

矢板銀行頭取

日光製紙株式會社社長

君は福井縣士族野村朝隆君の令弟にして、明治元年五月を以つて生る。明治二十七年東京帝國大學法科大學政治科を卒業するや職を官廳學校等に奉じ、明治三

十八年清國政府に聘せられ直隸法政學堂に教鞭を執り、後ち實業界に轉じ現に前記の要職にある外佐久間銀行、東京瑛瑯各株式會社監査役、下野軌道、西澤金山各株式會社取締役たり。

夫人エツ子との間に二女あり、現に栃木縣鹽谷郡矢板町に住す。

山崎龜吉君

東京府多額納稅者

貴族院議員

君は東京府の人田中太吉君の長男にして、明治三年一月を以つて生れ先代山崎かね子の養子となる。當家は元君の叔父君たる故清水辨三郎君の經營にかゝる貴金屬裝身具製造業清水商店を繼承したるものにして、君の代に至り着々實績を擧げ工場を擴張して本郷に貴金屬工場を戸塚に時計製造工場を新設して畫策これ努めしかば遂に今日の大をなすに至る。

東京府多額納稅者にして現に直接國稅實に二萬二千三百余圓を納め、曩に貴族

院議員に互選せられ現に其の任にある外東京商業會議所議員、市會議員、東京貴金屬製造同業組合長、東京實業組合聯合會副會長等の要職にあり、尙ほ南洋貿易信用、日本ダイヤモンド各株式會社の重役たり、大正十二年國際勞働會議に資本家側代表として渡歐せり。

夫人をとわ子と呼び東京府の人吉川仙太郎君の三女たり、現に東京市小石川區關口臺町五五番地に住し電話小石川三八番なり。

山田道兄君

衆議院議員

君は岐阜縣の人にして明治十三年九月七日を以つて東武藝村に生る。夙に郷校を卒ふるや笈を負ふて東上し、早稻田大學に入りて同校政治經濟科を卒業し、直ちに言論界に入り扶桑新聞、東京毎日新聞、讀賣新聞等の政治記者として君が卓越せる政論を縱横に揮ひしも後ち民友通信社を創立し自ら社長として活躍努め斯

界に令名を馳す。

然して大正十三年衆議院議員の總選舉に際し郷里武儀郡より立候補せしかば多數の得票を以つて當選の榮冠を獲得し、現に憲政會に屬し政界に名あり。

夫人をつみ子と呼び君との間に吉彌君及びみち子、あや子等あり、現に東京府豊多摩郡千駄ヶ谷町原宿一七〇番地に住し電話青山三三三八番なり。

山田三良君

法學博士 正四位勳二等

東京帝國大學法學部教授

君は奈良縣の人山田絶精君の令弟にして、明治二年十一月を以つて生る。明治二十九年東京帝國大學法科大學英法科を卒業し、更に同年大學院に入り國際私法を専攻す。

然して明治三十年官命に依り歐米に留學し、歸朝するや東京帝國大學法科大學教授に任ぜられ後法學博士の學位を授けらる、傍ら法制局參事官兼早稻田大學講

師を囑託して今日に至る。

夫人しげ子は静岡縣士族江川英武君の長女にして日本女子大學國文科を卒業し君との間に和子、百合子等あり、現に東京市牛込區辨天町一七二番地に住し電話牛込一五九番なり。

山田三次郎君

旭硝子株式會社常務取締役

君は後備海軍中將山田彦八君並に同直矢君の令弟にして、明治三年八月を以つて生る。夙に東京高等工業學校を卒業するや直ちに實業界に入り、曾つて高千穂製煉所、日米板硝子各株式會社取締役を歴勤し、又數回渡歐して硝子製造事業に付き研鑽を積みて歸朝す、現に旭硝子株式會社常務取締役として知らる。

趣味としてゴルフを能くし撞球も又極めて造詣深しといふ、夫人セツ子は山口縣士族中原貞三郎君の長女たり、現に東京市赤坂區青山南町六ノ八二番地に住し電話青山八六三番なり。

八代則彦君

住友銀行常務取締役

君は東京府士族八代規君の長男にして子爵田尻稻次郎君の甥君に當り明治五年九月を以つて生る。明治二十九年帝國大學法科大學を卒業するや直ちに實業界に投じ、曩に日本郵船株式會社倫敦支店長住友銀行營業部副部長、同支配人兼營業部長等を歴任し以つて現在に至る。

夫人章子は千葉縣の人天野齊司君の長女にして其の間に豊彦君及び綾子、縫子絹子、經子等あり、現に兵庫縣武庫郡六甲村に住す。

八木宗十郎君

清水醤油株式會社監査役

君は山口縣の人右田九郎君の二男にして、明治六年十一月を以つて生れ先代宗十郎君の養嗣子となる。現に九島醤油、島電氣各株式會社取締役たる外清水醤油株式會社監査役たり。

夫人シゲ子は養父宗十郎君の二女にし

欠

欠

山縣伊三郎君

公爵 從二位勳一等

樞密顧問官

當家は先代有朋君に依つて家名を揚ぐ有朋君は長州藩士山縣三郎君の長男にして少壯より勤王の議を唱へ騎兵隊の首魁として高杉晋作君と共に俗論黨を壓し山縣狂介の名風に中外に知られ、維新の際越後の參謀となり、次いで歐洲を視察し歸朝後陸軍中將に任ぜられ、尋いで陸軍卿の重任に就き徵兵令を起草して本邦徵兵制度の基礎を定む。

爾來本邦軍政の首班にして陸軍大臣、内務大臣、司法大臣、參謀本部總長及び内閣總理大臣たること二回又明治四十二年以來樞密院議長となり軍事參議官、議定官、臨時帝室編輯局顧問、貴族院議員等を歴任し、西南の役には陸軍卿として樞機を掌握し、日清の役には第一軍司令官として出征し、日露の開戦となるや參謀總長として轉戦偉功あり、同三十一年特に元帥を賜はる。

先是明治十七年華族に列し伯爵を授けられ、同二十八年侯爵に同四十年公爵に陞り正二位に叙せられ大勳位頸飾章を賜ひ、高位高勳一世の重望を擔ひしが大正十一年二月病を以つて薨す。

君は其の嗣子にして山口縣士族勝津兼亮君の二男にして、安政四年十二月を以つて生れ大正十一年三月襲爵仰せ付けらる。夙に獨國に留學し歸朝後愛知縣書記官に任じ同三十二年遞信省管船局長に任じ、同卅五年内務省地方局長となり同年總務長官に陞任し同卅九年遞信大臣に親任せられ、同四十一年貴族院議員に勅選せられ同四十三年副統監に同年十月朝鮮總督府政務總監に任じ、後ち關東長官に親任せられ尋いで樞密顧問官に任ぜらる

大正十四年答禮使として佛領印度支那に派遣せらる、現に東京市麴町區富士見町六ノ一四番地に住宅を有し電話四谷二二八五番なり。

八坂三治君

大分貯蓄銀行取締役

君は大分縣の人加藤三郎君の二男にして、明治五年三月を以つて生れ、先代善三君の養子となる。夙に實業界に志し、現に青森銀行取締役兼支配人たる外大分貯蓄銀行、大分銀行各取締役にして且つ國東鐵道株式會社監査役たり。

夫人マキ子との間に善一郎君、鐵三郎君、勇四郎君、雲五郎君、長六君及びソガ子、御代子、小夜子等あり、現に大分縣速見郡八坂村に住す。

山地主佐太郎君

スマトラ護謨拓殖會社長

君は高知縣の人山地淳吉君の長男にして、明治十一年十二月を以つて生る。夙に海運業を營み傍ら前記會社々長たる外山地主船株式會社專務取締役にして且つ明治物産株式會社代表、由良染料株式會社監査役たり。

夫人正龜子との間に淳二郎君、三平君

及び富美子、光代子等あり、現に神戸市山本通四丁目一〇番地に住し電話長三宮一〇七番なり。

山本悌二郎君

正六位勳三等 農林大臣
衆議院議員

君は新潟縣の人山本桂君の二男にして明治二年一月を以つて生る。夙に獨逸に留學しホツダム、ホーヘンハム各大學に學び、歸朝後第二高等學校教授、日本勸業銀行鑑定課長等を経て實業界に轉ず。現に臺灣製糖、南國産業、亞細亞煙草各株式會社の社長たる外比律實産業、大正海上火災保險各株式會社の重役にして衆議院議員に當選すること數回現に政友會に屬し、昭和二年四月若槻内閣倒れて政友會内閣成立するや、臺閣に列して農林大臣に親任せられ現在に及ぶ。

夫人よね子は京都府の人近藤幸正君の養女たり、現に東京府荏原郡目黒村上目黒五本木二六五八番地に住し、電話青山

五六五八番なり。

山口昶君

横濱市主事 日本大學教授

君は鳥取縣の人山上泰藏君の二男にして、明治三十一年三月二十日を以つて生る。夙に鳥取縣立第二中學校を卒業するや直ちに東上し、大正元年日本大學法科を卒業し同六年同大學留學生として歐米各國に留學を命ぜられ、具さに各國都市を視察研究して歸朝し、同年九月初鮮總督府囑託としてワシントン會議に列席し同十一年七月歸朝す。

大正十年十月日本大學講師となり、同十二年同教授に任ぜられ都市研究及自治行政の講座を擔任し、更に大正十三年十一月横濱市社會局に入り横濱市主事となり、同十四年九月隣保館長に任ぜらる。

夫人道子は鳥取縣の人花田耕君の長女にして米子高等女學校を卒業し君との間に百合子あり、現に東京府荏原郡馬込村谷中一一二番地に住す。

山田昌吉君

高崎倉庫株式會社社長

君は群馬縣士族山田永五郎君の長男にして、明治九年一月を以つて生る。夙に專修學校に學び直ちに實業界に入り、現に高崎商業會議所常議員にして且つ七十四銀行高崎支店長、上州銀行、高崎水力熊川水力、上野鐵道、上州絹糸紡織各株式會社取締役及び前記會社の社長たり。夫人はな子との間にとく子、ひさ子等あり、現に高崎市常磐町に住し電話五三一番なり。

山田爲榮君

日本勸業銀行理事

君は鹿兒島縣士族故貴族院議員山田爲暄君の長男にして、明治四年三月廿四日を以つて生る。明治三十二年東京帝國大學法科大學政治科を卒業するや日本勸業銀行に入り同行文書課長、貸付課長、大阪支店長等の要職を経て同行理事に擧げられ現在に及ぶ。

八木與三郎君

漢運紡績株式會社事務取締役
八木商店社長

君は京都の人八木重助君の三男にして慶應元年一月を以つて生れ、先代文之丞君の養子となる。夙に綿糸綿布商を營む傍ら前記の要職にあり且つ藤本ビルプロカー銀行、明正社、ナニハビルディング、福井織物、東京土地建物、日本絹布東成土地建物各株式會社の重役たり。夫人ふさ子との間に幸吉君、泰吉君及びヨシ子、貞子、信子等あり、現に大阪市東區南久太郎町二ノ三七番地に住し電話特長船場六一五番なり。

山本敬藏君

實業家

君は廣島縣の人山本安太郎君の長男にして明治十八年十月十一日を以つて同縣福山市西町に生る。夙に福山中學校を卒業するや直ちに實業界に雄飛し明治四十一年より大正十三年迄東京アンドリュウ

夫人をとき子と呼び東京府士族福島貞助君の長女たり、現に東京市麻布區山元町三三番地に住し電話高輪五六〇五番なり。

山田浩堂君

畫家

君は福岡縣の人にして明治二年を以つて生れ本名を豊と稱す。幼より畫技を嗜み専ら土佐派に憧憬し傍ら有識古實の研究をなし、川崎千虎君に師事し尋いで繪五岳錢翁に私淑し大いに研鑽する所あり爾來惠念丹青に心を潜め妙技神境に入る明治四十二年長くも 皇太后陛下の臺覽を賜ひ、褒章の榮を擔ひ其の技今や先進大家の墨を凌駕するに至る。

曾つて畫伯の穎才を愛で前司法大臣奥田義人君は畫伯の爲め畫會を起し自ら發起人となり、續いで平沼麒一郎君、鈴木喜三郎君等大いに後援をなす處あり、從つて君は司法部内に於て其の妙技を愛せられたり、君の靈技今や佳境にありて斯

界に噴々たるものあり。

現に東京府下王子下十條に閑居をとし書筆を執るに専念たり。

山本達雄君

男爵 正三位勳一等
貴族院議員

君は舊井杵藩士山本確君の二男にして安政二年を以つて生れ、後ち先代幽棲君の養子となる。夙に慶應義塾、三菱商業學校等に學び後ち日本郵船株式會社支配人、日本銀行營業部長、横濱正金銀行取締役、日本銀行理事同總裁、日本勸業銀行總裁等を歴任す。

明治三十六年貴族院議員に勅選せられ第三次西園寺内閣成立するや君臺閣に列して其の大藏大臣となり、山本内閣及原内閣時代には其の農商務大臣に親任せられ、大正九年勳功に依り特に華族に列し男爵を授けらる。

現に東京市麴町區上二番町三八番地に住し電話四谷二三一三番なり。

ス合名會社機械部販賣部主任を努めて君が敏腕を振ふこと十余年同社に貢献すること尠ならず。

然して大正十四年獨力山本商會を設立し兼ねてモーターボート商會、帝國ボンブ各株式會社の重役として稀代の活腕を振ふに至る、曩に北米及びハルビンを視察研究して歸朝す。

夫人せい子は三重縣士族鈴木敏行君の令妹にして栃木縣立高等女學校、東京女子美術學校等の卒業なり、現に東京市本郷區駒込西片町一〇番地に住し電話小石川三一六六番なり。

矢野恒太君

第一生命保險相互會社社長
第一相互貯蓄銀行頭取

君は岡山縣の人矢野三益君の長男にして、慶應元年十二月二日を以つて生る。明治二十二年第三高等中學校醫學部を卒業し、直ちに日本生命保險株式會社に入り診察醫となり、後英澤生命保險株式會

山崎覺次郎君

法學博士 正四位勳二等
東京帝國大學教授

君は静岡縣の人山崎徳次郎君の長男にして、明治元年六月を以つて生る。明治二十二年東京帝國大學法科大學政治科を卒業し、更に大學院に入り後ち經濟學研究の爲め獨逸國に留學し、歸朝後東京高等商業學校教授、東京帝國大學法科大學助教授を歴任し、現に東京帝國大學經濟學部教授たり、明治三十八年法學博士の學位を授けらる。

夫人千代子は法學博士桑田熊藏君の令妹にして君との間に和一君、隆三君、英吉君、恒夫君及び民子、藤子等あり、現に東京市小石川區原町一六番地に住し電話小石川五九〇番なり。

矢橋賢吉君

工學博士 正四位勳三等

君は岐阜縣の人矢橋藤十郎君の三男にして、明治二年九月二十日を以つて生る

一五番なり。

山口八左右君

鐘淵紡績株式會社常務取締役

君は兵庫縣士族山口善三郎君の長男にして、明治元年十月九日を以つて生る。明治二十一年慶應義塾を卒業するや、直ちに山陽鐵道株式會社に入り後ち上海紡績株式會社に轉じ、更に同社が鐘淵紡績株式會社に買収せらるゝと共に同社に入り、兵庫工場長より支配人に進み後ち取締役兼庶務係長を経て現在に至る。

夫人りへ子は大阪府士族金子傳之助君の令姉にして君との間に義男君、二郎君八三君及びせつ子、まゆ子等あり、現に兵庫縣須磨西須磨に住す。

山道襄一君

勳三等 衆議院議員

君は廣島縣の人山道續造君の三男にして、明治十五年三月十五日を以つて廣島縣賀茂郡板崎村に生る。夙に大志を抱い

山口政二君

辯護士 正七位
衆議院議員

君は埼玉縣の人山口喜一郎君の二男にして、明治二十年八月を以つて生る。大正三年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業するや、直ちに官界に入り朝鮮總督府事務官、青島民政部事務官等を歴任し、

夙に大垣華陽學校、第一高等學校を経て明治二十七年東京帝國大學工科大学建築科を卒業するや大阪土木會社に入社して其の技師長たりしが、幾何もなく之を辭し長崎税關に出仕し、同二十九年臨時煙草取扱所建築部技師に轉じ、後臨時税關工事部技師に任じ大藏技師を兼ねたり。尋いで大藏省臨時建築課技師兼專賣局技師となり、大正七年六月臨時議院建築局技師に任じ工營部長より營繕管財局技師、同局工務部長に進み明治四十一年には議院建築調査の爲め歐米各國に出張を命ぜらる。

抑々千葉、山口、福岡、岐阜、福井各縣廳舎、群馬縣紀念議事堂、石川、富山の各公會堂は君の設計監督になれるものにして、又最近火災後の議事堂を旬日の間に再築して世の嘆賞を受け、曩に工學博士の學位を授與せらる。

夫人ステ子は愛媛縣土族渡邊至君の二女たり、現に東京府豊多摩郡澁谷町中澁谷羽根澤一九一番地に住し電話青山六六

大正十四年三月第一高等學校生徒監囑託となり後ち政界に出馬し、現に衆議院議員にして立憲政友會に屬し、日比谷陣頭に異彩を放つてありけり。

夫人絢子は埼玉縣の人齋藤阿具君の長女にして君との間に洋一君、啓一君及び多枝子等あり、現に東京市本郷區駒込千駄木町五〇番地に住し電話小石川七八三〇番なり。

八木 林 作 君

正五位勳四等
島根縣知事

君は大阪府の人八木新造君の六男にして、明治十六年八月一日を以つて生る。

夙に學に厚く、學業順を追ふて進み、第三高等學校を経て東京帝國大學に學び明治四十二年優秀の成績を以つて同法科大學獨法科を卒業し、同年文官高等試験に應ずるや見事に登第す。

斯くて職を官途に奉じ、明治四十三年四月北海道屬を振り出しに、大正七年栃

木縣理事官に轉じ、大正八年朝鮮總督府事務官を拜命して同京尙南道警察部長に任じ、更に翌年山梨縣警察部長より高知縣内務部長、石川縣内務部長、兵庫縣警察部長同縣内務部長等を歴任す。

然して昭和二年四月田中政友會内閣成立するや、暫らく長崎縣内務部長たりしが、拔擢せられて島根縣知事に任せられ以つて現在に及ぶ。

夫人富枝子は大阪府の人佐々木忠兵衛君の四女にして君との間に四女あり。

山 田 耕 作 君

音樂家 作曲家

君は東京府の人先代謙造君の二男にして、明治十九年六月九日を以つて生る。

幼にして音樂の才に富み、夙に關西學院中學部を経て、東京音樂學校本科及び研究科を卒業するや、更に獨逸に留學し伯林王立音樂院作曲部を卒業し、既に彼の地に於て名聲を博せし程なりといふ。

然して後ち米國に渡り、管絃樂指揮者

として米國斯界に謳はれ、更に各國を巡遊し歸朝するや、日本フィルハーモニーを組織し作曲家指導家として本邦のみならず、遠く歐米にまで名聲を博し今や斯界の泰斗を以つて目さるゝに至れり。

君又繪畫彫刻の技に長じ、且つ最近オートバイエンジンを發明して我が國消防界に貢獻し、尙ほ音樂結婚式とかの創始者たりとか。

夫人菊子は東京府の人村上新之榮君の長女にして、日本女子大學及び東京音樂學校の出身なり、現に東京市麻布區新網町一ノ二九番地に住し電話青山六四五三番たり。

山 添 平 作 君

圖書出版販賣
文武堂書籍店主

抑々成功の字義たる自ら二途あり、一は即ち順風に帆を揚げて萬里の波濤を航し、天與の好機に遭遇して着々成功の彼岸に到達するもの、其の二は即ちあらゆ

る人世の苦難と闘ひ苦心慘憺、七轉八倒而も尙はその鐵石の如き固き決心は是等の上に超然として倦まず、遂に燦たる成功の旗幟を翻すものにして、兩者の價値の優劣を秤らんか實に後者の前者に比して其の最も優れたるを痛感す。

奮闘の勝利者！幾多難關と闘ひ、立志傳中の人として恥ぢざる我が文武堂經營者山添平作君こそは眞に後者を代表する人物にして、君は新潟縣の人山添平太郎君の長男にして、明治十二年十二月十日を以つて新潟縣西蒲原郡濱町に生る。

夙に郷校を卒ふるや東都に出てて名を

成さんと志し、年齒僅かに二十才にして單身上京し、而して圖書出版界の今後益々有望なるに着眼したる君は直ちに株式會社東京堂書籍店に入り、實務に精勵すること二十有余年、専心同社の發展に盡瘁して幾多の經驗と斯業の實際に精通し愈々獨立の機運熟したりしかば遂に大正四年十二月同社を辭して獨立の準備に日夜奮闘すること年余、大正五年四月現在

の場所をトして獨立開業するに至れり。

爾來、専心一意自ら經營の衝に當り、君が多年の蘊蓄を傾倒して活躍大いに努めしかば、業運日に月に發展の歩調を辿り漸次斯界の信用と賞讃を博し、今や東都斯界に令名あり。

夫人ひさ子は東京府の人久保都三郎君の長女にして、其の間に二男ありて猛君、潔君と呼ぶ、現に東京市本郷區本郷四丁目四番地に住し電話小石川三一三六番たり。

山 崎 達 之 輔 君

正四位勳三等 文部政務次官
衆議院議員

君は福岡縣土族山崎元榮君の三男にして、明治十三年六月を以つて生る。明治

三十九年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業するや直ちに文官高等試験に登第す然して職を官界に奉じ、爾來、臺灣總督府參事官、文部省參事官、文部書記官兼參事官、文部省普通學務局長、同省圖書

監查官等を歴任し、後ち官を辭し福岡縣

郡部より推されて衆議院議員に當選し、現に中央政界に重きをなし、昭和二年四月田中政友會内閣成立するや文部政務次官に任じ以つて現在に及ぶ。

夫人ミネ子は京都府の人太田喜七君の長女たり、東京市外西巢鴨宮仲二五七〇番地に住し電話小石川三三一〇番たり。

山 口 義 一 君

衆議院議員 大藏參事官

君は大阪府の人山口田三郎君の二男にして、明治二十一年一月を以つて生る。

大正四年東京帝國大學法科大學政治科を卒業し、更に京都帝國大學大學院に於て社會政策を研究せり。

然して大正九年以來大阪府堺市選出衆議院議員として中央政界に重きをなし、昭和二年四月田中政友會内閣成るや、大藏參事官に任ぜられ以つて現在に及ぶ。

現に東京市赤坂區青山高樹町一〇番地に住し電話青山二三五番たり。

山口勇太郎君

東海工業合資社無限責任社員

君は福岡縣の人清水三右衛門君の五男にして、明治六年七月を以つて生れ。後ち山口家の養嗣子となる。

夙に學業を卒ふるや實業界に身を投じ明治二十八年の交、建築業杉井定吉事務所に入りて、専心斯業の研鑽を積み、偶々明治三十二年杉井氏他界するや同君の遺志を繼ぎて益々精勵し、同時に組織を合名會社に改め、爾來、風雨幾春秋、其の間多少の消長は免かれざりしも業況概して順調を辿り、大正四年更に東海工業合資會社と改稱し、君其の無限責任社員に就任し以つて現在に及ぶ。

君や社交に厚く、帝國鐵道協會、土木協會、東京土木建築業組合、府市土木建築業組合各會員にして、趣味に旅行、撞球、圍碁等あり。

夫人をきん子と稱し神奈川縣の人石塚銀藏君の長女にして君との間に松太郎君及び文子あり、現に東京市芝區西久保樓

川町二番地に堂々たる新築邸宅を有し電話銀座三九三三番なり。

山本源吉君

山本商事株式會社社長

君は廣島縣の人山本富助君の令弟にして、慶應三年六月を以つて生る。夙に實業界に投じ、其の初め石炭販賣業を營む傍ら海運界に活躍して奇利を占め、遂に今日の産を築き上ぐるに至りしは又以つて偉となすに足るべし。

然して敏腕愈々熟するにつれて事業は盛大に、社會の信用益々絶大を加へ、斯くて住友鑛業所に於ける石炭の一手販賣業者として斯界に活躍し、後ち大正七年組織を變更して山本商事株式會社と改稱し君自ら同社長の席を占めて専ら經營の衝に當り、現に其の外廣島縣多額納税者として名聲噴々たり。

夫人セイ子は大阪府の人宮本安吉君の令妹にして君との間に三男五女あり、現に大阪市外住吉町に住す。

山本庄太郎君

東京製紙會社事務取締役

君は三重縣の人川島喜兵衛君の長男にして、明治六年十一月を以つて生れ、後ち先代東造君の養嗣子となる。

夙に實業界に投じ三井物産株式會社に勤務すること久しく、其の間香港支店員上海支店員、同社木材部副部长等を轉勤し、大正十一年同社を辭し東京製紙株式會社に入りて其の専務取締役に就任し以つて今日に至る。

夫人キン子は水谷傳七君の長女にして京都府立第一高等女學校を卒業し、其の間に東一君、輝一君及び時子、喜代子、雪子等あり、現に東京市小石川區白山御殿町一二七番地に住し電話小石川一五二〇番なり。

山根成一君

正五位男爵 經濟學士

十五銀行員

當家は先々代信成より家名を揚ぐ、信成は舊山口藩士にして、維新の際國事に奔走し、明治四年陸軍少尉に任じ、西南の役に從軍す。

日清戰役には陸軍少將近衛第二旅團長として出征、全廿八年病を以て臺灣陣中に於て歿す、後ち勳功により華族に列し男爵を授けられ養子一貫氏其の後を襲ふ氏も亦軍籍に投じ陸軍少將に累進、其の間日清、日露の役に從軍して功四級を賜はり、侍從武官、軍事參議院幹事、東宮武官長等を歴補す。

君は其の長男にして、明治三十四年一月を以て生れ大正六年家督を相續し襲爵を仰せ付けらる。

夙に學習院を経て大正十四年東京帝國大學經濟學部商科を卒業するや、全年直ちに十五銀行に入り、現時當行本店勤務たり。

趣味としてスポーツを好み、スキー、野球、ボート、柔道等に長ずといふ、半面又文學、音樂等にも通じ、文武共に秀でたる貴公子たり。

夫人を加代子と呼び女子學習院出身にして其の間に祐一君あり、現に東京市外世田ヶ谷町若林九四番地に住す。

安田孝一君

麒麟麥酒(株)横濱工場庶務課長

君は神奈川縣の人安田勇壽氏の二男にして、明治二十六年八月一日を以て生れ大正元年分家す。

大正三年横濱商業學校を卒業するや直ちに麒麟麥酒株式會社に入社し累進して大正十五年横濱工場庶務課長に任じ以て現在に及ぶ。

横濱市子安町溝下一九四五番地に住す

八木太四郎君

丸八商會(資)代表社員

東都自動車界に活躍して聲名ある君は

神奈川縣の人八木常次郎氏の二男にして明治二十年九月二十二日を以て生誕す。

明治四十二年横濱中學を卒業するや直ちに横濱財界に投じ、旭倉庫株式會社に入りて精勤すること七年有半、後ち上京月島に於て丸八商會を創立して運輸一般の事務に従事せしが、時代の趨勢を見るに敏なる君は大正十一年業務の大擴張と共に従來の個人經營を合資會社に組織を變更し以て一般運輸の外乗用自動車部を設置して着々斯界に令名を馳せ、今や京橋及び本所に本店を有し、使用車數實に三十余臺、使用人四十有余人に達し堂々の陣容を張り斯界に冠たる蓋し君の奮闘の結果と謂はざるべからず。

家庭にはフエ子夫人との間に夫郎君、實枝子あり、現に東京市京橋區南飯田町五番地に住す。電話京橋一七五一番

山口作之助君

法學士 辨理士

君は島根縣の舊家として知らるゝ故山

口繁次郎氏の長男にして、明治二十年六月二十五日を以て生る。

夙に第四高等學校を経て大正四年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業するや直ちに東都法曹界に投じ、爾來、民事、刑事其の他一般法律事務に従事して令名を馳す。

大正八年「労働者の権利義務」なる單行本を發刊し以て勞資協調の爲めに盡瘁する等一般民衆の爲めに營利を度外視する程にて其の信望や絶大なり。

夫人道子は元衆議院議員、辯護士藏原惟郭氏の長女にして其の間に吉雄君、康治君あり、現に東京市芝區芝公園十二號地に住す。電話高輪七一七番

八木 哲君

公認八木自動車學校長
八木自動車商會主

抑々自動車の利用は今や世界各國を通じて交通産業並に國防等あらゆる部門に亘り、缺くべからざる機關となり、且つ各

機能活動の根本動力となり、基礎的單位を成すに至れり。

然して地球上凡て陸地にある限りタイヤの轍の印せざるはなく、現代文化を横に代表する眞にこれ自動車に非ずして何ぞや。

我が公認八木自動車學校長並に八木自動車商會主として堂々斯界の一線に立つ八木哲君の社會的使命や重にして且つ大なりと謂はざるべからず。

夙に本邦斯界の趨勢に鑑み營利を度外視して八木自動車學校を創設、斯くて幾多子弟の指導に盡瘁して全的精力を傾注する其の理想や遠大、其の人格や高潔なりと謂ふべし。

君は神奈川縣の人石井良助氏の二男にして、明治二十三年五月十七日を以て生れ後ち代々東京芝區に於て質商を以て鳴らせし八木清助氏の養嗣子となる、偶々大正十二年の大震災火災に遭遇して蓄年の富一朝にして烏有に歸せり。

於茲哉君は「商家にありて日々業を成

すも一旦事あれば其の財物の凡てを烏有に歸すも之に反して子弟の薰育指導に盡瘁するは精神的にして永遠性たることを確信せり」是れ君が後に八木自動車學校を創立せし根本の原因なり。

然して今や同校の發展と共に同商會の斯界に於ける地歩や堅實、尙ほ昭和三年世田ヶ谷及び芝浦乗合自動車商會を設立今や東都斯界に令名録々たり。

園藝に趣味深く、菊の培養に堪能なりといふ、きく子夫人は東京府の人木津熊藏氏の二女たり、現に東京府下世田ヶ谷町若林一〇五番地に住す。電話世田ヶ谷二六九番

矢島 慧君

從五位勳六等 農林技師
農林省農務局勤務

君は熊本縣の人矢島正明氏の長男にして、明治二十一年十月十日を以て生る。

夙に熊本縣立熊本中學校を卒業するや笈を負ふて東上、大正四年東京帝國大學

農科大學を卒業し、同年七月山口縣立農事試驗場技師に任じ、全七年六月同場長同十一年四月農林技師に任じ農林省農務局に精勤以て現在に及ぶ。

先是昭和三年六月官命を奉じて歐米各國を歴遊し、彼地農政並に一般産業界を視察見學して同四年二月歸朝す。

夫人生子は熊本縣の人山岡虎彦氏の二女にして熊本縣立高等女學校の出身、其の間に三男三女あり、現に東京市外千駄ヶ谷町四五〇番地に住す。

山本吉太郎君

新潟松竹館(株)監査役
松竹キネマ(株)營業部長

君は石川縣の出身、明治六年十月卅日を以て生誕す、明治二十九年石川縣師範學校を卒業するや縣下教育界に盡瘁すること甚大、縣下各學校長として聲名を馳せ屢々當局より表彰せらる。

資性豪放にして霸氣鬱勃、回天の大志を抱く君は到底村夫子として北國の雪に

埋もるを潔とせず、奮然教職を擲つて上京、日本大學商科に學び、同學を卒業するや活動寫眞界の重鎮福寶堂に入り、爾來、日活營業部長、天活營業部長、國活營業部長等を歴勤、大正十年十一月聘せられて松竹キネマ株式會社に入社以て現在に及ぶ。

君は極めて温情に富み部下後進を誘掖指導すること懇切丁寧、且つ義侠あり、潑刺たる氣概の士たり。

趣味多様なる中にも謠曲を能くし、又民衆娛樂、民衆教育に専念たるが如し。

夫人先枝子との間に洋吉君及び樂子あり、現に東京市外瀧野川町西ヶ原八七二番地に住す。電話小石川三五一四番

野牛道 弘君

三昭自動車(株)事務取締役

君は茨城縣の人先考道徳氏の三男にして、明治十八年十一月二十三日を以て生る。

明治四十年東京工業大學の前身たる東

京高等工業學校機械科を優秀の成績を以て卒業するや直ちに本邦實業界に投じ、三井物産株式會社に入社し、爾來、同社紐育支店、本社總務掛主任、機械部機械掛主任等を歴勤す。

斯くて昭和三年十二月三昭自動車株式會社の創立を企劃し、其の設立と共に同社專務取締役に任じ、今や本邦自動車輸入貿易界に新進の聞えあり。

趣味にゴルフあり、社交に厚く藏前工業界、保土ヶ谷ゴルフ俱樂部各會員たり夫人静枝子は東京府の人末吉保馬氏の三女にして府立第三高女の出身、其の間に道孝君、弘君、晃君及び穂子等あり。現に東京市外中野町三六三一番地に住す。電話中野八七七番

山本竹次郎君

山本運送店主

本邦通運界に活躍して絶えず堅實なる經營方針を遂行し、漸進的發展の歩調を辿り、斯界に重きをなすを我が山本運送

店となし、其の經營者として録々の名あるを山本武次郎君となす。

君は愛知縣の人山本長右衛門氏の長男にして、明治十三年二月二日を以て全縣知多郡八幡町字旭倉に生誕す。

夙に郷校を卒ふるや早くも祖業たる回漕業に従事し、明治三十六年陸上運輸に専心力を致し斯界の研鑽に孜々として倦まず、後鴻圖を抱いて東上、大正三年獨力以て東都通運界に活躍、大正十三年時運の趨勢に鑑み自動車部を設けて斯界に一大飛躍を試みしかば、其の剛毅不拔の精神と、明快なる執務振とは忽ちにして斯界に重きをなし、今や東都同業界の白眉を以て目せらる、蓋し君の至誠と多年の奮闘の賜と謂はざるべからず。

現に營業所並に車庫を東京市芝區沙留町二ノ一番地及び全區愛宕下町一ノ四番地に有す。電話芝四九一番 振替口座東京四〇六三三番

山越爲治郎君

山越工場(株)常務取締役
インダメタル工場(株)取締役

君は千葉縣の人服部老菟三郎氏の二男にして、明治十五年三月を以て生れ後ち先代山越秀太郎氏の養嗣子となる。

夙に慶應義塾法科を卒業するや直ちに本邦實業界に投じて活躍大いに努め、大正十五年從來の個人經營たりし山越工場を株式組織となし君其の常務取締役に就任、現に其の外株式會社インダメタル工場取締役等として合名あり。

夫人をまき子と呼び養父秀太郎氏の長女にして華族女學校の出身、其の間にい子あり、現に東京市芝公園九號地七番地に住す。電話芝一三九八番

八百谷順應君

大眼院、一行院各住職
芝増上寺總務課長

君は静岡縣の人八百谷明堂氏の長男にして、明治十三年十二月十二日を以て生誕す。

夙に本邦宗教界並に社會教育界に投じて社會教化事業に盡瘁すること甚大、淨土宗特殊傳導布教師として令名を馳せ、佛教舞踊禮讚舞を研究、更に宗教劇、佛教音樂、童謡舞踊、青年宗教劇等の研究に専念たり。

現に前記の諸職にある外淨土宗高等學院、全普通教習所等に講師にして且つ御靈屋事務局理事長たり。

趣味多様なる中にも將棋、圍碁に長ずといふ、夫人静江子は東京府の人山口金助氏の長女にして其の間に博和君及び信子あり、現に東京市四谷區南町十三番地一行院内に住す。

山崎和三郎君

さくらタクシー經營者

君は島根縣の人山崎國太郎氏の三男にして、明治二十五年七月二十一日を以て生る。

夙に郷校を卒ふるや家業を援けて精勵せしも、霸氣狂盛、鴻圖を抱く君は明治

三十九年笈を負ふて東上、伯父の下に在りて印刷界に活躍すること年あり、大正七年時代の趨勢に鑑み、本邦自動車界に活躍せんと志を抱き、斯くて實地に研究すること數年、其の間或は助手として或は運轉手として奮闘大いに努め、昭和二年四月獨立の機熟するや獨力さくらタクシーを開設、着々として斯界に覇を競ひ今や東都業界の新進として知らる。

ス、子夫人との間に和子あり、現に東京市芝區南佐久間町二ノ一番地に住す。電話芝三二六六番

山口福則君

大阪タクシー自動車(株)事務取締役
大タク急配社(株)社長

君は愛知縣の人先考仁左衛門氏の二男にして、明治十三年七月六日を以て生る夙に郷校を卒ふるや鴻圖を抱いて東上東都實業界に投じ、後ち數寄屋橋タクシー株式會社の創立に盡瘁して其の設立と共に同社營業部長に任ず。

山中定次郎君

山中商會(株)取締役社長
關西美術骨董商界に録々の名あるを我が山中定次郎君となす。

君は大阪府の人安達信五郎氏の長男にして、明治二年七月を以て生れ、後ち山中喜兵衛氏の養嗣子となる。

夙に本邦美術骨董商界に投じて、新古美術輸出貿易商を營み、明治廿八年紐育支店、全廿九年ボストン支店、全卅三年ロンドン支店、更に華盛頓、北京等に各

山口久吉君

辯護士 辨理士
立憲政友會院外團理事

東都法曹界にありて新進の開え高く且つ又立憲政友會院外團理事として政界に活躍し前途多望なるを我が山口久吉君となす。

君は東京府の人山口常吉氏の三男にして、明治二十五年五月二十四日を以て生る、明治四十年醫師開業試験に見事登第し、更に大正九年明治大學法科を優秀の